

イゼン」ノ制度ハ何テアルカト云フト「ローマンカトリック」ノ宗教トソレカラ「プロテスタント」ノ宗教ト此ニツハ所謂公認シタル所ノ公ケノ団体トシテ特ニ保護シ居ルヲアリマス、斯ウ云フ保護ヲ止ムルコトハ彼レハ國情ニ於テ出來ナイノテアリマス、「ベルギト」トハ一步脱シテハミテ中々今日ハ亞米利加ノ如キ冷淡ナル方針ヲ採ルコトハ出來ナイノテアリマス、ソレカ故ニ宗教ノ「コルホラチオン」ハヤハリ幾分カ公ケノ權力ヲ行フ団体テアリマシテ、國家ニ於キマシテモソレタケノ保護ヲモシカケレハナラズ、宗教ニ屬スル所ノ坊主バ悉ク官吏ノ待遇ヲ與ヘカケレハナラズ、又宗教ノ団体ノタメニ僧侶ヲ養フタメニハ何レノ大學ニ於キマシテモ獨逸ノ大學ニ於テハ「カトリック」「プロテスタント」ノ兩方テ教ヘル所ノ一ノ分科ヲ設ケナケレハナラズ、總テ是等ノ關係ヲ以テ獨逸ノ殊ニ特別ナル宗教ニ向ツテ保護ヲ與ヘル制度ヲ歴史ノ結果已ムヲ得ズ採ツテ居ルノテアリマス、ソレカラ伊太利ニ至リマシテハ、是ハ「ローマンカトリック」ノ根據テアリマスカラ尙更ムツカシイノテアリマス、伊太利ノ憲法ノ上ニハ今日ニ於テモ「ローマンカトリック」ハ國教ラアルト云フ文字カ書イテアル、併ナガラ事實ニ於テ權力ヲ殺イタモノテアリマス、伊太利ノ今日ノ政体ハ「カブール」ノ如キ大政治家カ近頃文明的ノ精神ヲ以テ何處マテモ古キ所ノ宗教ニ率束サル、國家的組織ヲハ破ルコトヲ務メマシタカ故ニ、餘程羅馬法皇ノ權力ヲ殺イテ之ヲ伊太利ノ政府ニ於テ握ルコトニナリマシタケレトモ、中々マタ日本テ想像スルカ如キ者テナイノテア

リマス、ソレカラ亞米利加ニ至リマシテ、即チ第三ノ「ボランタリシステム」放任主義ニ至リマス、所謂論理的ニ平和ノ有様ヲ採ツテ居ルノデアリマス、宗教ト云フテモ恰モ公ケノ慈善事業ノ如キ又ハ學校其他存益ナル公益事業ノ如クニシテ別ニ特ニ權力ヲ持ツテ居ル所ノ「コルボルトシオン」ト云フコトハ認メナイノデアリマス、ソレガ故ニ宗教ノ団体ト云フモノハ結社ノ自由ヲ持ツテ居ルコトハ吾々ガ學問ニ付イテ結社ノ自由ヲ持ツテ居ルト同ジコトデアリマシテ其結社ハ自由ノ結果ト致シマシテ種々ナル宗教ガ種々ナル有様ニ成立ツモ、政府ハ之ヲ抑ヘルト云フコトモ致シマセズ、又特ニ之ヲ保護スルコトモ致シマセズ、自身ノ力或ハ社會ノ団体ノ力テ之ヲ保護シ之ヲ成立セシメテ居ル有様デアリマス

マア大略御話ヲシテ見マスルト斯ノ如キモノデアリマシテ、歐羅巴社會チ佛蘭西大革命ノ前後ニ別ケテ見マスルト、佛蘭西ノ大革命ノ前ニ於テ前ニ申シタ三ツノ大變革ガア、マシタ、ソレカラ佛蘭西ノ大革命以後ニ於キマシテハ唯今申ス先ツ三ツノ制度ニナツテ居ルノデアリマス、是等ノコトニ付キマシテ一言諸君ノ御考ヘヲ煩サナケレバナラヌト云フコトハ總テ制度ノ事、法律ノ事、歴史ノ結果デアリマスルガ、殊ニ宗教ノ如キ多數ノ人ニ行フツテ居ルコト、云フモノハ、總テ歴史ノ結果餘程差異ガアルモノデアリマシテ、必ズシモ理論ヲ以テ是ハ良トカ是ハ惡トカ云フコトハ批評ヲ加ヘラレヌノデアリマス、ソレテ外國デ斯ウデアルカラ我國デモ斯ウデアルト

云フ論結ハ益々以テ容易ニナシ得ベカラザルコトデアリマス、我國ニ於キマシテモ宗教ノ力ハ今迄左程影響ノ大ナルコトモアリマセヌケレドモ、併ナカラ一方ニ於テ智識ガ進ムニ從ツテ一方ニ於テハ人ノ信仰ノ力モ強クナル者デアリ升、學問ガ開ケレバ宗教ガ衰ヘルト云フコトハ、一時英吉利當リノ哲學者ガ往々唱ヘタコトデアリマスケレドモ、彼等ガ其說ヲ唱ヘテ以來六七十年ヲ經テ居リマスガ、事實ハ反對ヲ證明シテ居ルノデアリマス、學問ガ開ケレバ開ケル程分ラナイコトガ多クナルノデアリマス、學問ガ開ケレバ開ケル程此世界ト云フモノハ何ゼ斯ウナツテ來タラウカ、其大本ト云フモノハ不思議ナモノテアル、益々分ラナイモノデアルト云フコトニナツテ來ルノデアリマスソレガ故ニ學問ガ進ミ智カガ發達スルニ從ツテ益々疑ヲ生ズル疑ヲ生スルト云フコトハ即チ信者ノ生ズル所以デアリマシテ、疑ツテ解ケズ、智識ヲ以テ辨解スルコトガ出來ナイカラ、ソレテ分析スルコトハ止シテ信仰スルト云フコトニナルノデアリマス、ソレテ我國ニ於キマシテモ文物制度カ開ケテ益々國カ發達スルニ從ヒマシテハ、是カラ先キヤハリ信仰ノ力モ強クナルモノト見ナケレハナラス、併ナカラ今日我國ニ於テ是カラ先キ如何カナルテアラウカ、之ヲ如何ニシタラ宜カラウカト云フコトハ政治ノ問題ニ互ル、政治立法ノ議論ニ互リマスカラ是ヨリ以後ハコトハ此處ニ講釋ハ致シマズ、又致ス積リテ準備モ持ツテ居リマセヌ、唯英吉利當リテ所謂功利派ノ說ノ一時盛ニナツタ時代ハ、宗教ト云フモノハホンノ一時ノ迷信ヲアツテ、遠カラ

ス是カ絶ユルト云フコトヲ豫言シテ居リマシタ、佛蘭西ノ「コムト」ト云フ大學者モ自分カ死ル頃ニハ宗教ハ離レモ信スル者ハナクナルヤウナコトヲ言ツテ、「ボジチーブロンヒト」チ書イテ遺シマシタケトレモ、彼レカ死シタ以來既ニ三十四年ハ經ツテ居ル、中々益々以テ勢力カ盛ニナルノデアリマスカラ、是ハ誠ニ悔ルヘカラサルモノテアル、且ツ又社會ノ進歩ニ於テハ法律ト宗教トハ手ヲ携ヘテ一方ニ於テハ人ノ腕力ヲ以テ人ノ現實ニ於ケル所ノ外形ニ現ハレル行爲ニ制裁ヲ加ヘルト同時ニ、一方ニ於テハ精神界ノカヲ以テサウシテ人ノ良心ノ制裁ヲ擧激スル、良心ノ制裁ヲ以テ社會ノ秩序ヲ維持スル有益ナル道具テアルト云フコトヲ考ヘテ見マシレハ、是モ亦容易ナラサル必要ナモノテアルカモ知ラナイ、其處等ノ所ノ問題ハ吾々ハ諸君ト共ニヤハリ研究ヲシナケレハナラスノデアリマス、聊カ制度歴史ノ講釋ヲ私ノ先生方カラ昔シ聽イタコトヲ御取次致シマシテ、サウシテ諸君ノ前ニ唯其大略ヲ述ヘマシタノデアリマス、是等ノコトニ付イテ能ク研究ヲナサリタイト思ヒマスルナラハ、例ヘハ獨逸ノ「ゾーム」ト云フ人ノ歴史ヲ、殊ニ宗教ノ方ノ歴史ヲ御覽ニナルト云フト能ク詳シイコトカ分リマスル、私ハ「ストラスブルク」ノ大學ニ居リマシテ、十年前ノコトデアリマスケレトモ、「ゾーム」先生カ一週間ニ一度ツ、宗教制度ノ改革ヲ一學期ノ間講シマシタ、其講釋ヲ私カ筆記シタ者カ殘ツテ居ル之ニヨリテ此處ニ御取次シタバケテアリマス(行政二三)

法學士 笹川 潔君

近世ニ於テ宗教ノ勢力ガ著シク衰退シ來ツタ影響トシテ、人ノ空理ニ傾ケル風習ガ盛レニ流行スル様ニナツタ、是レ蓋シ形而上ノ學問ガ宗教ヲ壓倒シテ、之レト同時ニ學理ノ力ニ頼リテ社會ノ制裁ヲ求ムベク餘儀ナクセラレタル結果デアアル、法學ハ前代未曾有ノ進歩ヲ出現シ、又嘗テ名稱ノ存ジテ居ラナカッタ社學學ダトカ、國家學ダトカ云フ科學ガ勃興シテ、冷カニ別個ノ見地ニ立チテ人間ノ因果ノ法則ヤ又タ人類ノ運命ヲ支配スヘキ原則ヲ説明スル様ニナリタノデアアル、實ニ今日ノ世界ニ於テ光明トモナリ武器トモナリ棒トモナリ舟トモナルモノハ獨リ論理ト稱スル人ノ意思ヲ體裁ヨク排列シタモノニ過ギナイノデアアル、聞説ク昔フレデラツク大王ハ平素事業ニ就カシトスル劍那ニ於テ、指頭ヲ以テ只何トハナク頻リニ空中ニ向テ文字ヲ書ク習癖ガアツタト云フトデアアル、抑モ知らズ今ノ政治學者モ亦タ此明君ノ習癖ヲ襲フテ直チニ政治ノ活用ヲ豫メ此ニ求マントスルノデアアルカ、何爲レゾ空裡ニ發表セラレタル想像ノ綜合ニ向テ彼等ノ譯モガク頭ヲ垂レ顧ミテ社會ニ其無上ノ靈驗ヲ吹聴スルノ滑稽ニ熱心ナル言トヤ、

最モ卑近ナル問題テスラモ無形學ガ解釋スル所ノ如何ニ六ヶ敷ク而フシテ「オツクウ」ガル事ヨ講堂ノ正面ニ立チテ法律學者ガ頭上ヨリ走ル所ヲ説明シ譽ヘバ人ハ權利ノ主體デアアルト發シタル

數語ニ就キテモ熟考セヨカシ、是レ遂ニ何ノ意味ヲ示シタルモノナルカ、料ルニ講臺ヲ圍繞スル聽問者モ何氣ナク其耳當リ能キ語調ニ驅ラレデ、一度ビハ此語ニヨリテ或觀念ヲ解得シタカノ如ク思フノデアアル、然カシ乍ラ權利ノ主體トハ何デアアルカト反問ヲ始メタトキ是レ必ラズ法ノ保護スル利益ノ主體トイフ意味デアラフト解スルニ相違ナイ、最ウ此ウナルト徐ク々々頭腦ノ裡ヲ捕雲促影ノ運動ガ端緒ヲ開クノデアアル、更ニ義務トハ法學ニ於テ如何ナル説明ヲ與フヘキモノデアラウカ、義務トイヘハ權利ノ反對ノ觀念デアアル、其レ只反對ノ觀念デアルトイフニ過ギナイモノトシテ畢竟許諾立テテ廢メル位カ落チテアルノダ、然カモ社會ノ事物ハ恐ロシクモ此學者ノ符調ヲ以テ活動シツ、アルノデアアル、

實ニ無形學ノ所謂進歩ニ伴レテ遺般ノ符調ガ盛ンニ製造セラレテ來タ、而シテ其中ニ在リテ最も大ニ且ツ最モ數次人口ニ會スル所ノモノハ恐ラク國家トイフ語ニ若クナシト思ハレルノデアアル又タ其使用スル人ニヨリテ各々觀念ヲ異ニスル點ニ於テモ此符調ノ右ニ出ヅルモノハ蓋シ無カラフト信ジテ居ル、殊ニ國家ナル文字ハ憲法ニモ其他ノ法律ニモ一寸記載セラレテ居ラヌモノテ而カモ之レガ解釋ニ方リテハ必ラズ先ヅ最初ニ顯レル重大ノ符調デアアル、

近代學者ノ多數ガ略々此符調ニ就イテ一致シタ觀念トシテ見ルヘキモノハ、國家モ亦タ一種ノ有機體デアリテ人民ハ之レヲ組織スル細微ノ如キモノハ外ナラヌトイフコトデアアル、或ハ中ニハ中

中央政府ヲ以テ人身ニ於ケル頭腦ニ比シタリ、或ハ道路運河電線ノ類ヲ喩ヘテ國家ノ之ヲ有スルハ、毫モ人體ニ於ケル血管神經ノ類ニ異ラズト辨ズル者ガアル、社會ト國家トヲ混用スル者ノ中ニハ、曾テ「ブルシチユリ」ノ如ク教會ハ女性ノ有機體ニシテ國家ハ其男性ナルモノ也ト迄解ツク者ガアツタ、然ルニ「スタイン」ガ出デ、ヨリ此漠然タル觀念ハ更ニ裝飾ヲ加ヘラレテ國家ハ無形ノ人テ併カモ最高ノ地位ニ在ルモノナリトイフ説ガ顯ハレテ來タ、是ヨリシテ至高ナル無形ハトイフ觀想ガ見ル見ルハ勢カラ得テ、今ハ竟ニ絶對無限ノ最高權ヲ有シテ獨立自存スル所ノ無形人テアルトイフ風ニ説明セラテ居ルノデアル、

學者ノ想像ハ自由デアレ、至高ノ無形人トイフモ男性ノ無形人トイフモ、敢テ深ク争フ必要ナシトデアルガ、獨リ此概念ニ於テ尙ニ疑フベキコトハ國家ト個人トノ關係デアル、抑モ國家ヲ以テ形ホキ人トイフハ、全然國家ニ形無シトイフノ意義デアルカ、國家ニ何等カ形アルニモ白ク、自然人ノ形狀ヲ具備シテ居ラヌノミテ萬般ノ關係ニ於テ丸ク人間其儘ノ如キ活物デアラバ、其ノ意義デアルカ、若シ後者ノ意義デアルモノトスルモ國家ト個人トノ關係ハ之レヲ自然人ニ於テハ、人體ト細胞トノ關係ニ毫モ異ラヌ事アルカ、我輩ノ茲ニ聽カシト欲スル所ニ實ニ此ニ點デアル、

細胞ハ實ニ人體ヲ構成スル單純ノ目的ニ向テ造ラレタルモノデアリテ其作用ハ隨意的若クハ不隨意的ニ腦髓ノ命ズル所ニ從フノデアル、是レ今日ノ學者ガ國權ハ無限ニシテ臣民ハ單ニ服從義務アルノミナリト解スル所ニ酷肖シテ居ル、臣民ヲ以テ國家ノ隷屬視スル所ノ學說ニ在リテハ個人ヲ以テ細胞ニ比スルハ最モ妙ヲ得タル比喩ニ相違ナイノデアル、加之今代ノ生理學者ガ語ル所ニ據レバ「プロトプラスマ」即チ細胞ニ付生命ガアリ又々意思ガ有トゾトテアル、試ミニ人體ノ一局部ニ傷疾ヲ受ケテ、偶々外部ヨリ「バイキン」ノ侵入ヲ蒙ツタトキ、顯微鏡ニ照ラシテ其傷口ヲ檢視スルト、血球ガ争ウテ「バイキン」ト奮戰勇闘スルノ光景ヲ歷々トシテ認ムルコトガ出來ル是レ細胞ニ一個ノ意思ガアル證據デアルトノコトダ、果シテ然ラバ細胞ト人民トハ増々相似寄ツテ居ルモノト言ハンケレバナラヌ、國家ニ於ケル人民ハ各々意思ヲ有シテ居ルニモ拘ハラズ、細胞ニ意思ガナイモノデアラナラバ、國家ト人民ト其細胞トノ關係ニ異ラズト説クヲ得ナイ、而カモ幸ヒニ細胞ニモ生命アリ意思アルモノトスレバ、此比喩的説明ハ究局無難ナルヲ得ルカラテアル。乍然個人ノ屬スル範域ハ獨リ國家ヲ止マラヌ、人類ハ「アリストートル」ノ言ヘル如ク、社交的動物デアリテ、如何ナル社會ニ向テモ常ニ結合スヘク傾ク者デアルカラ、今日國際交通ノ進歩シタル時勢ニ在リテハ、獨リ國家ノ分子タルニ止マラス、世界ニ於ケル種々様々ノ社會ノ一員トナリ得ルノテアル、人體ニ於ケル細胞ハ單ニ唯一ノ範域ナル人體ヲ離レテ、其以外ニ一員タルハ不可能ノ

事テアル、縦令人體ガ之レヲ命ズルトシテモ、細胞自ラ人體ヲ脱シテ、以テ枯死スルノ外ハナイ、其レノミテナイ、細胞ニハ常ニ個人ニ於テ見ルコトヲ得ル家族ノ制度ヲ有セヌノテアル、尙又、國家ノ進化ニ於テ認ムヘキ家族ヨリ部落、部落ヨリ國家トイフ如キ發達ノ跡ハ人體ト細胞トノ關係ニ於テ全然看ルコトヲ得ヌノテアル、果シテ然リトスレバブルンチ子リーヤシエフルヤスヘンサア等ガ唱道シタル人體ノ現象ヲ以テ國家社會ノ説明ニ代ユルモノハ、畢竟學者ノ空想ニ過ギナイト認メザルヲ得ナイ、

想フニ國家ハ實際ニ於テ個人即チ人民多數ノ幸福ヲ増進シ其共同生活ノ秩序アル進歩ヲ效タスヘキ一ノ方便ニ過ギナイモノテアラフ、若シ自然人ニハ格段ノ超然タル目的ガアリテ。其目的ハ毫モ之レヲ構成スル細胞ノ關與スル所ニ非ルカノ如ク、國家ニモ人民ヲ離レタル超絶的目的ガアルト解釋スルコトナラハ、是レ確カニ一大誤解タルヲ免レヌノミテナイ、斯カル國家主義ハ蓋シ頗ル危険ナリト絶叶セテハナラヌ、抑モ文明トイヒ進歩トイフモ、素ヨリ人類ヲ離レテハ何等ノ意味アルモノテナイコトハ明白テアル、若シ人類ヲ離レテ國家ナル無形人ニ獨立超絶ノ目的ガアルナラハ、是レ猶ホ地球ニ於テ火星ノ文運ニ關スル風説ヲ聽クト一般、吾人ニ在リテ風馬牛敢テ關セザル所ノ談柄テアル、

吾人ノ祖先カ社會進化ノ風潮ニ驅ラレテ家族ヨリ部落ヲ爲シ、部落ヨリ國家ヲ爲シ、而シテ此國

家ノ一員トナリテ生命財産ヲ抛チテモ其獨立ノ維持ヲ圖ル所以ノモノハ素ヨリ冷ヤカナル政治法律ノ原理ニ由ル譯柄テナイ、國ヲ愛シ君ヲ敬フ忠君愛國ノ感想ハ殆ント先天的ニ吾人ノ腦裡ニ浸染シテ居ルモノテ、猶ホ民法ノ規定ヲ待チテ始メテ爲母ヲ敬崇スルニ非ルカ如ク、國家ノ理論ヲヲ聽イテ而シテ後チニ國家ニ服従スル所以ヲ識ルモノテナイノテアル、成程ホリウ等ノ論法ヲ以テスルト、國家ハ必スシモ至高ノ無形人ト稱シ得ラレヌヤモ知レナイ、時ニ國家ノ智能道德ハ個人ノ其レニ比シテ劣ルコトナシト限ラレヌカラテアル、又々動ヤモスレハ國家ノ事業ハ個人ノ自由結社例セハ株式會社ヤ協會ノ其レニ比シテ遜色ナキヲ得ヌトモ限ラレヌカラテアル、實ニ此意義ニ於テ國家ヲ説明スル者ハ寧ロ理論トシテハ、却テ今日ノ國家全能論者ヨリモ、遙カニ敬服スヘキ證據ヲ有シテ居ルノテアル、尙彼等ハ道破スルノテアル、國家ハ最大多數ノ幸福ヲ増進スヘキ任務カアルトシテモ、古來國家ノ經營セル效果ハ教會ノ功績ヲ凌クノ權利カナイ、國家ノ各種社會ト異ル特質ハ擧ケテ一點強制ノ力即チ人民ノ自由ヲ牽束シ人民ノ財産ヲ徵収シテ使用スルコトヲ得ル權力アルニ存スルノミテアルト、此種ノ見解モ寧ロ徒ラニ國家ト稱スル偶像教ヲ理論ノ力ニ據リテ傳播セントスル一派ノ士ニ比シテ、大ニ酒脫セル所カアルノテアル、乍然強制力ノ國体トイフタケニテハ吾人ハマダ々毫モ國家ニ尊敬ヲ拂フノ念ヲ起シ得ラレヌテハナイカ、強制力アルカ故ニ吾人ハ服従セサル可ラズトイヘハ、完全ナル理想的國家ハ個人ノ屈從ヲ完ウシタルト

キニ於テ看ルヲ得ヘキモノテアル、即チ個人力完全ニ國家ノ奴隸トナリ、一ニ器械的活動ヲ執ルニ至リテ國家ハ其最モ成效シタル状態ニ在ルモノト解サテハナラヌ、是レ依然トシテ個人ヲプロトブラスムニ置ク所ノ議論ニ反着スルモノテアル

想フニ社會進化ハキツトノ提唱スルカ如ク、愛他的觀念ノ歴史テアリテ、試ミニ彼レカ發見セル原則ヲ擴展シテ之レチ今日ノ國家ト個人トノ關係ニ及ボサシメハ、臣民ノ生命上ノ義務即チ兵役、臣民ノ財産上ノ義務即チ納税ノ義務ヲ始メトシテ凡ヘテ國法ヲ遵奉スルガ爲メニ個人ノ自由ヲ獻クル所ノ觀念ノ發動ハ、一ニ國家アル他者ヲ愛スルノ精神ニ基クモノト、解説スルコトカ出來ル、國家ニ固有ノ強制的權力アリテ止ムヲ得ズ之レニ服従スルノテナイ、個人自體ガ進んで自ラ服従スルノテアル、世ニ公法學者ハ或ハ其說明ノ体裁ヲ歴ヘンカ爲メニ論理ノ形式トシテ國家專制ノ原理ヲ叙説スル者モアラウフ、乍然此レハ未タ法律上ノ獨斷テアリテ單ニ表面ノ理論ヲ告ゲルノミニ過ギナイモノテアル、故ニ我輩ハ疑ハヌ、完全ナル理想的國家ノ出現ニ在リテハ最モ器械的ヲ得ザル個人ニヨリテ自覺的ニ服従ノ義務ヲ格守セラル、モノニ相違ナイト、彼國家主義ト稱スル見地ニ於テ數次聽ク所ノ是非モナク個人ノ屈從ヲ促ス底ノ説法ハ却テ國民ノ自覺的義務心ノ發動ヲ妨ゲルモノト言ザルヲ得ヌ、乍然之レト同時ニ彼所謂個人主義ノ更ニ大ニ排斥スヘキハ勿論ノ事テアル、

要スルニ我輩ハ國家ト個人ノ關係ニ於テ人體ノ細胞ノ觀念ヲ準用スルノ理論ヲ拒斥シ、其又國家ヲ以テ超絶的目的ヲ有スル無形人ナリト解スルノ謬リナルヲ確信シテ個人ノ秩序アル進步幸福ノ増進ヲ離レテ獨立ノ目的ナキヲ了解スルト同時ニ、國家ノ權力ハ獨リ個人ノ利益ノ爲ニ行使セラレ、モノナルヨリシテ、臣民ハ進シテ最大多數ノ安寧幸福ヲ維持増進スル國家ノ爲メニ層々服従ノ義務ヲ獻グルモノナルコトヲ信ズルノテアル、故ニ萬物生存ノ理ニ於テ見ル所ノ相互依賴ノ關係ハ國家ト個人ノ間ニモ必ラス嚴存セルモノタルヲ疑ハヌ、故ニ彼國家ヲ強大ナラシメンカ爲メニ勢ヒ個人ヲ弱小ナラシメサル可ラストスルノ觀念ハ、相互的依賴關係ノ存在ヲ認ムル上ニ於テ容ルヌ可カラサル所テアル、國家ハ決シテ自ラ開發シ自ラ進歩スルモノテナイ、時ニハ個人ノ感想直チニ是レ國家ノ感想タルコトモ有リ又々個人ニヨリテ反省セサルヘカラサル場合モ有ル、今若シ個人ヲ弱小ナラシメテ國家獨リ強大ナランコトヲ期スルシテモ、弱小ナル個人ヲ以テ豈能ク國家ノ智能ヲ開發シ國家ノ爲メニ善良ナル反省ヲ促スニ足ル可ケン哉、テハナカラフガ、然カモ今日ノ國家主義ナルモノハ、斯カル思想ヲ認容スヘク餘リニ偏狹ノ憾ミナキヲ得ンノテアル、是レ實ニ痛嘆スヘキ顯象ト言ハサルヲ得ナイ、嗚呼何ソ近世事業ニ國家的關涉ノ甚シク濫用セラレツルコトヨ、然リ其濫用ノ結果ハ個人ノ教育ニ迄國家ハ其強制力ヲ加ヘテ所謂國家的國民教育ノ制度ヲ施行シ、人類生存ノ範域ヲ擧ゲテ強イテ國家ナル一局部ニ縮小スルヲ勉ムルニ至ツタ、加

之個人ノ自由の營業ニ向テモ國家ハ其關涉ヲ濫用スルノ影響トシテ個人ノ國家ニ對スル依頼心ハ
 今代ニ於テ殆ント絶頂ニ達シ、國庫ニ向テ補助金ヲ請求スルノ風習ハ到ル處ニ於テ非常ナル盛況
 フ呈シテ居ル。看ヨ今日コ在リテ自治ノ制度トイフモ殆ント有名無實ヲハナイカ、如何ニ國家強
 制力ノ餘風ヲ受ケテ年々ニ其經費ノ可愕ク増進シ來ルコトヨ、想フニ個人ノ獨立、獨立の個人ノ
 修養ハ今世ニ於テ殆ント全ク地ヲ拂ウテ居ル。是レ皆個人ヲ隸屬視スル學說ノ餘弊ニ基ク所ノモ
 ノ、熟々茲ニ空理ヲ離レテ實際ニ鑑ミン者、誰カ又今ノ所謂國家主義ニ向テ根本的ニ一大反省
 ヲ促サスシテ止ムヘケン哉ノ憾ナキヲ得マイ、
 例セハ今日貧弱者ノ保護ニ向テ國家ノ關涉ヲ必要トスル所以ノモノハ、人間進歩ノ條件タル自由
 競争ヲ完全ニ遂ゲシメンカ爲メニ外ナラヌノテアル、自由競争ハ人類進歩ノ要件ナルハ決シテ
 計部ノ經濟學者カ誤解スル如ク自由競争ノ獎勵ハ彼ラアサ、フエ、ルノ教ヲ實行スルモノト同
 一ノ趣旨ヲナイノテアル、世ニ富者アリテ獨リ拔扈スルハ貧弱ノ境遇ヲ以テ生レタル者ヲシテ之
 レト自由ニ競争セシムルヲ途ヲ杜塞スルニ均シクシテ之レアルカ爲メニ畢竟弱者保護ニ向テ國
 家ノ關涉スルヲテアル、即チ此點ニ於テ國家ノ關涉ハ誠ニ個人ノ自由獨立ノ競争ヲ尊崇スルニ出
 テ以ルモ、然レ過ギナイ、若シ國家ノ關涉ハ國家ノ尊大ヲ衍フ所以トスレバ、人民ニ向テ其自由
 行動ヲ檢束スル勢力ヲ發現テアルカハ、如何ノ解、乃チ之レヲ以テ國家主義ノ國家主義タル所以ト考

ブルモノアラバ、弱者保護ノ關涉政策モ其結果ハ増々個人ノ依頼心ヲ増サシムル許リテ真正ノ自
 由競争ハ永久ニ廢サレヌコト、大ナルテアラフ、今ノ國家主義者タルモノ亦、少シク個人對國家ノ
 觀念ニ猛省シテ可ナリテアル(明義二、九三〇)

○憲法ハ法律ナリヤ

法學士 秋山良三郎君

茲ニ謂ハユル憲法ハ我邦ノ憲法ヲ指セルハ言テ俟タス、此問題ハ法律ノ意義如何ニ由テ定ルモノ
 トス法律ノ意義ニ關シテ學者ノ間ニ三說アリ、

第一說、此說ハ法律ノ意義ヲ實質的ニ解シ法律ヲ以テ法規ヲ規定スルモノトナス說ナリ、此ニ由
 レハ憲法ハ法律ナルコト多言ヲ要セス然ルニ我憲法ニ於テ謂ハユル法律ハ必スモ法規ヲ規定ス
 ルモノニアラス、命令ニシテ法規ヲ規定スルモノアリ、法律ニシテ單ニ事實ヲ規定スルニ過サル
 モノアリ故ニ此說ニ其キ憲法ヲ法律ナリト云フモ是我憲法上ノ論義ニアラサルナリ

第二說、此說ハ法律ヲ以テ最強ノ効力ヲ有スル國家ノ命令ナリトナス、此ノ說若シ真ナラハ憲
 法ハ法律ナリト云フモ不當ニアラサルヘシ今此說ノ良否ヲ驗センニ其論ノ大要ニ曰ク「憲法ニ謂
 ハユル法律ハ實質的ノ意義ヲ有セス又形式的ノ意義ニアラス其意義ハ之ヲ公文式ニ求ムルノ外ナ

シ、然ルニ公文式ハ法律命令ノ區別ヲ効力ノ強弱ニ採ルハ人々普ク認ル原則ニシテ之ニ由テ論ス
 レハ憲法ニ謂ユル法律ハ最強ノ効力アル國家ノ命令ナリト此說ハ我邦國法學者ノ先達ト稱セラ
 ル、某氏ノ議論ナリ余ハ常ニ某氏ニ敬望スト雖我憲法上法律ノ意義ハ最強ノ効力アル國家命令ナ
 リト云フニ至テハ未ダ容易ニ賛成ヲ表スルコト能ハズ尠ク其理由ヲ述ヘン

第一 明治十三年十月十二日ノ國會開設ノ大詔發布以來立憲思想大ニ發達シ同十九年勅令第一
 號公文式出テ次テ同二十二年 月憲法成典發布セラレタリ思フニ某氏ノ曰フ如ク公文式ト憲法
 トハ事實上思想ノ連絡ノ順序トハアラン然レトモ單ニ此事實ト發布ノ時期近接セルトハ起草者
 一ナルトノ理由アルモ、他ニ之ヲ眞理ト證明スヘキ確實ノ根據ナクンハ未タ俄ニ憲法カ公文式
 ニ於ケル法律命令ノ意味ヲ費用セリト云フコトヲ得ス

第二 假リニ憲法ハ法律命令ノ意ヲ公文式ヨリ費用セリトスルモ公文式カ法律ト命令トナ區別
 スルノ標準ヲ効力ノ強弱ニ取レリト云フハ果シテ其當ヲ得タルモノナリ、大ニ疑ナキ能ハス勅
 公文式ハ其第一條ニ於テ法律勅令ハ凡テ上諭ヲ以テ之ヲ公布スト規定シ、其第二條ニ於テ法律
 ノ上奏裁可ヲ乞フヘキ方法、其第三條ニ於テ勅令ニ必要ナル副署等ニ關シテ規定セルモ、此外
 法律命令ニ關シテ何等ノ限界フルコトヲ示サズ、又、毫モ二者ヲ區別スル標準ヲ定メズ、然ル
 ニ論者ハ何ノ見ル處アリテ公文式ニ謂ハユル法律命令ハ効力ノ輕重強弱ニ由テ區別ヲ爲シ得ル

トナスヤ余ハ毫モ其理由ヲ發見スルコト能ハス

第三 若シ果シテ憲法發布前ニ法律命令ノ間ニ効力ノ強弱存在ストセハ憲法第九條ノ末文ハ殆
 シト意味ナキ無用ノ規定タルニ過キカラシ豈、此ノ如キ理アラシキハ、
 以上ノ理由ニヨリテ法律ハ最強ノ効力アル國家ノ命令ナリト直ニ論定スルハ未タ全ク其當ヲ得ズ
 ルモノニアラズ然ラハ則チ此說ニ基テ憲法ハ法律ナリト云フコト能ハザルハ多言ヲ要セズテ明
 ナリ

第三說、法律ノ意義ヲ以テ形式的ナリト曰フ說ナリ此說ハ最モ廣ク一般ニ行ハル、學說ニシテ
 余輩亦之ニ從ハントス、少シク其理由ヲ曰ハン

第二 憲法發布前ニ於テハ法律命令ノ名稱アリテ(公文式發布以後)二者ノ意義ヲ異ニセス而シ
 テ憲法ニ於テ初テ國家意志ノ發動スル方法種類ヲ分チ法律命令ヲ區別スル以上ハ法律ノ意義ハ
 之ヲ憲法ノ明文ニ求ムルノ外ナシトス

第二 憲法第三十七條ハ凡テ法律ハ議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スル旨ヲ規定ス、議會ノ協賛ハ法律
 ニ要スル一ノ形式、手續ニ過キサル如ク解セラル、又以テ或ハ法律ノ意義ハ前ニ定マリ本條ハ
 法律ノ意義ヲ定メシモノニ非ラサル如ク曰フモノアリト雖、是迷了ノ見解ナリ何トナレハ議會
 ノ協賛ハ一ノ形式ナルト共ニ命令ニ對シテ法律ノ觀念ヲ形ルニ必要ナル要素ナリ、此ナクンハ

法律タル意義ヲ失フニ至ルヘシ換言スレハ議會ノ協賛ヲ經テ發布セラレシモノニアラスンハ法律ニアラサルナリ

第三、議會ノ協賛ヲ經ヘキモノニハ法律ノ外、豫算ノ如ク國債ヲ起ス場合等ノ如キモノアリ即チ第二ノ場合ハ大ニ制限セラル、故ニ議會ノ協賛ヲ經ヘキ豫算及ヒ國債等ヲ除キ之ヲ反言スレハ議會ノ協賛ヲ經シモノハ凡テ法律ナリト曰フコトヲ得ヘシ、多數ノ場合ニ於テ此ノ如クシテ發布セラル、モノハ法律タル名稱ヲ負フヘシト雖必スシモ然ラサルヲ得サル理由ナシ

以上、法律ハ形式的ノ意義ヲ取ラサル可ラサル所以ヲ論セリ、乞フ進ンテ憲法ハ法律ニ非ル所以ヲ曰ハシ

法律ニ必要ナル議會ノ協賛ハ憲法ノ規定ニ由テ初テ生シ憲法前ニ議會ナク從テ議會ノ協賛ナルモノ存在セス故ニ憲法ノ發布セラル、ヤ議會ノ協賛ヲ手續ヲ經タルコトナシ、然ラハ即憲法ハ憲法ニ謂ハユル法律ニ非ヌト曰ハサル可ラス之ヲ憲法ノ法文ニ徵セシニ憲法發布ノ詔勅モハ憲法又ハ法律ト云ヒ憲法第十條ニハ憲法又ハ他ノ法律ト云フカ如キ二者ヲ同視セサル明證トス若シ又憲法ヲ法律ナリト曰ヘハ之ヲ憲法第八條ニ曰フ法律ナル語ニ代用セハ緊急勅令ハ憲法ニ代ルコトヲ得ヘク極テ奇怪ナル結果ヲ生セン

ハ、國家意思ノ發動ナリ而シテ其效力法律ノ上ニアルハ言ヲ俟クヌシテ明ナリ

或ハ憲法改正ノ法則ヲ法律トナシ、法律ヲ以テ變更シ得ラル、故ニ憲法モ亦法律ナリト曰ヒリ、余輩ハ之ヲ全ク可トスルコト能ハス

第一 憲法改正ノ法則ハ法律ナリ

何トナレバ憲法變更ノ議案ニ關スル議會ノ議決ハ之ヲ協賛ト稱スヘク豫算國債等以外ノ場合ナルヲ以テ憲法第三十七條ニ由テ之ヲ法律ト曰フコトヲ得ヘク、又議會ノ協賛ニ由テ君主ノ大權ヲ立法權ノ以外ニ存在セス(五條)其裁可公布ハ法律ヲ裁可公布外ニ存在セス(五條)然ラハ則チ憲法改正ノ規則ハ之ヲ法律ト稱スルモ不當ニアラサレバ(日本法令豫算論)只此場合ニ於テハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ニ下シ、又議決方法特ニ丁重ナルノ點ニ於テ普通法律ノ場合ト異ル所アリ、或曰ハシ議決方法ノ特ニ丁重ナルハ敢テ間ハサガモ法律案ノ提出ハ政府及ヒ議會ノ共ニ爲シ得ル所(二十八條)ナリ然ルニ憲法改正ノ法則ハ勅命ニヨリテ議會ノ議ニ付セラレ(七十二條)是レ法律ニ非ル証ナリト、是レ誤ナリ抑モ憲法第三章ハ帝國議會ノ章ニシテ第三十八條ハ議會ノ側面ヨリ見タル規定ナリ、只第三十八條ノミヲ見テ政府議會以外ニ發案者ナシト云フハ誤解ナリ各條ヲ通覽シテ憲法ノ精神ヲ探ラサル可ラス、普通ノ場合ニハ議會ト政府トハ發案スルヲ原則トテ不ト雖元主ガ直接ニ議案ヲ出ザル、第七十三條ニ由テ例外ノ場合ナ

リ即チ第七十三條ハ第三十八條ノ制限ナリトス時ラハ即チ勅命ニ由テ議案ヲ議會ニ提出スルノ一事ハ未タ以テ憲法ヲ法律トナスノ理由トナスニ足ラス

第二 法律ヲ以テ變更セラル、カ故ニ憲法ヲ法律ナリト云フハ誤ナリ

憲法第九條ニ由リ法律ハ唯法律ヲ以テスルニ非スンハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス然レトモ之ニ由テ直ニ法律ヲ以テ廢止變更セラル、モノハ凡テ法律ナリト云フハ其誤ナルコト多言ヲ要セス、法律ヲ以テ廢止變更セラル、モノハ法律以外ニ於テ命令モアルヘク處分令モアルヘシ、又一般ノ原則上法律ヲ以テ法律ヨリ效力強大ナルモノヲ廢止變更スルコトヲ得サルハ明ナリト雖トモ明文ヲ以テ之ヲ許セル場合ニ於テハ假令法律ヨリ效力強大ナルモノト雖法律ヲ以テ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ルハ素ヨリ言フ候タス然ラハ則チ憲法第七十三條ノ場合ハ憲法カ一ノ規定ヲ以テ特例ノ場合トシテ法律ヲ以テ法律ヨリ效力強キ憲法ヲ變更スルコトヲ許セルモノト解釋スルコトヲ得ヘシ(行協二七)

○英佛獨普各國及北米合衆國比較憲法ノ俗話

法學博士 末岡 精 一 君

國家ノ元首

歐洲公法學ニ於テ國家ト云フ言語ニ數箇ノ意義アリ第一確定ク國土ニ永住スル人民ガ共同ノ目的ヲ充實スルノ必要ニ由リ成立スル獨立不羈ノ社會ニシテ永遠ニ統治ノ組織ヲナス者ヲ國家ト稱ス第二此ノ如キ社會ニシテ純然タル獨立不羈ノ權ヲ有セスト雖モ其權内ニ於テ獨立ニ統治ノ組織ヲ爲スノ權及一定ノ政務ヲ獨立ニ治理スルノ權ヲ有スル者モ亦國家ト稱ス即獨乙國各邦及北米合衆國各邦ヲ指シテ國家ト稱スル類是ナリ第三此ノ如キ社會ノ至高統一權或ハ其掌握者即チ主權或主權者ヲ指シテ國家ト稱ス此内第一ノ意義ヲ以テ最普通用ノ者トス我國憲法ニ於テモ亦國家ト云フ言語ハ此第一ノ意義ニ於テ用ブルコトハ憲法第四條ヲ本據トシ之ニ憲法ノ前文ヲ參照セバ自ラ明了ナリトス次ニ國家ノ元首ト云フ言語ハ獨佛各國ノ憲法反法理ニ於テ用ブル所ナリ例ヘハ佛國ルイ十八世ノ欽定憲法ニ國王ハ國家ノ最高元首ナリト云ヒ千八百五十二年ノ憲法ニ大統領ハ國家ノ元首ナリト云亦普國ノ普通法典ニ凡テ國家ノ權利義務ハ國家ノ元首之ヲ總攬スト云フガ如シ而シテ此用例ニ由レハ國家ノ元首トハ必スシモ國家ノ統治權ヲ總攬スル君主ヨリミ用フルニ非ス獨リ行政權ヲ統一スル大統領ニモ亦適用セリ以下單ニ國家ノ元首ト云フ時ハ汎ク君主及大統領ヲ總稱スル者ト知ルヘシ立憲君主制ノ普國ニ於テハ君主ハ總テ國家ノ權ヲ統一スル者ニシテ即チ主權ノ掌握者ナリト雖モ之ヲ行フニハ必ス憲法規定ノ制限ニ從フヲ要セリ君主ヲ主權者ト云フトキハ主權ト云フ言語ハ憲法ノ制限ナキト云フ意義ニ於テ用キルニ非ス君主ヲ國家ノ元首ト爲シ國家ト

云フ言語ヲ此章ノ端首ニ列擧シタル第一義ニ於テ用フルヲ以テ獨乙公法家ノ多ク採ル所トス然レトモ亦國家ト云フ言語ヲ第三ノ意義ニ於テ用キ君主ハ即チ國家ナリトシ君主ト國家ヲ同一視シ君主ハ主權者ニシテ憲法ハ君主ノ權ニ制限ヲ置ク者ニ非スト爲ス所ノ公法者流アリ其所說ニ由レハ憲法ハ各官衙ニ對シ君主ノ命令ナリト爲セリ然レトモ憲法ノ歷史的ノ起原及全体ノ構造及其條章ノ文句言語ノ意義ヲ正當ニ解スレハ憲法ハ各官衙ニ對スルノ命令ト爲スヲ得ス例ヘハ普國憲法第五十五條ニ國王ハ兩院ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ兼テ外國ノ君主タル事ヲ得スト云ヒ第六十二條ニ立法權ハ國王ト兩院ト共同シテ行フ凡テ法理ヲ制定スルニハ國王ト兩院トノ協同ヲ必要トスト云フガ如キ類ノ規定ハ其文句言語ノ意義ニ由レハ之ヲ以テ獨リ議會及其他官衙ニ命令シタル者ト爲スヲ得ス然而シテ欽定憲法トハ主權者カ自ラ制定スル者ナルカ故ニ之ヲ以テ主權者ノ權ヲ制限スル者ト爲ンニハ主權者自ラ其權ヲ制限スト云サルヲ得ス自ラ制限スル點ヨリ見レハ憲法ノ規定ハ法理的制限ト云フヲ得サルニ似タリト雖モ憲法ノ欽定ニ由リ臣民ハ主權ノ運用ニ參與スルノ權ヲ以テ惠賜サレタル者ナリ英國ニ於テモ元來臣民ノ權利ハ君主ノ惠賜ニ由ル者トス而シテ惠賜ハ主權者自ラ制限スルニ原ツク者ニシテ自ラ制限スルト云フコトハ法理的ノ制限ニ非ス然レトモ惠賜ニ由リ已ニ臣民ガ參與ノ權ヲ得タル後ヨリ見レハ則チ君主ハ任意ニ憲法ヲ改正スルヲ得ス必ス一定ノ成式コ從ヒ全國民ノ代表者タル議會ノ參與ヲ以テ改正スヘキ者トス而シテ憲法ハ國家至高ノ法

書ニシテ尋常立法權并ニ行政司法權ハ其範圍ヲ越ユ可ラサル者ナリ憲法制定ノ後ニアリテハ後來之ヲ改正スルノ權ハ即チ國家至高權ノ存スル所ナリ君主ハ此權ノ淵源ニシテ掌握者ト爲スト雖モ之ヲ行フニ際シテハ議會ノ參與權アリテ其制限トナレリ故ニ君主ノ大權ニ議會ノ參與權ヲ附加セザルバ憲法上無制限ノ主權ノ運用フラサルコト憲法條規ノ文面ニ見ルガ如シ君主ノ憲法ニ違背ノ行爲制裁ノシ制裁ナキ制限ハ法理的制限ニアラズ故ニ立憲君主國ノ憲法ハ君主ノ大權ニ制限ヲ置ク者ニアラズト云フ者アリト雖モ政體ノ如何ニ關セズ概シテ君主ノ行爲ニ對シテハ補佐ノ責任ニ憲法ノ成式ニ違背スル行爲ハ法理上効力ヲ有セスト爲ストノ外ニ法理ノ制裁ナシ故ニ此點ニ由リ君主ノ大權ニ制限ナシトセハ政體ノ如何ニ關セズ凡テ君主國憲法ハ其君主ノ大權ヲ制限スル者ニアラスト爲スヘキノミ憲法ノ欽定ナルト否ニ由リ制限ノ有無ヲ別ツヘカラス獨逸帝國統治權ノ總攬者ハ即チ獨逸二十五邦ノ委員ヲ以テ組織スル聯邦共議院ナリ帝ハ此共議院首坐ヲ占シ帝國統治權ノ一部ヲ掌握スル者ナリ而シテ之ヲ行フニ帝國ノ名ニ於テシ君主國ノ君主トハ其地位ヲ異ニセリ帝國行政權ノ大部ハ帝ノ權ニ屬シ頗ル共和國大統領ニ類似スト雖トモ其實權強大ナリトス獨逸聯邦中ニ於テ普國ノ地位聯邦共議院ノ組織及兵馬權ハ即チ帝ノ實權ヲシテ強大ナラシムル原力ノ主タル者トス英國ニ於テハ立法權ハ君主ト兩院ト共同掌握スル所ニシテ司法權ハ君主ノ名ニ於テ行フヘク行政權ハ專ラ君主ニ屬セリト爲スト雖トモ是レ歷史的成立ニ基因スル名義上ノコトナリ

現今立法ノ實權ハ衆議院ニアリ行政ノ實權ハ内閣ニアリ而シテ内閣ヲ組成スル大臣ハ國王之ヲ任命スト雖モ必ス國會ニ於テ多數ヲ占有スル黨派首領ノ内ヨリ選任セサルヲ得サルノ慣例ナルカ故ニ實際多數ヲ占有スル黨派ノ委員ヲ以テ内閣ヲ組成スル者トス共和制ノ佛國及北米合衆國ニ於テハ大統領ハ行政權ノ掌握者トス而シテ合衆國憲法ハ立法司法行政ヲ分離對等ナラシムルノ極點ヲ採ル者ニシテ大統領ハ佛國ニ比スレハ其職權ニ就キ議會ノ干涉ヲ受クルコト少ナシ其實權ハ英國王ヨリモ大ナリト云フ佛國現行憲法ニ由レハ大統領ハ政事上ノ行爲ニ就キ無責任ニシテ大臣ハ大統領ノ任命スル所ナリト雖モ英國ニ於ケルカ如ク衆議院ノ有力者ノ内ヨリ選任スルヲ通例トシ所謂共和代議政體ヲ爲シ而シテ大統領ハ北米合衆國大統領ニ比スレハ名義上稍々大ナル權ヲ有スト雖モ實際行政權ノ運用ハ大臣ノ掌握スル所トス我國憲法第一條曰大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス是レ我國ハ萬世不窮君主國ニシテ皇位ハ必一系ノ皇統ニ限リ國ニ二王ナカルベキニト猶ホ天ニ雙日ナキカ如ク而シテ天皇ヲ以テ統治ノ主トナスコトヲ明カニスト雖モ此條ニ於テハ未ダ我國ハ專政ノ君主國ナル哉或ハ所謂立憲君主國ナル哉否ヲ知ルヲ得ヌ又々我國憲法ハ君主ハ即チ國家ナリト云フ說ヲ取ル哉否モ亦知ルヘカラスト雖モ第四條ニ於テ天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フト規定シ我國ハ立憲君主國タルコトヲ明ニシ而シテ天皇ハ國ノ元首ニシテト云ヒ又々憲法ノ前文ニ朕祖宗ノ遺烈ヲ受ケ萬世一統ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛ス

ル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其康福ヲ増進シ其懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セシムコトヲ望ミ云々ト云フ文句ヲ參考セハ則チ我國憲法ハ國家ト云フ言語ハ此篇ノ端首ニ列擧シタル意義ノ中ニ於テ第一ノ意義ニ於テ用ヒ君主ハ國家ノ元首ナリト云フ意義ヲ採ルコト明ナリ

君位ノ繼承

我國ハ萬世一系ノ皇統ニシテ皇位ハ男系男子ノ繼承スルヲ以テ法例ト爲シ而シテ皇室典範ハ建國以來皇室ノ舊法古例ヲ修訂シテ憲章ト定メタル者ナリ歐陸各國ニ於テハ古代及中古マデハ君主ヲ選立スルノ法例行ハレシ者少ナカラスト雖モ漸次ニ改廢シ近代ニ至テハ君位世襲ヲ以テ各國王家ノ通則ト爲シ王室典範ヲ制定シ君位繼承ノ要件ヲ確定シタリ普國ニ於テモ亦王位繼承ノコトハ夙ニ王室典範ノ規定アリテ循依スル所ナルカ故ニ其憲法ヲ制定スルニ際シ唯憲法中ニ君位ハ皇統男系ノ男子長幼近親ノ次序ニ由リ之ヲ繼承スヘキコトヲ明揭スルニ過ギズ現行獨乙帝國憲法ニ據レハ帝位ハ常ニ普國王之ヲ兼スルヲ以テ法ト爲スカ故ニ帝位繼承ト王位繼承トノ間ニ要件ノ違別スヘキモノ無シ因テ其帝國憲法中ニハ繼位ノ要件ヲ規定セス英國ニ於テモ亦王位繼承ニ定法アリト雖モ此國ハ憲法ト尋常法律トニ差別ヲ立テサルカ故ニ單ニ法律ヲ以テ改定スルヲ得ベシ又歐洲中古ニ於テハ君佐ノ繼承ヲ私法上ノ相続ト同視シ而ノミナラス國ヲ分割シテ繼承スルノ法アリシガ

繼承法ノ進歩ニ從テ漸次ニ其意義ヲ變換シ君位繼承ハ公位ノ權ニシテ私事ニアラス國ハ分割承
スヘキモノニアラスト爲スニ至リ現今ハ疆土ハ分割スヘカラス國ニ一王ヲ立テス繼位ハ公法上ノ
權ト爲スヲ以テ歐洲各國ノ通法ト爲シタリ此レ固ヨリ我國ニ於テモ古來不易ノ法ト爲ス所ナリ若
夫君位ハ一日モ曠缺スヘカラス君主崩スレハ即時ニ繼承權ヲ有スル者位ニ立ツヘキコト我國及英
普各國ノ通法トスル所コシテ即位ノ式或ハ其他一定ノ儀式ヲ經テ始メテ繼位ノ定マルニアラス但
シ我國ト英普各國トノ間ニ多少ノ差異無キ能ハス英普兩國ニ於テハ君位ヲ繼承シタル者ハ憲法ノ
規定ニ從ヒ憲法及法律ヲ遵守スヘキノ誓ヲ宣スルヲ要セリ其誓ハ國異ナレハ英普互ニ言詞ニコソ
差異ハアレ意義ノ大體ニ至テハ同一ナリトス而ルニ英國ニ於テハ君位繼承者ハシテ若シ誓言ヲ宣
フルコトヲ拒絕スル時ハ之ヲ以テ君位ヲ辭スル者ト爲シ特ニ君主ノ資格ヲ以テ行ヒタルコトノミ
凡テ効力ヲ有スル者トナセトモ普國ニ於テハ然ラス誓言ヲ拒絕スルヲ以テ君位ヲ辭スルモノト看
做スヲ得ス是ニ於テカ公法家ニ二種ノ意見コソ生ジタレ或ル一家ノ推論ニ由レハ宣誓ハ憲法確定
ノ大法ナレハ若シ嗣君ニシテ之ヲ肯ンセサルアラハ即チ憲法規定ノ義務ヲ拒絕スル者ナルカ故ニ
實際統治權ヲ行フコトアリト雖モ其行爲ハ法律上効力ヲ有スル者ト爲スヘカラス但シ後日ニ至リ
誓ヲ宣フル時ハ宣誓前ニ爲シタル行爲モ亦法律上ノ効力ヲ有スルヲ得ヘキナリト爲セリ然レトモ
多數ノ公法家ハ全ク之ニ反對ノ說ヲ抱キ君主タルノ權ヲ得ルハ誓言ニ關スルモノニアラス故ニ統

治權ヲ行フモ亦宣誓アリテ後チ効アリトセス其他即位ノ儀式及之ニ類似ノ成式ハ繼位ノ權ニ關シ
法律的ノ効力ヲ有スル者ト爲サス

次ニ君位繼承ハ男系ノ男子ニ限ルト女系ノ女子モ亦其權ヲ得ルトノ二別制アリ我國ニ於テハ男系
ノ男子ノ繼承ヲ以テ皇家ノ定制ト爲セリ普國ニ於テモ亦王位繼承ハ男系ノ男子ニ限レリ之ニ反シ
テ英國ニ於テハ男系ノ女子及女系ノ所出モ長幼ノ次第ニ由リ均シク君位ヲ繼承スヘシト爲シ特ニ
其制ヲ定メテ兄弟市妹即チ同等親ノ内ニ於テハ常ニ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニシ若シ男子アラザ
ル時ニ當テハ女子又長幼ノ先後ヲ以テ其位ヲ繼承スルヲ得ルコト猶ホ男子ノ繼承ニ於テ長ヲ先ニ
シ幼ヲ後ニスルガ如シ其他英普兩國ニ於テ近親相繼クノ次第ハ我皇家ノ定制ト異ナルコトナケレ
ハ此ニ之ヲ擧ケス而シテ英國ニ於テハ君主ノ許可ヲ以テ行フ所ノ正婚タル時ハ貴族或ハ平民ノ女
子ヲ娶ルヲ論セス其所出ハ凡テ王位ヲ繼承スヘシト定ムレトモ之ニ反シテ普國ニ於テハ同等正婚
ノ所出タルヲ要ス同等正婚トハ即チ高等貴族ノ女子ト正當ニ婚スル者ヲ云フナリ

攝政

攝政トハ君主ノ大權ヲ攝行スル者ニシテ君主ノ大權ヲ承襲スル者ニアラス唯タ暫時帝王ニ代テ大
權ヲ運用スルニ過キス我國ニ於テモ攝政ノコトハ憲法上ニハ唯第八十七條ニ於テ攝政ヲ置クハ皇
室典範ノ定メニ依ルコト攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フコト及第七十五條ニ於テ攝政ヲ置クノ

間ハ憲法反皇室典範ヲ改正スルコトヲ得サルノ三件ヲ規定スルノミナレトモ其他ノ要目ハ凡テ皇室典範ニ於テ之ヲ規定セリ時ニ憲法及法律ヲ以テ典範ノ規定ヲ變更スルヲ得サルノ例ヲ明掲セルハ即チ臣民ヲシテ皇室ノコトニ干與スルヲ得サラシムルノ理由ニ基クナリ普國ニ於テハ攝政ノコトヲ憲法ニ於テ規定シテ而シテ王位繼承ノ權利ヲ有スル者ノ攝政タルヘキ次第ハ王室典範ニ由ル英國ニ於テハ攝政ノコトハ之ヲ置クノ必要アル場合ニ臨ミ法律ヲ以テ定ムルコトトス我國皇室典範及普國憲法及英國ノ慣例ニ據ルニ共ニ其攝政ヲ置クノ場合ヲ二トナス第一君主末々成年ニ達セサルトキ即チ滿十八歳以下ナルトキ第二君主永時間事故ヲ以テノ故ヘニ親ク其大權ヲ行フ能ハサルトキ是ナリ我國ニ於テハ此第一ノ場合ニハ皇族會議等ノ手續ヲ要セス直ニ攝政ヲ置クヘシトシ第二ノ場合ニ於テハ愈々攝政ヲ置クノ必要アル哉否ニ就テハ事情ノ疑ハシキコトアルヲ免レサル故ニ必ス皇族會議及樞密顧問ノ審議ヲ經テ之ヲ置ク者トス普國ニ於テハ攝政ヲ置クノ必要アリテ王位繼承ノ權利ヲ有スル成年ノ男子アル時ハ中ニ就テ第一ニ王位ヲ繼グノ權利ヲ有スル者自ラ攝政タルノ權利ヲ得而レトモ果シテ攝政ヲ置クノ必要アルヤ否ハ攝政ト爲ル者豫メ議院ヲ召集シテ衆議ニ詢ヒ若シ必要ナシト議決スル時ハ攝政タルヲ得ス

攝政タルヘキ者ノ次第ハ我國ニ於テハ皇室典範ノ規定ニ由リ皇族成年男子ノ中ニ就テ皇位繼承ノ次序ニ順ヒ親王若クハ王若シコレアラサル時ハ皇后皇太后太皇太后内親王及女王ヲ亦次序ニ順テ

攝政ニ任ズ但シ女子ヲ攝政ニ任スルハ其配偶アラサル時ニ限ル普國ニ於テハ攝政ハ王族成年ノ男子ニ限リ王位繼承ノ次序ニ順ヒ攝政タルノ權利ヲ有ス故ニ議會ニ於テ攝政ヲ置クノ必要アリト議決スル時ハ攝政タルヘキ權利ヲ有スル者ヲ除キテ他者ヲ以テ攝政ト爲スヲ得ス而ルニ若シ成年ノ男子ナク又豫メ法律ヲ以テ攝政タルヘキ者ヲ定メタルコトナキ時ハ殊ニ内閣ヨリ直ニ議院ヲ召集スルヲ要ス因テ議院ハ議院ノ併合會ヲ以テ攝政選舉ノ議ヲ決ス但シ其選定ヲ畢フル迄ハ内閣假リニ攝政ノコトヲ行フ而シテ議院カ攝政ヲ選舉スルニハ其候補タル者ニ制限ヲ加フルコトナシ英國ニ於テモ亦攝政ヲ置クノ必要アル場合ニハ王位繼承者及近親ノ次序ニ順ヒ攝政ト爲スチ慣例ト爲スト雖モ故ラニ攝政タルノ權利ヲ有スル者トテハ法律ノ定メニ由ルニアラサレハ之レアルコトナシ既ニ遠ルカ如ク攝政ハ君主ノ大權ヲ代理シ凡テ君主ノ名義ヲ以テ之ヲ行フノミノ者ナレハ君主ノ尊榮ニ至テハ之ヲ有スルヲ得ス特ニ我國ニ於テハ攝政ハ憲法及皇室典範ノ改正ヲ行フノ權利ヲ有セサル所ナリ但普國ニ於テハ憲法改正ノコトモ亦攝政任任ノ間ニ之ヲ行フヲ得ヘシ英國ノ實例ニ據レハ攝政ノ職權モ亦其生スル各々ノ場合ニ於テ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキ者トス而シテ攝政ハ之ヲ置キタル理由ノ消スル時ニ終止ス但シ我國ニ於テハ攝政タル者疾病又ハ重大ノ事故アルトキニ皇族會議及樞密顧問ノ審議ヲ經テ次序ヲ變換シ其任ヲ移スヲ得ヘク皇太子及皇太孫ノ成年ニ達スル時モ亦從前攝政タリシ者ノ其任ヲ去ルヲ要ス普國憲法ニ於テハ攝政終止ノコトヲ規定セスト雖

モ攝政ノ死去自退及事故アリ大權ヲ行フヲ得サル場合ニ於テ終正シ以上ノ理由アラサル間ハ一旦攝政タル者ハ之ヲ置キタル理由ノ消滅スル迄ハ其任ヲ去ルコトナシ

大統領ノ選任

北米合衆國ニ於テ初メ憲法ヲ制定スルニ當テ行政權掌握者ノ組織ニ就キ三種ノ法案ヲ議會ニ提出シタリ第一行政權ヲ會議體ヘ委任スルコト第二之ヲ一人ニ專任スルコト第三一人ニ任シ參議會ヲ置テ國家ノ重事ヲ議セシムル。制ト爲スコト是ナリ既コシテ議決ニ至リ此三種ノ中特ニ一人專任ノ制ヲ採用シタリ即チ現今大統領ノ制是ナリ佛國ハ革命以來大小十二度ノ憲法變改アリ其中數度共和政體ヲ組織シテ其制タルヤ會議體ヲ設ケタルコトアリ又參議會ノ如キ者ヲ設ケタルコトアリシガ現今ハ合衆國ト同儕ニ獨任大統領ヲ置クノ制ヲ採レリ又米合衆國ニ於テ大統領在職年限ニ付テモ終身二十幸十五年十一年七年四年ト種々ノ考案出テテ今ハ七ケ年ト定ム而シテ兩國共ニ大統領ハ再選重任シ得ルノ制タリ但シ合衆國ニ於テハ其選舉三度ニ及フヲ許サルヲ以テ憲法上ノ成例トス又合衆國ニ於テ大統領被選者ハ合衆國出生ノ國民ニシテ國內ニ二十四年間住居シ年齢三十五歳タルヲ要ス佛國憲法ニハ大統領被選權ニ特別ノ制限ヲ設ケスト雖モ尙一般公法ノ原則ヲ適用シ公權ヲ全有スル者ニ限ル事ナルベキハ疑ヒナシ殊ニ千八百八十四年ニハ更ニ法律ヲ設ケテ往者佛

國ニ君主タリシ王族ノ者ハ大統領タルヲ得ヘカラスト定メタリ

北米合衆國憲法草案ヲ議スルニ當テ大統領ノ選舉法ニ關シテモ亦數種ノ考案出テタリシカ終ニ複選法ヲ採ルコトニ議決シ先ツ各邦ニ於テ選舉セラレタル者ヲシテ更ニ大統領ヲ選舉セシムルノ制ヲ設ケタリ憲法第二章ニ依レハ各邦ニ於テ選舉セラル、大統領選舉者ノ人數ハ恰モ各邦ヨリ合衆國議員ヘ選出スル代議士及國老院議員ノ合數ト同シキヲ要ス而シテ國老院議員代議士及合衆國官吏ハ選舉者ニ選ハル、ヲ得ス若シ夫レ選舉手續ノ概略ハ左ノ如シ合衆國議會ハ法律ヲ以テ選舉者ヲ選舉スヘキ時日ヲ定ム但シ選舉者ヲ選舉スヘキ投票ハ合衆國ヲ通シテ同日タルヘサヲ要ス千七百九十二年ノ法律ニ據レハ大統領ハ十二月第一水曜日ヲ以テ選舉スヘク又千八百四十五年ノ法律ニ據レハ選舉者ハ十一月第一火曜日ヲ以テ選舉スヘシト定ム以上ハ選舉者ヲ選フ手續ノ綱領ニシテ其細目ヲ定ムルコトハ各邦各自ノ權内ニアリ而シテ現今ハ各邦皆ナ公民ヲシテ選舉セシムルノ法ヲ採リ其當擲ト定ムルハ概シテ名籍投票ノ比較多數ニ由リ斯クテ此ノ擲舉サレタル大統領擲舉者ハ更ニ大統領ヲ擲舉スル爲メ聯邦各々其首府ニ集會シ匿名投票法ヲ以テ大統領候補者一名副統領候補者一名ヲ別々ニ擲舉シ直ニ現場ニ於テ發函シ乃チ投票記録ヲ製シ之ヲ密封シテ國老院議長ニ宛テ送附ス是ニ於テ國老院議長ハ國老院議員及代議院議員總集會ノ席ニ於テ之ヲ開キ明カニ投票數ヲ算シテ選舉者總數ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得タル者ナキ時ハ其最多

數ヲ得タル候補者三名ノ中ニ就テ更ニ代議院ニ於テ投票ヲ爲ス但シ投票ハ聯邦各々一票ト定メ且ツ投票スルニハ聯邦ノ總數三分ノ二ニ充テ其各議員一名以上ノ出席ヲ要シ乃チ聯邦總數ノ過半數ヲ以テ當選トス次ニ副統領ノ當選者ナキ場合コ於テモ亦其最多數票ヲ得タル二名ノ候補者ノ中ヨリ國老院特ニ之ヲ撰フ但シ國老院議員ハ各一票ヲ有シ議決ヲ以スニハ總數三分ノ二ノ出席ヲ要シ乃チ國老院總議員ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス

佛國ニ於テハ大統領ハ國老院及代議院ノ合併總會ニ於テ之ヲ撰舉シ總員ノ過半數ヲ得タツ者ヲ以テ當選トス選舉期ハ大統領在職終期一ヶ月前ニ合併總會ヲ組成シテ之ヲ行フヲ要ス若シ此總會ノ召集ヲ大統領ヨリ命セサル場合ニハ大統領在職終期ノ十四日前コ於テ議員自ラ集會シテ其選舉ヲ行フヲ得若シ又大統領選舉期ニ至リ偶々代議院解散ノ時ニ際スルトキハ直ニ議員選舉ヲ行フノ手續ヲナシ且ツ國老院議員ノ集會ヲモ要シテ大統領ノ選舉ニ從テ現行佛國憲法ニハ副統領ヲ設ケタルノ條ナシ故ニ大統領カ其在職終期前ニ死去或退職ニ因リ其位ヲ曠フスル時ハ大臣會議ニ於テ假リニ大統領ノ職權ヲ行ヒ而シテ議會ハ直ニ集會シ大統領ノ選舉ニ從事ス之ニ反シテ北米合衆國ニ於テハ既ニ副統領ノ設ケアリテ其職權ハ大統領存在ノ間ハ敢テ行政權ニ參與セス專ラ國老院議長ノ任ニ居ルヲ務トナセトモ大統領ノ死亡退職若クハ永久其職權ヲ行フ能ハサル場合ニハ次ノ大統領選舉就職期迄大統領ノ職權ヲ行フヲ定メトス而ルニ大統領及副統領同時ニ其職權ヲ曠フスル場合

ノ如キハ之カ處置ヲ規定スルハ議會ノ權内ニアルカ故ニ議會ハ直ニ法律ニ由テ其空位ニ充ツヘキ者ヲ國老院副議長及代議院長ノ順次ニ選舉ヲ及ホシテ大統領ノ職權ヲ行ハシムヘシト定メリ而シテ次ノ大統領選舉期迄之ヲ行ハシムルヤ否ハ其假任期限ノ長短ニ由リ定ムル所ナリ

國家元首ノ無責任

歐米各國中現行ノ憲法コ於テ君主ヲ以テ神聖ニシテ侵スヘカラスト爲スノ條項ヲ載スル者アリ或ハ神聖ノ言語ヲ除キ唯タ侵スヘカラスト定ムル者アリ或ハ畢ニ君主ハ無責任ト爲スノ條項ヲ載スルニ止マル者アリ顧フニ神聖ト云フ言語ハ我國ト歐洲トハ其超原主義ヲ異ニセリ我國ニ於テ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラスト爲スモノハ我國固有ノ神統ニ淵源モル事實ニシテ憲法制定ニ由リ始メテ定マリタル者ニアラス之ト異ニ歐洲ニ於テハ古昔羅馬國共和政體ノ頃其平民總代者ノ職位ヲ確保セン爲メ此職位ヲ以テ神聖ニシテ侵スヘカラストシ侵スモノハ其身體財產共ニ神ノ沒収シ犧牲トスル所トナルヘシト云フニ起原シ羅馬國ノ政體變更シテ帝國トナルニ及ンテハ更ラニ帝ヲ以テ神聖ニシテ侵スヘカラストモノトシ又耶穌教ノ傳播スルニ及ンテハ神聖ト云フ言語モ稍々意義ヲ變シテ耶穌教趣味ヲ含ムニ至レリ我國憲法第三條ニ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラスト爲シ普國憲法ニハ神聖ノ二字ヲ除キ君主ハ得テ侵スヘカラスト爲セリ爾乙帝國憲法モ又帝ハ侵スヘカラスト定ム按スルニ法理上ヨリ見解ヲ下ストキハ神聖ト云フ言語ノ有無ニ關セス侵スヘカラスト云フ

意ニ就テハ二義ヲ生ス即チ侵スヘカラサルカ故ニ都テ君主ハ其行爲ニ就キ責任ナキモノ者トス又犯スヘカラサルノ尊嚴ヲ護スル爲メ其君主ニ對スルノ罪ニハ特別ノ刑罰ヲ科ス是ナリ英國ニ於ル君主無責任ノ制ハ他人ノ憲法ノ原則ト共ニ漸次ニ開進シ夙ニ十七世紀ニ於テ大ニ完備シ歐陸各國ノ模範トナリタリ而シテ其君主ノ尊嚴ヲ護スル爲メニ特別ノ刑罰ヲ設クルコトハ英國又略々我國及普獨各國ト異ナルコトナシ爾カク君主ヲハ均シク無責任ト爲スト雖トモ君主爲ス所ノ國家ノ政務ニ就テハ君主ノ輔弼タルモノ其責ニ任スルヲ以テ君主國憲法ノ通前トシ困テ憲法ニ違背スル行爲ハ概シテ法律的効力ヲ有セサルヲ以テ憲法ノ特別制裁ニ付ス然ニ君主ノ行爲ニ就キ輔弼ノ責任ヲ負フ所以ハ敢テ君主ノ責任ヲ直ニ代理ストノ意ニアラス既ニ君主ハ其行爲ニ付キ責任ナシト定マルノ必要ヨリシテ輔弼責任ノ制缺クヘカラズトシテ英國ニ於テ漸次ニ完備シタルモノナリ今日歐洲各國ノ其憲法ニ載スル所ハ直接或ハ間接ニ之ヲ模倣シタル者タルコト明カナリ若夫レ君主ニ對シ民事上ノ訴訟ヲ起スヲ得ズ民事上ノ要求ハ請願ノ手續ニ由ルヘキノミ之コ反シテ普國及獨乙帝國ニ於テハ君主ニ對スル民事上ノ訴訟ヲ爲スヲ得但シ此レトモ直ニ君主ヲ被告トナシ得ルニ非ス殊ニ君主ノ會計ニ對シ起訴スルヲ法トス又共和國ニ於テハ國家元首ノ權ハ國民ヨリ委任サレタル者ト爲スカ故ニ元首ハ其行爲ニ就キ親ラ責任ヲ負フ者ト定ムルヲ逐則ト爲スト雖モ現今佛國

ノ憲法ハ大統領カ國家ノ元首タル資格ヲ以テ爲ス所ノコト大逆罪ノ場合ニ非サルヨリハ凡テ無責任トス是レ蓋シ君主國ノ原則ヲ參酌適用シタル者ニシテ其目的タル敢テ立憲君主制ノ國ニ於ケルカ如ク元首ノ尊嚴ヲ護センカ爲メニアラス特ニ代議政體ノ責任宰相ノ制ニ有効ヲ望ミテ時勢ノ必要ニ應シ政治ヲ圓滑ナラシメン爲メナリ且ツ又佛國大統領ハ新聞紙上ノ誹謗罪ニ關シ特別ノ保護ヲ受クルト雖モ之ニ反シテ北米合衆國大統領ハ刑法上一切特別ノ權ヲ有セス而シテ其行爲ニ就テハ凡テ國民ニ對シテ責任ヲ有スル所ナリ

國家元首ノ立法權

通例獨乙國公法家カ定メテ以テ純正ノ立憲君主制トナス所ニ於テハ國家ノ統治權ヲ總攬スル者ヲ其君主トスルカ故ニ立法權モ亦君主ノ掌握スル所ト爲セリト雖モ之ヲ行フニハ必ス議會ノ參與ト一定ノ手續トニ由ルヲ要スルコト論ヲ待タス故ニ議會ノ參與ト憲法規定ノ手續トニ由ラサレハ法律ヲ制定スルヲ得ス普國ハ即チ此主義ヲ採レル者ニシテ立法權ハ君主ト議會トノ共同ニ操持スル所ナリ然レトモ畢竟國家ノ權ヲ統一シ立法權ヲ掌握スル者ハ君主ニ在リテ議會、唯々其ノ運用ニ參與スルノ權ヲ有スルニ過キス、然ルニ獨乙帝國ニ於テハ帝ハ統治權ノ總攬者ニアラス從テ又立法權ヲモ有セス特ニ獨乙二十五邦ノ委員ヲ以テ組織スル團體即チ聯邦其議院ゾ即チ帝國統治權ノ總攬者ニシテ立法權ヲ主掌シ而シテ之ヲ行フニハ勿論亦帝國議會ノ協同ヲ要スルコト猶ホ普國ニ

於ルガゴトシ我國憲法モ亦獨乙國公法家ノ所謂純正君主制ト同一ノ主義ニ由ルヲ見ル即チ憲法第五條ニ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト云ソカ如キ實ニ天皇ヲ以テ立法權ノ主掌者トシテ而シテ天皇カ此權ヲ行フニハ必ス議會ハ協議贊成ヲ要セリト爲スナリ之ニ反シテ英國ニ於テハ立法權ハ君主ト上下兩院ト合有共握スル所タリ即チ君主及上下兩院ヲ以テ組織スル共同體之カ掌握者タリ敢テ君主ヲ主掌者トシ議會ヲ副助者トスルカ如キ說ニ由ルニアラズ佛國及北米合衆國ノ共和制ニ於テハ立法權ハ全然議會ノ掌握スル所ニシテ大統領ハ立法權ノ機關ニ備ハラズ唯タ一定ノ場合ニ於テ立法權運用ノ節制者タルニ過キス

右ニ述ヘタル如ク純正立憲君主制ノ國ニ於テハ君主ヲ以テ立法權ヲ主握スル者ト爲スコト既ニ獨乙公法家ノ一定論タリト雖モ茲ニ又其君主ノ裁可ト議會ノ議決トノ關係ニ就テ二派ノ見解起レリ甲者ハ特ニ君主ノ裁可ニ重要ヲ歸シ實ニ法律案ニ法律ノ効力ヲ與フル者ハ裁可ニシテ議會ノ議決ハ唯々參與權ヲ以テ法律案ノ事項ヲ議シ法律立制ノ要件ヲ定ムル者ニ過ギス普國及其他獨乙君主制國憲法ノ取レル主義是レニ外ナラズト論シ乙者ハ全ク之ニ反對ノ法理ニ原キ法律ハ君主ト議會ト協同制定スル所ナリ故ニ議會ノ議決ハ唯參與權ヲ以テ法律案ノ事項ヲ議シ法律立制ノ要件ヲ定ムルニ止マラス法律ノ有効ニカヲ加フルコト勿論ニシテ法律ハ議決ト裁可ノ成果ナリ此兩者ノ一ヲ缺ケバ法律ノ効力ヲ爲サズト云ヘリ我國憲法ハ此第一ノ主義ヲ採ル者ニシテ裁可ニ重キヲ歸シ

法律ハ正ニ裁可ヲ以テ定マル者トスルカ故ニ此意ヨリ推セバ憲法ノ條項ニ不裁可ノ權ヲコソ明揭セザレ議會ノ議決シタル者ニ君主カ裁可ヲ與ヘサルノ權アルコト自ラ知ラル、ナリ普國及獨乙帝國ノ聯邦共議院モ亦此權ヲ有セリ而ルニ又此不裁可權ニハ敢テ制限ヲ設クルコト無ク例令ト議會ガ政府ノ起草法律案ヲ少シモ修正ヲ加ヘシテ原案ノ儘ニ議決シタル場合ト雖モ尙ホ君主ハ之ヲ裁可セザルノ權ヲ有セリト爲スチ以テ我國憲法普國及獨乙帝國憲法ノ原則トス而レトモ裁可ノ時期ニハ制限無キ能ハス我國議院法第三十二條ニ兩院ノ議決ヲ經テ表上シタル議案ニシテ裁可セラハ、モノハ次ノ會期迄ニ公布セラレヘジト爲スカ故ニ次ノ會期マテニ公布セラレサル者ハ不裁可ノ議案ニシテ廢棄タルコト論ナカル可シ又普國ニ於テハ裁可ノ期限ニ關スル別段ノ規定ナケレバ論者或ハ次ノ會期マデテ其期限ト爲スヘシト主張スト雖トモ是レ正說ト爲スヘカラス法律ハ現在成立スル議員ノ協議ヲ經テ制定スト云フチ原則ト爲スカ故ニ議員ノ改選ヲ以テ正ニ裁可ノ期限トシ改選期迄ニ公布ナキ者ハ裁可セザル者ト看做スヘシ獨乙帝國ニ於テハ共議院ノ議決ヲ以テ裁可セリ去レトモ是レ亦裁可ニ期限ヲ設ケス故ニ普國ニ於ルカ如ク議會ノ改選期ヲ以テ其裁可ノ期限ト爲スヘキナリ英國ニ於テモ亦君主ノ同意ヲ經テ始メテ議案ヲ有効ノ法律ト爲スト雖モ君主ノ同意ハ法律制定部屬ノ一トモ看做スヘキ者ニシテ我國ニ於テ特ニ重キヲ君主ノ裁可ニ歸スルガ如キト同カラス而レトモ憲法上英國君主ハ上下兩院ノ可決シタル議案ニ對シ同意ヲ肯ゼサルノ權即チ

全拒ノ權ヲ有スルナリ但シ實際ニ於テハ千七百九九年以來兩院ノ可決シタル法律案ニ就テ同意ヲ拒ミタル例ナシト云フ佛國及北米合衆國ニ於テハ立法權ハ全ク議會ノ掌握スル所ニシテ大統領ハ唯々節制權ヲ有スルニ過キサレバ若シ兩院ノ可決シタル法律ニシテ不同意ノ條アル時ハ其權唯々之ニ其理由ヲ附シ議院ニ返付シ再議ヲ要求スルマテニ止マレリ而シテ佛國大統領ハ議會ノ制定シタル法律ハ之ヲ收受シタル日ヨリ一ヶ月内ニ公布スルヲ要シ若シ又兩院ノ議決シテ至急發布ヲ要スト定メタル者ヲバ三日内ニ發布セサルヘカラスト雖トモ大統領ハ此ノ法律ニ不同意ナルトキハ右ノ期限内ニ理由ヲ附シ議院ニ再議ヲ要求スルノ權ヲ有シ兩院ハ此要求ヲ拒ムヲ得ス而シテ此再議ニ於テモ前案ヲ以テ兩院共ニ多數ニ決スル時ハ大統領ハ之ヲ發行執行スルヲ要セリ北米合衆國ニ於テハ兩院ノ大決シタル法律案ハ之ヲ大統領ニ送附シ其記名ヲ得ルニ至リ始メテ法律ノ効力ヲ有スル者トシ若シ大統領ニシテ此法律家ニ不同意ナル時ハ其理由ヲ附シ之ヲ法律案ノ發議者タル議院ニ返付シ再議ヲ要求スルノ權ヲ有スト雖トモ再議ニ於テ尙前案ヲ以テ兩院共ニ三分ノ二ノ多數ニ可決スルトキハ即チ亦法律トナルナリ加之大統領カ法律案收受ノ日ヨリ日曜日ヲ除キ十日以内ニ之ヲ議院ヘ返附セサル場合ニモ其案ハ即チ法律トナル合衆國ニ於テハ大統領ノ節制ノ權ヲ指シテ通例拒否ト稱スト雖モ是レ憲法ノ正準ニ合ヘル名稱ニアラス元來拒否トハ立法權ノ一部ヲ爲ス者カ法律案ニ同意ヲ拒ムノ名稱ナルカ故ニ合衆國ノ如ク立法權ノ全然議會ニ歸シテ議會ト大統領

ト共同掌握スル所ト爲サル組織ニ於テハ立法ニ關スル大統領ノ權ヲ拒否ト稱スルコト頗ル事理ニ適ハザルニ似タリ偕テ法律ハ以上論述シタル手續ヲ經テ方サニ成立シ而シテ其公布ノコトハ寧ロ政府ノ權ニ屬スヘキ者ナリト雖モ尙其大略ヲ我國憲法ノ次第ニ順テ記述スヘシ凡ソ法律ノ公布ニ正式ト否ラサル者トノ差アリ英國ニ於テハ當初法律ハ之ヲ制定シタル國會ノ開期初時ヨリ効力ヲ有スル者ト爲セシカジョルジ第三世ノ時之ヲ改正シ凡テ法律ハ其効力ノ始マル時期ヲ規定セサルトキハ則チ國王カ之ニ同意ヲ與ヘタル時日ヨリ効力ヲ有スヘシト定メタリ而シテミナラズ論理上人民ハ等シク皆國民代表者ニ依テ法律制定ニ參與スル者ナルカ故ニ故ラニ正式公布ヲ要セサルニ似タレトモ實際之ヲ公示セサルバ一般人民ノ認知スルニ由ナキヲ以テ國王ノ印行官ハ之ヲ公布スルノ義務アリトス北米合衆國モ亦英國ト全例ノ主義ヲ取ル者ナリ之ト異ニ我國及佛普兩國及獨乙帝國ニ於テハ嚴然タル正式公布ヲ要セリ蓋シ法律ハ公布前ニ成立ツ者ト雖モ公布ニ由テ始メテ効力ヲ有スト爲スナリ乃チ佛國ニテハ公布ハ大統領ノ職權ニ屬シ而シテ公布テ執行處分ト相殊別スル者アリト雖モ所謂執行處分ハ公布ノ内ニ抱括セシムヘキ者タリ我國及普國ニ於テハ公布ノ命令ヲ君主ノ大權ニ屬シ即チ我ニ於テハ官報普國ニ於テハ法律全集ヲ以テ公布シ又獨乙帝國ニ於テハ帝之ヲ掌リテ帝國法律紙ヲ以テ公布セリ

議會ノ召集開會閉會停會及衆議院ノ解散

議會ノ集會ヲ分チテ定期臨時ノ二種トス我國及英普兩國ニ於テハ議會ヲ召集スルハ君主ノ特權ニ屬シ君主ノ召集ニ由ラズ議院自ラ擅コ集會シ議會ヲ組成スルヲ准サス獨乙帝國ニ於テモ亦同例ニ由ルト雖モ議會ノ召集ヲ帝ハ殊ニ聯合政府ノ名義ヲ以テ命セリ共和制ノ佛國及北米合衆國ニ於テハ定期集會ハ議院自ラ之ヲ爲スヲ得而シテ臨時集會ハ佛國ニ於テハ大統領之ヲ召集スルノ權ヲ有シ且ツ代議院及國老院ノ過半数ヲ以テ請求スル集會モ大統領認メテ之ヲ召集スルヲ要ス北米合衆國ニ於テハ議院自ラ其開會中ニ次ノ臨時集會ヲ定ムルヲ得ベク且ツ大統領モ亦此臨時會ヲ召集スルノ權ヲ有ス凡ソ我國及英佛普合衆國議會ハ兩院ヲ以テ組織スル者ニシテ兩院必ス同時ニ召集スルヲ法トス但シ北米合衆國ニ於テハ大統領臨時ニ兩院ノ内一院ヲ召集スルヲ得例ヘバ千八百十五年ニ大統領リンコンカ上院ノミヲ召集シタルカ如キ是レナリ蓋シ合衆國上院ハ特ニ外交及官吏任命等ノ行政事務ニ參與スルカ故ニ獨リ上院ノミヲ召集ノ必要ヲ生スルコト自然ノ勢ナリ獨乙帝國ニ於テハ議會ハ一院ヲ以テ成ルト雖トモ聯合政府ヲ爲ス者則チ其議院ナルカ故ニ必ラス先ツ此共議院ヲ召集シテ然後議會ノ召集ニ及バザルヘカラス、我國及普英兩國及獨乙帝國ニ於テハ開會モ亦國家元首ノ特權ニ屬シ議會ハ此ノ開會ノ命ヲ待テ始メテ議事ヲ取ルヲ得ヘシ故エニ開會前ニ爲シタル議事ハ凡ヘテ効力ヲ有セス以上各國ニ於テ開會ハ元首自ラ之レヲ行フコトアリ特命委員ヲシテ之ヲ行ハシムルコトアリ英國ニテハ國王自ラ之ヲ行フニ方テハ親シク上院ヘ臨御シ侍從長ヨリ上院ノ監守長ニ命ヲ傳ヘテ代議院議員ヲ召集セシム此ニ於テ代議議長ノ議員ヲ率キテ上院ニ至ルヤ國王親ラ勅語ヲ讀ムヲ以テ開會式ヲ完ウスル者トス特命委員タル尙書ヲシテ開會式ヲ行ハシムルトキモ亦代議員ヲ上院ヘ召集シ國王ノ勅語ヲ通傳シ若シ又改選議院ノ開會時ナル時ハ尙書ハ同時ニ議長ノ選舉ヲ命ス普國及獨乙帝國ニ於テモ亦國王親ラ開會式ニ臨マサル時ハ通例大臣ニ命シ之ヲ行ハシム佛國及北米合衆國ニ於テハ特ニ開會式ヲ要セス但シ合衆國建國初二代ノ大統領ハ當時尙ホ英國ノ制ニ模倣シ開會式ヲ舉グ演說ヲナシタリト雖モ此事爾來停廢シテ現今ハ唯タ書記官ヲシテ敎書ヲ議會ヘ送付セシムルノミ

停會ハ英國ニ於テハ兩院ノ各自隨意ニ爲ス所ニシテ一院適ニ停會スルモ他ノ一院ニハ關係セストイフヲ以テ通則トシ且ツ停會ノ日限ヲ定ムルコトモ各院ノ權内ニアリテ國王ノ命ヲ以テ其期ヲ伸縮スルヲ得ス加之停會終期前ニ別務ニ從ハシムルコトモ得サルナリ北米合衆國ニ於テモ又各院各自ニ停會スト雖モ三日以上ノ停會ニハ必ズ他ノ一院ノ同意ヲ得ンコトヲ要ス我國及佛普兩國及獨乙帝國ニ於テハ停會ハ元首ノ命スル所ニシテ議員隨意ニ停會ヲ爲スコトヲ准サスト雖モ實際事務ヲ取ラスシテ休會ニ居ルガ如キハ問フ所ニアラザルナリ次ニ我國及英佛普各國及獨乙帝國憲法ニ據レハ閉會及解散ヲ命スルコトハ凡テ元首ニ屬シ而シテ閉會ハ開會及停會ト均シク全議會ニ關スル所ナレハ兩院ヲ同時ニ閉ツルヲ通則トス但シ佛國ニ於テハ定期集會ハ少ナクモ五ヶ月間繼續ス

ヘキノ規定アルカ故ニ大統領ハ此期限前ニ閉會處分ヲ爲スヲ得ス次ニ又解散ハ英國ニ於テハ之ヲ國會全體ニ及フ者ト看做スト雖モ素ト解散ノ要點ハ改撰ニ因テ輿論ノ屬望スル所ヲ視ルコアリ故ニ實際衆議員ノ解散ヲ目的トナスコトナリ普國憲法第五十一條ニ國王ハ同時ニ兩院ヲ解散シ或ハ其一院ヲ解散スルヲ得ルト規定スレトモ此モ亦其上院ハ世襲及終身議員ヲ以テ組織サルノ者ナルガ故ニ實際解散ハ獨リ衆議院ニ止マレリ佛國憲法モ亦解散ハ衆議院ニ限り而シテ大統領ハ臨時解散權ヲ有スト雖モ之ヲ行フニハ必ス國老院ノ同意ヲ要ス獨乙帝國議會ハ既ニ一院ヲ以テ成ルモノナルガ帝ハ共議院ノ議決ヲ經テ臨時解散ヲ命スルノ權ヲ有セリ獨リ北米合衆國ノ制ハ以上ノ各國ト迥異ニシテ大統領ハ議會ヲ閉會及解散スルノ權ヲ有セス故ニ此國ニハ定例ノ解散ノ外ニ議會ノ解散ヲ見ルコトナシ

官制及官吏任命ノ權

凡テ立憲制ノ國體ニシテ法律ト命令ノ差別判然タル所ニ於テハ裁判所ノ官制ヲ定ムルハ憲法及法律ニ由ルトナスコト殆ト一ニ出ルカ如ク我國憲法モ亦既ニ此原則ヲ採リ其第五章ニ於テ司法權ニ關スル通則ヲ規定シ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト爲セリ然レトモ行政官衙ノ組織及職權ノ制定ニ至テハ我國及英佛獨米各國互ニ多少ノ差異ナキヲ得ズ就中我國及佛普兩國ニ於テハ行政各部ノ官制ヲ定ムルノ權ヲ元首ニ屬スルヲ以テ通則ト爲スコトナレドモ亦此權ニ二箇ノ制限

アリ即チ法律及豫算ノ制限是ナリ但シ此ニ法律ノ制限トハ官制ノ通則ヲ先ツ法律ヲ以テ定メ置キ其範圍内ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ立定スヘシト云フニアラズ法律ヲ以テ制定シタル官制ハ命令ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得サルヲ云フ我國憲法第十條ニ天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ルト規定スルカ故ニ既ニ法律ヲ以テ規定スル者及憲法ニ於テ法律ヲ以テ制定スベシト爲ス所ノモノハ命令ヲ以テ縱マニ之ヲ立定シ若ハ改正スルヲ得ス次ニ豫算ノ制限トハ我方憲法第六十七條ニ憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得スト爲スカ故ニ憲法施行前ヨリ既ニ確定ノ經常費額ヲ成ス者及憲法施行後ト雖モ歳出ノ一度豫算ニ於テ議了既ニ確定ノ屬シタル者ハ次年ノ豫算ニ於テ議會ハ政府ノ同意ナクシテ之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得サルコトナレトモ新タニ官職ヲ設置スル場合ニ於テ之ニ要スル經費ヲ需ムルニ當テハ固ヨリ帝國議會ノ協贊ヲ得テ豫算ヲ定ムヘキ者ナレバ議會ハ當然其經費ニ付キ修正ヲ爲スノ權ヲ有ス尙伊藤伯著憲法義解第六十七條ノ解釋ヲ參照スヘシ佛國ニ於テハ革命以來二箇ノ場合ヲ除キ各省ノ官制ヲ定ムルコトハ例シテ之ヲ政府ノ權ニ屬シ現行ノ憲法モ又此主旨ニ則トレルカ故ニ大統領ハ勅令ヲ以テ各省ヲ廢立増減シ其組織權限ヲ定ムヘシト雖トモ之カ爲メニハ又常ニ經費ノ増減ヲ生スヘキコト勿論ニシテ其豫算ハ議會ノ議了ヲ待テ定マルカ故ニ即チ大統領ノ官制ヲ定ムル權ニ於テモ

又制限アリトス但シ各省ノ官制ヲ定ムルノ權ハ斯ノ如ク政府ニ屬スト雖トモ獨リ參事院ノ官制ハ革命以來常ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトナリ又普國ニ於テモ行政各部ノ官制ヲ定ムルノ權ハ國王ニ屬セリト雖トモ憲法上法律ヲ以テ定ムヘシト爲ス者及憲法又ハ法律ヲ以テ定ムル者ハ命令ヲ以テ之ヲ制定シ或ハ變更スルヲ得ス而シテ其新官職ノ設置或ハ改正ノ爲メニ要スル經費モ又議會ノ議決ヲ經テ始メテ支出スルヲ得ルナリ英國ノ官制ハ其一部ハ慣習法ニ由リ他ハ法律ヲ以テ定ムル者ニシテ即チ法律ヲ以テ通則ヲ定メ其内部ノ組織ハ一ニ政府ノ定ムル所ニ放任スルヲ通例トス但シ法律未定ノ場合ニ於テノミ國王專ラ官制ヲ定ムルノ特權ヲ有スト爲セトモ是レ唯虛式ノ名義ノミニシテ其實官制ノ大体ハ皆ナ法律ヲ以テ規定セリ獨乙帝ハ獨リ帝ノ職權ニ屬スル事項ヲ司トル所ノ官衙ヲ組織シ其職權ヲ定ムルノ權ヲ有ス北米合衆國憲法ニ依レハ大統領ハ官制ヲ定ムルノ權ヲ有セス凡テ官制ヲ廢立スルノ權ハ議會ニ屬シ法律ヲ以テ之ヲ定ムル者トス概シテ各國共ニ文武官ノ任免ハ國家ノ元首之ヲ掌ルヲ以テ通則トス而シテ此ノ任命權ニモ又法律ト豫算トノ制限アリ我國憲法モ又此ノ兩制限ヲ認ムル者コシテ憲法又ハ法律ニ於テ某種官吏ノ任命ニ係ル要件ヲ規定シタル者ハ各々其規定ニ依ルヲ要ス例ヘハ裁判官ノ任職ハ法律ニ依リ定メタヲ資格ヲ具フル者タルヘク又其免職ハ刑法ノ宣告ニ由リ又ハ法律規定ノ懲戒處分ニ由ルヲ要スルノ類是ナリ斯ノ如ク法律ノ制限ト共ニ豫算ノ制限アリテ凡テ新タニ官吏ヲ増置スルカ爲メ經費ノ増額ヲ要スルコトアリ

ル場合ニハ必ス議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムルヲ要ス英國ニ於ル官吏任命ノ權ハ名義上專ラ國王ニ屬セリト雖モ又慣例法律及豫算ノ制限ニ準據スルヲ要ス而シテ其免職ハ裁判官及會計検査官ヲ除クノ餘ハ別ニ法律的ノ制限ニ由リ非シテ要スルニ政治上ノ慣例ニ依リ大臣ト交迭スル所ノチヨツ六十名許ノ司政官ヲ除クノ外ハ實際終身官タル者多キニ居レリ佛普兩國ニ於テモ亦元首ノ有スル官吏任命權ニ法律ト豫算トノ制限アリ之ニ關シ法律的規定ノ最モ完全ナルハ普國ニシテ官吏登用ノ要件ハ大抵法律ヲ以テ之ヲ定ム因テ又其免職モ某種ノ定期任命ノ者ヲ除クノ外餘ノ官吏ハ法律規定ノ處分ニ由ラスシテ之ヲ爲スヲ得サル者トス此ノ制限ノ外ニモ豫算ノ制限アルコト英國ト異ナルコトナシ凡テ任命ハ豫算確定ノ俸給限内ニ於テ行フ者ニシテ俸給ノ増額ヲ要スル場合ニハ必ス之ヲ議會ノ認可ニ附セサルヘカラス獨乙帝國ニ於テ官吏任命ノ要件ハ一般ニ法律ヲ以テ之ヲ定メ某種ノ官吏ヲ除キ他ノ帝國官吏ハ帝之ヲ任スト雖モ別ニ聯邦共議院或ハ共議院委員ノ指名ニ由リ任命スル者アリ而シテ又議院ノ同意ヲ要シテ任命ヘル者アリ例ヘハ領事ノ任命ニハ商務委員ノ同意ヲ要シ帝國裁判官及檢察ノ任命ニハ共議院ノ指名ニ由ルノ類ヲ云フ北米合衆國憲法ニ據レハ大統領ハ國老院ノ協議及同意ヲ經テ公使領事及高等裁判所判事ヲ任命スヘシト定メタルノミナラス專ラ法律ニ由リ定ムル官吏ト雖モ亦國老院ノ協議及同意ヲ經テ大統領之ヲ任命スヘキ者トス而又部屬官吏ニ關シテハ法律ヲ以テ其任命ヲ專ラ大統領及其各部長官ニ委任スルコトナレト

モ其任命權ノ分配ヲ定ムルカ如キハ憲法上特ニ規定シタルモノ、外ハ議會專ラ其權ヲ握ルコトナリ但裁判官ハ合衆國ニ於テモ又終身官トス而シテ官吏彈劾制規ノ外ハ一般官吏ヲ免職スルノ規定ナシト雖モ立法司法行政三種ノ分任原則ト憲法制定以來ノ慣例トニ依レハ免職權ハ亦任命權ヲ有スル者ノ掌トル所トス但シ獨リ大統領ハ元老院ノ同意ヲ要セス官吏ノ免職ヲ專行スルヲ得ヘシ

開戦講和及條約締結之權

凡テ國家外交ノ事件ハ之ヲ處スルニ勇氣英斷迅速秘密ヲ要スルコト通例ナルカ故コ之ヲ一人ニ統率スルヲ適當トシ各國概シテ此權ヲ元首ニ屬シ特ニ君主國ニ於テハ開戦講和ノ權ハ勿論條約締結ノ權モ即テ君主之ヲ掌握スルヲ以テ通則ト爲スト雖モ或ル事項ニ關スル條約ハ議會ノ認可ヲ經サレハ國內ニ通シテ効力ヲ有スル者トナサズ特ニ國民ノ權利義務ニ關スルセニ於テ直接或ハ間接ニ議會ノ認可ヲ經ルヲ要セリ共和國ニ於テモ又條約締結ノコトハ概シテ之ヲ大統領ニ屬セリト雖モ北米合衆國ノ如キハ大統領ガ此權ヲ用フルニ特別ノ制限ヲ設ケテ我國ニ於テハ開戦講和及條約締結ノコトヲ天皇ノ大權ニ屬シ憲法上此ノ權ニ直接ノ制限ナキ者トス英國ニ於テハ開戦講和ノ權ハ國王ノ掌握スル所ニシテ内閣員ノ協賛ニ由リ樞密院令ヲ以テ之ヲ公布スルコトナレトモ戰費ハ必ス議會ノ認可ヲ須テ支出スヘキモノナルカ故ニ條約開戦ノ前ニ其理由ヲ議會ヘ通知シ其參助協同ヲ求ムルヲ以テ慣例トス約締結ノコトモ又國王ノ特權ニ屬スルコトナルカ此ハ特ニ議會ノ參與或

ハ認可ヲ要セス故ニ未タ批准ヲ經サル條約ヲ議會ニ提出スルコトナク又批准ヲ經タル者ト雖モ間接ニ議會ノ參與ヲ要スルモノ、外ハ之ヲ議會ニ出シ故テニ認可ヲ求ムルコトナシ而レトモ凡テ法律ト關係シ國內ニ施行スヘキ事項ハ議會ノ參與ヲ要シ議會同意セザレハ之ヲ國內ニ施行スルヲ得ス而シテ又條約ヨリ生スル歳出ハ凡テ議會ノ認可ヲ經ルヲ要スルコト論ヲ待タズ獨乙帝國憲法ニ依レハ帝ハ外交權ヲ掌握シ開戦講和ノコトヲ帝國ノ名ニ於テ布令スト雖モ尙開戦ハ其議院ノ同意ヲ要ス但シ敵國來襲ノ場合ハ此限ニアラス且ツ條約締結モ又帝國ノ名ニ於テ帝之ヲ行フモ特ニ帝國立法權ニ屬スル事項ニ係ル條約ハ議會ノ協賛ヲ要ス故ニ此ノ如キ條約ハ批准ノ前ニ於テ之ヲ議會ニ提出スヘキ者ト爲ス佛國憲法ニ據レハ開戦講和ノコト又大統領之ヲ掌握スト雖トモ敢テ獨裁スルヲ得ス必ス兩院ノ同意ヲ要セリ條約締結モ又凡テ大統領ノ掌握スル所ト爲スト雖モ通商條約國庫ノ負擔ヲ生スヘキ條約及國民ノ權利義務ニ關スル條約ハ議會ノ認可ヲ經テ始メテ有効ノ者トナルナリ其他一般條約ニ至テモ國家ノ利益及安寧ヲ害セサルノ限度ヲ守テ其款約ヲ速ニ議會ニ提出シ其通知ヲ經ヘキ者トス蓋シ國家ノ利益及安寧ヲ害セサルノ限度ニ於ル款約ヲ豫メ議會ヘ通知スヘキコトハ各國憲法ノ通則ト爲ス所ナリ但之ヲ憲法ニ明揭スト否トノ差異アルノミ北米合衆國憲法ニ據レハ殊ニ開戦ノ權ヲ以テ議會ニ屬シ而シテ講和及其他一般ノ條約締結ヲ以テ大統領ノ掌握ニ歸シ上院三分二ノ可決ヲ得テ始メテ其約定スル者トス但シ上院ハ條約案ノ修正權ヲ有スト雖モ

發議權ハ獨リ大統領ニ屬セリ總テ各國共ニ憲法ニ違背スル條約ハ之ヲ締結スルヲ得サルヲ以テ其通則ト爲ス合衆國ニ於テモ又タ此ノ通則ヲ採ルコト論ヲ待タスト雖モ獨リ上院ノ同意ヲ以テ締結シタル條約ヲ以テ能ク法律ヲ廢シ又法律ヲ以テ條約ヲ廢スルコトヲ得ルナリ又國庫ノ支出ヲ要スル條約ハ必ス其支出ヲ衆議院ノ認可ヲ經テ定メサルヘカラス

命令權

我國憲法第八條及第九條ニ於テ命令ノコト三種ヲ規定ス其第八條ニ載スルハ緊急命令ニシテ第九條ニ在ルハ執行命令及自立命令ナリ即チ其文ニ法律ヲ執行スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムト云フハ已ニ成立スル法律ヲ應用執行スル爲ニ發スル命令ヲ指ス故ニ之ヲ執行命令ト稱ス又公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムト云フハ法律ノ存在セザル際ニ於テ發スル命令ヲ指ス故ニ之ヲ今姑ク自立命令ト命名ス願フニ我國及英佛普各國憲法ノ中ニ就テ緊急命令ノコトヲ規定スルハ唯タ我ト普ノ二國アルノミ英國及佛國ニ於テハ憲法上政府ハ緊急命令ヲ發スルノ權ヲ有セズ但獨乙帝國政府ハ三箇特別ノ場合ニ限リ緊急命令ヲ發スルノ權ヲ有セリ緊急命令トハ特別ノ場合ニ於テ立法權ノ區域内ニ干涉スル命令ニシテ法律ト同様ノ効力ヲ有スル者タリ其之ヲ要スル所以ハ凡テ法律ノ廢止停止又ハ改正ハ必ズ法律ヲ以テシ命令ヲ以テスルヲ得ザルコト立憲國ノ通則ナリト雖モ急迫ヒムヲ得ザル場合ニ於テハ命令ヲ

以テ法律ヲ變更セザルヲ得ズ是レ此ノ命令ヲ指シテ緊急命令ト稱スル由縁ナリ而シテ我國及普國憲法ニ據レバ此ノ命令ヲ發スルハ必ズ左ノ場合ニ限ル第一公共ノ安全ヲ保護維持シ或ハ公共ノ災厄ヲ豫防救濟スル爲ニ急須ノ處分ヲ要スルコト第二要務ノ起ル議會閉會ノ場合ニ在ル時ニ限ルコト是ナリ而レトモ緊急命令ノ効力ニ就テハ我國ト普國トノ間ニ著ルキ差異アルカ如シ伊藤伯ノ憲法義解及其他一二ノ解釋ニ由レバ我國ノ緊急命令ハ凡テ各種法準ノ區域ニ及ブ者トス即チ獨リ憲法及皇室典範ヲ除キテ其餘ノ法律ハ性質ノ如何ニ關セズ皆此命令ヲ以テ或ハ停止シ或ハ廢止スルヲ得又ハ法律ヲ以テ規定スベシト指ス事項ニシテ法律ノ規定ナキ場合ニ於テモ亦假リニ命令ヲ以テ之ヲ規定シ得ベシ既ニ緊急命令ハ政府ニ於テ之ヲ發スルノ必要アリト認ムル時ハ凡テ各種法律ノ區域ニ於テ發スルヲ得ベキ者トスレバ例ハ議會閉會ノ時ニ際シテ政府ガ緊急必要ト認ムル場合ニハ亦命令ヲ以テ議院法選舉法ヲ停止シ又假リニ議院法若クハ選舉法ヲ制定シ得ベク裁判所構成法訴訟法治罪法モ議會ヲ召集スル迄之ヲ停止スルヲ得ベシ此ノ如ク凡テ緊急ト認ムル場合ニハ憲法第二章ニ掲グル臣民ノ權利義務ニ關スル法律ハ皆ナ暫時命令ヲ以テ之ヲ停止又ハ廢止スルヲ得ベキナリ緊急命令ノ權強大ナリト云フベシ勿論議院法選舉法等ニ就テハ實際緊急ノ場合アルコトナカルベシト雖モ尙政府ガ之ヲ緊急ト認ムル場合ニ於テハ其命令ヲ以テ廢止或ハ變更セラルヲ免カレザルナリ普國ノ緊急命令ノ權限ハ之ヲ解釋スル者ノ中ニモ區域ヲ強大ニ解スル者ト狹少ニ

釋スル者トアレドモ要スルニ自己ノ政治上ノ主義ヲ以テ曲テ憲法ヲ解釋セント企ツル者ニ非サルヨリハ緊急命令ヲ凡テ諸種法律ノ區域ニ及ブ者ナリトハ解釋セズ殊ニ憲法ニ於テ特書シテ立法手續ニ據テ規定スベシトスルノ件ハ緊急命令ヲ以テ之ヲ廢止シ又ハ停止スベカラズト云フ說ハ普國憲法解釋者中ニ多キヲ占ムルガ如シ緊急命令ハ次ノ會期ニ於テ議會へ提出シテ其ノ諾否ヲ詢ヒ若シ承諾ヲ得ルトキハ此ノ命令始メテ眞ノ法律タルノ効力ヲ得テ從前ノ法律ハ全ク廢止ニ歸ス而シテ右ノ手續ヲ經タル命令ハ眞ノ法律タルノ効力ヲ有シ正シク法律ノ地位ヲ占ムル者ナレバ後日之ヲ改正又ハ廢止スルニハ更ニ法律ヲ以テセザルベカラズ之ニ反シテ兩院ノ承諾ヲ得ズ或ハ兩院ノ内一院ノ承諾ヲ得ザレバ該命令ハ廢止ニ歸シ從前ノ法律復ビ効力ヲ有スベシ而ルニ我國ニ於テハ其効力ヲ失フルノ期ハ政府ガ其効力ヲ失スルコトヲ公布スルニ於テ始マルガ故ニ議會其承諾ヲ拒ムト雖モ政府ガ其効力ヲ失スルコトヲ公布スル迄ハ人民ハ仍ホ遵由ノ義務ヲ有ス之ニ反シ普國ニ於テハ議會ノ承諾ヲ得ザレバ即チ其時ニ効力ヲ失スル者トス但シ効力ヲ失スルトキハ將來ニ向テ効力ヲ失スルノミ前日ニ遡リテ効力ヲ取消スト云フニアラズ夫レ既ニ憲法ニ於テ緊急命令ヲ發スルコトヲ許スカ故ニ政府ハ緊急必要アリト認メテ之ヲ發スルハ固ヨリ憲法違背ノ處分ニアラズシテ彼ノ英國ニ於ルカ如ク國法ノ緊急命令ヲ發スル權ヲ許サザルニ關セズ國家ノ緊急ノ場合ニ於テ政府自ラ憲法違背ノ責ヲ負任シテ救護ノ處分ヲナスト同一視スベカラズ故ニ又次ノ會期ニ於テ議

會ノ授諾ヲ求ムルコトモ英國ニ於ケル責任解除ノ手續ト同例ニ視ルベカラス蓋シ英國ニ於テハ法律ハ法律ニアラザレバ之ヲ護更廢止シ又ハ停止スルヲ得ズト云フ原則ヲ嚴ニ遵守シテ變例ヲ設ケズ而レトモ國家ノ大政ヲ掌握スル者ハ國家緊急ノ場合ニハ自ラ憲法違反ノ責任ヲ負ヒテ臨機ニ救濟ノ處分ヲナシ後日議會ニ我が憲法違犯ノ處分ニ就キ解責ヲ請求スルヲ以テ慣例トス而シテ議會ハ其臨機處分ヲ果シテ必要ト認ムルトキハ容易ニ之ヲ可決スルコト亦從來ノ慣行ナリ法律ヲ執行スル爲ニ必要ノ命令ヲ發スル事ハ政府ノ法律執行權ニ屬シ英佛普各國政府ノ同シク有スル所タリ我國憲法ハ第九條ニ於テ之ヲ掲クルコト前ニ述ルガ如シ此ノ命令ハ已ニ法律中ニ含著スル所ノ者ヲ推用スルニ在リテ法律ノ規定外ニ出テ更ニ人民ノ權利義務ニ關スル規定ヲ設クルヲ得ズグナイストノ說ニ由レバ英國王ハ獨リ執行命令ヲ發スルノ權ヲ有スルノミナラス法律ノナキ際ニ於テハ命令ヲ發シテ法律ノ缺ヲ補フノ權ヲ有スト爲ス而レトモ此ノ說ハ歴史的ニ基クノ事實ヲ擧ケタルモノニシテ現今ハ其權大ニ狹少シ外交及殖民地ニ關シ國王ノ特權ニ屬スル僅々ノ事項ニ就キテ之ヲ發スルヲ得ルニ過ギス都テ其ノ他臣民ノ權利義務ニ關スルコトハ法律ヲ以テ之ヲ規定セサルベカラス然ラザレバ法律ノ委任ニ由ラザルベカラズ次ニ又グナイスト及獨乙國ノ一ニ公法家ハ普國王モ亦法律ノナキ際ニ於テハ巨民ノ權利義務ヲ規定スルノ命令ヲ發スルノ權ヲ有スト云フト雖モ是レ憲法ヲ正當ニ解釋セシモノニアラズ普國憲法中ニハ議會ノ法律制定ニ參與ス

ルノ權及政府ノ命令權ヲ明定スレトモ特ニ法律ノナキ際ニ於テ臣民ノ權利義務ヲ規定スルノ權ヲ揭ゲザルガ故ニ普王ノ此ノ權ヲ有セザルコト明カニシテ此ノ如キ命令ヲ發スルニハ特別ナル法律ノ委任ヲ要セザルベカラズ但シ又普國ニ於テハ法律ヲ以テ中央及地方官衙へ警察令ヲ發スルノ權ヲ委任シ其命令ニハ一定ノ罰ヲ附スルヲ得セシム即チ法律ノ委任ニ由テ發スル警察命令ニ附スル最大ノ罰トシテ四百マルク即凡ソ我國貨百五十圓以下ノ罰金又ハ四周間以下ノ拘留ヲ科スルコトヲ許ス願フニ警察ハ危險豫防公安保護ノ爲ニ勢ヒ人民ノ權利義務ニ干涉スルノ處分ヲ必要トスルコト毎ニ多ク隨テ其處分ハ時ト所ニ由リ異ナラザルヲ得ザルモノ多キガ故ニ豫メ法律ヲ以テ一般詳悉ニ之ヲ規定スルコト難シ是レ特ニ法律ヲ以テ中央官衙及地方官衙ニ委任スルニ警察命令ヲ發スルノ權ヲ以テスル所以ナリ而シテ此權ハ中央官衙ヨリモ寧ロ地方官ニ委任スルニ於テ大ナルヲ通例トセリ原ツクニ是レ一般ニ汎ル通例ハ法律ヲ以テ規定スルコト易シト雖モ各地各異ノ情況ニ應ジテ施ス危險豫防公安保護ノ處分ハ既ニ法律ヲ以テ畫一ニ規定スルコト難キヲ慮カリ殊ニ此ノ場合ヲ取捨損益シテ地方官ニ委任スルニ中央官衙ヨリモ較々大ナル權ヲ以テシタル所以ナルベシ我國憲法ハ第九條ニ於テ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムルト定ムルカ故ニ憲法上法律ヲ以テ規定スベシトナス事項ヲ除クノ外餘ノ事項ニシテ末タ之ヲ率スル法律ノナキ場合ニハ直ニ命令ヲ以テ規定スルヲ得ベク又臣民ノ權利義務ニ關

スル命令ヲ發スルヲ得ベシ而シテ命令ニ對シ臣民ノ服從ヲ強制スベキ罰則ナカルベカラザルコトナルガ此レニハ憲法第二十三條ニ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ルコトヲシト定ムルガ故ニ其處罰ハ必ズ法律ニ基カザルベカラズ因テ法律第八十四號ヲ以テ憲法第九條ニ準據シテ發スル命令ニ附スベキ罰則ヲ規定シ其程限ヲ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ト爲セリ而シテ我國憲法第九條ニ據ルニ省廳府縣等ノ行政機關ハ獨立ノ命令權ヲ有セズ特ニ天皇ノ命令ニ據リ命令ヲ發スルノ權ヲ有スル者ナルカ故ニ其省令以下ニ附スル罰則ハ已ニ法律ヲ以テ定メタル命令ニ附スル罰則ノ程限内ニ於テ亦勅令ヲ以テ之ヲ定ムルヲ適正トス是レ勅令第二百八號ヲ以テ省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ヲ定メタル者ナルベシ以上ニ述ベタル如ク我國憲法ハ第九條ニ於テ法律ノナキ際ニハ其補欠ノ命令ヲ發スルコトヲ確認スレトモ之ガ罰例ハ既ニ第三十二條ニ於テ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ザレバ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシト云フ明文アルカ故ニ法律ヲ以テ定メザルヲ得ス然レトモ一箇一箇ノ場合ヲ盡ク法律ヲ以テ規定シ難ク困テ法律ハ只其ノ通則又ハ罰ノ程度ヲ定ムルノミニテ所謂細目ハ之ヲ命令ニ任委シ時ト所ノ關係ニ由リ定ムルヲ得セシムト雖モ尙ホ法律ニ踰越スルコトヲ得ザレバ則チ法律第八十四號及勅令第二百八號ハ亦憲法ニ準據シタル者ナルベキ耶

戒嚴令

戒嚴令モ亦緊急命令ノ一種ナレトモ其憲法ニ對スル關係ハ兩命令互ニ異ナリ緊急命令ハ議會ノ開會セザル時ニ際シ一時急務ヲ濟フ爲ニ法律ヲ停止又ハ廢止スルノ命令ニ過キズシテ之ヲ以テ憲法ノ條項ヲ停止スルヲ得ズ之ニ反シテ戒嚴令ハ戰時又ハ其ノ他國家ノ大事變ニ際シ發スル者ニシテ臣民ノ權利ヲ確保スル憲法ノ條項ト雖モ之ヲ停止セザルヲ得ズ而シテ此令ヲ宣告施行スルキ地方ノ行政及司法兩權ノ全部又ハ其一部ヲ舉テ司令官ニ委任スルヲ例トス我國ニ於テハ戒嚴令ヲ宣告スルコトハ天皇ノ大權ニ屬シ而シテ戒嚴ノ要件即チ戒嚴ヲ宣告スルノ時機區域及急速ヲ要スル爲メ假リニ該地司令官ヲシテ戒嚴ヲ宣告セシムル場合其他宣告ニ必要ナル規程并ニ戒嚴ノ効力即チ戒嚴令ノ權力ノ及ブ限界ハ法律ヲ以テ規定スベキ者トス獨乙帝國憲法ハ戰時又ハ反亂ノ起ルコトアル場合ニ非常警備トシテ全國又ハ各邦ノ一部ニ戒嚴令ヲ宣告スルノ權ヲ皇帝ニ屬ス而シテ戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ規定スル迄ハ千八百五十一年ノ普國法律ヲ適用スベシトセリ此ノ如ク帝ハ帝國内何レノ場所ニ於テモ戒嚴令ヲ宣告スルノ權ヲ有セリト雖モ又古來各邦ノ憲法ニ據クル所ノ戒嚴令ヲ宣告スルノ權ハ敢テ之ニ由リテ廢止セララルニアラズ故ニ各邦モ亦其領内ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得佛國ニ於テハ戰時又ハ内亂ノ場合ニハ法律ヲ以テ戒嚴令ヲ宣告シ并ニ其區域及期限ヲ定ム若シ議會閉會ノ場合ニ於テハ大統領ハ大臣會議ヲ經タル勅令ヲ以テ之ヲ宣告ス但シ戒嚴令ニ關シテハ兩院ハ一日後ニハ自ラ集會シテ議決ヲナスノ權ヲ有ス而シテ若シ兩院ノ同意ヲ得

ザル下キハ此令ハ廢止ニ歸ス又戒嚴令ハ下院解散ノ時ニ際シテハ更ニ議院ノ選舉ヲ完結スルヲ待ツニ非ザレバ始メテ効力ヲ有スル者トセズ但シ外敵來襲ノ場合ハ此ノ限ニアラズ英國及北米合衆國ニ於テモ亦法律ヲ以テ戰亂ノ時ニ際シテ裁判所カ行政機關ノ逮捕及禁獄ニ對シ逮捕禁獄シタル者ヲ引致セシムルノ令狀ヲ發スルノ權ヲ停止シ行政權ニ臨機處分ヲナスヲ得セシムト雖モ唯タ國民權利ノ一部ヲ停止スル者ニ過ギスシテ歐洲大陸諸國ノ戒嚴令トハ自ラ同一ナラスト云フ

統帥及編制權

陸海軍ハ國家ノ組織シタルカニシテ國家カ外國ト對立シ其獨立及利益ヲ護衛シ其統一安全ヲ保持スル爲ニ缺ク可ラサル者タリ故ニ陸海軍統帥ノ權ハ國家ノ元首之ヲ掌握スルヲ通則トシ毫モ分授割與ス可ラス我國憲法第十二條ニ於テ天皇ハ陸海軍ヲ統帥スト特書シ天皇ノ大權ニ屬スル事ヲ明カニセリ英國ニ於テモ亦國王ヲ以テ陸海軍ノ統帥トスヨルジ第二世以來國王自ラ戰場ニ臨シテ軍隊ヲ統督シタルコトナシト雖モ其統帥權ヲ以テ國王ノ特有ニ屬スルコトハ古今改ムルコトナシ獨乙帝國ニ於テモ帝ヲ以テ獨乙國陸海軍ノ統帥トス但海陸軍ニ由リテ些ノ差異アリ即チ海軍ハ平時ト戰時トヲ論セス帝ノ統帥ニ歸スレトモ陸軍ハ獨乙帝國ヲ組織スル各邦ノ兵ヲ以テ編制スルカ故ニ平時ニ於テモ其統帥權ニ幾許ノ制限アリ例ハハバインエルン邦ノ軍隊ハ平時ニ於テハ同國王之ヲ統帥スル者トシ戰時ニ於テハ之ヲ帝ノ統帥ニ歸スルコトトシ小シモ變例ヲ設ケス佛國憲法ニ於

テ大統領ハ全軍隊ヲ指揮スト定メ此ノ指揮權ハ凡テ陸海軍ニ及ブ者トス之ヲ統帥ト云ハスト雖
モ各國ノ憲法ニ於テ統帥ト云フニ比シテ敢テ差別ナキガ如シ北米合衆國憲法第二章ニ舉レハ又大
統領ヲ以テ陸海軍ノ統帥トシ而ノミナラス戰時ニ於テ合衆國ノ爲ニ各邦ノ護國民軍ヲ使役スルト
キモ其統治權ハ大統領ニ在リ此ノ如ク共和國ニ於テモ通シテ統帥權ヲ大統領一人ニ歸スルモノハ
國家ノ獨立及利益ヲ護衛シ統一安全ヲ保持スルニ缺クヘカラサルカ爲ナリ而シテ此ニ統治トハ必
スシモ自ラ戰地ニ臨テ軍隊ヲ統督スルノミナラズ或ハ自ラ軍隊ヲ統督シ或ハ將校ヲシテ
統督セシムルコト皆ナ便宜ニ在リテ齊シク統治權タルニ妨ケナシ

陸海軍編制ノ權ニ就テモ亦我國及英佛獨米各國ノ間ニ多少ノ差異アリ我國憲法第十二條ニ據ルニ
陸海軍編制ハ全ク天皇ノ大權ニ屬シ編制ノ事項即チ軍隊艦隊ノ編制管區ノ畫定兵器ノ備用軍人ノ
教育檢閱紀律禮式制服衛戍城堡海防港及出師ノ準備ノ類ハ皆ナ天皇ノ親裁スル所ナリ願フニ此ノ
如キ事項ハ皆ナ直接ニ人民一般ノ權利義務ニ關スル者ニ非ス因テ天皇ハ特ニ兵學ニ達シ軍機ニ熟
スル者ヲシテ適當ノ計劃ヲナサシメ而シテ責任大臣ノ補翼ト將校ノ謀議ヲ納レテ之ヲ裁定シ玉
フテ準トセリ英國ニ於テモ亦我國憲法上天皇ノ編制權ノ中ニ包括スベキモノニシテ殊ニ海防守港
ノ規定及其他ニ係ル二三ノ事項ハ國王ノ特權ニ屬スト雖モ凡テ編制ニ關スル事項ヲ悉ク國王ノ特
權ニ歸セリトハナスベカラズ蓋シ常備軍ノ設置ハ毎年法律ノ認可ヲ要スル者トシ其他編制ニ屬ス

ル事項ハ獨リ臣民ノ權利義務ニ關スルモノヲ除ク外勅令及省令ヲ以テ規定スルヲ通例トス即チ
隊伍ノ編制士官ノ補任管區軍人ノ教育兵器準備衛戍ノ類ハ勅令又ハ省令ヲ以テ定ム次キニ紀律ノ
コトハ軍律ノ規定ニ準據シ亦勅令及省令ヲ以テ定ム護國民軍編制ノコトハ從來精細ニ法律ヲ以テ
規定スル所ナリ志願兵及常備兵役滿期ノ者ヲ以テ組織スル豫備軍ノ編制ニ關シテハ概シテ法律ヲ
通則及委任ニ由リ勅令及省令ヲ以テ規定セリ又海軍ニ於テモ通例陸軍常備兵ニ關シ勅令及省令ヲ
以テ規定スル事項ハ亦大概勅令省令ヲ以テ規定セリト雖モ外交ニ關係スル事項ニ就テハ特ニ勅令
及省令ノ區域ヲ廣カラシムルヲ以テ慣例トス獨乙帝國ノ陸軍ハ既ニ獨乙各邦ノ兵ヲ以テ成ルガ故
ニ具編制ニ就テモ各邦ノ君主ニ屬スルノ事項アリト雖モ微少タルニシテ但シ特ニ他ノ小邦ヨリ
モ大ナル權ヲ有スルハサキソソルルンベルクバイユルン三王國ナルガ此ノ中ニ就テハバイエルン
國ハ編制ノコトニ關シテモ特別ノ地位ヲ有セリ此ノ例外ト法律ヲ以テ編制ノ通則ヲ定ムルコトヲ
除キテ餘ハ一切帝權ニ屬シ特ニ戰時ノ編制並ニ國民軍ノ國ハ全ク帝ノ掌握裁定スル所タリ次ニ海
軍ハ全ク帝國ノ管務ニシテ海軍編制ノコトハ今日迄法律ニ由ラズ一ニ勅令ヲ以テ之ヲ規定セリ佛
國ニ於テハ陸軍編制ノ通則ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム即チ管區軍隊ノ編制兵器ノ設備司令官補佐ノ期
限檢閱ノ事項等凡テ其大體ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムガ故ニ政府ハ法律ノ範圍内ニ於テ陸軍ノ編制
及軍務ヲ處辨スル者ト云フベシ但シ海軍編制ニ關スルコトハ法律ヲ以テ規定スルモノ甚少シ而レ

トモ海軍編制權ヲ以テ大統領ノ特權トナスニアラザルコト論ヲ待タス
 常備兵額ヲ定ムルコトニ就テモ亦我國及歐米各國ノ間ニ多少ノ差異アリ我國ニ於テハ之ヲ天皇ノ
 大權ニ屬シ議會ノ干渉スヘカラザルモノトス而レトモ新ニ兵額ヲ増加スル爲ニ歳出ノ増加ヲ要ス
 ル場合ニハ之ヲ議會ノ議ニ付シテ其決ヲ取テ要ス斯ク一度議決確定シタル後ハ此増額ハ既定ノ歳
 出ニ屬スルカ故ニ政府ノ同意ナクシテ之ヲ變更スルヲ得ズ英國ニ於テハ陸軍常備兵ノ設置及兵額
 ハ毎年議會ノ議決ヲ要ス此ノ年次ノ議決ヲ經ズシテ常備兵ヲ設置スルハ違憲ノ處分ナリトス次ニ
 海軍ノ兵額ハ法律ヲ以テ定メズ豫算ノ制限ニ據ルヲ例トス此ノ如ク英國ノ陸軍常備兵ハ法律ヲ以
 テ毎年認可セザレバ定置スルヲ得ザレトモ軍兵ハ國家ノ獨立安寧ヲ保護シ各植民地ヲ護衛スル爲
 ニ必要ナルカ故ニ常備兵ノ員數ハ漸次ニ増加シテ三十年以來緩急ノ有無ニ拘ハラズ常ニ略同數ヲ
 有セリ獨乙帝國ニ於テハ千八百七十四年以來ハ七ヶ年ヲ定限トシ法律ヲ以テ其兵額ヲ定ムト雖モ
 若シ法律ヲ以テ定メタル終期ニ更ニ法律ヲ以テ定メザルトキハ特ニ豫算ヲ以テ定ムベキ者トス而
 シテ帝ハ法律ノ定額内ニ於テ現在屯集ノ額數ヲ定ムルヲ得ベシ次ニ海軍ノ兵額ハ法律ニ由ラズ時
 ノ必要ニ從ヒ帝ノ裁定スル所タリ但シ豫算ノ制限内ニ於テスベキコト論ヲ待タズ佛國ニ於テハ常
 備兵額ハ毎年豫算ヲ以テ定ム北米合衆國モ亦兵額ヲ定ムルノ權ハ議會ニ屬スレトモ英國ニ於ケル
 カ如ク毎年法律ヲ以テ定ムルノ法ニ由ラザルヲ異ナル所トス

議會

歐洲大陸諸國ニ於テハ憲法制定以前ニモ各々議會ナキニアラス然リト雖モ其議會ハ今ノ立憲制度
 ノ議會トハ自ラ基礎ヲ異ニセリ蓋シ立憲制度以前ニ於ル議會ノ議員ハ或ハ自己ノ權利ヲ以テ其任
 ニ上リ或ハ各種自治體ヲ代表セル者ニシテ既ニ此等ノ代表者ト云ヘハ其自治體ノ依囑訓示ヲ受テ
 表決ヲ爲スヘキ者ナレバ即チ自治體ノ機關ニシテ國家ノ機關ニハアラス獨乙各邦中憲法制定ノ時
 ニ當リ尙ホ此ノ舊制議會ノ存立シタル所ニ於テハ其基礎ニ由リ立憲制ノ新議會ヲ組織シタル者ア
 リシカ佛國及普國ハ於テハ中央政府ノ權力ノ漸次盛大強固ナルニ及テ舊制議會ハ實際廢滅ニ屬シ
 當時君主ハ租稅徵集ニ付テモ亦無制限ノ權ヲ有シタリ然レバ佛國ニ於テハ千六百十四年以來革命
 ノ時マデニ一回モ議會ヲ召集シタルコトナク又普國ニ於テハ現世紀ノ始メニ當リ更ニ土地所有ヲ基
 礎トシ各州ノ舊制議會ヲ復興召集シ千八百四十七年ニ各州議會ヲ聯合シ中央議會ヲ組織シタリト
 雖モ其翌年遂ニ之ヲ廢止シ新ニ國民ノ選舉ヲ以テ成ル議院ヲ召集スルニ至リタリ
 英國ニ於テハアングロサクソン王室時代ニ於テ夙ク議會アリシト雖モ此レ亦貴族高僧及官職ヲ有
 スル者ヲ以テ成レル議會ニシテ其議員ハ人民ノ選舉ニ由テ人民ノ代表タル者ニアラス則チ亦現今
 ノ議會トハ其基礎ヲ異ニセリ按スルニノルマン王ウイリアムガ英國ヲ略取シタルトキニ舊議會
 ハ廢滅シ更ニ設立セシモノ此レ國王顧問ノ議會ニシテ其基礎亦前議會ト異ナルコトナカリシガ此

議會ハハ彼ノ著名ナル大憲章規定前ニ至リ下級貴族ノ代表者ヲモ出シタルコトアリシト雖モ始メテ市府ノ代表者ヲ召集シタルハ千二百六十五年ノコトニシテ爾後エドワルト第一世以來ハ絶ス各州及各市府ノ代表者ヲ召集シタリ而レトモ當時議會ノ性質ハ尙現今ノ議會トハ大ニ異ナル所アリ即チ各州及各市府ノ代表者ハ其選舉人ノ委囑訓示ヲ受テ表決スル者ナレバ未ヅ以テ國民ヲ代表スト謂フヘカラス斯クテ十五世紀ノ上半期ニ至リ始メテ選舉人ノ委囑訓示ヲ受クルコト廢止ニ歸シ漸次ニ國民代表者タルノ實擧ガリテ其制度モ亦開進セリ要スルニ歐洲大陸諸國ニ於テ憲法ノ制定ニ由リ一時ニ設置シタル代議ノ制ハ英國ニ於テハ舊制ノ議會ヨリ漸次ニ數百年ノ沿革ヲ經テ進化完備シタル者ニシテ上下兩院ヲ以テ議會ヲナスノ制モ亦歴史的ニ成立シタル者ナリトス北米合衆國ニ於テ當初憲法ヲ議定スルノ時ニ一院ヲ以テ議會ヲナスト二院ヲ以テ議會ヲナストノ可否得夫ヲ討議シタリシガ爾來此ノ議論ハ現今ニ至リ尙ホ一定セザルガ如シ蓋シ此兩制ヲ可否スル著ノ意見甚多ク殆ント枚擧スルニ暇アラヌ中ニ就テ最著ルシキ者ヲ列擧センニ一院ヲ以テ議會ヲナスヲ可トスル者ノ曰法律ハ國民ノ意思ヲ表シタル者ナリ國民ノ意思ハ一ナルベシ而ルニ若シ二院ヲ置キテ二院共ニ同一ノ意思ヲ表センカ二院ノ一ハ有リテ無要ナリ若シ又之ニ反シテ二院カ各別ノ意思ヲ發スルトキハ國民ノ意思ハ無効ニ屬スル者ナリ又曰立法權ヲ二院ニテ分掌スルトキハ最有益ノ改革ヲナスノ障礙トナルベシ今議會ヲ一院ヨリ成ルトシ其議員ノ總數六百ナリト假

定セバ法案ヲ廢棄スルニハ尙三百ノ過半數ノ反對ヲ要スヘシ之ニ反シテ議會ハ一院ヨリ成ルトシ二院ノ議員各々三百名ナリトスレバ畢竟法案ハ僅カニ百五十一ノ反對ヲ以テ廢棄セザルハモズトナルベシ又曰二院ヲ以テ議會ヲ組成スルトキハ立法部内ニ爭議斷ルコトナク政治上緊急ノコトアルニ臨ミテ大ニ國家ノ隆盛ヲ沮滯スル害ヲ生ズルコトアルベシ次ニ二院制ヲ可トスル者曰立法權ヲ獨リ議會ノ掌握ニ歸スル國ニ於テハ設シ議會ヲ一院ヲ以テ組成スルトキハ其議會ハ無制限權ヲ有セン勿論佛國及北米合衆國ノ如キ共和政體ニ於テモ行政政府能ク議會ヲ節制スルノ權ヲ有スト雖モ未ダ之ヲ以テ十分ニ制限ノ効ヲナスニ足テズ既ニ制限ナキノ權力ハ之ヲ一人ニ歸スルモ或ハ一箇ノ會議體ニ歸スルモ齊シク壓制權トナルラ免レザルベシ況ンヤ政治上ノ激動甚シキ時ニ當テハ人々各々十分ノ熟考ヲ施スニ迫マナク最優フベキ議決ヲナスコトアルベシ且ツ一院ヲ以テ議會ヲ組成スルトキハ有力ノ政治家一人ノ手ニ左右スル所トナルコト之ヲ二院ヲ以テ組成スルモノニ比スレバ容易ナルベシ此ノ如キ弊害ヲ制止スルニハ三院ヲ以テ議會ヲ組成スルヲ好手段トス然レトキハ縱ヒ兩院ノ一ガ一時ノ激動ニ由リ倉卒ニ議決ヲナスコトアリ或ハ一人ノ左右スル所トナリテ疎漏ニ議決ヲナスコトアリト雖モ他ノ一院能ク之ヲ制止スルヲ得ベシ加之二院ヲ以テ議會ヲ組成スル時ハ議院單獨ノ議決ト法律トノ差別ヲ明ニスルハ益アリ又曰凡テ立法制ヨリ作スル變革ヲ皆有益ノ者トナス時ハ二院制ハ固ヨリ有益ノ改革ヲ障礙スル事アルベシト雖モ改革ハ必シ其皆力

有益ノ者ニアラズ因テ二院ヲ以テ議會ヲ設クルドキコト有害ノ改革ヲ制止スルヲ得ルシ又曰両院ノ爭議ハ或ハ立法事務ノ停滯ヲ來スルコトアルヘシト雖モ苟モ愛國心アル議員ヲ以テ成ル議會ニ於テハ斯ル爭議ノ故ヲ以テ國家ノ大計ヲ誤ルル甚シキに至ラザルコト之ヲ從來ノ事實ニ照シテ疑ナカルヘシ

然而シテ英國ニ於ル二院ノ制ヲ按スルニ此レ歴史的二成立シタル者ニシテ初ヨリ右等ノ論理ニ由リテ制置シタル者ニアラズ英國議會ハ十三世紀ノ中頃マデハ貴族高僧ヲ以テ成クシテ其後市府及各州ノ代表者ヲモ召集シテ齊シク此ノ議會ニ參加シ會同ニ與ガラシメント雖モ素リ貴族ト代議士トハ其利害ヲ異ニシ國政ニ對スル關係モ自ラ同カラザル所アルガ故ニ已ニ十四世紀ノ始ニ於テ分離集會ヲナシタルコトアリ是レゾ二院制ノ胚胎ニシテ遂ニ千三百七十七年ヲ以テ確然ト之ヲ分離シ貴族院及衆議院ヲナスニ至リタルモノナリ斯クテ歐洲各國カ憲法ヲ制定スルニ當テ大國ハ概テ二院制ヲ採用シテリ北米合衆國憲法制定ノ當時ニ在テハ各邦中ニ未タ二院ヲ置カサル者アリシモ此亦尋テ二院制ヲ採ルニ至レリ獨乙各邦モ概シテ二院制ヲ用ヒ其一院ヲ以テ議會ヲナス者ハ小邦タルニ過キス佛國ハ革命以來憲法ノ變更頻々ナリシカハ其革命ノ時期並ニ憲法變更ノ中間ニ於テコソ其制モ未定ナリケレ其他ノ時期ニ當テ二院ヲ置ク者現今我國及英佛普各國獨乙帝國及北米合衆國中一院ヲ以テ議會ヲナス者ハ唯々獨乙帝國ナルノミ凡ソ議會ヲ以テ國民ヲ代表スル所ノ

國家機關トナスコトハ歴史的二成立ニ準據セザルコト定説ナリトス而ルニ論者中或曰議會ノ一院國民ノ選舉スル所ノ議員ヲ以テ組成スト雖モ國民又ハ選舉人ノ委屬訓示ヲ受テ其職務ヲ行フ者ニアラス故ニ議會ハ法理上人民ノ選舉ヲ以テ成立スル國家ノ機關ト看做スヘキ者ナリト云フ者アリ或曰議會ハ國民ヲ代表スル者ニシテ國家ノ機關ニアラスト云フ者アリ或曰議會ハ君主ノ政務執行ノ爲ニ設ケタル一箇ノ機關ナリトナズ者アリト雖モ要スルニ英國及其他各國現今ノ議會ヲ通覽シ其歴史的二成立ヲ追跡スルニ其議會ハ國民ヲ代表スル國家ノ機關トスヘキコト疑ヒ無シ然レハ所謂議會ハ國民ノ委屬訓示ヲ受ケテ其職務ヲ行フ者ニアラス故ニ法理上國民ノ代表者ト爲ズヘカト云フ説ハ歴史的二成立ニ據ルノ説ニ反レリ又議會ハ君主ノ政務執行ノ爲ニ設ケタル機關トナスノ説モ全ク憲法又議會ノ歴史的二成立ノ原則及事實ヲ棄却シテ議會ノ本體ヲハ特ニ私法ニ於テ進歩シタル右來ノ法理ヲ應用シ漫説シ去ラント試ムル者ナリトス

我國及英佛普及北米合衆國現行ノ憲法ヲ案スルニ英國ニ於テハ立法權ハ國王ト兩院ト共同シテ行フ者ナリトス佛國及北米合衆國ニ於テハ立法權ハ國老院ト衆議院ヲ以テ組成スル議會ノ專有スル所ニシテ行政府ノ之ニ參與スル所アリト雖モ其權素ヨリ微少ニシテ未タ之ヲ以テ共同ニ立法權ヲ掌握スル者トナスヲ得ス普國ノ憲法ニ就テハ之カ解釋者ノ中ニハ其議會ハ立法ニ參與ノ機關ニシテ全立法權ハ君主ト議會ト共同シテ行フ者ト爲ス者アリ或ハ議會ハ立法ニ參與ノ機關タルニ相

違ナケルニモ唯法律案ノ事項ヲ議決スルニ止リテ法律ノ効力ヲ確定スル者ニアラズ故ニ立法
 權ヲ君主ト共同シテ行フノ機關ト云ヒ難シト爲ス者亦我國憲法第五條及六條ニ據レバ立法權ハ
 天皇ニ屬シ議會ハ立法ニ參與スルハ機關ナリト雖モ特ニ法律案ノ事項ヲ議決スルニ止リテ所議
 法律ノ制定ハ獨リ裁可ニアリト云フ説ヲ採ル者ナリ然面シテ立法權ハ君主ト議會ト共同シテ行フ
 ト云ヘル説ト議會ハ唯々法案ノ議決ニ止マルト云ヘル説ト差異名義上ハミノ理論ニシテ實際法律
 ハ裁可ト議決トハ合同ヲ以テ成ル者ニシテ獨リ裁可ノミヲ以テ有効ノ法律ヲナスヲ得ザルコト論
 テ待ス又議會ハ立法ノ外ニ尙モ數種ノ職權アリ中ニ就テ最緊急ナル者ハ即チ國計豫算ノ協贊ナリ
 トス歐米各國ノ憲法ニ由ル豫算モ亦法律タリトナセドモ我國憲法ハ之ヲ法律ト區別スルガ故ニ其
 職權ト立法參與ノ權トハ別項トナシテ論スルヲ適當トス次ニ議會カ一般ニ行政ヲ監視スルノ權モ
 亦各國憲法ノ認ムル所ニシテ我國憲法及議院法ニ於テ規定スル上奏建議質問及請願ノ受理ヲ得ル
 權ハ正ニ行政ヲ監視スルモノ便法ナリトス今ニ々此ニ列記セス以下各條ニ於テ處ニ隨テ之ヲ論
 述スヘシトス

一 貴族院及國老院
 貴族院及國老院ハ英國ノ國體ニ於テ古クシテ存在スルモノナリ其源流ハ
 今ヲ距ルコト凡八百年前英國ニ於テ中央ノ參政權ヲ有スル者ハ貴族及高僧ニシテ當時只一箇ノ議
 院ト全ク此ノ二元素ヨリ成リタリ其後十三世紀ニ至リ巴ニ前章ニ述ベタル如ク始テ衆議院ヲ成

シ以來數百年ヲ經漸次ニ其組織ニモ幾許ノ沿革ヲ生シ前ニ元素ノ權力大ニ減少シタリト雖モ現今
 尙モ貴族及高僧ノミヲ以テ成ル議院ノ制ハ依然トシテ繼續セリ即チ現今ノ英國上院是ナリ此議院
 ハ第一成年ノ親王及英倫世襲貴族ニシテ世襲議員タル者第二森格蘭ノ世襲貴族中ヨリ選舉セラル
 ヲ議員ニシテ其改選期ハ下院議員ノ改選ト同一ナル者第三愛爾蘭貴族中ヨリ選舉セラル、終身議
 員第四終身貴族ニシテ一定ノ官職ヲ有スル間議員タル者即チ大僧正僧正及三名ノ司法官ヲ以テ組
 成セリ而テ議員ノ總數ハ五百有餘名アリト雖モ親王數名森格蘭貴族ヨリ選舉ノ議員十六名愛爾蘭
 士貴族ヨリ選舉ノ議員二十八名及大僧正三名僧正二十四名司法官三名ヲ除キ其餘ハ皆テ世襲貴族
 ノ世襲議員ナリトス此ノ如ク英國貴族院ハ全ク貴族ノミヲ以テ組成スルコトハ英國特有ノ歴史的
 成績ニ由來スル者タリ次ニ獨乙各邦貴族院ハ其模範ヲ英國ニ取リ組織シタル者ニシテ其主トスル
 所ハ貴族ナリト雖モ獨リ此族ニ限ラザラテ通例トス現今普國貴族院制ハ千八百五十三年ニ制定シ
 タル法律ノ全權ニ基ツキ勅令ヲ以テ規定シタル者ニシテ成ル以上ノ親王世襲貴族ノ世襲議員及國
 王勅任ノ終身議員ヲ以テ組成ス但シ終身議員ニ勅任サル、者ハ第一普國四大宮廷官是ハ名譽ニシ
 テ一定ノ職務アテザル者ナリ第二國王ノ親任スル者第三薦名權ヲ有スル者ノ薦名ニ由ル者是
 レニシテ凡シ薦名權ヲ有スル者ニ六種アリ即チ三箇ノ僧門貴族各州伯燦組合廣大ナル土地ヲ有スル
 門族五十年以上一家特有ノ相續規定ニ由リ男子ノ繼承セル因襲堅固ナル土地所有者ノ組合大學大

都府是レナリ即チ僧門貴族ハ其族中ヨリ薦名シ大學ニ於テ其評議員正教授ノ中ヲ薦名シ市村ニ於テハ參事會ヨリ其會員中ヲ薦名シ若シ參事會無ケレバ市ヲ代表スル者ヨリ其市廳僱員中ヲ薦名シ其他廣大ナル土地所有ノ門族及組合等亦各々其門族組合員中ノ者ヲ薦名セリ普國貴族院ハ其全體ニ就テ觀ルトキハ大ニ我國ノ貴族院ニ類似スル所アリ但其相同シカラスト爲スハ普國ニ於テハ自治體ニ薦名權ヲ與フルト雖モ我國貴族院令ハ凡テ此ノ如キ權ヲ自治體ニ與フルコトナク又普國ニ於テハ專ラ土地ノ所有ヲ以テ基礎トナスト雖モ我國ニ於テハ土地所有并ニ工商營業者ノ直接國稅ヲ基礎トシ之ニ薦名權ヲ與フルナリ此ノ二事ハ即チ兩國貴族院ノ組織ニ關スル著ルキ差異ナリトス

我國貴族院ノ組織ハ憲法第三十四條ノ明文ニ由リ勅令ヲ以テ制定スルコト猶ホ普國ニ於テ法律ノ規條ニ由リ勅令ヲ以テ之ヲ制定スルニ類似スト雖モ此兩勅令即チ我國ノ貴族院令ト普國ノ貴族院令ト全ク其法律ニ對スルノ關係ヲ異ニセリ蓋シ普國ノ貴族院令ハ法律ノ全權ニ基キ制定シタル者ニシテ後來單ニ勅令ヲ以テ變更スヘキ者ニ非ス之ヲ變更スルニハ必ス法律ヲ以テスルヲ要セリ之ニ反シテ我國貴族院ハ勅令ヲ以テ定ムヘシト憲法ニ於テ規定スルガ故ニ貴族院制ハ始終勅令ヲ以テ制定改正スヘキ者ニシテ法律ヲ以テ之ヲ制定改正スルヲ得ス但シ貴族院令第十三條ニ將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシト定ムルカ故ニ此ノ貴族院令ハ一

般ニ勅令ト同シカラスト雖モ尙兩院ヲ以テ組成スル議會ノ協賛ヲ經テ制定スル法律ト同シカラズ便チ兩院中一院ノ議決ヲ經テ定ムル者ハ未ダ以テ此レヲ法律ト同様ノ効力ヲ有スル者ト看做スヘカラキ日コ法律ニアラザレバ貴族院令ニ於テ他ノ法律ニ變更ヲ生ズルキ規定設クモ得サルコト明カナリ我國貴族院令ニ由リテ其議院ハ第一皇族男子成年以上ノ者第二公侯爵夫有スル世襲議員第三伯子男爵者ノ選舉ニ由リ各其同爵中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ議員ニ上ル者但シ選舉ヲ受ル議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一以內タルヘシトス第四國家ニ勳勞アリ又ハ學識ナル者中ヨリ特ニ勅任スル終身議員第五各府縣於テ土地或ハ工業商業前多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ニ就テ一人ヲ互選シ七箇年ノ期限ヲ以テ勅任スルタル議員夫以テ成レリ但シ第四種及第五種ノ議員總數ハ有爵議員ノ總數ニ超過スルヲ許サズ佛國及北米合衆國ノ國老院ハ共ニ複選法ヲ以テ選舉スル所ノ議員ヲ以テ組成ス即チ佛國ニ於テハ國老院ノ議員ハ各縣及殖民地ニテ首府ヲ開設スル選舉會選舉スル所トス此選舉會ハ衆議院ノ議員縣會議員郡會議員及各市町村ニ於テ其市町村內ノ選舉權ヲ有スル者ガ市町村會ノ選舉ニ由リ委員トナル者ヲ以テ組成ス凡ソ各縣ヨリ選出スヘキ議員ノ數ハ二箇ノ例外ヲ除キ他ハ凡テ人口ノ多少ニ由リ二名乃至十名トシ殖民地ヨリハ各一名ヲ選舉スルヲ規定トス北米合衆國ノ國老院議員ハ各邦議會ノ選舉スル所ニシテ各邦其大小ニ關セズ各々三名ノ議員ヲ選舉スヘキ者トシ而シテ其任期ハ六年ニシテ三年毎ニ

全數三分の一ヲ改選スヘシトス但シ改選ノ順次ハ始メテ議會ヲ召集シタル時ハ前後ノ定メニ由ル
 佛國國老院ノ議員ノ任期ハ九年ニシテ三年毎ニ其全數三分の一ヲ改選ス改選ノ順次ハ千八百
 七十六年抽籤ヲ以テ定メタル例ニ由ルモ其後ハ其ノ人ノ定ムルニ任セラルルニシテ其ノ
 貴族院及國老院議員ノ資格ニ關シテハ其ノ國ノ法律ニ依リテ定ムルニシテ其ノ
 議員ノ資格ニ就テモ亦各國互ニ多少ノ差異アリト雖モ必ス本國ノ國民タルヲ以テ須要ト爲スコ
 トハ我國及英佛普各國通ジテ動カスヘカラサルノ原則トス即チ英國貴族院議員ハ英國臣民ニシテ
 成年以上ノ者タルヲ要シ身代限ノ者重罪ノ刑ニ處セラレ未ダ其罰ヲ經過セサル者及議院ノ彈劾ニ
 由リ上院議員ノ資格ヲ剝奪サレタル者ハ議員タルヲ得ス普國貴族院ノ議員ハ普國民ニシテ本國ニ
 住居シ滿三十歲以上ニシテ國民ノ權利ヲ全有スル者トシ佛國國老院議員ハ滿四十歲以上ノ佛國民
 ニシテ私權公權ヲ全有スル者トシ且下院ノ議員タラシテ其ノ資格ヲ有セサル者モ亦國老院議員タルヲ
 得ス此他佛國國老院議員ノ資格ニハ尙多少ノ制限アリト雖モ後章衆議院議員資格ノ部ニ於テ述レ
 ベケルハ此ニ之ヲ記セズ北米合衆國憲法ニ據ルニ佛國國老院議員ハ滿三十歲以上ニシテ九年以來合衆
 國民トナリ住居ヲ選舉サルノ邦内ニ定ムル者トシ我國貴族院令ニ據ルニ議員年齡ノ制限ハ貴族
 否ラザル者トニ由リテ差別シ即チ貴族院議員ハ滿二十五歲以上ニシテ勅選ノ議員ハ滿三十歲以上ト
 以テ而改選議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ觸レ又身代限ニ處分ヲ受ケタル者爲勅令ヲ以テ除名サレタル

者及貴族院ノ懲罰ニ由リ勅裁ヲ經テ除名サレタル者ハ更ニ勅許アルニ非ザレバ再ビ議員トナルコ
 ヲ得ザル者トス以上ニ述ブル如ク君主國ニ於テハ貴族院ヲ組成スルニ獨リ貴族ノミヲ以テスルト
 否ラサルトノ差異アリト雖モ要スルニ其貴族院ニハ或等級ノ人民或ハ此等人民ノ選舉スル所ノ者
 ヲ以テ充タシテ國民全體ノ中ヨリ選舉スル所ノ議院ヲ以テ充タサルヲ通規トシ之ニ反シテ共和
 制ナル佛米兩國ニ於テハ國老院ハ衆議院ト比シク國民全體ノ中ヨリ選舉スル所ノ議院ヲ以テ組成
 スルヲ定則トス而レトモ其組織及議院選舉ノ方法ヲ較々衆議院ト相異コスルガ故ニ自然ニ衆議院
 ニハ特別ノ性質ヲ有セリ即チ議院ノ年齢ノ制限ヲ高クスルコト複選ヲ用フルコト任期ノ長キコト
 及全員ヲ一時ニ改選セサルコトノ如キ皆ナ國老院ハ衆議院ニ比スレバ保守着實ノ性質ヲ涵養スル
 ノ體ヲ存セリ(國家四〇…四一…四三…四四…四六)

○憲法ノ通俗解釋法

法學博士 未岡精一君

況ク憲法ト稱スル時ハ唯タ成文憲法ノ條章ノミヲ指スト思ノ可カラス尋常法律ヲ以テ明定スルコ
 ト或ハ慣習例規ニ至ルマテ苟モ國家統治權運用ノ綱領ヲ規定シ其性質ノ正シク憲法ニ屬スヘキ者
 ハ皆之ヲ總合スルコトナリ故ニ今此ニ憲法ノ通俗解釋ト云フモ其憲法ニ入ルヘキ條規ノ中ニ於テ其
 性質ノ法ト稱スヘキ者ノ法理ヲ解明スルヲ專ラトセス彼ノ慣習例規ニシテ法律的ノ條規ト稱スヘ

カラサル者ヲモ通釋シテ汎テ憲法ノ法理及其政治上ノ效用ヲ論述スルコトナリ法理ノミノ純釋ト所謂通俗解釋トノ間ニハ互ニ得失優劣無キ能ハス然ルニ今憲法ノ法理ト政理ト合論スル時ハ右二者ヲ混同シテ區別シ難キノ失アルカ故ニ憲法ノ法理ノミヲ專ラ明カニスルニハ其純釋方ニ由ルニ如クハナシト雖モ憲法全體ノ實際運用ヲ知ルニハ通俗解釋ヲ以テ優レリトス例ヘハ英國憲法ハ漸次ニ成立完備シタル者ニシテ即チ其一部ハ慣習例規ニ係リ原法ノ法ト稱スヘキ者ニサラサレトモ此ノ慣習例規中ニシテ却テ政府ノ權ヲ制限スヘキ要件モ頗ル多ニ居レリ故ニ若シ英國憲法ノ條規中唯タ法ト稱スヘキ者ノ法理ヲ純釋スルノミニテハ英國憲法ト拘シク主トシナ成文ノ條章ヲ以テ成リ慣習知ルヘカラス歐陸及北米合衆國ノ憲法ハ我帝國憲法ト拘シク主トシナ成文ノ條章ヲ以テ成リ慣習ニ係ルノ例規之ヲ英國ニ比スレハ甚タ少シト雖尙ホ且ツ憲法成文ヲ解釋スルニ當テハ單ニ法理ノ純釋ニ局限スルアラハ以テ憲法全体ノ運用ノ實況ヲ了知スヘカラス而テ今ヤ通俗解釋ニ於テハ憲法ノ法理ニノ局限セス併セテ政治上實際ノ運用ニ論及スベシト雖モ固ヨリ法理ト政理トハ截然二者ニ種別シ其相互ニ限制シ或ハ合同シテ動作スルノ實況ヲ判明ニ解示シ決シテ混同曖昧ナラシムヘカラサルナリ

次ニ又通俗解釋ニ於テハ各國憲法ニ普通ノ原則アルコト及其起原沿革ヲ了得スルヲ要ス蓋シ此普通ノ原則ハ多クハ其起原ヲ一ニシ即チ其起原沿革ヲ詳カニスルニ因テ原則ノ意義自ラ釋然タル者

アリ故ニ原則ノ意義ヲ解釋スルニ起原沿革ニ由ラス自家ノ法理論ヲ以テ簡單ニ説去ルカ如キハ決シテ通俗解釋法ノ採ル所ニアラス抑所謂立憲制ノ憲法ハ英國ニ於テ漸次ニ萌芽シ北米合衆國ノ憲法制定及佛國第一革命前已ニ頗ル完備ノ度ニ達シ居レル者ニシテ始テ之ヲ歐陸ニ唱道シ英國憲法ノ微妙ヲ贊稱論述シ以テ廣ク各國ノ人民ニ知ラシメタルハ實ニ佛人「モンテスキウ」氏ナリトス但シ佛國第一革命ノ時ニ際シテハ「ルソー」氏民約篇ノ勢力強盛ナリシカハ「モンテスキウ」氏力憲法論ノ影響ハ左マデ大ナラザリシト雖モ爾後ノ憲法制定ノ時ニ於テハ氏ノ英國憲法ヲ根據シタル憲法論大ニ勢力ヲ領有シタルコトハ事實ニ徴シテ甚明カナリ又佛國各種憲法ノ中ニ於テ獨乙各國憲法制定ニ最大勢力ヲ與ヘタル者ハ「ルイ」十八世ノ欽定憲法ニシテ其立案ノ精神及細目ハ固ヨリ英國憲法ト大ニ異ル所アリト雖モ其體面外見ニ至テハ英國憲法ニ模倣シタル者多シトナヌ而シテ此憲法ニ於テ實ニ君主ハ國家統治權ヲ總攬スル者ト爲シ國權歸一ノ主義ヲ採リタリ斯クテ南獨乙ノ諸國ハ直チニ此欽定憲法ヲ模範トシテ其憲法ヲ制定シタルニ佛國第二革命後及第三革命ノ時ニ際シテ憲法ヲ制定シタル所ノ邦國特ニ普埃兩國ノ如キハ「ベルギー」國憲法ヲ準據トシテ其憲法ヲ制定セリ而ルニ「ベルギー」憲法ハ原來主トシテ佛國憲法ニ則リテ制定シタル者ナレハ其源ハ依然一ナリトス此ノ如ク乙國ハ甲國憲法ヲ模範トシ丙國ハ乙國憲法ヲ參照シ各自ニ其憲法ヲ制定シタルヲ以テ其原則タルヤ各國ニ普通ナルアリ或ハ數箇國ニ普通ナル者アリ或ハ唯タ甲乙兩國ニ普通

ナル者アリテ畢竟此等普通ノ原則ハ一ノ淵源ヨリ出ツルニ過キササルヲ以テ其起因及沿革ノ了ハ解其意義ノ解明ニ缺クベカラサルコト甚タ多シトス我國憲法ハ歐洲各國中唯一ヶ國ノ憲法ヲ模範トシテ制定シタル者ニアラス況ク英佛獨各國憲法及ヒ憲法ニ關スル學說トヲ參照折衷シテ設ケタルコト疑フヘキニアラス故ニ我國憲法ノ條項ヲ解釋スルニハ須ク廣ク彼各國憲法ノ條項規程ヲ參照シ諸種學說ヲ對比シテ說ヲ爲ス時ハ庶幾ハ偏僻固陋ノ見解ニ陷ルヲ免レンカ之ニ反シ唯タ一箇人ノ學說ヲ信守シ或ハ一箇國ノ憲法ヲ根基トシ或ハ自己ノ法理論ヲ準據トシ各條ノ意義ヲ管單ニ說去リ而カモ解明シ難キ者ハ之ヲ無用ノ規定ト爲シテ度外ニ置クカ如キハ憲法通俗解釋ニ於テ最モ人ヲ誤ランコトヲ恐ル、所ナリ

以上述ヘタル如ク我國憲法ヲ解釋スルニ當テハ歐洲各國ノ憲法及諸種學說ヲ參照スルヲ要用トスト雖モ是固ヨリ通俗解釋ノ一適法ト爲スニ過キス凡テ一國家ヲ爲ス者ハ各々固有ノ國體及其他歷史的成立ノ特性ヲ有スルコト當然ナレハ強テ他例ニ據ルヘキコト非ス彼ノ革命ノ騷亂ニ際シ模範ヲ一ニ他國ニ取テ倉卒ニ憲法ヲ制定シタル國柄ト雖モ尙彼我相比スレハ著ルシキ差異ヲ爲スコト常ナルノミニアラス言語上同一ノ規定ノ如ク見ヘテ其實却テ意義自ラ異ル者アリ蓋シ各國固有ノ國體及其國歷史的特性コソ即チ此差違ヲ生セシムル原力ノ主タル者ナレ我國成文憲法ハ歐洲各國力革命命騷亂ノ餘勢ニ強壓セラレテ制定シタル憲法ノ比ニアラスシテ神皇建國以求固有ノ國體及歷史的

成立ノ特性ヲ其礎トシテ制定シタル者ナルカ故ニ之ヲ解釋スルニハ歷史的ノ事實ヲ參考セサルベカラサルコト固ヨリ多辯ヲ要セスト雖モ既ニ成文憲法ノ解釋ト云ヘハ憲法ノ條章ヲ説明スルヲ主トナスヘシ既ニ其條章ヲ説明スルヲ主トセハ其文句言語ノ意義ヲ木據ト爲スヘキコト當然ニシテ是レ遺却スヘカラサル所ナリ夫レ歷史的ノ事實外國憲法ノ法理學說等ハ一トシテ參考ノ洪資ニ非サルハナク就中歷史的ノ事實及憲法制定史ノ如キハ最モ解釋ニ必要ナリトナセトモ而レトモ是亦畢竟憲法條章ノ不備ヲ補修シ意義ノ不明ヲ氷解セシムル媒助タルニ過キスト爲スヘキノミ要スルニ成文憲法ヲ解釋スルニ當テハ主客ノ地位ヲ轉倒スヘカラス則チ憲法ノ文句言語ハ主ニシテ歷史的事實學說等ハ客タルヲ了スベシ然ルニ條章ノ文句言語ヲ根本トナサス反テ歷史的事實學說或ハ一箇ノ外國憲法ヲ以テ本據トナシ漫ニ解釋ヲ下シテ憲法條章ノ意義ヲ左右スル如キハ是レ一家ノ憲法私論或ハ憲法私評ト稱スベシト雖モ決シテ憲法ノ正解ト稱スルヲ得ヘキニアラサルナリ然而シテ憲法條章ノ文句言語ハ宜シク普通用ノ意義ヲ以テ解スヘシ普通ノ意義ヲ以テ明カニ解示セラルヘキ者ヲ故ラニ特別ノ意義ヲ以テ解スルノ必要ナシ而シテ其意義特ニ法律ニ普通ニ用フルモノナラハ之ヲ探ル愈々可ナリ其普通ノ意義ヲ以テ解釋シ得ヘカラサルモノアルニ至リテ方ニ立法者特別ノ用方ヲ探究スヘシ又一字一句ヲ分離異別ニ解スヘカラス同言語ハ各所必スシモ同意義ニ於テ用ヒラル者ト視ル可カラス全條ノ前後ヲ參照シ遺餘ニ應シテ解ヲ下スヘシ而シテ各條ハ全章

總體ノ條項ヲ參照シテ解釋シ各章ハ憲法總體ノ條項ト照合シテ解釋スヘシ蓋シ憲法ハ各條各章ヲ
總合シテ正ニ一箇ノ法書ヲ爲ス者ナルカ故ニ各條各章ノ間ニ相反齟齬スルノ意義ヲ含マシムヘ
カラス又不用目的ナキ言語文句アリト爲シテ其解ヲ草略ニナスヘカラス乃チ以上ハ成文憲法條章
言語文句ヲ解釋スル通則トナスヘキ者ニシテ諸條章皆此通則ニ由リテ解釋シ得ラルヘキ者ナルト
キハ今故ラニ或ル學說等ニ準據シ所謂條章言語文句ノ普通用ノ意義ヲ棄テ、特異ノ解釋ヲ構造ス
ヘキ理由ナキニ非スヤ而レトモ言語文句上ノミノ解釋ニテ意義尙ホ明カナラス十分ノ要領ヲ得サ
ル時ハ更ニ立法者ノ意思ニ立入りテ其言露シタル本旨ノ何處ニ在ルヤヲ探求スヘシ我國ノ憲法ハ
欽定ニシテ憲法ト憲法緒言及發布文ハ即チ立法者ノ意思理由ヲ求ムヘキ最屈竟ノ者ナリ若シ此兩
勅語ト歴史的事實ト相比シテ反對スルコトアルヲ查出セハ歴史的事實ヲバ廢棄シタル者トシテ
專ラ勅語ノ意思ヲ探ラザルヘカラス若シ又二様ノ解釋ヲ下シ得ルアラハ就中精確ノ目的アル者ヲ
擇フヘキハ固ヨリ論ヲ待タス以上ノ方法ニ由ルモ尙ホ意義模糊トシテ十分ノ結果ヲ得スンバ更ニ
歴史的事實學說及各國憲法條項ノ意義ヲ參照シテ補充解明スヘシ特ニ歴史的事實ニ由ルヲ緊要
トスルコトハ我國憲法制定ノ事跡ニ於テ著然タリトス
以上ノ方法ニ依ラズ或ハ自家獨見ノ法理說或ハ一箇ノ外國憲法或ハ歴史的事實ヲ論據トシ此論
據ニ符合セサルアル時ハ一概ニ此ハ內規ナリ此ハ法律ノ言語ニアラサルナリ云々ト論シ去リ獨リ

我見解ニ符合スル條項ノミニ重キヲ歸スルカ如キ解釋ヲ下スアラハ何程ノ名論卓說ト雖モ之ヲ通
俗解釋ト稱スヘカラス却ノ如キハ自家私見ノ憲法論或ハ大日本帝國憲法私評ノ名目ヲ付スヘキノ
ミ例ヘハ彼レ主權論ヲ本據ト爲サンニ法理上ニハ主權ヲ以テ無制限ト爲スヘキカ故ニ現憲法ノ正
條ニ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ又曰ク將來憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以
テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ
非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲ス
コトヲ得スト此レ憲法即チ國家至高ノ法律ヲ改正スルノ規定ニシテ爾來此規定ニ由ラサレハ憲法
ノ條項ヲ改正スルヲ得サルコト明ニシテ此レ即チ條項中最著ルシキ創證ヲ舉示セルモノナルカ
此憲法ノ條項ノ制限ヲ具フルコトハ憲法緒言及發布文ヲ參照セハ自ラ明白ナリト雖モ尙ホ之レシモ
制限ニアラスト爲セハ憲法ノ條項中或ル者ハ內規ト爲シ或ハ法律的ノ條規ニアラス或ハ不用ノ規
定ナリ云々ト爲サルヲ得サルノ論結ヲ生スヘシ夫レ憲法ノ條項ニ此ノ如キ區別ヲ立ツルカ如キ
ハ自家私見ノ主權論ヲ標準ト爲シテ妄リニ憲法ノ條項ヲ評論スル者ト謂フヘク之ヲ解釋ト稱スヘ
カラサルニ非スヤ

今通俗ノ解釋ニ由レハ左ノ二法アルノミ其一憲法ヲ以テ一種ノ法律ト爲シ其餘
章ノ意義ハ主權ノ運用ニ制限ヲ爲ス者トスヘク而シテ臣民ハ主權ノ運用ニ參

與スルノ權ヲ惠賜サレタル者ニシテ法理上ヨリ見ルキハ完全ナル主權ノ運用ハ天皇ノ大權ニ臣民ノ參與權ヲ副加シテ成ル者タリ而レモ大權ヲ總攬シ玉フ聖意ニハ臣民服従スヘキナリ故ニ政理上ヨリ見ルキハ無制限ノ主權天皇ニアリト爲スヘシ其二法律上主權ニ制限ナシトセン乎憲法ハ法律ニアラスシテ政治上一規則トナル然ルキハ憲法條章ノ言語ハ法理上普通ノ意義ニ於テ解スルヲ得ス若シ然ラスシテ既ニ憲法ヲ以テ法律トスルカラニハ法律ノ條項規定中ニ法律ノ條項規定ニアラサル者ト否サル者ヲ區別スルノ不都合ヲ生スヘキナリ

憲法上君主大權ノ條款ニ制裁ナシ故ニ大權ニ制限ナシト爲ス者アリト雖モ君主カ主權ヲ有スルト爲ス國ノミナラス主權國會ニアリト爲ス國ニ於テモ亦其君主ノ憲法規定ニ違背スル行爲ニ就キテハ概シテ制裁ヲ付スルヲ得ス獨リ其行爲ノ法律上効力ヲ有セサルト云フヲ以テ憲法上特別ノ制裁ト爲スナリ但シ此事ハ後日論述スルコトアルベシ(國家二〇)

○我憲法ノ特質

法學博士 穗積 八 束 君

憲法ハ國體政体ノ大原則ヲ定メタル根本法ニシテ且ソレ國家アツテ然ル後ノ憲法ナレハ、憲法ノ

大体ヲ知ラントスルニハ、先ツ國家ノ何タルヲ大略ニ説明スルノ要アルナリ。

國家ハ一定ノ土地、一定ノ民族アリテ、其上ニ最高ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スルノ團體ナリ、此觀念ハ素ヨリ近世ノ國家ヲ標準トシタルモノニシテ、古ヨリノ歴史的發展ヲ以テスレハ、必スモ然ルニアラス、水草ヲ逐フテ推移スルカコトキ、一定ノ土地ヲ占領セサル民族ナリトモ、權力團體タル性質ヲ備フル事アリ、然リト雖モ通常共同ノ生活ヲナスニハ、必ラス一定ノ據ル所ナカルヘカラス、而カモ單純ニ權力團體ヲナシ、或ハ平等團體ヲナス事アリ、又唯權力ニ依テ結合セラレタル一家族ノ如キ團體ヲナス者アリ、時ニ平等ノ個人多數カ經濟上ノ便宜ニヨリ、一定ノ土地ヲ基礎トシテ集合スル者アリ、要スルニ國家ノ觀念ニ就テハ、唯此土地ハ肥沃ナリ故ニ耕耘スルノ利アリ、テフ觀念ニノミ依ルモノニ非スシテ、必ラス團結シテ一定ノ權力ノ下ニ統治セラレ、保護ヲ受クルノ目的ヲ以テ、其地ニ集合ス、故ニ發達セル國家ニ於テハ、土地ト民族ト主權ト三ヲ具備スルヲ要スルナリ

國家ハ人ノ共同生活ノ團體ナリ、抑人ノ共同生活ヲナスハ天賦自然ノ有様ニシテ、決シテ道理ヲ以テ發明シテ斯クノ如クナレルニ非ラス、故ニ人ハ孤立シテ生活ヲナス能ハズシテ、小ニシテハ一家族ヲナツ、部落ヲナシ、大ニシテハ民族國家ヲナス、コハ自然ノ現象ナリ、然リト雖モ只單ニ機械的ニ群集スルニハアラスシテ、獨立自存ノ主体ヲ成スノ人格ヲ備へ、各個人ハ亦各團體ノ

分子タルヲ辨へ、團體其物ノ生活ト、分子各個孤獨ノ生活ト同化セル團體ヲ共同生活トハイフ也。故ニ國家トイヘハ、唯草木或ハ塊土カ地上ニアルカ如キ、無意義ノ集合体ナリトイフ、機械的ハ説明ヲ以テ満足スヘカラザルナリ。

吾人ノ現社會ニ存在スル唯一ノ目的ハ、個人ノ目的ヲ達スルニアルカ、團體生活ノ目的ヲ達スルニアルカ、蓋シ深遠ナル議論ニ涉ラサレハ一刀兩斷ノ裁決ヲナス能ハサレ共、吾人カ現今ノ社會發達ノ有様ニ於テハ、種々生活ノ方面ヲ有シ、吾人孤立ノ生活ヲ爲スノミナラス、家ニアツテハ家族テフ家ノ團體ノ一員ヲナシ、町村トイフ部落ニアツテハ部落ノ一員タル生活ヲ要シ、國ノ臣民トシテハ國ノ分子タル生活ノ必要アルナリ、故ニ自主自存孤獨ノ生活方面外ニ、尙ホ團體ニ從屬スル生活ノ方面アリ、此二ツノ關係ハ輪翼離ルヘカラサルモノニシテ、一方ノミヲ以テ吾人ノ生活スル事實ヲ發見セス。

或論者ハ國家ノ目的ハ一人ノ利益保護ニアリトイフ說ヲ稱フレ共、コハ一方ニ偏シタル論ニシテ、國家ハ獨立シタル生命ノ目的アリ、吾人ハ素ヨリ個人孤獨ノ生活トシテ意思目的アレ共之ヲ客觀的ニ社會全體ノ變遷ニ對シテ論スレハ、個人孤獨ノ生活ヲ團體ノ生活ニ同化シ、個人孤獨ノ目的ヲ團體ノ目的ノ下ニ之ト同化シテ、一致調和ノ後、社會ノ圓滿ナル發達ヲナスト同時ニ、吾人ノ孤獨生活カ爰ニ始メテ圓滿ナル存在ヲ見ルニ至ルナルヘシ、故ニ吾人ハ社會發達ノ渦中ニア

ル水ノ分子ニシテ總ヘテ今日ノ勢ニ從フノ觀念ヲ有セサルヲ得ス。

個人孤獨ノ吾人ハ國家テフ團體ノ分子ナリ、而カモ一時ノ分子ナリ、今日ノ分子ニシテ昨日ノ分子ニアラス、而シテ國家タル生命、永遠ニ渉ル所ノ目的生命ハ、必ラス永續スルノ理ヲ辨知セザレハ、本來ノ憲法ノミナラス、法律ノ精神ヲ解スルノ能ナキナリ。

法律ハ社會ノ爲ニ存シ、社會ハ永遠ノ目的ヲ有ス、故ヲ以テ法律ハ只今日吾人ノ一個一時ノ利益ヲノミ存在スルニ非ラス、法律ハ社會的任務ヲ有ス、何トナレハ此民族團體ハ永久ニ渉ル目的利益ト有スルニ依リ、之ヲ目的トスル法律ニ於テ時ニ一個孤獨ノ一時ノ不便ヲ感スル事アリトスルモ、此永遠ノ目的ノ爲ニハ、マケテ忍ハサルヲ得サルナリ。

主權ハ國家ノ要素ニシテ、而カモ國家ニ缺クヘカラサルモノナリ、主權ハ國家ノ生命ナリ、例令群集スル民族アリト雖モ、獨立最高ノ主權ナキ時ニ於テハ、社會トハイフヲ得ヘシトスルモ、國家テフモノハ出來セサルナリ、印度ノ如ク土地肥沃ニシテ、民族多ク殊ニ古キ歴史、有セル邦國ニシテモ、獨立ノ君主權ナキ以上ハ印度ソレ自身ハ獨立ノ國家ヲナサザルナリ。

主權ハ最高ノ權力ナリ、而シテ何故ニ主權アリヤト問ハハ人生共同生活ノ必要ニ起因スルモノニシテ、社會ハ多數ノ人ノ集合ナリ、凡ソ人ハ天賦ニ於テ既ニ不平等ナル者トナリ、強弱智愚貧富ノ差當アリテ、各個人平等ナリト云フ事ハ實際ニ於テ行ハレ難キ事ナリトス、故ニ若シ人間社會ヲ

天賦自然ノ有様ニ任セタランニハ、非常ナル強弱ノ差ヲ起ス、此強弱ノ差ヲ一纏メニシテ秩序ヲ立ツルトイフ事ハ、トリモ直サス國家法律ノ目的ナリ、若シ此間ニ秩序ヲ保ツ事ナカリセバ、社會ノ進歩ハ望ムヘカラサルナリ、凡ソ一家族ニアリテハ老幼男女ノ區別アルヨリ、モシモ強キ者弱キ者ヲ食トスルノ事實アリタリトセハ、家テフ團體生活ハ不可能ニ屬ス、故ニ一家テフ團體生活ヲシテ、永遠ニ繼續シ、智愚老幼其所ヲ得テ、圓滿ナル發達ヲナサシムルハ、抑モ權力ニ非スヤ、一家ニアリテハ家長權ニシテ、即ハチ國ニ主權アルト同様ナリ。

權力ハ保護ノ力ナリ、保護トハ強者ノ弱者ヲ救助スル意味ニシテ、單ニ保護トイハハ即ハチ權力ヲ意味スルナリ、權力ナキ時ハ保護又存在セス、吾人國民カ強弱智愚各差等アルニモ拘ラス、夫々平等ナル生活ヲ遂ケ得ル所以ノモノハ、保護ニ因ラサルヲ得サルナリ、而シテ社會ノ主ナル大權力カ社會ノ内部ノ小權力ヲ抑ヘテ、絶對ニ其上ニアツテ小權力ノ相互ニ侵ス事ヲ制スル故、吾人ハ平等ニ生活シ得ル所以ニシテ、モシ主權ヲ以テ我々ノ平等自在ノ敵ト見做スモノアルモ、國權之ヲ保護スルニ於テハ何ノ憂フル處モアラサルナリ、是即チ主權ノ存スル所以ニシテ、國家法律ノ社會的生存ニ於テ必要ヲ認ムルナリ、且主權ハ國ノ生命ニシテ主權アレハコソ保護モアレ、保護アレハコソ吾人平等ノ生活ノ目的ヲ達スル者ナレ、是ニ依テ之ヲ觀レハ、主權ノ神聖ニシテ圓滿ナルハ社會生存ノ必要ニ出タル事ヲ推スルニ難カラサルナリ。

我國體ハ君主國體ニシテ此國體ハ主權ノ行動スル形式ニヨツテ定マルモノナリ、故ニ國體テフ觀念ト政體テフ觀念ノ混同セサルヤウ注意スルヲ要ス、サアラサレハ憲法上誤解ヲ來ス事多シ、然リ而シテ國體問題トハ主權ハ何人ニ存スルヤトイフ問題即ハチコレニシテ政體問題ハ主權ナルモノハ如何ニ機關ヲ備ヘ、如何ナル形式ニ於テ如何ニ運動スルカトイフ主權行動ノ方法、形式ノ事ニシテ、國家ニハ必ラス其主權アリ、而カモ其主權カ果シテ何人ノ手中ニアルヤハ總テノ國家ニ通シテ同様ナリトイフヲ得サルナリ、何ヲ以テ然ルカ、コハ歴史ノ結果タル事實問題ニシテ、近來學者ノ說ニ主權ハ國民ニアリトイヒ、或ハ君主ニアリトイヒ種々一定セル道理アルカノ如クニ唱ヘタルモ、實際ニ然ルニ非ラスシテ、畢竟歴史ノ結果ニ外ナラズ、我憲法ハ我歴史ノ上ニ建設セラレタル大法ニシテ我歴史ノ結果ハ憲法ニ明言セリ、恭シク憲法第一條ヲ拜讀スルニ、

「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」

トアリ、要スルニ我帝國ノ主權ハ萬世一系ノ皇位ニアル事、恰カモ日月ヲ仰ゲガ如ク、最早コレニ向ツテ何ノ辯明ヲモ要セザルナリ、然レドモ世界列國ノ有様ヲ通覽スルニ、君主國ノミナラズ、又之レニ似テ非ナルモノアリテ、素ヨリ我國體ト同シカラズ、今之ヲ了解シ易カラシメンガため、少シク左ニ陳述セン。

主權ハ國民ニ在リテフ歴史ヨリシテ、國民自身ニ主權者ナリトイフ自覺心ヲ眞實ニ有スル國ハ、

即ハチ民主國體ナリ、古ノゲルマン人ノフオルシヤフトノ如キモノ、現今ノ瑞西國民ノ如キモノハ、即ハチコレ、概言スルニ今日ノ社會ニ於テハ、君主、民主ノ兩國體ニ分岐セルヲ見ル、法理上君主國體トハ、主權ノ一人ノ手中ニ有ツテ自己固有ノ獨立ノ權力ガ、他動的ニ之ヲ行フモノニ非ラズテ事ノ必要トナルナリ、若シ然ラズシテ他人ノ委託ニヨリ之ヲ行フモノトズレハ、其人ハ實際ニ統治權ノ全般ヲ行フ事アリトモ、君主ト云フヲ得ザルナリ、之レヲ例センニ、白耳義王國ノ如キハ、現ニ君主ヲ戴キ乍ラ、其憲法ニハ明カニ主權ハ國民ヨリ出ツトアリ、又他ノ條文ニ於テ君主ハ此憲法ニ列記シタル權力ノ外如何ナル權利ヲモ有セス、ト然ラバ君主ハ國民ノ依託ニヨツテ最高ノ官吏トシテ國ヲ支配スル職權ヲ有スルノミ、佛蘭西、亞米利加ノ大統領ト些ノ異ナルナシ。

獨逸ノ皇帝ノ如キハ其權力專制ノ君主ニ等シキ強大ナルモノアリテ、聯邦ノ君主ニ臨ム事、恰カモ君主ガ其臣民ニ臨ムガ如キ實際ノ有様ナレドモ、獨逸ノ國法學者自身モ、之ヲ君主國體トイハズ、コレ皇帝ハ獨逸帝國ノ最高ノ機關ニシテ、聯邦ノ委託ニヨツテ統治權ヲ行フニヨルナリ、故ニ皇帝カイゼル、エンペロール、キング其他種々ノ名稱アリト雖モ、其名ノ爲メニ國體ノ本質ヲ誤ル可カラズ、而カモ我國體ハ純粹ナル君主國體ニシテ、古來ヨリ既ニ我大和民族ガ國權ノ主體ナリテ其觀念ハ少シモ其頭腦ニアラズシテ、萬世一系ノ皇位ハ此民族ノ首長トシテ支配スル權力

アリテ事ヲ歴史的觀念ニ於テモ、憲法ノ明文上ニ於テモ疑ヲ容レザル處ナリ、而シテ其權力ノ皇位ニ存スル所以ハ何人モ人民ヨリ委託シタリトイフ者モアラザルベシ。
獨立固有ノ權力ヲ以テ主權タリテ純粹ナル國體ハ獨リ我ニ於テノミ之ヲ見ル、故ニ君主國トイフト雖モ、法理上白耳義、伊太利等ノ國々ト同一ニ論ズ可ラザルヤ知ルヘキナリ、猶ホ其他ニ於テモ神聖ニシテ犯ス可ラサル所以ノ義ナリ。

抑モ人類ノ集合シテ國ヲ成立スル上ニハ大約二様ノ區別アルヲ見ル、一チ家族の制度ノ發達シタル血族團體トシ、一チ平和組合タル共和團體トス、而シテ我東洋ニ於テ是等社會的現象ノ特ニ著シク發達シタルハ、血族の團體組織ニシテ所謂一家ヲ構成スル所以ノ者ハ即チ民族ヲナス所以、民族ヲナス所以ノ者ハ、即チ國家ヲナス所以ナリ、東洋人ノ普通ニ國家的觀念ヲフモノモ實ニコレニ外ナラザルナリ。我國ハ歴史ニ徵スルモ、歴史以前ヨリ既ニ國民ノ信仰ヲ以テ成立シ、且我々國民ハ祖先ヲ同フスル民族ノ相依リ、祖先ノ威靈ノ下ニ團結シ、極メテ大ニ鞏固ナル血族團體ヲナスモノナリ、ト自覺シ、恰モ一家ニ於テ父母ヲ尊親シテ其威力ノ下ニ保護ヲ受クルノ觀念ヲ擴大シテ、祖先ヲ同フスル民族ノ其祖先タル我天祖ノ連綿タル皇位ハ、大和民族ノ首長ト仰ギ、其威靈ノ下ニ所謂一家タル血族團體ヲナスナリ。

然リト雖モ近來ニ至リテハ、諸種ノ人種錯雜セルヲ名トシテ、如上ノ説ヲ駁スル論者アレドモ、

○ハ國民ノ信仰ハ國家團體ノ觀念基礎ヲ爲スノ理ヲ辯セザルニ起因ス。要スルニ我民族ハ民族共同ノ始祖ノ威靈ニ服從シテ、其保護ヲ受クルノ義ヲ推シテ、天祖傳承ノ主權ニ服從スルノ觀念ニ依リ、團結ヲ全フシ、此團結アツテ初メテ動キナキ國家ヲナス者ニ非ズヤ、而カモ我國ハ地味肥沃ニシテ氣候温和ナリ、機械的ノ團結ニ非スシテ我歴史の觀念ノ血族團體ナリ、吾人ハ此觀念ヲ永遠ニ子々孫々ニ傳ヘテ、國家團體ノ益々鞏固ナラン事ヲ忘却スベカラザルナリ。

右ノ如ク一國ヲ統治スル權力ノ勵ク方法、形式ヲ政體トハ云フナリ、故ニ國體同ジクシテ政體異ナルモノアリ、政體同ジクシテ國體異ナルモノアリ、加フルニ政體ハ國家、國權ノ行動、形式ナレバ各國、各時代ニ從ヒ、千差萬別ナラザルヲ得ス、然レ共近世文明國ノ政體ハ專制政體、立憲政體ノ二種ニ含有セラル、ヲ常トス、而シテコノ專制政體トハ、立法、司法、行政ノ三權力ガ同一ノ人ノ手中ニアルカ、若クハ同一機關ニ依ツテ行ハレ、君主一人ノ專制スル者ト、國會議院ノ專制スル者トアリ、立憲政體トハ文字ノ示ス如ク、憲法ヲ備ヘ立法、司法、行政ノ働作ヲ、各異ナリタル機關ニ與ヘテ、之ヲ混同セサルノ政體ヲ云フ、案スルニ立憲政體ノ起リシ原因ハ種々アリト雖モ、其近因ハ「モンテスキュー」ノ三權分立論ニ外ナラス、且ツ十八世紀末ヨリ十九世紀初ニ涉リ、政體上ノ大變動ヲ生シタルニノ原因アリ、一ハ民主主義ニシテ他ヲ三權分立主義トイフ、ルーソーハ此民主主義ヲ通俗的ニ説明シタル小冊子ヲ著シ、歐洲人ヲシテ心之ニ傾カシメ、

モンテスキューハ英國ノ制府ヲ研究シテ、其權利ヲ伸張シ幸福ナル生活ヲ遂クル所以ヲ敏リ、エスプリデロワテフ書ヲ著ハシタルカ、別ニ新奇ナル説ニ非サリシト雖モ、當時ノ歐洲ハ民主貴族ノ壓制ニ嫌厭タル時代ナリシヲ以テ、政體改革ノ導火線トナリシモノナルヘシ、斯クノ如ク三權分立主義ハ、各異ナリタル機關ニヨリ、一ヲ以テ他ヲ制スルノ利アルヲ以テ、君主國、民主國ヲ論セス之ヲ採用スルノ便ナルヲ知リ、コノ立憲政體ヲ生スルニ至レリ、我明治憲法ノ政體ハ、即チ此立憲政體ニシテ英佛米埃其他ノ文明諸國皆コノ政體ニ則ル、而カモ我國體ハ純然タル君主國體ニシテ佛米ハ民主國ナリ。

此立憲政體ノ歴史の沿革ヲ案スルニ、權力ノ行使ヲ數個ノ機關ニ分派スレハ、君主若クハ貴族カ權ヲ專ラニシ、私ヲ行フ事アリトスルモ、其禍害ノ鮮少ナルヲ發見シテ、斯クナル者ナルヘシ、然レ共近世獨佛ノ國法ヲ論スル者、政體ヲ區別シテ立憲政體、即チチコンスチニューシヨナル、ガバルンメントト、議院政體即チパーリヤメントタリ、ガバルンメントトナスニ至レリ、要スルニ議院政體トハ、議院ヲ以テ最高ノ權力トシ、總テノ權力ヲ國會議院ニ一任スルノ政體ニシテ、今日ノ佛蘭西ノ如キハ立憲政體ヲ基礎トシテ遂ニ議院政體ニ推移セル者ナリ、然ラサレハ君主ト國會トノ衝突政黨ノ軋轢上下兩院トノ論争、其他諸種ノ弊害ヨリ國務ノ澁滯ヲ招キ權力分裂ヲ來スニ至ル、而シテ英吉利ノ如キハ國會議員カ最高ノ機關ニシテ、之ヲ最高ノ權力トナシ、行政

司法ノ權ヲ包含スル事ヲ唱道セシメ、就中國民ノ代表者ヲ以テ組織サレタル下院ヲ總テノ權力ノ中心トスル説ヲ生セリ、畢竟スルニ下院モ各種政黨ノ相争闘スルヨリ、歸スル所權力モ多數政黨ノ手裡ニ掌握セラレ、事トナレリ是レ即ハ議院内閣制ノ政体トイフ。

我憲法ハ立憲政体ニ則ルモノニシテ、三權分立ノ主義ニ基ク、雖モ、主權ヲ三分スル事能ハス、單ニ其作用機關ヲ分派スルニ留マル、故ヲ以テ普通ニイフ立憲政体モ往々變則ノモノアリ、英ノ議院專制体ノ如キ、獨逸ノ我ノ如ク純然タル立憲政体ノ如キ、是ナリ。

觀テ我憲法ヲ見ルニ大權ノ特立テフ事ヲ主眼トスル者ノ如シ、大權トハ君主親裁ノ大權ノ意味ニシテ、憲法ノ規定ニ於テ、君主ノ專ラ裁斷スルヲ明示シタル國勢ナリ、之ヲ命ケテ憲法上ノ大權トイフ、總テ統治ノ權ハ君主ノ大權ニ屬スルヨリ、主權其物ヲ以テ大權タル以上ハ、主權ノ一部分ナル陸海軍ヲ統帥スル事、或ハ官制ヲ定メ、外國ト條約ヲ定ムル事ノ如キヲ指シテ、大權ト云フヲ得サルナリ。

主權ハ君主ノ全然掌握ニ權ルト雖ドモ、司法權ハ裁判所ニ行ハシメ、事ニ依リ行政官ニ裁決セシムルガ如ク、其方法範圍ヲ定メ、某ノ事ハ君主親裁スト憲法ニ明示セラル、ヨリ、憲法上ノ大權トイフナレ、歐洲諸國ノ或者ハ能ク我ニ類似シタル事ナリト雖モ、其觀念、其効力ニ異同ヲ見ル、即ハチ彼ハ君主ガ法律ニヨリテ生スル特權ヲ有スレ共、我憲法上ノ大權ハ、法律ノ外ニ超然

主義ヲ執リ、大權事項ハ大權親裁ニ依リ定ムルモノナリ、且ツ、法律ノ外ニアリテ法律ト對峙シ、法律ノ干涉ヲ受ケス、親裁ノ力ニ依リテ之ヲ行フ所ノモノハ、我憲法ノ特色ニシテ耳、自義、獨逸ノ皇帝モ等シク外ニ向ツテ條約ヲ結ビ、又ハ陸海軍ヲ統帥シ、官吏ヲ任免シ、官制ヲ定ムル點ニ於テハ大體等シカルベク、加之佛米ノ大統領モ外形上同、一ナリ、然レドモ法律ヲ以テ最高ノ力トシ、法律ヲ以テ萬能ノ權カトシ、法律ニ依ツテ此事ヲ君主ガナスベシテフ權カヲ與フルニ依ツテ行ヒ、國會ガ一ノ法律ヲ議決スレバ、其法律ニ依ツテ君主ノ特權ヲ左右スル是等ノ諸國ト、法律ヲ以テ君主ノ特權ニ立入ルベカラザル我トハ亦大ナル差異アルヲ見ルナリ、故ニ大權事項ハ立法範圍ニ立入ラス、又立法權ヲ以テ大權ヲ侵サス、且ツ立法ノ範圍ハ大權ヲ以テ動カス事ヲ許サス、然レドモ陸海軍ハ君主之ヲ統帥スト云フガ如ク、法律ヲ以テ之ヲ動カス能ハス、即ハチ法律ト大權トハ兩々相俟ツテ調和スルハ、我憲法ニ於テ特ニ著シヤ所ナリ

憲法第九條ニ命令ハ法律ヲ變更セザル限リ、人民ノ幸福ヲ増進スルガ爲ニ之ヲ發ス、テフ事ヲ明言セリ、之ヲ佛ノ「命令ハ法律ノ執行ヲナスカ、成ハ法律ノ委任ヲ受ケテ特ニ委任サレタル範圍内ニ於テ、定ムル外獨立シテ自由ヲ制限スル事能ハス」テフ憲法ニ對照スルニ、如何ニ我憲法ノ特色ヲ有スルカヲ了解スルニ難ラザルベシ「命令權ハ法律ノ執行ニ止ラス、法律ヲ侵ヤル限リ獨立シテ其目的ヲ達シ得ル爲メニ獨立命令ノ權ヲ認ムルハ我憲法ノ大權行動ニツキ、特ニ重キヲ

置ク所ナリ、此ノ憲法ノ特色タル命令權ノ廣大ナル事ヲ願ヒ、何事モ人ノ自由ノ制的ニ關スレバ法律ヲ以テスルヲ誤解チ生ズルヲ以テ、ヨク此憲法ノ大權行動ノ範圍ハ吾人ノ常ニ心得置クベキ事ト信ズ、

大權特立ノ結果トシテ我國務大臣ノ地位ニツキ、我國體論ハ他ノ憲法ニ於ケルト異ナレル點アリ、抑モ國務大臣ニ於テ必要ナル要件ハ、責任ノ解釋ナリ、責任トハ服從者ノ權力者ニ對シテ負フ處ノモノナリ、之ヲ監督スル人ニ對シテ下僚ノ有スル責ヲイフ國務大臣ヲ監督スルハ君主ナリ、君主ハ之ヲ自由ニ任免スル事ヲ得、コレ大權ノ獨立セル所以ニシテ、凡ソ命令ヲ發シ法律ヲ裁可シ百般ノ政務ヲ行フニハ國務大臣ノ補弼ヲ必要トス、故ニ其補弼者タル國務大臣ヲ、君主ガ自由ニ任免スル能ハザリセバ君主ノ大權ハ、却テ國務大臣ノ權力ニアルモノナリ、歐洲ニモ此例ヲ見ル者アリ、即ハチ大權ハ大權ニアラズシテ國務大臣ノ權力トナレリ、而シテ國務大臣ハ又議院ノ多衆ノ意向ニ依ツテ、進退スルノ要アルヲ以テ、國務大臣ノ權力ハ又議院ノ權力範圍ニアリ、而カモ議院ノ權力トイフト雖モ議院ハ多數決ノ働キアルヨリ、議員ノ過半数ヲ占ムル政黨ノ權力ニ歸スルナリ、故ニ議院制ニ於テ君主ノ大權ハ實ニ多數政黨ノ手中ニ歸スルト謂フヲ得ベシ、我政體ハ之ヲ許サス、君主ノ大權ヲ大權ヲラシメ獨立シテ他ヨリ侵サシメザル所以ハ、大權補弼ノ任務アル者ヲ君主ガ自己ノ自由ノ力モテ、自由ニ任免スル事ヲ得ルニ由ル、即ハチ君主ガ國務大臣

ノ補弼ヲ以テ政務ヲ行フニハ、國務大臣ノ承諾ヲ必要トスルニハ非スシテ、君主ガ政務ヲ行フニツキ單ニ之ヲ補弼スルトイフニ過ギス、而シテ我憲法ニ於テハ大臣合同シテ内閣ヲ成シ、内閣聯帶シテ責任ヲ有スル事ヲ認定セス、即ハチ憲法第五十五條ヲ拜讀スルニ。

『國務各大臣ハ天皇ヲ補弼シ其ノ責ニ任ストアリ。』

終リニ臨ミ議會ノ憲法上ノ地位ヲ述ベン歟、今日ノ政體ノ特色ハ國會制度ニアリ、然リト雖モ國會制度トハ由來深遠ナルモノニシテ、近世ニ起因シタルモノニ非ス、中世ノ歐洲ハ既ニ國會政治アリキ、只國會ノ今日ノ地位ガ、政體ノ特色ナルナリ、上古ノ議會ハ兵士ノ集合ナリ、軍隊ナリ、國會議員ハ兵士ナリ、國會ハ國民軍ナリ、政權ハ即ハチ兵役ノ義務ナリキ、而カモ多クハ君主ガ貴族ヲ集メテ財政上ノ補助ヲ仰グノ呼寄ナリキ、我憲法上ニハ立法豫算等ノ事ヲ議スルヲ任務トストアリ、故ニ主權者ガ法律ヲ制定スルトキニ、國會ノ協賛ヲ要スルモノニシテ、裁判ヲスルトキ裁判所ヲシテ司ラシメ、大權ヲ行フトキ國務大臣ヲシテ補弼セシムルト一般ナリ、憲法ニ於テ國會ハ積極的ニ命セラレタル事ヲ以テ權限トス之ヲ通常稱シテ制限セラレタル權トイフ、然レトモ民主國或ハ議院制ノ國ニ於テノ國會ハ、此制限ナク、成サント欲スル處ハ、其權限ハ廣メテ成シ、所謂權力ハ無限ナルナリ、我國ノ國會ハ統治ノ機關ナルヨリ、憲法ニ於テ特ニ與

ヘラレタル權限ヲ有ス故ニ憲法改正ノ發議ヲ議會ニ於テハ爲ス事ヲ得ス、コレ我憲法ヲシテ山嶽ヨリ重カラシムル所以ニシテ此憲法ノ動搖セサルニ於テハ、他ノ制度ノ如何ニ變化スルトモ、國體ヲ動搖スル事ハナカル可キナリ。

國會ハ國民代表ノ機關ナリテフ事ハ、普通ニイフ處ナレ共、法律理論ナリトイフ誤解ヲ來スヘカラス、抑モ選舉トハ何カ、適任者ノ選擇ナリ、選舉ハ種々ノ目的アリテ必ラスシモ代理委任ノ爲ニスルノミナラス、國會ヲ設立スル所以ノモノハ、國民ノ意思代表ノ機關ヲ設ケタルナレハ、議員ニ國民ノ代表者ナリテフ觀念ハアリ、而カモ法律ノ觀念ニ謂フ所ノ本人ニ代リテ其權利ヲ行使スル代理ニハ非ラス。

以上數節ニ述フル所ノモノモ、我憲法ノ特色ノ一部分ニ過キサレナリ、要スルニ憲法ノ條項ノ細目ニ亘リテ説明スルハ、紙數ノ許サル處ナレ共、其國體政體ノ原則ヲ定ムル根本法ニシテ特ニ吾人ハ憲法制定ノ時ニ始メテ之ヲ運用スル者ナルヲ以テ將來子々孫々カ帝國ヲ擁護スルトキニ於テ、ヨク模範ヲ示スヘキ地位ニ居ル者ナリ、故ニ吾人ハ後世ニ對スル責任ヲ全クシ、之ヲ心トシテ研究スルノ主意ヲ推擴メ遂ニハ國民一般ニモ及ボサン事ヲ希フモノナリ(明義三、一二三四、一)

○公法ハ權力關係ノ規定タルヲ説明ス

法學博士 穂積 八 束 君

予ハ數月前ニ國家學會ニ於キテ公法ノ特質ヲ講談シタリ、例ニ依リ講談ノ筆記ヲ此ノ雜誌ニ掲載スヘキ約アリト雖モ錯雜ノ辯論今一々記載シ難キモノアリ故ニ簡明ニ其要旨ヲ摘録シテ前約ヲ履マントス、

法ハ國家的ノ理象ナリ、一ニシテニアルニアラス、若シモ法トハ人生共同生存ノ規則ニシテ國家ニ依リテ直接間接ニ設定維持セラル、モノナルトキハ凡テ國家的ノモノニシテ公私ノ別アルヘカラス、吾人ハ公法及私法ノ二權力ニ支配サル、ニアラス唯一獨立ノ下ニ立ツ者ナリ、若シモ強テ「公」又ハ「私」等ノ冠辭ヲ用キル必用アラハ予ハ法ハ公法ナリ私法ナルモノナシト云フモ不可ナカルヘシト信ス。

然ルニ羅馬法ノ古ヨリ法ヲ分チテ二類トシ公私ノ區別ヲ爲セシヨリ襲フテ近世歐洲ノ羅馬系統ノ法理ニ之ヲ通用スルコト、ナレリ是レ恐ラクハ羅馬法ノ特質ニシテ凡テノ法族ニ必存スルノ區別ニハアラサルヘシ、ゲルマン人種ノ固有ノ法ニハ蓋シ公法私法ノ分界ナシ、現今ノ理論ヲ以テ古ニ溯リ此分界ヲ爲シ得スト云フニアラス、但當時ノ法ト云フ看念ニ此分界ナキヲ云フナリ、之ヲ例セハ現今ノ理想ヲ以テスレハ法ト云ヘハ即チ權利ノ思想相伴フカ如シト雖モ、古グリキーノ法族ニハ權利ト云フノ看念ナキカ如シ、世上ノ教課書ニ法ト云ヘハ當然其本來ノ性格ニ公私ノ二類

アルカ如ク説明スルモノ多キハ學者ノ誤解ヲ招クノヲソレナシトセス。

ゲルマン(獨逸)法族ハ嚴格ニ公法私法ヲ分テサルコト其中世ニ於ケル發達ヲ看ルモ明瞭ナリ、中世ノ歐洲ノ所謂封建制度トハ何ソ、公法ト私法トヲ混シ公權ヲ以テ私權ニ配スルノ制度ナラヌヤ、十四世紀ニ『レセフション』(羅馬法繼承)アリト雖ゲルマン固有ノ國體ヲ侵ス能ハス、此ノ公權私權混同ノ特質ハ遂ニ現世列國ノ基礎ヲ爲シタリ

今ハ公法私法ノ區別歐洲法ノ通理ナルノ有様ナリ、故ニ其果シテ何ノ標準ニ依リテ分カル、カノ問題ニ答フルコト必用トナレリ

之ヲ分界スルノ標準トシテハ或ハ法ノ源泉ヲ指示シ、或ハ法ノ目的ニ依ル。諸家ノ說紛々タリ、今其ノ要領ヲ示シ、併セテ私見ヲ述ヘントス。

古ノ歐洲法ニ王法(キヨーニクス、レヒト)民法(フォルクスレヒト)ノ區別アリ民族國體ノ固有法ヲ民法ト云フ普通法ナリ、君主法ハ君主カ國土ノ統治者トシテ自ヒノ意ヲ以テ勅令スルノ謂ナリ、英佛獨ノ憲法史ヲ讀ミシ者ハ辨疏ヲ待タスシテ予カ言ハント欲スル所ノ何タルヲ知ルヘシ、君主ハ自由ニ勅令スルノ權ヲ有ス、然レトモ民法即チ普通法ヲ變更スルコトヲ得ス、變更セントスルトキハ國民會議ノ承諾ヲ要シタルナリ

或者ハ此ノ看念ニ溯リ、私法トハ社會ノ自然ニ設定スル所ノ法ニシテ公法トハ國家主權カ設定ス

ル所タリト云フ說ヲ爲スアリ、是レ公法私法ノ分界ヲ其源泉ニ求ムルモノナリ

此說ノ根據ハゲルマン法ノ發達史ニアリ、故ニヨシヤ正確ナリトスルモ之ヲ近世ノ國法ニ通用スルコト難カルヘシ、又羅馬法理ノ所謂公法私法ノ區別ト君主法普通法ノ區別トハ一致セス、其實積ヲ異ニスルナリ、彼レハ法規ノ實質ヲ分テントシ是レハ法規ノ設立ヲ以テ區別スルモノタレハナリ、加之近世ノ國家ハ立法ノ源泉ヲ一トシ國內ニ行ハル、法規ハ國權ノ設定スル所タルヲ理想トス、故ニ此ノ歷史的ノ看念ハ直ニ以テ現行法理ヲ斷スルノ資ト爲ス能ハサルヘシ、

羅馬法家ハ法ノ目的ヲ以テ分界ノ基礎ト爲セリ、蓋シ最舊ニシテ普及セル看念ハ目的說ニアリ。公益ヲ目的トスル法ハ公法ナリ私益ヲ目的トスル法ハ私法ナリト云フノ說ハ之ヲ云フ者モ聞ク者モ疑テ容レスシテ法學社會ニ受授サレツ、アルナリ、サレト利益ヲ公私ニ分ツノ標準ハ何ナリヤト反問セハ満足ナル答ヲ與フルコト容易ナラサルヘシ、個人ノ利トスル所私益タリ社會共同ノ利トスル所公益ナルヘシト云フモ更ニ明確ヲ加ヘタリト認ムル能ハス、個人ノ財產ヲ保護スルノ法ハ私益ノ爲ニ存スルカ恐ラクハ社會平和ノ生存ヲ爲スカ爲メニ必用ナルカ故ナルヘシ、之ニ反シ人ノ身體ヲ保護スル各種ノ所謂公法規(警察法刑法ノ類)ハ私益ヲ保護スルノ用ヲ爲サ、ルカ、恐ラクハ法ヲ兩様ニ分界シ一ハ公益ノ爲メニス一ハ私益ノ爲メニスト斷言スルコト難カルヘシ、故ニイェリングハ(シユモール雑誌所載)「法ハ社會ニ由リテ存シ社會ノ爲ニ存ス」ト云ヘリ、蓋

法ハ一般ニ公益ノ爲メニ存シ兼テ私益ヲ全フスルモノナリ、
 竊ニ惟フニ法テ公私ニ分ツハ法ノ形式ノ別ニアラス法ノ實積ノ別ナラン、法規ヲ其形式ノ上ヨリ
 通覽スルトキハ凡テ公法タリ、法ハ人ノ自由ヲ束縛スルノ命令タレハナリ、然レトモ法規ノ實積
 ニ就キテ看ルトキハ或ハ個人平等ノ關係ヲ規定シ或ハ權力服從ノ關係ヲ規定ス。或ハ人カ社會ノ
 交通ニ於ケル資産(財貨)享有ノ權能ヲ規定シ、或ハ自由行為ノ權能ヲ規定ス、各其實積ヲ異ニス
 ルノ實アルハ明白ナリ、公法私法ノ區別恐ラクハ各其規定スルノ法理關係如何ニ存シ、其保護ス
 ル目的ノ差異ニハアラサルヘシ是レ予カ信スル所ナリ

試ニ世上ノ學者カ通常私法(民法ニアラス)關係ナリトスル所ノモノヲ看レハゾーム氏カ私法ハ財
 産法ナリト云フノ失言ニアラサルヲ覺ユ一私人相互ノ間ニ權力ヲ用ケルコトハ近世國法ノ主義トシ
 テ許サハル所ナリ。權力ハ國家之ヲ專有ス私人相互ノ關係ニ於キテ權力ヲ用ケルコトアラサレハ其
 利益ヲ全フスル能ハサルトキハ之ヲ國家ニ訴ヘ公力ニ頼ルヘキナリ、人ハ人ニ對シ權利ヲ有スル
 モ權力ヲ有セス、請求スルコトヲ得ヘク命令スルコトヲ得サルナリ權利ト請求トハ私人ハ能力ニ
 存ス、私法ハ即チ之カ規定タリ、權力ト命令トハ國家ニ屬ス、公法ハ即チ之カ規定タリ、私法ハ
 權利關係ヲ規定シ公法ハ權力關係ヲ規定ス、私法ハ個人平等ノ關係ヲ規定スト云フハ非權力關係
 ノ謂ナリ「權力」命令「服從」ヲ無キ所即チ平等ノ關係タリ、權利ハ平等ノ人ノ間ニ行ハル、コト

ヲ得、權力ハ然ラス、近世ノ國憲ノ原則トシテ「各人平等」ト云フモノハ何人モ他人ニ對シテ權力
 者タル能ハサルヲ云フナリ、
 斯ノ社會ハ權利關係ト權力關係トノ二要素ヲ以テ組織セラレタルモノナリ法ハ社會ノ秩序ヲ維持
 ス、故ニ法ノ規定スル所權力ノ關係ト權利ノ關係トノ二様ニ分カル、自然ノ勢ニシテ予ハ其分界
 ハ實ニ茲ニ存スルコトヲ信スル者ナリ。若シ私法ノ規律スル所ニシテ財産ノ享有ナラハ公法ノ規
 律スル所ハ自由ノ享有ナルベシ、若シ私權トハ財產權ナルトキハ公權トハ自由權ナルベシ予ハ公權、
 私權ノ概念ニ於キテ別ニ見ル所アリ研究シツ、アルモノナリ遠カラシテ其所見ヲ公ニスルノ機
 アルヘシ。
 此ノ説明ヲ誤解シテ公法トハ國家ト個人トノ關係ナリ私法トハ人民相互ノ關係ナリト概言スルコ
 ト勿レ、是レ一派ノ法學家ノ唱道スル所ニシテ其正當ナリヤ否ハ別問題トシ予カ茲ニ述フル所ノ
 モノト同一ノ見解ニアラサルコトヲ了知スヘシ、私法トハ平等即チ非權力ノ關係ナリト云フトキ
 ハ其關係ノ國家ト一私人トノ間ニ於ケルト否トヲ問ハス私法ノ範圍ニ屬ス、國家ハ命令權ヲ行フ
 然レトモ自ラ其命令權ヲ用キス個人ト平等ノ地位ニ立チ權利義務ノ關係ヲ有シ得ルコト國家全能
 ノ自由タリ、此ノ場合ニハ私法ノ法理ヲ以テ論スヘキナリ。之レニ反シ國家以外ニ權力關係ノ存
 スル場合ニハ人民相互ノ間ト云ヘトモ公法ノ範圍ニ屬スヘキナリ。所謂封建ノ制、民族不平等ノ

世ハ社會ノ内部ニ權力ヲ分配シタル法制ナリ、近世ノ國家ハ權力ヲ專有スルノ方針ヲ取ルト雖尙
 歴史的ノ遺物トシテ又社會必要已チ得サルカ爲メニ人民相互ノ間ニ權力關係ヲ認ムル變例アリ、
 家族制ニ於キテ家長カ家族ニ對スルカ如キ航海中ノ船舶ニ於ケル船長ノ命令權ノ如キ其例乏シカ
 ラス皆公法ノ原則ニ歸スヘキコト明カナリ、然ラハ一概ニ國家ト人民トノ關係ハ公法ナリ人民相
 互ノ關係ハ私法ナリト斷言スルハ予カ主意ニアラサルコト領知セヘラシ、
 ソコム氏カ請求權(人權)ハ無權力ナリ物權ハ權力ナリ(物ニ對スル權力ノ意ナリ)ト見解スルハ予
 カ敬服スル所ナリ又頃者ヘルツフェルド氏カ此ノ說ヲ敷衍シテ凡テ權利ハ無權力ナリ(人ニ對シ
 テ)ト云フモ亦可ナリト認ム但其ノ見解ノ結果トシテ權力ト法トハ反對ノ性質ニシテ相容レサル
 モノ、如ク說キ權力關係ハ法理關係ニアラス權力ト云フ看念ハ法律以外ノ思想ナリト云フニ至リ
 テハ正ニ予カ見解ト相反ス凡テ權力關係ハ事實ナリ法ニアラス法律ハ權利關係ヲ認ムルノミト云
 フ說ト予ノ所見トハ相容レサル所ナリ乞フ相似テ非ナルハ、說ヲ混同スル勿レ(國家八〇)

○穗積八束君「ロバート・フキルマー」

法學博士 戸水寬人君

雜誌明義ノ第一號ニ憲法ノ精神ト題スル穗積八束君ノ論文ヲ掲ク文章華麗ニシテ議論堂々然レト

モ其論旨ニ至テハ未ダ首肯ス可ラサルモノ無キニアラス、其第三項ニ曰ク我建國ハ血族團結ノ基礎ニ成立シ祖先崇拜ノ信向ニ由リテ統一ス父母ヲ同ウスル
 者カ相依リテ家ヲ成ス是社會ノ原始ナリ其思想ヲ推廣シ祖先ヲ同ウスル民族ガ始祖ノ神位ヲ崇拜
 シ其威靈ノ下ニ相依相倚リテ血族的團結ヲ成ス是我民族的建國ノ基礎タリ父母ヲ敬愛シ子孫ヲ保
 護スルノ天賦ノ至情ハ之テ遠ク其父母ニ溯リ汎ク其子孫ノ子孫ニ及ホシ以テ血族同和ノ國家ヲ成
 ス家ニ於ケル天賦ノ元首ハ父母タルカ如ク國ニ於ケル天賦ノ主權者ハ民族ノ同始祖タリ我萬世ニ
 系ノ皇位ハ我民族ノ始祖タル天祖ノ靈位ニシテ其直系ノ皇統此ノ位ニ即キ天祖ノ威靈ヲ代表シテ
 天祖ノ慈愛セル其子孫ニ君臨ス皇位ハ神聖ナリ天祖ノ神位ナレハナリ主權ハ侵スヘカラス天祖ノ
 威靈ナレハナリ而シテ家國主權ノ存在ハ祖先カ其子孫ヲ愛護スルノ威力ニシテ君父一人ノ私ニア
 ラス是レ我建國ノ基礎ニシテ國躰ノ精華タリト」
 穗積君ガ報國盡忠ノ心ニ富ムコトハ人ノ疑ハサルトコロ然レトモ我日本ニ於テ穗積君ト同様ニ報
 國盡忠ノ心ニ富ムモノハ蓋シ幾百萬ヲ以テ數フ而シテ余モ亦其一人ナルコト深ク信シテ疑ハサル
 トコロナリ然リト雖右ノ如キ論法ヲ以テ我國體ヲ論シ之ヲ以テ憲法解釋ノ根據ト爲サント欲スル
 ハ少シク中庸ヲ失スルニ似タリ
 嘗テ英人「ロバート・フキルマー」ノ「バトリアルカ」ヲ讀ミタリ今ヤ穗積君ノ論文ヲ見ルニ其論

旨互ニ相似タルトコロアルヲ覺ユ

「ロバート、フキルマー」ノ「バトリアルカ」ハ分テ三章ト爲シ其第一章ハ「最初ノ王ハ家族ノ父ナリ」ト題シ第二章ハ「人民ガ政ヲ爲シ人民ガ爲政者ヲ撰ムハ自然ニ反ス」ト題ス而シテ第三章ハ「制定法ハ王ノ自然的父權ト相抵觸セス」ト題ス第一章ト第二章トハ汎論ニシテ第三章ハ特別ニ英國ノ事物ニ關スルトコロ甚ク多シ特別ニ英國ノ事物ニ關スルモノハ今此ニ之ヲ述ブルノ必要無シ故ニ專ラ第一章ト第二章トニ基イテ「ロバート、フキルマー」ノ論旨ヲ約セン

「ロバート、フキルマー」ノ説ニ曰ク人類ノ始祖「アダム」ハ其子孫ニ對シテ父權ヲ有シ子孫ハ又其子孫ニ對シテ父權ヲ有セリ父ハ神ノ命ヲ受ケテ其父權ヲ以テ子孫ニ臨ミ子孫ハ神ノ命ニヨリテ父ニ服従ス可キ義務ヲ有セリ「アダム」ヨリ後ニ「ジュエーダー」ガ其女ヲ殺セシハ父權ノ執行ニ外ナラズ「エブラハム」ガ己ノ家族ニ屬スル三百十八名ノ兵士ヲ將キシモ亦父權ノ執行ニ外ナラズ大洪水ノ時「ノア」ハ其子ニ對シテ父權ヲ執行シ「バベル」ノ塔ヲ建テシ頃七十二ノ國民アリテ互ニ相言語ヲ異ニシ其紛擾筆紙ノ能ク盡ストコロニアラサルモ此ノ時ニ於テスラ箇々別々ノ家族ニハ必ス家父アリテ之ヲ支配セシコト毫モ其以前ニ異ナルコト無カリシハ「一ニ神ノ配意ニ基カズンバアラザリシナリ今ノ所謂王ナルモノハ素是家父ノ家父即チ「バーテル、バトリエー」ノ有セシ權利ヲ繼承セシモノニ非ズ羅馬ノ「ツエーザル」ハ佛國ニ於テハ澤山ノ玉アルヲ發見シ英國ノ「ケント」州

ニ於テ四名ノ王ヲ發見シ斯ノ如キ狹キ土地ニ斯ノ如キ澤山ノ王アリシハ果シテ如何ナル事由ニ基キシヤ王國ノ建設ハ素是家族ノ分別ニ基キシ強キ證據ニ非ズシテ何ゾヤ今日ノ王ハ其臣民ノ自然的家父ナリト謂フコトヲ得ザルヤモ知ル可ラズト雖自然的家父ガ當初有セシ父權ヲ繼承セシモノナルコト疑ヲ容ル可ラス一家父ノ自然權ト一國王ノ自然權トヲ比較スレバ「一ハ小ニシテ一ハ大ト云フニ過ギス其性質ニ至テハ毫モ異ナルコト無シ家ニ於ケルノ天賦ノ元首ハ父ニシテ國ニ於ケル天賦ノ元首ハ王ナリ臣民ハ國王ニ對シテ唯命之從フ可キノミト右ニ述フルトコロハ「バトリアルカ」ニ記スルトコロノ大意 摘抄シタルモノナリ「バトリアルカ」ニハ種々ノ事柄ヲ記載スト雖其論旨誠ニ此ノ如キノミ余ハ種々ノ論文ヲ讀ミシ時忽チニシテ「ロバート、フキルマー」ノ著書ヲ聯想セリ何トナレバ其論旨ノ相似タルコト此ノ如ク之酷ダシケレバナリ

「ロバート、フキルマー」ハ英國ノ忠臣ニシテ其書「バトリアルカ」ハ千六百八十年ニ始メテ出版ニ付セラレタルモノナリ是ヨリ先キ自然法ノ説ニ基キ自由民權ノ議論ヲ唱ヘシモノ前後相續キ舊教徒モ之ヲ唱ヘ新教徒モ之ヲ唱ヘ英國民權家ハ勢ニ乘シテ「スチユワート」王室ヲ倒サント欲シ頻ニ民心ヲ激動セシガ故ニ「ロバート、フキルマー」ハ慨然トシテ狂瀝ヲ既倒ニ廻サント欲シ終ニ右ノ書ヲ著ハシテ極力民黨ノ議論ヲ排斥セシカハ民黨ノ領袖「アルガルノン、シドナー」ト學者「ジ

ロヨン、ツク」トハ邊カニ起テ「ロバートフキルマー」ノ説ヲ駁撃シ大ニ英國人ノ同情ヲ惹キ王室ノ地位益ス危態ニ陥キレリ焉ヲ少クシテ「シド子」ハ終ニ王黨ノ爲メニ殺ケレ「ロツク」モ亦大陸ニ隠レテ英國ニ歸ルコト能ハサリシカ千六百八十八年ニ至リテ王黨大ニ敗レ民黨志ヲ得「ステユワート」王室ヲ例シ「ウキルリヤム及ヒ」メーレー」ヲ迎ヘ以テ英國ノ王ト爲シ「ロツク」ハ「國ニ歸ルコトヲ得タリ」

其レ斯ノ如ク「ロバート、フキルマー」ノ時代ニ在リテハ英國ノ政海大ニ動搖シ怒濤天ヲ衝キ「ステユワート」王室ノ危キコト誠トニ漁舟ノ飄々タルニ似タルモノアリ是ニ由テ之ヲ觀レハ「ロバート、フキルマー」ガ右ノ書ヲ著ハセシハ其心中直ニ必要ト考ヘテ之ヲ著ハセシニシテ其忠勇絶倫ナリシハ後世勤王家ノ大ニ嘆美スルトコロナリ

然リト雖今ノ日本ニ於テ穗積君ノ如キ議論ヲ唱フルハ果シテ何ノ必要カアル我日本ノ解釋スルニ當リ果シテ穗積君ノ唱フル如キ議論ヲ以テ根據ト爲スノ必要アリク是余ノ疑フトコロ否余ハ寧ロ其必要無シト斷信スルモノナリ

我日本ノ臣民ハ萬乘ノ尊ヲ視ルコト英國臣民カ其王室ヲ思フノ比ニアラス我日本ノ臣民ハ其心中實ニ皇位ヲ以テ神位ノ上ニ置クモノナリ教育有ルモノモ亦然リ教育無キモノモ亦タ然リ之レト與ニ憲法ヲ解釋スルニ當リ家ニ於ケル天賦ノ元首ハ父母タルカ如ク國ニ於ケル天賦ノ主權者ハ民

民族ノ同始祖タリト述ベ我日本臣民ト皇室ト同祖ナリトノ趣意ヲ以テ憲法解釋ノ根據ト爲サン
 下欲スルハ是余ノ服セサルトコロナリ余ヲ以テ之ヲ見レハ我日本臣民ハ眞ニ皇室ト同祖ナリト
 ナルモ又假リニ之ヲ同祖ニアラストスルモ我國體ニ損益スルトコロ無シ何トナレハ我日本臣民ハ
 先天的ニ皇室ヲ崇拜スルモノナレハナリ願フニ我日本ニ於テハ未タ嘗テ文字ヲ學ハス未タ嘗テ
 史ヲ繙カサルモノ甚々多シ今此輩ニ向テ恐レ多クモ臣民ト皇室ト同祖ナリト言ハハ或ハ局々然
 トシテ驚クモノアラシ此輩必スシモ父母ヲ敬スルコトヲ知ラスト雖尙ホ皇室ヲ崇拜スル事ヲ知
 ル今此輩ニ向テ臣民ト皇室ト同祖ナルカ故ニ之ヲ崇拜スシト言ハハ或ハ茫然自失スルモノ
 アラン余ヲ以テ之ヲ見レハ我日本ニ於テハ臣民カ理ヲ以テ皇室ノ尊嚴ヲ説明スルハ非ナリ
 夫「ロバート、フキルマー」ハ忠ハ則テ忠然レトモ其議論ハ今日ニ在リテハ陳腐タリ獨リ穗積君ノ
 議論ハ陳腐ニアラサル事ヲ得ルカ若シ二三世期以前ニ穗積君ヲ歐洲ニ派遣シテ此ノ議論ヲ唱ヘシ
 メナハ「ロバート、フキルマー」ト與ニ並ヒ稱セラレシヤモ知ル可ラスト雖今日ニ在リテハ穗積君
 ノ論據ハ陳腐ニ屬スルノ感無キ能ハス老耄スル神官ヲシテ此ノ論據ヲ呈出セシメハ人之テ一笑ニ
 付センノミ穗積君ニシテ此ノ論據ヲ用フレハ人之ニ服スト言フカ(法協二八、五)

○公權ノ觀念

公權ノ觀念ニ就テハ學說紛々トシテ一ニ歸セス今之ヲ論スルニ當リ内外諸大家ノ說ヲ批評シ一々其非ナル點ヲ指採スルハ或ハ頗ル煩雜ニ涉ルベキモ亦已チ得ザルニ出ルモノトス公權ヲ論スルコト先チ先決問題トシテ權利ノ觀念ヲ定ルヲ以テ順序ナリトス權利ノ看念ニ關シテモ學說種々アリ然レドモ之ヲ大別スレハ第一、意思說第二、利益說第三、折衷說トナスコトヲ得ヘシ

第一、意思說 此說ヲ採ルモノハ曰ク權利トハ法ニヨリ與ヘラレタル意思ノ力ナリト此論ニ反對スルモノハ曰ク意思ハ權利自身ニ非スシテ權利ノ爲ニ存スルモノタリ若シ然ラストセンカ例ヘハ無能力者ト代理人トノ關係ニ於テ事實意思ハ代理人ニ存スルガ故ニ此說ニヨレハ權利ハ無能力者ニ在ラスシテ代理人ニ在ルベキナリ然レドモ是レ理論ヲ轉倒セシモノニシテ代理人ハ無能力者ノ權利ヲ行フモノニ外ナラス又意思說ニ從テ權利ハ意思ナリトセハ國家機關ノ如キハ各獨立シテ人格者トナルベキナリ例ヘハ國會ハ意思ナケレハ協贊ヲナス能ハス裁判官ハ意思ナケレハ法ノ解釋ヲナスコト能ハス又各機關ノ間ニ爭議ノ起ル場合ノ如キ是等ニ意思ナケレハ有リ得ラザルモノタリ此ノ如ク意思說ニヨレハ國家機關ハ國家ナル一人格者ノ下ニ數多ノ權利主体ニ分ル、結果トナル此ノ如キハ國家機關ノ觀念ト相容レザルモノナリ機關ハ權利ヲ有セズ單ニ權限ヲ有スルノミ故ニ意思說ハ取ルベカラズト

此駁論ハ必シモ然ラズ先ツ論者ノ擧タル第一ノ例ニ於テ無能力者トノ代理人トノ關係ニ於テ事實

上意思ハ代理人ニアリト雖其意思ハ法律上無能力者ノ意思ナリト云フチ得ザレバ權利ハ意思ナリトシテモ此場合ニ於テ權利ハ無能力者ニアルコトナルベシ又國家機關ノ意思ハ法律上國家ノ意思ニシテ國會ノ協贊ハ國家ノ意思ヲ作成スル方法タリ裁判官ガ法ノ解釋ヲナスハ國家ノ意思ノ働ナリ又機關ノ間ノ爭議ノ如キモ國家ノ意思ヲ構成スル所以ニシテ各獨立ノ意思アルニ非サルナリ故ニ權利ハ意思ナリトシテモ機關ハ必シモ權利主体タルノ論結ヲ生セズ

然ラハ意思說ハ絕對ニ可ナルヤ曰ク否ナリ何者權利ハ意思ナリト云フ時ハ反對論者ノ云フ如ク事實上意思ノアル處ニヨリテ權利ノ有無ヲ決スル能ハサルカ故ニ事實意思ノ何レノ處ニアルヤニ不拘法律上意思ハ何人ニ屬スルヤヲ究メサルヘカラス是ニ於テカ普通利益アル處ヲ定メ意思ヲ之ニ附シ因テ以テ權利ノ在ル處ヲ知ラサル可ラス前例ニ於テ無能力者ト代理人トノ間ニ事實意思ハ代理人ニアリト雖法律上ハ利益ノ在ル處即チ無能力者ニ屬スルモノナリトス然ルニ此ノ如ク利益ノ歸屬スル處ヲ定メ意思ヲ之ニ附スル時ハ或場合ニ於テハ甚奇怪ナル結果ヲ生スルトヲ免レス例ヘハ國家カ臣民ノ目的トシテ或行爲ヲナス場合ノ如キ直接ニ利益ヲ受ルモノハ臣民ナルカ故ニ意思モ亦之ニ屬シ從テ此ノ如キ行爲ハ臣民ノ權利ナリト云フ論結ヲ生ス若シ然ラバ國家ノ權利ハ大半臣民ノ權利ニ變シ去ルヘキナリ豈此ノ如キノ理アラシヤ故ニ意思說ハ未タ可ナラスト云フヘキナリ

第二、利益説 此説ノ主唱者ハ「イエリク」ニシテ其説ニ曰ク權利トハ法ノ保護スル利益ナリト是ニ對シテハ既ニ或學者ノ論スルカ如ク目的ト手段トヲ混同スルモノナリト云フコトヲ得即チ權利ノ目的ハ各人ノ利益ニアリト雖權利自身ハ利益ニ非ス權利ハ法ニヨリ人ト人トノ意思ノ範圍ヲ定ムルニヨリテ生ス權利ハ人ト人トノ關係ニシテ利益ハ多ク人ト物トノ關係タリ此點ヨリシテモ二者ノ性質一様ナラサルヲ知ルヘシ畢竟權利ハ目的ヲ達スル手段タリ若シ權利ヲ利益ナリトセハ意思説ヲ論スル場合ニ述タル非難ハ同シク適用サル、コト、ナルヘシ即チ國家カ各臣民ノ利益ノ爲ニ行フモノニシテ臣民ノ權利トシテ付與セサルモノモ皆臣民ノ權利タリト云ヒ得ルノ論結ニ至ル此ノ如クシハ國家行政ノ大部分ハ臣民ノ權利タリト云フ如キ奇怪ナル説トナルヘキナリ故ニ利益説未ダ可ナラスト云フヘキナリ

以上述ル所ニヨリ意思利益説共ニ權利ノ觀念ヲ定ルニ足ラス爰ニ於テカ折衷説ヲ生ス折衷論者ニ種々アリ然レトモ多クハ表面的ノ折衷ニ止リ歸スル處前二説ノ何レカニ傾クモノタリ或學者ハ權利ヲ論シテ自己ノ利益ノ爲ニ欲シ得ル力ナリトス此説ハ畢竟意思説ニ歸ス雖利益ノアル處ニヨリ權利ノ在ル處未定メントスルモノタリ又或者曰ク目的ノ爲ニ意思ノ何人ニ屬スルヲ問ハス之ニ法律上ノ効力ヲ與フルニヨリ權利アリト此説ハ畢竟利益説ニ傾クモノタリ即チ法ノ與フル利益ニヨリ權利ヲ定メ意思ノ何人ニ屬スルヲ問ハス利益ノ存スル處ニヨリ意思ニ効力ヲ與フルモノトス

唯此説ニ於テ利益ナル文字ヲ避ケテ目的ナル文字ヲ用ヒタルハ甚我意ヲ與タルモノアリ何者目的ハ多ク利益ニアレトモ悉ク利益ナリト云フヘカラス蓋シ目的ハ利益ヲ含ミ且是ヨリ廣キ意義ヲ有ス人ノ目的ハ必シモ悉ク利益ニアリト云ヒ難キ場合アリ且普通論者ノ如ク利益ハ必ス人ト物トノ關係アリトスレハ益目的ト利益トノ一致セサルモノアルヘシ例ヘハ債權ノ目的ハ人ノ行為ナリ人ノ行為必シモ物ニ關係アル場合ノミニ非スサレハ權利ヲ論スルニ當リ利益ナル狹キ文字ヲ用ユルヨリハ單ニ目的ト云フ廣キ文字ヲ用ユルヲ可トス

終リニ權利ノ觀念ニ付我國學者コ一種ノ説アリ曰ク權利ハ手段ニシテ目的ニ非ス目的ハ利益ナリ然レトモ之ヲ達スル手段トシテ權利ヲ認ム故ニ權利ノ實質ハ寧ロ意思ヲ原素トスルモノニシテ利益ヲ原素トセス更ニ一步ヲ進テ論スレハ目的ト手段トハ相離ルヘカラサルモノニシテ意思ト利益トハ主体ヲ異ニスルコトヲ得ルモノニ非ス利益ハ意思ノ目的ニシテ意思ハ利益ノ手段ナリ法カ一人ノ利益ヲ認ル時ハ同時ニ之ニ伴フ手段ヲ其人ニ與ヘサルヘカラス手段ヲ與フルトキハ同時ニ利益ヲ與ヘサルヘカラス若シ二者主体ヲ異ニスレハ意思ノ主体ハ欲スヘキ目的ナキニ如何ニシテ欲スルヲ得ルカ利益ノ主体ハ欲スル能ハサルニ如何ニシテ目的ヲ有スルカヲ解スルコト能ハス故ニ二者ノ一ヲ與フレハ他ハ之ニ伴フモノトセサルヘカラス例ヘハ無能力者ト代理人ノ關係國家ト其機關トノ關係ニ於テハ事實上代理人又ハ機關ヲ組織スルモノ、意思ハ無能力者又ハ國家ノ意思

リ畢竟利益ト意思トハ相離レサルカ故ニ其一ヲ舉レハ他ハ言ハスシテ之ニ從フ而シテ上述ル處ニ
ヨリ權利ハ手段ニシテ意思ヲ原素トスルカ故ニ權利ハ意思ナリト云ヘハ利益モ自ラ之ニ伴フモノ
ナリト

此論ニヨレハ權利ハ意思ナリトス即チ意思説ナリ唯利益ト意思ト相離レサルノ理ヲ附加セシノミ
利益ト意思ト離ルヘカラサルノ論ハ太タ佳ナリ然レトモ此論必シモ斬新ノモノニ非ス前述セル意
思説論者ノ内ニ在テモ之ヲ認ルモノ少カラス只此ノ如ク明白ニ論セサルノミ右ノ如ク此論ハ畢竟
意思説ニ傾クカ故ニ意思説ニ對スル非難ハ又免ル、コト能ハス此論者ト雖權利ノアル處ヲ定ルニ
ハ先ツ利益ノ在ル處ヲ知ラサルヘカラス事實意思ノ何人ニ屬スルヲ問ハス利益ノアル處ニ意思即
チ權利ヲ屬セシメントスルナルヘシ然ラハ始メ意思説ニ對シテ加ヘタル非難ヲ其儘此處ニ移シ來
ルヲ得ヘキナリ或ハ曰ク權利ト權利ノ主体トハ看念上別物タリ故ニ權利ヲ論スルニ當リテハ必シ
モ其權利ノ何レニ在ルヤヲ問ハスシテ可ナリ權利ハ意思ナリ權利ノアル處ハ利如ノアルトコロナ
リト別々ニ論スヘシト然リト雖權利ト權利ノアル處トハ別々ニ定ムベキモノニシテ權利ノアル處
利益ノアル處タリトセハ權利ノ看念ヲ定ル効用何レニアルヤ權利ヲ意思ナリトセシ必要何レニア
ルヤ寧ロ權利ハ利益ナリトシテ權利ノアル處ヲ共ニ明白ナラシムルヲ以テ優レリトナス、
以上種々ノ學説アレトモ未タ權利ノ看念ヲ定ムル能ハス爰ニ於テカ余ハ權利ヲ論スルニ意思又ハ

利益ノ一方ニ傾カス更ニ一ノ標準ヲ取來ラントス意思ト利益ト離ルヘカラサルハ最後論者ノ云フ
處ヘ如シ然レドモ其論者ノ如ク意思説ニ重ク置クヘカラス余ハ意思ト目的トノ二ツヲ合セテ標準
トナサントス意思ト目的ト合スレハ爰ニ行爲ヲ生ス行爲ハ意思カ目的ニ向テ發動スルモノタリ余
ハ行爲ニヨリテ權利ノ看念ヲ定メントス即チ權利トハ法ニヨリ主張シ得ヘキ行爲ナリトス行爲ト
云フトキハ目的ト意思ト共ニ舉ルカ故ニ權利ヲ知リテ更ニ其アル處ヲ極ルノ要ナク且ツ前述シ來
レル難問即チ國家カ臣民ノ利益ノ爲ニセシ行爲ニ付臣民ニ權利アリト論スルノ不都合ニハ至ラサ
ルヘシ例ヘハ通常一例トシテ舉ル處ノ國家カ保護稅ヲ徵收スルカ如キ場合ニ於テ前述セル諸説ニ
ヨレハ利益ノアル處即チ被保護者ニ徵收ノ權利アリトスルカ如キ奇怪ナル論結ニ至レトモ行爲ヲ
標準トシテ權利ヲ論シ且ツ利益ナル文字ヲ避ケ目的ナル文字ヲ用ユルカ故ニ疑モナク保護稅徵收
ハ明ニ國家ノ行爲ニシテ即チ國家ノ權利タリト云フコトヲ得

要スルニ余ノ説ニヨレハ法ニヨリ主張スルヲ得ヘキ行爲ヲ明ニスレハ權利看念ヲ定ルコトヲ得ル
ナリ終リニ一言スヘキハ權利ト權能トノ區別ナリ權能トハ能力ニシテ權利ヲ有スル能力ナリ權利
ハ此能力ニヨリ目的ニ向テ意思ノ發動スル處即チ行爲ナリ

以上述來ル所ニヨリ權利ノ觀念ノ大略ヲ知ルヘシ次ニ進テ公權ノ看念ヲ論セントス公權トハ何ソ
或學者ハ曰ク公權ハ人格權ナリ公權ハ法ニヨリ意思ヲ以テ人格ヲ主張スルニヨリ發動ス私權ハ權

能ニヨリ有スル利益ヲ主張スルニヨリテ生ス權能ハ即チ人格ナリト此論ニヨレハ權能自身ヲ主張スルハ公權ニシテ權能ヨリ生スル利益ヲ主張スルモノハ私權ナリト然レトモ此看念ハ甚解シ難シ例ヘハ普通何人モ公權ト稱スルモノニシテ權能夫自身ノ主張ニ非スシテ利益ノ主張ナルモノアリ例ヘハ國家ノ權利ノ中ニ於テ租稅徵收權ノ如キハ國家ノ統治權能ニヨリ生スル利益ヲ主張スル者モ其内ニ包含ス又一箇人ト雖公法上種々ノ手段ニヨリテ利益ヲ主張スル事ヲ得ルハ明ナリ是等ハ皆普通公權ト稱スル者タリ次ニ普通私權ト稱スル者ニシテ必シモ利益ノ主張ト云ハス權能自身ノ主張タル場合アリ即チ能力身分ニ關シテ此ノ如キ場合アリトス且ツ論者ハ權能ノ主張ト利益ノ主張トヲ明ニ分ツト雖多クノ場合ニ於テ二者相混シ一ノ主張ハ同時ニ他ノ主張タル者ナリ故ニ論者ハ結局公權私權ノ區別ハ必要ナラスト云フノ撞着ニ陷レリ畢竟論者ノ如キ區別ヲナスハ普通ノ觀念ニ反スルノミナラス強テ此ノ如キ區別ヲナス必要ナク却テ人ヲ惑ニ導クノ恐アル者トス

エリテツク其公權論ニ於テ公權私權ノ區別ヲ論シテ曰ク人ノ意思ハ其働ノ方法ヲ二分スルコトヲ得ヘシ乃チ欲シ得ルモノト欲シ能フモノト是ナリ欲シ得ルトハ天然ノ自由ニ基キテ意思ノ活動スルモノニシテ法律力之ヲ認メタル場合はナリ此ノ如キ對等ノ人格者間ニ於テ起ルヘキモノタリ然ルニ法ハ尙人カ自然ニ基テ有スル意思ノ外ニ自然ニ有セサルカヲ付與スルコトアリ是レ即チ欲シ能フモノニシテ國家アリ法アリテ始メテ生スヘキ力ナリ欲シ得ル行爲ト雖國家之ヲ保護スル點

ヨリスレハ欲シ能フモノト云フテ得ヘシ故ニ欲シ得ルモノハ必ス欲シ能フモノト相伴フ然レトモ之ト反對ニ欲シ能フモノ必シモ欲シ得ルモノト云フコトヲ得ス此點カ公權私權ノ分ル所ナリ欲シ能フモノハ即チ公權ノ範圍ニシテ國家ニ依リテ此カラ與ヘラルルモノナリ此ノ如キ意思能力ノ集合セルモノカ人格ヲ組成スト

此說ニ對シテハ既ニ或論者ノ如ク欲スルヲ得ルモノト雖法律上ハ天然ノ自由ニ非ス國家ノ承認ニ因リテ始メテ法律上ノ權利トナルナリ即チ國家カ此カラ付與スルモノナリ論者ノ云フ欲シ能フモノモ欲シ得ルモノモ皆法ニ因ルカ故ニ此區別ハ學理上充分ナリト云フ能ハス恰モ自然人ト法人トヲ區別スルニ似タリ自然人モ法人モ法律上ノ人格者ニシテ法カ認ムルニヨリテ權利權利ヲ有スルハ二者區別スル所ナシ故ニ理論上二者ノ區別ヲ要トセサルト相似タリ且ツエリテツクノ說ニヨレハ憲法上臣民ノ權利例ヘハ身体ノ自由住所ノ自由ノ如キハ天然ノ自由ニ基ツクモノナルカ故ニ公權ニ非スト云フカ是レ決シテ穩當ナル看念ト云フヘカラス此他公法上所謂自由權ノ中ニ在テ此ノ如キ疑ヲ生スヘキモノ尠カラサルヘキナリ以上ノ理由ヲ以テエリテツクノ說ハ採ルコト能ハサルモノトス

次ニ或ル學者ハ論ズラク公法カ國家又ハ其機關タル公法人ト私人トノ間又ハ公法人間ニ於ケル意思ノ限界ナルカ如ク公權ハ是等ノ間ニ於テ其一方ニ屬スル意思ノ力也然レトモ此等ノ間ニ於テモ

専ら公法人ノミ又ハ公法人ニ對シテノミ有スルヲ得ル權利ヲ稱シテ公權ト云フト此論ハ論者ノ公法ノ觀念ト相應スルモノニシテ公法ヲ論スルニ當リテモ廣ク國家又ハ其機關タル公法人ト私人トノ間又ハ公法人限ニ於ケル意思ノ限界ニシテ是等ノモノ、間ニ於テノミ起リ得ヘキ關係カ公法ニシテ普通私人ト私人トノ間ニ於テ起リ得ラレサルモノヲ指スト云ヘリ此論ハ誠ニ曖昧タリ何トナレハ單ニ私人間ニ起リ得ラレザル關係ヲ公法關係ナリトシテ如何ナルモノカ私人間ニ起リ得ラレサルカヲ示サス起リ得ルモノト起リ得ラレザル者トノ區別ノ標準ナキカ故ニ甚曖昧タリ例ヘハ國債募集ハ普通私人間ニ起リ得ヘキ合意ノ關係ナルカ故ニ私法關係ナリト云フカ然レトモ論者ハ公法ノ範圍ニ於テ明カニ合意關係ノ成立スルコトヲ認ム爰ニ於テカ區別ヲナスコト困難ナルヲ免レヌ且ツ國債募集ノ如キハ財政上重要ナル働ニシテ公法ニ於テ説クヲ至當ナリトス此ノ如ク公法私法ノ區別ノ標準明カナラサルト同シク論者ノ公權私權區別モ亦確ナル標準ナシ例ヘハ手數料ヲ拂テ公ノ營造物ヲ使用スル權ハ普通公權ナリトス然レトモ私人間ニ在テモ手數料ヲ拂テ他人ノ物ヲ使用スル場合多々アルベシ然ラハ營造物使用モ私人間ニ起リ得ル關係ト類似セルカ故ニ使用權ハ私權ナリト云ハサルヘカラサルカ甚タ疑ヲ生ス此ノ如キ場合ハ決シテ尠カラサルナリ然ルニ是等ハ私人間ニ起リ得ラレサルモノニシテ國家アリテ始メテ生スル關係アルカ故ニ私權ニ非ストセハ結局國家其他ノ公法人ト私人トノ間并ニ公法人間ノ權利ハ總テ公權ナリト云フト大差ナク論

者ハ私人ト私人トノ間ニ起リ得ル關係ヲ特ニ此内ヨリ除外シタル効果ナク結局古來ノ國家ト私人トノ間ノ規定カ公法ニシテ私人間ノ規定カ私法ナリトノ説ニ依リ公權私權ノ區別ヲ爲スト殆ント異ルトコロナキコトクナルヘシ故ニ此説モ亦タ公權ノ觀念ヲ確立セシムルニ足ラザランカ以上述フル所ノ諸説未タ公權ノ看念ヲ定ムルニ足ラズ余ハ既ニ述フル如ク公法トハ統治ヲ目的トスル關係ノ規定ナリトシテ公權トハ公法上ノ權利ナリトス公法及ヒ公權ト相對シテ私法トハ統治ヲ目的トセサル關係ノ規定ニシテ私權トハ私法上ノ權利ヲ云フ者トス故ニ公法關係ヨリ直接ニ生スル權利ハ公權タリ例ヘハ營造物規則ニ依リ各人カ營造物使用ノ權利ヲ得ル場合ニ於テハ營造物規則直接ノ目的カ公ノ使用ニ供シテ國民利福ヲ擧ケントスルニ在ルカ故ニ其使用權ハ公權タリ然レトモ國債募集ノ場合ノ如キ募集權ハ統治ノ目的ニ出ツルカ故ニ公權ナレトモ募集ヲ實行スルニ當リ箇々ノ債權債務ノ關係ヲ結フハ統治ノ目的ニ出ルモノト云フコト能ハス從テ公法ノ範圍外タリ故ニ此ノ如キ債權ハ必シモ公權ニ非ルカ如シ此外右ノ標準ニヨリテ區別セハ公權私權ノ看念ヲ知ルニ難カラサルナリ

以上大略公權ノ觀念ニ就テ説述シタリト信ス若シ夫レ公權發生ノ原因及ヒ其行使ニ關スル問題ハ他日ヲ俟テ論スルコトアルヘク今ハ總テ之ヲ省略ス(行政二一九)

○國家學ノ一新

文學博士 加藤 弘 之君

本會ノ雜誌ヲ見マヌルニ從來ノ演說ハ理財學ニ係ルモノカ十ノ七八ヲ占メテ居ル様テアリテ國家學ト云フハ殆ド理財學ノ別名歟ト疑ハシムル有様テアリマス、ソコテ小生ハ竊ニ甚ク奇怪ナルゴトニ思フテ居タゴトデアリマシクガ在獨穂積學士モ同様奇怪ニ思フタゴトト見エ雜誌ノ前號ニ掲載セラレタル來書中ニ其意味カ見エマシク就テト自今ハ理財學ニ屬セヌ部類ノゴトヲモ凡ソ國家學ニ屬スベキモノト俱ニ演說ノアル様ニ致シタイト思ヒマス、

諸小生ノ今日演說スルゴトハ是迄ク演說ト違ヒ全ク理論ニ屬シタ事デ實際上ニハ甚ク面白カラヌコトデアレハ大ニ會員諸君ノ氣ニ叶ハス哉モ計リ難クナレトモ併シ小生ハ理論ヨリ外ニハ何ニモ知リマセン加之理論ト申シテモ唯ツマラヌコトヨリ外ニハ知リマセンカラ題カ頗ル立派デアルニモ拘ハラヌ唯ツマラヌエトヲ迷ヘルノデアリマス左様ニ御承知アランゴトヲ希望シマス且ソ序ニ一寸申述ヘテ置キタコトカアリマスカ演說中往々西洋語ヲ用キテハ十分ニ意ヲ盡シ難イコトカアリマスカ小生ハ十分ニ英語ヲ存シマセヌカラ獨逸語ヲ用キマス是亦御承知アランゴトヲ希望シマス

今日日理學カ盛ニ開ケテ其カ爲メニ哲學モ亦次第ニ此理學ノ助ケヲ得テ 歩スル事トナリタル

以上ハ從來ノ國家學ハ到庭其勢力ヲ保有スルコトハ出來マイト思ヒマス國家學モ亦必ス理學ノ助ケヲ得テ從來ノ面目ヲ改メテハナラヌコトト考ヘマス何故ト申セハ理學ハ專ラ實驗ニ由ルモノデ其基ク所カ誠ニ確カナルモノテ決シテ疑ノ起ラヌモノデゴザルカラノゴトデアリマス

從來ノ國家學殊ニ國家ノ理論ニ係ル部分ハ全從來ノ哲學ヨリ出タモノテアル故ニ隨分空想妄談ニ屬スルコトカ多クシテ理學的ノ實驗主義ニ出タコトカ甚ク少イデアリマス尤モ古代ハ夫レテモ濟テ居タカレトモ今日ニ至リテハ最早夫レテハ到庭何ノ益ニモ立タヌイミナラヌ却テ有害トモナルコトデアリマシヌ

近來ノ有名ナル國家學者モトルアレンスブルンチリ上等ノ如キハ他ノ學者ヨリ餘程傑出シタ人トデアレトモ併シ今日ヨリ見レバ猶彼ノ空想妄談カ多イ又スチユアルトミルノ如キモ矢張猶空想妄談者流タルコトヲ免ルコトハ出來マセン、其他今日猶生存シテ國家學者ト泰斗トモ仰カレハ二老博士スタイングチネストノ如キモ殆ト同様デアリマス

小生ハ知ル所テハ近今ニアリテユンスタンチン、スランツト云フ人ハ大ニ從來ノ國家學理論ノ非ヲ悟リテVorschule der Physiologie der Staaten及 Die Naturlandes Statesト云ヘル書ヲ著シテ理學的ニ國家ノ理ヲ論究シマシク又今日現存ノ人ニアリテハ獨乙ゴエチンゲンノ大學教授エトリンゲンDer Kampf um das Recht及 Der Zweck im Rechtヲ著シ獨乙ブレメンノ判事ホスト

Das Naturgesetz des Rechts; Naturwissenschaft des Rechts; die Grundlagen des Rechts及 Ethnologisch Jurisprudenz 等猶數種ノ書ヲ著シ并ニストリケン、Physiologie des Rechtsヲ著シ、埃地利ダラツ大學國家學教授グムプロキツ、Grundriss der Sociologie及 Philosophische Staatsrecht 等ヲ著シテ皆俱ニ國家學若クハ法學ヲ理學的ニ論究シマシタ其他シエフレリ、ラインフェルド、スポンセル等ノ如キモ社會學上ニ於テ國家并ニ法律ノ理ヲ理學的ニ論說シマシタ

右様國家學ノ理論并ニ法理學ヲ理學的ニ研究スル人カ追々ニ出テ參リタテハアリマスナレトモ併シ何分ニモ今日ハ猶端緒ノ開ケタノミテアリマスカラ未タ十分ナル場合ニハ至リマセン無形物ノ理ヲ理學的ニ研究スルコトハ有形物ヲ研究スルヨリモ餘程難イコトデアリマスカラ到底急ニ完全ナルモノニハナリマスマイナレトモ併シ最早其端緒丈ケハ開ケタコト故今日ニアリテハ到底從來ノ空想妄談ニ屬スル國家學理論及ヒ法理學ハ永ク存在スルコトハ出來マイト思ハレマス

併シ左様ニ申シタノミテハ從來ノ國家學カ實ニ空想妄談ニ屬シ今日將ニ興ラントスル所ノ新國家學カ實ニ理學的ノ真理ニ叶フト云フノ道理カ未タ十分ニ了解シ難イコトデアリマスカラ是ヨリ姑クノ間其道理ヲ説明致ステアリマセフ尤モ少時間ノコトデアレバ固ヨリ唯概略ノコトヲリマ

ス

凡ソ從來ノ國家學ト云フモノハ大謬見カ土臺トナリテ成リ立テ居ルモノデアリマス其大謬見ト

學ハ如何ナルコト歟ト申スニ則チ吾人々類ヲ以テ本來萬物ノ靈長トシテ生レタル者デアルト臆測ミタコトデアリマス從來ノ哲學ニ於テハ多クハ吾人々類ヲ以テ上帝ノ肖像ト認メマシタ吾人々類ヲ以テ靈妙ナル智徳ル天賦ニ有スルモノト考ヘマツタ凡ソ天地萬物ハ悉皆吾人々類ノ爲メニ創造セラレタルモノテ吾人ハ天地萬物ノ主デアルト信シタコトデアリマス吾人ハ夫程迄ニ特殊ノ生物デテル故ニ又天賦ノ人權ト云フモノガ具ハリテ居ルト考ヘマシレ天賦ノ人權トハ如何ナルモノ歟ト申セバ即チ自由ト平等トノ權利デ此權利ハ人々皆生レナガラニ固有シテ居ルモノト考ヘマシタ

諸ソコデ諸君ノ熟知セラル、如ク近世ノ始メヨリト Naturrechtト云フモノガ起リテ天賦人權ヲ説キ且ツ人世ニ天然ノ法律ガ備ハリテ居ルト云コトヲ説クコト、ナリ夫ヨリ又 Gesellschaftsvertragノ主義カ起リテ國家ハ天賦ノ人權即自由、平等ノ權利ヲ用スル各個人ノ契約ヨリ成立タモノデアルト云フ議論カ出マシタ尤モ此民約主義ハ彼ローソニ至リテ最モ甚タシキモノトナリタナレトモ遂ニ佛國ノ轉覆亂ニ此民約主義ヲ實際ニ施行セントシテ却テ其弊害ノ最モ恐ルヘキコトカ分明ニナリタ所ヨリ幸ニシテ理論上ノ主義迄モ最早人ノ信用ヲ得ヌコト、ナリタデアリマスガ併シ近今ニ於テモ猶 Rechtsstaat 或ハ Individualismus ナトノ主義ガ行レテ矢張多少吾人ノ自由平等ヲ説クコトデアリマスナレトモ此天賦ノ人權ト云フコトガ全クノ大謬見デアリマス天賦人權ナド云モノ、アルト云フコトハ何モ證據ノ無イコトデアリマス然ルニ從來ノ國家學ト云フモノハ重モニ或ハ

Naturrecht、或はRechtssatz者、Individualismusト云フ様カ大謬見主義ガ土臺トナリテ築キ立テラレテアルモノ故ニ實ニ空想妄談ヲ免ル、能ハサルモノト申サネハナラヌデアリマス、
 然ラハ右ノNaturrechtチヤノRechtssatzチヤノ又ハIndividualismusチヤクト云フコトカ大謬見主義デアル、天賦人權自由平等ノ權利ナド云モノ、アルト云フ證據ハ決シテ無イト云フコトガ何ニ由テ分カリタ歟ト申スニ總テ理學ノ開ケルニ由ルコトデアルガ其中ニモ重モニハ最近開ケタ所ハ進化主義ニ由リテ分リタデアリマス諸君ノ熟知セラル、ガ如ク進化主義ニ由テ我人々類ハ始メヨリ人類ニテラス全ク生存競争自然淘汰ノ作用ニ由テ始メテ人類トナリタト云フノ道理ト并ニ生存競争ニ於テハ優强者カ何時デモ劣弱者ヲ倒スモノデ夫レニ由テ進化したト云フコトガ出來ルノデアルト云フ道理カ十分ニ明瞭トナリテ參リマシタ諸君等ノ道理ノ分ツタ以上ハ吾人々類ハ元來靈妙ナル智徳ヲ天賦ニ固有スル萬物ノ靈長タルモノデモ無イ上帝ノ肖像デモ無イ矢張元來ハ下等ノ動物デアリタト云フコトガ分カリタ諸君ナル物デアリテ見レバ獨リ吾人々類ニノミ天賦ノ權利杯云フモノアルヘキ道理ハ決シテ無イ唯優强者カ劣弱者ヲ壓倒スルト云フ道理ガ存スルノミデアルト云フコトガ分カリテ參ラネハナラヌデアリマス、
 Gesellschafstheorieヲ主張スル古代ノ學者ハ勿論ノコト今日Rechtssatzヲ主張スル學者ト雖モ矢張幾分カ天賦人權ヲ唱ヘテ智愚貴賤貧富ノ別オク皆自由ト平等ノ權利ヲ天賦ニ具有シテ居ルト云

フコトヲ説クコトデアリマス殊ニ此天賦權利中デモ生活ノ權利并ニ行爲及ヒ交際自由ノ權利杯ヲ以テ最モ重要ノモノト致シ此等ノ權利ハ敢テ犯スヘカラス又奪フヘカラスハ神聖ノ權利デアルト申スコトテ或學者杯ハ吾人ニハ生活ノ權利カ天賦ニ存スル故死罪ト云フコトハ廢セテハナラヌ死罪ハ即チ政府カ謀殺ノ罪ヲ犯スノテアル杯ト喧シク論シテ惻然ラハ死罪ニ代フルニハ如何ナル刑ヲ以テスレハ宜シキ哉ト問ヘハ禁錮又ハ流放等ヲ以テシテ唯罪人チ我社會ヨリ遠ケ再ヒ社會ノ害ヲ爲サシメヌ様ニサヘスレハ夫レテ宜シト答フルコトテ(スベヒトライヘンバフ等ノ如シ)アルガ是レガ頗ル自家撞着ノ論デアリマス何故ト申スニ行爲及ヒ交際自由ノ權利モ生活ノ權利ト同様ニ矢張天賦ノ權利デアルト申スナラハ賦罪カ生活ノ天賦權利チ害スル故廢セテハナラヌト申シタ其口デ直ニ行爲交際自由ノ天賦權利ハ妨ケテモ宜シトハ決シテ申セヌ道理デアアリマセンカ禁錮流放等總テ罪人チ我社會ヨリ遠ケルト云フ事ハ最モ行爲交際ノ自由權利ヲ犯スコトデアアリマセンカ實ニ首尾矛盾ノ論旨トセテハナラヌ事デアリマス併シ箇様ナル天賦人權家者流モマサカニ罪人ヲ刑セスニ置クト云フ工夫モツカヌデアリマセフカラ自然ト右様自家撞着ノ論カ出ルデアリマス死又右ノ天賦人權家者流ノ中ニ生活ノ權利ハ無論天賦權利ノ最モ重要ナルモノテハアレトモ併シ重罪人ヲ化刑ニ處スルハ己ムヲ得ヌコトデアル多クノ場合ニ於テハ社會ノ利害ハ一個人ノ權利ヨリモ大切デアル故ニ社會ノ幸福安全ヲ害スル者ハ據ナク死刑ニモ處セテハナラヌト説クテ(ブルンチ

リトノ如シ）アリマスカ併シ夫レテハ生活ノ權利ヲ敢テ犯スヘカラス奪フヘカラサル神聖ノ天賦
 權ヲト云フコトハ出來ヌテハアリマセンカ是亦全ク自家撞着ニナルテアリマス
 右ノ通故天賦人權家者流ノ説ハ何レモ自家撞着ヲ免ル、事ハ出來ヌテアリマス是レカ則チ空想妄
 談ノ主義ヲ信スルカラテアリマス天賦人權派云フモノハ決シテ無イ唯天地間ノ自然ノ法則ニ於テ
 ハ優强者カ劣弱者ヲ倒スモノテアルト云フ眞理ニヨレハ罪人ヲ死刑ニ處スル杯ノコトハ當然ノコ
 トデアリマス社會ハ罪人ヨリモ優强者テアル故ニ社會安全ノ爲メニハ劣弱者ナル罪人ヲ死刑ニ處
 スルデアリマス重罪ニ死刑ヲ以テセサレハ他日ノ懲戒ヲナスコトノ出來ヌ時節ニ死刑ノアルノハ
 當然ノコトテ惡イコトテモ何テモアリマセン

諸ソコテ天賦人權派云フ事ハサツバリ打棄テ彼ノ生存競争、自然淘汰ノ理即優强者カ劣弱者ヲ壓
 倒シテ夫レニ由テ進化カ出來ルト云フ生物学ノ主義ニ由テ吾人々類ノ世界ヲ觀察スレハ全ク眞理
 カ分明ニ分カルテ有マス吾人社會モ全ク一個ノ生物テアルト云フ事ハ近今ノ社會學ニ於テ明瞭ニ
 ナリタ事テ有マスカラ社會ヤ國家ノ理ヲ研究スルニ付テモ必ス生物学ノ理ニ依據セネハサラステ
 有マス生物ニアリテハ内外二種ノ生存競争カ有マスカ其外競争ト申スハ二個ノ同類若クハ異類ノ
 動物植物カ互ニ生存テ得シガ爲ニ競争スルヲ申シ又内競争トハ動物植物一個體メ内部ニ於テ其細
 胞又ハ細胞ヨリ成立ツ機關カ互ニ其生存ヲ得シガ爲ニ競争スルヲ申ステ有マスカ此事ハ近頃生物

井ニ生理學解剖學ノ學者カ追々論スルコトテ殊ニ獨乙プレスラウノ解剖學校ノ助教授ウキルヘル
 ム、ロウキスカ近頃Der Kampf der Theile Organismusト云ハル書ヲ著シテ委シク論究シマシタ
 サテ右ノ如ク動植二物ニ内外ノ競争カ有テ夫レテ進化カ出來ル如ク我人社會ニモ此自然ノ天則カ
 行ハレテ矢張内外ノ生存競争カアリマス其外競争ト申スハ各邦國カ互ニ其生存ノ爲メニ競争スル
 ヲ申シ又内競争トハ社會内ニ於テ其細胞タル各個人若シクハ各個人ヨリ成立ツ所ノ機關タル政府
 ト人民ト上等族ト、下等族ト、自由人民ト、奴婢ト、男子ト婦人トノ間等其外ニ於テ起ル所ノ競
 争テマリマス而シテ此内外ノ生存競争ニ由テ吾人社會ノ進化カ出來ルコトデアリマス諸此競争ニ
 於テモ動植物ノ競争ト同様ニ何時テモ優强者カ勝テ劣弱者カ負ケルノテアルカ夫レカ即チ進化ヲ
 促スノ術デアリマス

動物植物ニアリテモ又吾人ノ世界ニアリテモ不平等カアルカラ、ソコテコノ競争カ起リマス自由ノ
 アルモノト自由ノナイモノトガアルカラ、ソコテ此競争カ起ルデアリマス自由不平等ナラバ競争ノ
 起ルベキ道理カアリマセン古今ノ歴史テ觀レハ吾人ノ世界ハ何時テモ此競争ノ起ル舞臺デアリテ
 吾人ノ進化ハ全ク此競争ノ結果タル優勝劣敗テ出來タノデアリマス猶此後モ出來ルノデアリマス
 決シテ天賦人權自由平等テ進化ノ出來ヘキ答カアリマセン
 古代ニ於テ君主ノ權力カ強クシテ臣民ヲ壓制シタハ今日ヨリ見レハ惡事ト申スナレトモ此壓制

カアリタラハコソ夫レニ由テ社會カ牢固ニナリタテアリマス貴族カ平民ヲ自由ニ制馭シタノモ惡イコトノ様ナレトモ夫レニ由テ人民中ニ分業カ出來テ日常ノ仕事ハ之ヲ平民ニサセテ貴族ハ學術宗教政事軍事等ノ如キ高尚ナル仕事ヲ擔任シタカラ此分業ニ由テ社會ノ進化カ出來マシタ又自由人民カ奴婢ヲ勝手ニ使役シタモ矢張同様ノコトデ是亦今日ヨリミレハ惡シキコトナレトモ古代未開ノ時ニアリテハ全ク無權利ノ奴婢カアリタ爲メニ自由人民カ是ニ平常ノ仕事ヲ任セルコトカ出來テ爲メニ開化ヲ進メルコトニナリマシタ又男子カ婦人ヲ自由ニ制馭シタノモ矢張天理ニ背ク杯ト論スルナレトモ併シ夫レニ由テ男女ノ配偶カ堅クナリマシタ男子ノ壓制カナケレハ到底古代ノ共同配偶ノ風俗カ一變スルコトハ難イニ相違ナイ共同配偶ノ風俗カ起リソコチ男子カ婦人ヲ壓制スルコトカ始マラネハ眷族ト云フモノハ出來マセン眷族ノ出來タノハ即チ後世各個人ノ起ル基本トナリマシタ

サテ是等ハ皆即社會ニ所謂強者ノ權利 Das Recht des Stärkeren カ行レテ爲メニ社會カ進化シタノテアリマス然ル所カ文明人民ニ至リテハ後世君民ノ間、上等族ト下等族トノ間、男子ト婦人トノ間ニ於テ權力ノ懸隔カ漸々ト減シテ殆ト互ニ權力ヲ同クスルモノトナリマシタコトテアルカ是レモ矢張強者ノ權利ノ爲メニ出來タノテアリマス何故ト申セハ往古ハ人民ハ君主ニ對シテ弱者テアリ下等族ハ上等族ニ對シテ弱者テアリ婦人ハ男子ニ對シテ弱者テアリタ所カ此弱者ノ智識ノ進

歩スルニ隨テ此等ノ者カ最早弱者テハナクナリテ殆ト君主上等族男子等ノ如キ強者ト相對峙スルモノトナリマシタ夫故近今文明國ノ有様ハ宛モ強者ト強者ト對向ト云フヘキ有様トナリマシタカ夫レニ由テ社會ノ進化カ更ニ大ナルモノトナリマシタ故ニ是亦強者ノ權利ノ効績ト云ハテハナラヌテアリマス右様ノ次第テアル故ニ古モ今モ必ス強者ノ權利ニ由テ社會邦國ノ進化カ出來マシタ決シテ天賦人權ニ由テ進化カ出來タコトハアリマセン

諸吾人社會ニ於テモ生物ノ世界ニ於ケルカ如ク全ク生存競争自然淘汰ニ由テ進化カ出來ルト云フコトハ纔ニ十數年前ヨリ社會學者杯ノ發明シタコトテ是レハ全ク生物進化ノ學ノ開ケシ庇蔭ニ由ルニ相違ナイテハアルケレトモ併シスピノザハ既ニ二百年前ニ天地間ニ於テハ唯強者ノ權利ノミカ行ハルハト云フノ理ヲ論シテ天賦人權ヲ駁撃シタコトテアリマス尤モ強者ノ權利ト申シテモ實ハ權利トハ言ヘヌ權カト申スカ妥當テアリマス其實ニ此大哲學者ノ理論ハ驚クヘキモノテアリマス并ニ又詞人シルレルギエーテモ此理ヲ說テ居リマス併シ猶太古ニ溯レハ希臘ノ哲學者ブルタルフカ自然ノ法則 Naturgesetz ハ全ク強者ノ權利ノ行ハルハト云フコトヲ說キマシタ又支那ノ韓退之モ弱之肉之食ト申シマシタカ矢張同様ノコトテアリマス

併シ從前ハ強者ノ權利ト申セハ專ラ暴猛ノ權力ノミヲ申シタナレトモ史學者ヘルワルドハ今日文明社會ニ於テ優勝劣敗ノ行ハルハ有様ヲモ矢張強者ノ權利ノ行ハルハト致スコトテアリマスカ小

生モ之ニ同意スルテアルマス古代ノ暴猛ノ權力モ今日ノ穏和ナル權力モ元來ノ性質ニ於テハ變リ
ハアリマセン唯進歩シテ品格ノ宜シクナリタノミテ矢張強者ノ權利ニハ相違アリマセン古代ハ強
者ト弱者トカ懸隔シタ故ニ暴猛ナル權力カ行ハレマシタカ今日ハ既ニ申シタ如ク殆ト強者ト強者
トノ對向スル様ナル有様トナリマシタカラ夫レテ最早暴猛ナル權力カ行ハレ難クナリテ自然穏和
ナルモノトナリタノテアリマス尤モ今日ニ於テ強者ノ權利ト云フ字カ妥當テアラヌト思フナラハ
優者ノ權利ト申シテモ宜シカラウナレトモ併シ矢張同シコトテアリマス
諸右ノブルタルフ以來ノ強者ノ權利ト近世タルキシノ進化主義トカ全ク符合シテ愈々優勝劣敗ノ
自然法則カ疑フヘカラサルモノトナリタ故ニ天賦人權カ云フモノ、無イト云フコトモ亦愈々疑フ
ヘカラサルモノトナリマシタコトテアルカ諸此道理ノ全ク明瞭トナリタ以上ハ最早從來ノ國家學
ノ大土臺カ瓦解シテ仕舞タテアリマス併シ今日ニアリテモ國家學ノ理論ニ於テハ天賦人權ノ主義
ノ方ハ猶多數ヲ占メテ居ルナレトモ是レハ漸々ニ亡滅スルニ相違ナイテアリマス是ニ於テ國家學
ノ大主義ハ今日カ全ク一新ノ機會トナリタコトテアリマス今日ニ至リテハ從前ノ國家學ノ理論并
ニ法理學杯ト云フモノハ殆ト空想妄談ニ屬スルモノテアルト云フコトカ分カリテ參リタカラ漸々
新主義カ開ケルニ相違ナイナレトモ併シ今日ハ猶其端緒ノ開ケタノミノコトテアリマス
去リ乍ラ國家學ノ如キハ無形物ノ理ニ屬スルモノ故理學ノ實物ヲ相手ニ致スカ如ク何事モ實驗的

ニ致スコトカ甚タ難クアリマスカラ到底容易ニ理學ノ如キ進歩ヲナスコトハ出來マスマイ猶推測
ヲ以テ安セテハナラヌ年數カ隨分長イテハ有リマセフナレトモ併シ近來ハ統計學カ開ケテ漸々社
會ニ行ハル、自然ノ法則カ知リ得ラル、運ヒトナリタコトテアレハ此統計學ノ裨補ニ由テ大ニ國
家學上ノ實驗カ採取ルテアラフト考ヘラレマス

然ルニ茲ニ論者アリテ國家學ノ理論及ヒ法理學杯ハ右様ノ理ニ由テ漸々一新スルデアラフナレト
モ併シ實地ノ國家即設定國法學設定私法學并ニ設定行政法學等ニ至リテハ古新主義ノ爲メニ格別
變化ハ無カラフ變化ハ重モニ理論ニ止マルコトテ實際ニ迄ハ及フマイトノ説カ出ルヤモ計ラレヌ
コトテアリマスカ小生ノ考テハ理論カ變化スレハ實際モ隨テ多少變化スルデアラフト思ヒマス例
ヘハ病理學カ一新スレハ治療ノ術モ自然一新スルハ當然デアルト同様ニ考ヘマス尤モ夫レカ容易
ナコトテハアリマスマイ況ヤ今日ニ於テハ先刻モ申シタ如ク理論モ猶端緒ノ開ケタノミノコトテ
決シテ全備シタモノテナケレハ一新カ實地ノ上ニ及フコトハ更ニ遠イコトデアリマセフ併シ又實
際ノコトハ理論程ニ變化セヌモノテアル哉モ例レヌト思フ道理モ無イトハアリマセン何故ト申セ
ハ理論ハ實際ニ施サヌコトデアル故如何ナル理窟モ付ク所カラ自然途方モ無イ空論モ行ハレタナ
レトモ實際ノコトハ自然ノ法則ニ叶ハスシテハ一日片時モ行ハレヌコト故據ナク夫レニ叶フテ居
タコトモ多カラフト思ヒマス例ヘハ古代天文ノ道理ノ猶十分明カナラスシテ占星術杯ヲ唱ヘタ時

代カラ既ニ日月運用ノ進歩モ粗々出来又日月蝕ヲ豫測スルコトモ出来マシタ又漢方醫カ醫術ノ理論ト云ヘハ例ノ隱陽五行論ヲ持出スコトデアレトモ實際ノ治療ニ至リテハ往々治病ノ効績モアリタコトデアリマス即チ實際ノコトハ理論トハ違イ據ナク自然ノ法則ニ叶フモノテナケレハ行ハレヌ所ヨリ却テ早クヨリ夫レコト叶フタデアリマス國家學法學ノ上ニ於テモ是レト同様テ實際ノコトハ右ノ譯ヨリシテ據ナク自然ノ法則ニ叶フテ居タコトカ多クアリマセフカラ自今モ理論上ニ於ケル程ノ大變化ハ無イ歟モ知レマセン併シ土臺カ變化スレハ其上ニ築キ立テラレタルモノハ多少變化ヲ免ル、コトハ出来マスマイト思ハレマス

以上述ヘ來リマシタコトハ甚タ粗漏ヲ免レヌコトテ定メテ御了解モ難イコトト信スルナレトモ何分少時間ノコト故十分ニ述ヘルコトカ出来マセン故先ツ右様ナルコトニテ終局ト致シマセフ(國家、一〇)

○國權ノ發動ヲ論ス

パチエラー、オブ、ロー、山内康氏君

本問題ハ曾テ本誌第一號ノ社説末段ニ於テ論セラレタルコトアリ之ヲ閱スルニ論斷全ク予輩平日ノ見解ト同一ニシテ洵ニ符節ヲ合ハルカ如シ然レトモ説明稍々簡略ニ失シタルヲ以テ委曲ノ議論

ヲ知ルニ由ナキヲ憾トス是レ余輩ノ薄劣ヲ顧ミス聊カ蛇足ヲ加ヘント欲スル所以ナリ

己ニ社説ニ於テ斷定セラレタルガ如ク國權ノ作用ハ總テ外部ニ對シテノミ發動スル者ナリト云フベシ蓋シ外部ト云フハ即チ國土臣民ヲ指稱スルモノニシテ國權ノ作用トハ憲法上大權立法司法行政ノ四作用ヲ言フモノナレハ國權ノ作用ハ單リ外部ニ對シテノミ發動スルモノナルコトハ素トヨリ論無キ所ト云ハサル可カラズ大權ト云ヒ立法ト云ヒ行政ト云フモ皆ナ悉ク國土ト臣民ト上ニシテ行動スルモノニシテ決シテ内部ニ對シテ行動スルモノニ非ス内部ト云ヘハ國權自体ト其機關トヲ指稱スルモノナルカ故ニ國權カ内部ニ對シテモ均シク發動スルモノナリトセハ國權ハ國權自体ノ上ニモ發動スルモノナリト言ハサルベカラス是レ何人ト雖モ首肯セサル所ニシテ固トヨリ辯ヲ俟タサル所ナリ去レト國權カ其機關ニ對シテモ發動スルヤ否ヤニ至テハ世上反對ノ議論ナキニ非ス然レトモ要スルニ國權ハ遂ニ機關ノ上ニ發動セサルモノト云ハサル可カラズ蓋シ機關ハ機關ニシテ國權ノ道具タルニ過キササルカ故ニ寧ロ國權ノ一部ナリト言フベク又設令國權其物ノ一部ニ非スト雖モ常ニ國權ニ附隨シテ離ル可カラザル者ナレバ又國權ノ從物ナリト言ハサル可カラズ果シテ然ラバ機關ハ遂ニ統治ノ主体タル資格ヲ有スルモノト言ハサル可カラザルナリ然ルニ今若シ國權ノ作用ガ機關ノ上ニモ發動スルモノナリト云フトキハ機關ハ統治ノ客体ニシテ統治ノ主体ニ非ストノ論結ヲ生セサルヲ得サルニ至ル豈斯クノ如キ理アル可ケンヤ故ニ機關ヲ以テ統治ノ客体

本リト冒認スル者アラハ乃チ己モ否ラスンハ國權カ機關ノ上ニ發動セサル所以ハ智者ヲ俟テ後知ラサル所ナリト言フヘシ以上果シテ誤ナシトセハ勢ヒ數多ク疑問ヲ生セサルヲ得ス乃チ君主ヨリ其機關ニ對シ機關ヨリ其君主ニ對シ又々機關ヨリ機關ニ對スル幾多ノ命令其他ノ内部ノ行爲ハ抑々如何ナル國權ノ作用ニ屬スルヤ例ヘハ君主カ樞密院ニ或ル事項ヲ諮詢シ政府ニ或ル事項ヲ命シ議會ニ議案ヲ提出シ政府委員ヲ任命シ樞密院之ニ答ヘ政府之ヲ調査復命シ議會協贊シ承諾シ決議シ質問シ政府法律命ノ草案ヲ作リ諸般ノ計畫ヲ爲シ内閣決議シ行政部内亦々幾多ノ設備ヲ爲シ各種ノ調査委員ヲ置ク等アラユル内部百般ノ行爲ハ如何ナル國權ノ作用ニ屬スルヤノ點等是レナリ然レトモ余輩ノ見ル所ニ從ヘハ此等百般ノ事實ハ元來決シテ國權ノ作用ニシテ云々スヘキモノニ非ス或ハ立法ニ或ハ行政ニ或ハ大權ニ各々國權ノ發動セントスルニ至ル單純ナル事實ノ經過ナリト言ハサル可カラズ立法司法行政固トヨリ突然ニ發動スルモノニ非ス必スヤ一定ノ手續ヲ行ヒ一定ノ準備ヲ施シ一定ノ經過ヲ爲シテ始メテ其作用ヲ開始スルモノナリ内部百般ノ行爲及諸種ノ關係ハ一ニ此準備手續ニ關スル事實ナリト云フヘク只々其事實タル或ハ法令ノ規定ニ基キ或ハ之ニ基カサルノ區別アルニ過キス其ノ單純ナル事實タルノ點ニ於テハ固ヨリ何等ノ差異アルニアラサルナリ君主專制ノ國家ニ在テハ内部關係一ニ單純ナル事實ニ依テ決セラルハ常則トシ立憲制ノ國家ニ在テハ内部關係一ニ專ラ單純ナル事實ニ依テ決セス必スヤ詳密ナル規定ニ基キ

法律關係ヲ構成スル所ノ事實ニ依テ決セラルハ常則トス其ノ事實ヲ構成スルニ最モ整備セル法令ノ規程ヲ有スルモノヲ以テ發達シタル立憲國トハ之ヲ稱スルナリ斯ク論シ來ルトキハ内部ノ行爲又ハ關係ニシテ制度上法令ノ規定ニ基カサルヲ得サル場合ニ於テ若シ其規定ニ背キタルトキハ設令一ノ事實ナリト言フト雖モ勢ヒ其行爲又ハ關係ハ之ヲ無効トセサル可カラズ之ヲ無効トスルトキハ是レ一ノ權力作用ニシテ單純ナル事實ト同一視スヘキモノニ非ストノ反方向ハ當然發生セサルヲ得ス然レトモ又々余ノ考フル所ニ從ヘハ其ノ無効トナルハ敢テ國權ノ作用トシテ國權自ラ進シテ之ヲ無効トスルニ非スシテ法令ノ規定ニ撞着スル瞬間ニ於テ其行爲又ハ關係自ラ當然ニ消滅スルモノナレハ同時ノ瞬間ニ於テ其行爲又ハ關係ハ法律上已ニ業ニ全ク消滅ニ歸シ無効ノ斷定ヲ實際上與フル時ニ於テハ最早其存在ヲ有セサルモノトナルヘシ只々其繼續シテ存在スルハ法律眼ヲ以テスレハ全ク單純ナル事實タルニ過キサルナリ果シテ然ラハ其無効トナル點ニ於テ權力關係發生ストハ決シテ論定スヘカラサルナリ若シ又々其行爲又ハ關係カ法令ノ規定ニ撞着スル瞬間ニ於テ當然消滅スルモノナリトセハ消滅其物ハ實ニ其ノ行爲又ハ關係カ國權ノ作用ヲ受ケタル當然ノ結果ナルニ非スヤト論駁スル者アラシカ是レ又々克ク究メサルノ論ナリト言ハサル可カラズ蓋シ法令ノ規定アリテ之ニ背キタル行爲關係カ無効トナル場合ニ於テハ其背キタル行爲其者既ニ機關ノ行爲ニ非スシテ機關ノ假面ヲ着ケテ顯ハレタル單純ナル一ノ事

實ニ過キサルモノナレハ之ヲ以テ直ニ國權ノ作用亦タ機關ニモ及フモノト考フルハ到底粗雜ノ見
 タルヲ免レサルナリ若シ夫レ官吏ノ免官、官吏議員ノ懲戒ハ素ト是レ官吏又ハ議員タル個人其者
 ニ對スル處分ニシテ之カ爲メニ國權機關ニ及フモノト爲スノ非ハ辯セシテ明ナル所ナリ
 之ヲ要スルニ國權ノ作用ハ常ニ外部ニ對シテノミ發動スル者ニシテ如何ナル場合ト雖決シテ内部
 ニ對シテ發動スルモノニ非サルナリ蓋シ機關ニ内外ノ二アリ内部ニ於テ君主ヲ補翼スルノ内部機
 關ト外部ニ於テ君主ヲ補助スルノ外部機關ト乃チ是ナリ樞密院帝國議會及政府ノ一部ハ内部機關
 ニ屬シ行政官府裁判所及政府ノ一部ハ外部機關ニ屬ス内部ノ機關ハ政略ヲ決定スルヲ其職務トシ
 外部ノ機關ハ政略ヲ實行スルヲ其職務ト爲ス政略ノ決定ト實行トヲ合シテ之ヲ所謂政治ト稱シ政
 治ヲ稱シテ國法上之ヲ統治ト云フ統治ハ乃チ君主一人ノ行フ所ニシテ之ヲ行フノ權力則チ之ヲ統
 治權トハ言フナリ(行政八)

○「ナチヨナリテイト」ト國家トノ關係ヲ論ス

男爵 平田 東 助 君

第一節

方今五洲ノ中、國ヲ建ツルモノ其ノ數甚タ多シ上ハ歐洲ノ文明國ヨリ下ハ亞弗利加加濠斯太利ノ

蠻野國ニ至ルマテ其ノ間ニ文野貧富強弱大小ノ差アルコト管壤モ管ナラスト雖モ其ノ國土人民
 ヲ有シ一定ノ秩序ヲ設ケ國家ノ形ヲ作スニ於テハ皆等シトス而シテ此等ノ國ノ中其ノ建國ノ始ヲ
 尋スレハ遙ニ二三千年ノ古ニ遡ルモノアリ或ハ數百載ノ間ニ在ルモノアリ或ハ僅ニ百載ニ滿ジテ
 ルモノアリ而シテ其ノ初メ國ヲ建ツルノ事情形勢ハ千態萬狀ニシテ隨テ其ノ建國ノ規模及ヒ體裁
 モ亦各々齊シカラス然リ而シテ人種ノ如何ヲ問ハス風土ノ異同ニ拘ラス苟モ既ニ家ヲ成シ村ヲ爲
 シ相群居スルニ至レハ皆自ラ一國ノ形ヲ組成スルヲ以テ之ヲ觀レハ必ズヤ人類ヲシテ國家ヲ建設
 セシムヘキ一種最強ノ勢力ナクンハアルヘカラス而シテ此ノ立國ノ原因タル勢力ニ於テ論スル者
 古今其ノ說ヲ同クセス

曰ク國家ハ天帝ノ意ニ據テ成ル故ニ復タ天帝ノ創造ニ外ナラザルナリト是レ即チ神道政體ノ主義
 ニシテ往昔猶太國民ハ實ニ此ノ說ヲ牢信セリ然レトモ若シ果シテ天神ニシテ自ラ國ヲ創造セルモ
 ノトナストキハ則チ其ノ政ヲ行ヒ其ノ法ヲ定ムルモ天神親ラ之ヲ爲スヘキヲ以テ其ノ時々託宣又
 ハ示現等豫メ明瞭ニシテ視察ヲ得ヘキ徵驗ヲ降シ以テ其ノ令意ヲ傳フヘキナリ又何ソ人間ニ假ス
 ニ智識ト自由トヲ以テシ之ヲシテ自ラ政ヲ治メシムルヲ要センヤ古今歴史ノ實證ニ據テ之ヲ視ル
 ニ其初メ國家ヲ創立シ及ヒ之ヲ後世ニ維持スルモ又其力漸ク衰ヘ政衰ク弛ミ遂ニ亡滅スルニ至ル
 モ皆人ノ精神思想腕力熱望此ノ四ノ者ノ消長與廢ニ因ラサルハナク曾テ天神ノ手カラ之ヲ司命シ

タル跡ヲ見ス彼ノ各國ノ其ノ政ヲ行フニ方向全ク相反シ甲ノ良憲暴令ト爲ス所ノモノハ乙ハ恰モ之ヲ惡政弊法ト爲シ加之ナラス干戈ヲ交ヘテ相屠殺スルニ至ル若シ一ノ天神ニシテ自ラ邦國ヲ治ムト謂ハ、何ノ故ニ同時ニ此ノ如キ氷炭相容レサルノ政略ヲ指定スル乎之ヲ要スルニ天神爲政ノ欺説ハ理論上ヨリスルモ實際上ヨリスルモ荒唐不稽ノ談タルヲ免レサルナリ

或ハ曰ク國家ハ威力ノ壓服ニ由テ成ル即チ強者ノ權利ニ因テ立ツト此說ハ往々理學者中ニ於テ唱フル所ナリト雖トモ特ニ勢威ヲ以テ政ヲ擅ニセント欲スル暴君若クハ革命黨ノ間ニ行ハルハ、非常トス是ヲ以テ其ノ擅橫無限ノ暴權ヲ飾ハント欲スル辭柄トナセリ抑々威力ノ國家ヲ立ツルニ必要ナルハ歷史上常ニ其實跡ヲ觀ル所ニシテ復々論ヲ俟タスト雖トモ亦獨リ威力ノミニ由リテ國家ヲ成立スルコト能ハス彼ノ兵力ヲ以テ他ノ國ヲ奪ヒ已レ取テ之ニ代ルカ若キモ必ス先ツ辭柄ヲ設ケテ已レノ權利ヲ主張シ聽カサルニ至テ始テ威力ヲ用キルヲ常トス即チ權利ハ主ニシテ威力ハ從タルナリ故ニ威力ハ如何ナル際ニ在テモ獨リ自ラ權利ヲ生スル能ハサルハ明ナリ然レトモ國家ハ常ニ必ス威力ヲ要シ若シ威力ナケレハ亦隨テ權利ナク假令ヒ之レ有ルモ勢保存スル能ハス國家ノ政令法規ハ其ノ主權ノ外亦威力ヲ他チ制服スヘキモノアリテ之ヲ遵奉セシムルニ至テ始テ能ク行ハルヲ得ヘキナリ

或ハ曰ク國家ハ人民隨意ノ盟約ニ由テ成立スルモノナリト此ノ說ハ「ホッブズ」并ニ「ブッフエ」

「ドルフ」ノ兩人ニ起リ後チ「耳聾」カ彼ノ有名ナル社會盟約論ヲ著スニ至テ漸ク世ニ行ハレ輒近佛國革命ノ時ニ及テ非常ノ勢力ヲ得今日ニ至テモ此ノ說ヲ主張スル者亦少カラス抑此說タル適々無政府論者ヲシテ由テ以テ口實ト爲サシムルニ足リ且ツ多數ノ少數ヲ壓制スルニ偶々其人辭柄ヲ設ケシムルモノニシテ全ク歷史上立國ノ實跡ト相反セリ間々兩國ノ君主互ニ約束シテ其ノ國ヲ合セ新ニ政體ヲ定ムルコトアリト雖トモ未タ曾テ商社又ハ其他ノ協會ヲ立ツルカ如キ契約ヲ以テ國ヲ立テタルモノヲ見サルナリ若シ果シテ國ハ人民隨意ノ盟約ニ成ルモノナラシメ、何ヲ以テ能ク萬民ヲ統合シ一定ノ法律ヲ立ツルヲ得ルヤ何ヲ以テ能ク主治者ト被治者トノ別アルヲ得ルヤ是ニ由テ之ヲ考フレハ畢竟妄誕人ヲ惑スノ邪說ト謂ハサルヘカラス

夫レ以上ノ三說ハ並ニ皆立國ノ本源ヲ論シテ其ノ此正鵠ヲ誤リタル者ナリ然ラハ則チ國家ハ果シテ何ニ由テ起ルヤ抑々人ノ性質ハ天然各相齊カラスト雖モ其ノ聚リテ一家トナリ一村トナリ一族民トナルトキハ亦更ニ一種共同ノ感覺ヲ發生シ遂ニ一ノ共同體ヲ組成スルニ至ル彼ノ族長若クハ首長ノ下ニ集屬スル一部落ノ民衆ハ即チ是レ國家ノ萌芽ナリ然ラハ則チ國家ハ人ノ天性ト需求ト又此人需求ヲ充タスヘキ智力トニ因リテ成ルモノニシテ「アリストトリテレス」カ所謂人ハ國家ヲ創立スヘキ原性ヲ有ストハ是レナリ「ダールマン」曰ク國家ハ單ニ需求ノ切ナルニ因リ又ハ智巧ニ由リテ之ヲ發明シタルモノニアラス商業上ノ株券會社ノ如ク若クハ工業上ノ機關ノ如ク組成シタル

モノニ非ス人其ノ太初ノ天然生活ヲ棄テ立國ヲ契約シタル時ニ成ルニ非ス又立國ハ人ノ免ルヘカ
ラサル厄難ニシテ僅ニ漸ヲ以テ平治スヘキ病害ノ如キモノニモ非ス抑々立國ハ人世秩序ノ始ニシ
テ缺クヘカラサル自然ノ情勢ニ成リ且ツ人類ノ之レニ由テ漸ク開明ノ極域ニ達スヘキ智能ノ一ナ
リト

夫レ國家ハ既ニ天帝ノ創造ニ非ス又威力ノ結果ニ非ス又人民險意ノ盟約ニ由テ成ルニモ非ス單純
ナル自然ノ人性ニ原テ創造セラル、モノトセハ此ノ人性ハ萬國ヲ通シテ皆同一ナラサル能ハス而
ルニ彼ノ各國ノ制度文物互ニ相異ニシテ一モ相齊シキモノアルヲ見サルハ抑々何ソヤ

第二節

蓋シ人ハ洲ノ異同ヲ問ハス種族ノ如何ヲ論セス其身體及精神ノ構造ハ更ニ相異ナル事アルナシ野
蠻ナル亞弗利加人モ文明ナル歐羅巴人モ其肢體五官及ヒ藏府ノ構造ヨリ喜怒哀樂愛惡ノ情感ニ至
ルマテ皆相同カラサルナシ然レトモ若シ細ニ之ヲ視ル時ハ白人アリ黃人アリ赤人アリ黑人アリ形
ニ大小長短アリ其面骨格ト形體精神ノ差トニ至リテハ五洲毎ニ異ナルハ勿論、各國各部皆相殊
ナリ(各國各部ノ中ニ於テモ亦人々相齊カラスト雖モ是レ大同小異ナル者ナレハ今暫ク大異ナル
者ニ就テ言ヲ立ツ)而シテ此ノ各異ノ性質ハ亦其ノ創立スル所ノ國家ニ種々各様ノ性質ヲ與ヘ
制度文物互ニ齊シカラサルヲ致スナリ然ラハ則チ此ノ各異ノ性質ハ果シテ如何ナル原因ニ起ルカ

是レ其ノ國土ノ氣候形勢肥瘠ニ由ラスンハアラス寒帶ノ地方ニ住スル國民ハ一身ノ自由ヲ固守ス
ルコトヲ好ミ國家ヲ合一統率スル能ハサルノ弊アリ而シテ熱帶地方ニ住スル國民ハ其權利ヲ保護
シ自由ノ國家ヲ設立スルコト難ク寧コ身ヲ屈シテ暴政ノ下ニ苦痛ヲ忍ブノ傾アリ民ノ性質ノ寒暖
ニ由テ差ヲ生スルハ獨リ寒帶熱帶ノ地方ニ於テ之ヲ見ルノミナラス同一ノ國土及ヒ同一ノ民族中
ニ於ケルモ亦然リ其ノ稍々寒冷ノ部ニ住スル民ハ沈肅勇勁ニシテ能ク事ニ忍耐シ其ノ稍々暖和ノ
部ニ住スル民ハ燥烈剽輕ニシテ物ニ感シ易ク自ラ智思推想ニ長セリ「ゼアン、ポーデン」カ北方人
ハ戰ニ於テハ必ス南方人ニ勝ツト雖モ其ノ勝ツ所ノモノハ實際上ニ於テ復々之ヲ失フト言ヘルモ
亦過言ニ非サルナリ又土地ノ形勢ハ國民ノ性質ニ著天ナル關係ヲナスコトハ地理家ノ常ニ明確ナ
ル證據ヲ舉クル所ナリ世界開闢ノ後初メテ成立セル大國ハ概テ大河ノ沿岸ニアラサルハナシ彼ノ
印度ノ「インヅース」及ヒ「ガンゲス」兩河ニ於ケル埃及ノ「ニル」河ニ於ケル小亞細亞ノ「チグリス」
「オイフラート」兩河ニ於ケル支那ノ北江(今ノ揚子江ナリ)ニ於ケル如キ是ナリ蓋シ大河ノ濱又ハ
海瀕及ヒ島嶼ニ居ル民ハ舟楫ヲ用ヒ溝渠ヲ通シ水利ヲ使用スルカ爲メ自ラ豁達ノ氣象ヲ養成シ且
ツ他ノ人民ト交通シテ貿易ノ途ヲ開クヲ以テ其ノ開化自由ノ域ニ達スルコト大陸ノ民ニ比スレハ
速ナリ而シテ山間ノ民ハ常ニ勞働スルニ慣レ崎嶇ヲ跋涉スルカ爲メ體力自ラ強健トナリ且ツ日常
嶄然タル峻峻ノ山嶽ヲ望ムニ因テ志氣自ラ壯勵ニシテ剛介ノ風ヲ帶ヒ敢テ他人ノ令ニ從フヲ喜ハ

ス然レトモ頑陋守舊ノ性質ヲ有シ猶ホ山嶽ノ變移スヘカラサルカトキコトアリ然リ而シテ廣漠ノ大野ニ居リ河川山嶽ヲ有セス常ニ一定不變ノ生活ヲ爲スニ慣ル、民ハ茫漠トシテ氣力ヲ具ヘス概テ專制政治ノ下ニ在ルヲ免レス土地ノ肥瘠ハ是レ亦國民ノ性質ニ關スルコト甚タ少カラス土地甚タ饒肥ナレハ民其ノ食ニ裕カナレトモ多クハ遊惰怯弱ノ風ヲ爲ス抑々人ノ食ヲ求ムルハ勞力ヲ勸ムルノ最強杆ナリ若シ此ノ杆ナケレハ人皆遊惰ニ流レ奢侈ヲ事トスルノミ故ニ人智問ケス國勢振ハス熱帶地方ノ民是ナリ然レトモ之レニ及シラ土地甚タ礫瘠ナレハ民其ノ食ヲ得ルニ由ナク戸口稀疏コシテ國ヲ成ス能ハス「バツクル」カ所謂蒙古及ヒ達旦ノ民族ハ初メ其ノ地ニ在ルニ方リテハ不開ノ種族タリシモ支那及ヒ印度ノ耕地ニ移ルニ及ヒテ大ニ進歩ノ徵ヲ顯シ回々宗ノ亞刺比亞種族ハ其ノ礫礪ナル本國ニ在テハ更ニ開明ニ進ム跡ナカリシモ「ベルシヤ」及ヒ地中海ノ濱ニ移ルニ至テ其ノ立國ノ規模復タ昔日ノ比ニ非ストハ乃チ之ヲ証スルニ足ルナリ

第三節

人類ハ氣候地理及ヒ地味ニ因テ各々固有ノ性質ヲ異ニスルノミナラス且ツ互ニ言語ヲ異ニスルカ故ニ其ノ風俗ヲ齊クシ言語ヲ同クスルモノ相共ニ個々ニ隔離シテ各所ニ群居ス而シテ此ノ固有ノ性質及言語ハ其ノ血統ニ因リ其ノ教育ニ從テ子孫相襲キ永世ニ保存シテ復タ消滅スルコトナシ即チ此ノ固有ノ民情ヲ名ケテ「ナチヨナリテート」ト云フ凡ソ孰レノ民ヲ問ハス苟モ其ノ「ナチヨナ

リテート」ヲ同クスルモノハ自シ兄弟親戚ノ思アリテ互ニ抱負提携シ他ノ民ニ對スレハ常ニ專ラ之ヲ防守センコトヲカム北亞米利加ノ山中ノ一村ニ移住セル英佛兩國ノ民ハ共ニ雜居スルコト殆ト百有餘年コシテ兩國ノ風俗言語素ト甚タ相類スルニモ拘ハラズ今ニ至テ仍ホ依然トシテ各々其ノ舊樣ヲ改タスト云ヘリ故ニ「ナチヨナリテート」ハ立國天然ノ基礎ニシテ即チ國家ノ原素ト稱スルモ不可ナキナリ然レトモ民族ハ天然ノ國民ニシテ必ス各々不羈特立ノ國家ヲ創立スヘキ性質ヲ有シ元ト相分合スヘカラサルモノト言フヲ得ス族民中或ハ國家ノ創立ニ緊要ナル自治共同ノ精神ヲ有セス又ハ豪邁不羈ノ性質ヲ欠クモノアリ或ハ然ラサレハ勢力弱小ニシテ特立スル能ハサルモノアリ斯ノ如キ族民ハ他ノ族民ノ附庸トナリテ其ノ保護ヲ仰キ若クハ之ト合併連結シテ僅ニ能ク國家ヲ立ツルヲ得ルモノアリ又ハ其ノ性質タル完全ノ國家ヲ建設スヘキ能力ヲ有スルモノ其ノ國內各部ノ地勢及ヒ沿革ノ異ナルニ由リ或ハ其ノ各部ノ議論相合セサルニ由リ一族ニシテ數國ヲ分立スルモノアリ獨逸埃地利瑞西ハ元來同族民ナルモ相分離シ英ト米トハ同ク諸吉撤遜族民ナルモ東西ニ兩個異體ノ國家ヲ分立シタルカ如シ是ノ故ニ國家ハ數多ノ小族民ヲ合同シテ成ルモノアリ或ハ族民ノ一部ヲ割テ成ルモノアリ畢竟國民ト族民トハ二種異體ノモノナルコト論ヲ俟タズ然レトモ古今歴史ノ實跡ニ就テ之ヲ見ルニ數多ノ族民ヲ合シテ成レル國ハ常ニ共同惟一ノ精神ニ乏ク族民中互ニ嫉惡競爭ノ念ヲ逞クシ國內恒ニ穩カナラス政府ノ權力一ニ弛ミ衰ルトキハ土崩瓦解シ

テ復タ收拾スヘカラサルニ至ル之ニ反シテ其ノ族民中最モ強大ノ一族アリテ國家ノ柱礎トナリ至民ノ心志及性質ヲ統御スルモノアルカ或ハ全民ヲ擧ゲテ一ノ純粹ナル族民ニ成レル國家ニ在テハ國家常ニ鞏固ニシテ勢力亦自ラ強大ナリ或ハ外患内訌等ニ由テ一時分裂スルコトアルモ忽チ再ヒ共同シテ舊態ニ復シ易シ而シテ是レ皆其ノ思想言語慣習風俗ノ異同ニ因テ起ル結果ニシテ「ナチヨナリテート」ノ國家ニ至大ノ關係ヲ有スルコト知ルヘキナリ蓋シ此ノ關係ハ古ヨリ歷史上ニ於テ着々其ノ跡ヲ見ル所ナリト雖トモ當世紀ニ至ルニ及テ大ニ其ノ勢力ヲ煥發シ復タ爭フヘカラサル國家ノ主義トシテ政治上ニ於テモ學問上ニ於テモ之ヲ敬崇セサルヘカラサルコト、ナレリ學國ノ普特力第二世曾テ其著ズ所ノ「アンチマケウエリニ」ニ書シテ曰ク人皆各々其ノ性質ヲ異ニス而シテ天又此ノ固有ノ殊異ヲ國家ノ性質ニ賦與セリ國家ノ性質トハ其ノ國土ノ形勢廣狹、國民ノ戶口及ヒ思想、貿易、慣習、法律、強弱、貧富、主産ノ如何ヲ謂フ云々ト又「ボーヂン」曰ク「自然ニ從テ組織セル政體ハ其ノ人民固有ノ性情ト進化ノ度トニ適合セサルコトナシ」ト此ノ僅々タル數言ハ以テ政治ノ模範國家學ノ原則ト爲スヘキモノニシテ千古不朽ノ金言ト謂フヘシ夫レ國ニ王治アリ貴族政治アリ共和政治アル所以ノ者ハ元ト偶然ニ成ルニ非ス天然其ノ民ニ固有スル所ノ性質アリテ此各種ノ政體ヲ創立スルニ由レルナリ故ニ其ノ國憲ハ亦必ス其民ノ性情ニ從テ制定シ專ラ理論上ノ推測ニ據ルヘカラスモシ君主政治ノ民ニ共和政治ノ法政ヲ施シ貴族政治ノ民ニ君主政

治若クハ共和政治ノ法政ヲ行ハントセハ民ノ悅テ之ニ服センコトヲ望ムモ豈得ヘケンヤ是レ彼ノ「ボーヂン」カ所謂其民固有ノ性情ニ適セス即チ自然ニ背反セル政法ニ非スシテ何ソヤ況ンヤ又國家ハ自己ノ意思動作ヲ備ヘタル一個ノ人體ニ外ナラスシテ自ラ長幼壯老ノ期アリ故ニ其思想ト身體トニ於テ亦未成熟期ト成熟期トノ別アルナリ然ラハ則チ之カ國家ヲ治ムル者各々其ノ時期ニ從テ適宜ノ法政ヲ定メサルヘカラス若シ未成熟期ノ國民ニ施スニ成熟期ノ法政ヲ以テシ成熟期ニ達シタル國民ニ行フニ未成熟期ノ法政ヲ以テスルカ如キハ是レ皆「ボーヂン」カ所謂民ノ進化ノ度ニ適合セサルモノナリ(國家七)

○立憲政體ノ將來附立法ノ方針及選舉法

法學博士 穗積 八 束 君

私ハ是レト云ツテ御話スルコトモアリマセヌガ立憲政體ノ將來ノコト、ソレカラ近頃問題ニナツテ居リマス選舉法ナドノ關係ニ就テ世間ニモ注意シテ貫ヒタイト云フコトヲ簡單ニ御話シテ見ヤウト思フ

政治家ト學者トハ各々見ル所方違ヒマスカラシテ、私共ハ實際ノ政治ノコトニモ當リマセズ、サウ云フ事ニハ關係ガ疎イコトカラ立憲政體ノ運用トカ之ニ關聯スル選舉法ノ利害得失等ニ付テハ

少シ世上ノ人ノ見ル所ト違フノデアリマス從來歐羅巴デモ日本デモ立憲政体ハドウ云フ事カラ起ツタカト言ヒマス實ハ極ク單純ナ哲學的ノ議論ガ一ノ原因トナリ又一ハ封建政治ノ餘波トシテ君主ガ人民ヲ壓制シタト云フ時ノ弊害、此ノ二ツガ原因トナツテ今日ノ立憲政体ガ起ツタモノデアリマス哲學的ノ單純ナ理論ト云フノハ一言ニシテ申セバ人間、平等ナ者デアアル自由ナ者デアアル又平等ナル權利ヲ有サナケレバナラヌトカスウ云フ單純ナル理想のノコトガ學問ガ開ケルト共ニ人ノ頭ニ一般ニ行渡リマシテ昔ノ貴族平民ト云フ如キ階級的ノ制度ヲ破リ所謂民權ヲ主張スル若シクハ自由ヲ崇ブ或ハ平等ヲ望ムトカ云フヤウナ聲ガ高クナツテ來ル然シテ遂ニ佛蘭西ノ大革命ヲ惹起スヤウナコト、ナツタノデアリマス然ルニ從來カラノ歴史ヲ見マシテモ單純ニ學者ガ理論ヲ唱ヘタカラトテ一片ノ理論デ世ノ中ガ左様ニ動クモノデハナイ何レ學者ノ唱ヘル理論ハ時ノ勢ニ投合シテ其風潮ニ乘リ合ハスカラシテ世上チ支配スルノデアアル若モ例ヘバルーント云フ如キ人ノ單純ナ理論ガルーソ一個人ノ考デアリマシタナラバ左様ノ影響ハ無カツタノデアリマス併シ丁度其時代ニハ佛蘭西デモ他ノ歐羅巴ノ國デモ國王ノ中央集權ガ甚ダシイモノデスカラ人民ガ苛酷ナ政ニ苦ンデ居タ時代デアアル何トカシテ壓制ガ免レナケレバナラヌト云フ實際上ノ苦痛ヲ感シテ居ツタ時代ダカラ恰度其苦痛ヲ免ルル好キ口實トナリ機會トナツタノデアアル、ソレテ佛蘭西ノ大革命即チ舊天地ヲ覆シテ所謂立憲政体ノ基ヲ爲シタウハ其理論ト其時ノ政治ノ弊害トガ結び着

イラ働イタ結果デアアル此事ハ委シク申マセヌガ有名ナ佛蘭西ノ歴史家ノテームト云フハガ佛國革命歴史ニ最モ明瞭ニ論ジテアリマス其勢ニ依ツテ作り爲サレタル所ノ立憲政体ガ歐羅巴大陸諸國ニ行ハレ遂ニ今日ノ日本ニマデモ及ンデ來タメデアリマス此立憲政体ノ考ト云フモノガ今日ニ至ル迄モ世上ノ人ノ觀ル所デハ甚タ單純ナモノデアツテ人民ハ參政ノ權ヲ得ナケレバナラヌ人民ハ自由ヲ得ナケレバナラヌ政府ハ壓制ヲシテハナラヌ民權ヲ主張シナケレバナラヌト唯權利トカ自由トカチ主張シテサウシテ立憲政体トハ自由ト權利トチ全ウスル目的ノモノデアアルカノ如ク誤解シテ來タノデアアル是レハ歴史的二見、又々學者的二見ルト云フト太ダ淡白過ギタ話デアツテ斯フ云フモノテ決シテ人間ノ國家的發達ノ目的ハ達セラレルモノデハナイノデアリマス吾々ハ肉體ヲ具ヘタ動物デアアル自由權利ハ大切デアリマスケレドモ虛心平氣ニ考ヘテ見マスト幾ラ自由ヲ貫ツテモ幾ラ權利ヲ貫ツテモ腹ガ空イテハ働ケナイ錢ガ無ケレバ活セナイ身体ガ虛弱デハ何事モ出來ナイ詰ル所一個人トシテモ社會全体トシテモ歸スル所ハ人間社會ノ幸福ト云フハ實質的利益ヲ得ナケレバ成立タヌモノデアアル權利自由ハ大層大切ノコトノヤウデアリマスケレドモ、ソレハカリテハ何ノ益ニモ立タヌ今ニ御覽ナサイ世ノ中ノ人十二分ナル權利ヲ與ヘバ選舉權ヲ擴張シテ全國ノ人皆選舉權ヲ有スト云フヤウニスルト面倒臭イ警察ダノ法律ダノト云フモノヲ成ベク省イテ運動ノ出來ルヤウナ方法ヲ與ヘルト見テ、ソレハ一個人ニ於テモ社會ニ於テモ決シテ目的

ヲ達シハシナイ世ノ中ノ人々ハ自分ノ最終ノ目的ヲ能ク了解シナイノデアリマスカラシテ唯口ニハ自由ヲ與ヘヨトカト權利ヲ與ヘヨトカ言ヒ升ケレドモソハ必竟自分ノ目的ヲ解シ得ナイノデ眞正ニ其望ム所其欲スル所ハ我ニ米ヲ與ヘヨ我ニ暖キ衣物ヲ與ヘヨ錢ヲ與レヨ健康ヲ與レヨト云フノガ眞正ナル終局ノ目的デアル

政治家デモ學者デモ世上ノ人ノ呼聲ニ迷ハサレテハナリマセヌ彼等ハ權利ガ欲シイ自由ガ欲シイト言ヒマスケレトモ實ハ其欲スル所ハ財産、幸福ノ實益ニアル事ヲ了解シナケレバナラナイ是ハ當リ前ノコト、私ハ思フ併シ存外世間ノ政事家トカ論客トカ云フ人ハ重ク見テ居ラヌカラ將來ニ於テ此立憲政体ヲ運用シテ行クニ就テ思ヒ違フシテ困ル事ガ有ハセヌカト懸念スルノデアリマス吾輩ノ見ル所デハ立憲政体モ既ニ我國ニ試ミテ今日マデハ結果ノ好イ發達ヲシテ居リマスケレドモ立憲政体ハ詰リ道具テアツテ(スキ)トカ(クワ)トカ云フ道具ニ止マツテ幾ラソロヘマシタ所ガ目的ニハ前途遙カノ事ト思フノデス然ルニ先刻モ申シタ通りニ誤解ガアルガタメニ立憲政体ノ完成ヲ期スルナド、大キナ事ヲ言フ人達ガ何ヲ望ンデ居ルカト云ヘバ矢張り選舉權ヲ擴張シナケレバナラヌトカ民權ヲ主張シナケレバナラヌトカ又ハ政黨政治ニシナケレバナラヌトカ云フ外面ノミデ意味ノ無イコトヲ言フテ騒イデ居ルノハ、マダ、ハ餘程幼稚ナ時代デアルト思フノデアリマス成程立憲政体ニナリマシタ以上ハ所謂政黨ト云フ者モ起ルデアリマセウ、ケレドモ政黨ヲ組ン

テ大多數ヲ占メテ、サウシテ政府ノ權力ヲ取り遣リヲシテ見タ所デ決シテ其目的ヲ達セヌノデアリマス個人的ノ卑劣ナ話ヲシテ見ルハ其様ナ騒ニ乗ジテ微々タル報酬デモ得ヤウドカ微々タル虚榮デモ貪ラフト云フナレハ、ソレハ又ソレダケノ目的ハアツマセウ大臣ニナリタイトカ知事ニナリタイトカ、サウ云フ目的モアリマセウ、ソレナ事ナラハ大キナ國家ノ問題トシテ政黨ヲ見ルニハ足ラヌノデス政黨ニ重キヲ置テ見ル所以ハ何デアルカトイヘバ何カソレニ付テ社會全体ノ利害ニ關スルコトデナケレバ一向ニ局外者ガ政黨ニ重キヲ措ク必要ハナイノデアリマス併シ敢テ日本バカリヲ惡ク言フノデアアリマセヌガ歐羅巴デモ同ジコトデアル學者ノ眼カラ見ルトキハ何ノ爲ニ政黨ナド、云フモノガアノ様ニ騒イデ居ルノガ解シ得ナイ寧ロソレヨリハ勞働者ガ組合ヲ作ツテ資本金ニ迫ツテ賃銀ヲ上クサセヤムトカ又ハ之ニ反對スルガタメ資本金家ガ組合ヲ作ツテ勞働者ノ賃銀ヲ値切ツテ安クサセ聯合ノ勢ヲ以テ自己ノ利益ヲ計ルトカ斯ウ云フ黨派ト云フモノハ其趣意ガ能ク分ル彼等ハ衣食ニ窮シ財産ヲ欲スルガタメニ其目的ヲ達スルガタメニ團結シタリ運動シタリスルノデアリマスケレドモ權利トカ自由トカ云フ虚名ノミデ實際ニハ何ヲ欲ヌルヤ他人ニモ自分ニモ分ラヌコトデ以テ多數ガ寄集マツテ黨派トカ何トカ云フテ騒グノハ是ハドウモ實益ノ少ナイコトデアリマスカラ立憲政体ノ將來ニ於テハ私ハ永續シナイコトデアラウト思フ所謂經過時代ノ現象デアツテ歴史ノ進ミ行クニ従テ永クハ續カヌコト、思フ

然ラバ將來ニハドウナラウカト思ツテ見レバ政治的黨派ガ盛ニナルヨリハ寧ロ社會的ノ黨派ガ盛ニナルデアラフト思フ社會的黨派ト云フノハ社會的ノ實利實益ヲ欲スル所ノ聯合體デアラフ政治的黨派ト云フノハ所謂今日ノ政黨デ甲黨乙黨ト分レテ居リマスケレドモ其間ニドレ丈ノ主義方針ガ違フカト議ヘバ何モ大シタコトハナイ何ヲ看版ニ指ケテ騒グカト云ヘバ唯權利トカ自由トカノ虛名ニ過ギナイ個様ナ事ハマダ幼稚ノ争テ到底永續スルモノデハナイト思ヒマス所ガ將來ニ於テハ政治的黨派ガ一變ヲシテ社會的ノ黨派トナルデアラウ社會的黨派トハ例ヘバ經濟問題ニ於テ云ヘバ今日ノ經濟組織デハ富ム者ハ益々富ミ貧ナル者ハ益々貧ニナツテ斯テハ吾々貧民ハ行立タヌニ依テ社會ノ組立ヲ幾分カ改良シナケレバナラヌト云フ如キ方面カラ來ルノガ最モ勢ガアルダラウト思フ世上デ云フ社會黨虛無黨ナドハ一種ノ極端ナル黨派デアリマシテ一概ニ人ノ財產ヲ集メテ平分シヤウトカ政府ヲ法律ト云フモノハ社會ヲ毒スルモノデアラカラ之ヲ打潰シテ仕舞ヘト云フ極端ノ論デ是レハ空想ノ一ツデ容易ニ行ハレヌコトデアリマスケレドモ、サシテ極端ナ事ヲ言ハストモ今日既ニ社會的ノ改良ヲ目的トスル黨派ガ澤山ニ起リ社會ノ組織ト云フモノハ唯々財產ノ經濟ノコトバカリデハアリマセヌ元ヨリ宗教ノ事モアリ道德ノコトモアリ教育ノコトモアリ種々ノ事ガアリマスガ其中デ人間ノ免ルベカラザル第一ノ主要ト云フモノハ經濟ニアルノデスカラ經濟上ノ問題ニ此形跡ガ現ハレテ來ル順序ニナル因テ私ノ考ヘル所デハ久シキニ出デズシテ立憲政

體ガ良イトカ惡イトカ云フコトハ人ガ飽キテ來ル立憲政體ハ完全ナ政體デアアル之ヲ得レバ吾々ハ満足スルナド、云フヤウナ時代ハ既ニモウ過去ツタコト、ナツテ立憲政體デアラウガ君主專制デアラウガ其様ナ名義ニハ少シモ構ハズ自由デアラウガ壓制デアラウガ權利デモ束縛デモソナ名義ニハ拘ラナイ十公ニ寛カニ衣食住ガ出來、德義モ發達シ身體モ強壯ニナリ然シテ平和ニ濟ムコトヲ得レバ如何ニ壓制ナ政體デモ如何ニ束縛ナ法律デモ少シモ厭ハヌト云フ考ニ向ハザルヲ得ヌト思フノデス將來ノ立法ハ斯ウ云フ方面ニ向ツテ來ルト私ハ斷言シテ宜シカラウト思フ將來ノ人民ハ吾々ヨリハ一層智惠ガ附キレイリニナル今ノ人民ニ對シテハ選舉權ヲ擴ゲテ遣ルトカ憲法ヲ發布シテ遣ルトカ云フコトガ非常ナ恩惠ナヤウニ思ツテ、ソレテ満足サセルヤウニ思ヒマスケレトモ將來ノ人ハナカナカサウハ往カヌト思フ然ルニ此社會的ノ問題カ一番解釋ニ苦シイテス立憲法ヲ書イテ國會ヲ開イテ法律ノ上テ人民ニ權利ヲ與フルト云フ事ハ實ハ大專業デアリマスケレトモマタマタ言ハ、紙ト筆テ政府ノ威力カアレハ出來ルコトデアリマスケレトモ多數ノ人民カ飯カ喰ヘマセヌ塞クテ困リマスト云フ時ニ之ニ飯ヲ喰ハセ衣物ヲ着セルト云フコトハ憲法ヲ作ル手ヨリハ一段銳イ腕カナケレハ救濟シテ往クコトハ出來ヌト思フ

餘計ナ話テハ有マスケレトモ近頃新聞紙ヤ世上ノウワサテモ亞米利加ニハトラストトカ云フ者カ行ハレル或ハ歐羅巴ニハ貧民救助ノ道カ開ケテ居ルトカ色々ナ社會的ノ話ヲ能ク致シ升此トラス

ト云フコトハ法律上ノ言葉トシテ何テモナキコトヲ唯々自分ノ權利ヲ人ニ依託シテ行ハシメルヤウナコトカラ起ツタテアリマス唯今テハ其意味ヨリ離レテ大聯合ト云フコトニナツタ製造トカ資本トカ云フモノカ銘々競争スルト品物ノ價值ヲセツテ直チニ廉價ニ賣ラナケレハナラナイカラ茲ニ於テ申合ヲナシ品物ノ價值ヲ高クシ同盟シテ安ク賣ルマイト云フ所カラ利益ヲ我カ仲間ニ得ヤウト云フノテアリマス又一方ニ於テハストライキト云フコトモ諸君ノオ聞及ノコトテアリマセウカ勞働者モナカナカ負ケテハ居ラナイ同盟シテ幾ラ以上ノ賃銀ヲナケレハ働カナイト云フテ百人ヤ千人カ働カナクテモ尙ホ他ニ澤山働ク者ノアル間ハ恐ル、ニ足ラナイカ大聯合ヲナシテ働カヌ時ニハ如何トモ致シヤウカナイスノ如クニ經濟上ノ利益ノ競争ノ問題ニナルト一日テモ社會ノ車カ廻ルノカ止ツタ時ニハ世ノ中ニ若々豫防的ニ法律ナリ制度ナリヲ作ツテ社會ニ對シテ豫メ備ヘルテ未タ大キナ困難カ起ラヌ中ニ若々豫防的ニ法律ナリ制度ナリヲ作ツテ社會ニ對シテ豫メ備ヘル所ノ立法方針カナクテハナラヌ併シトウモマタ現今ノ明治社會テハ其所マテニ手カ及ヒ兼ヌルヤウテアル詰リ其必要ナルヲ深ク感セヌガラテアリマセフ

私カ右様ナオ話ヲスルノモ此ノ頃選舉法ノ改正ヲスルト云フヤフナ話カアリマスノテ矢張り聯想シテ意見ヲ述ヘルノテアリマス昨年來政治家ノ議論モ聞キ新聞紙上ノ議論モ見マシタ併シ何ヲ論シテ居ルカト云ヘハ大選舉區カ宜イトカ惡イトカ單記カ宜イトカ連記カ宜イトカ少數ヲ代表シナ

ケレハナラナイトカ是レ等ノ問題ハ學問上カラ見ルト極ク表面ノ小サイ問題ト云フヨリ外思ハレナイ左様ナコトハ利害得失ニ就テ實ハ私共モ大シタ問題トハ思ハレヌノテアリマス第一政黨ト云フモノカ立憲政体ヲ運用スルト云フコトヲ前定シテカラノ問題テアル大選舉區ニスレハ大政黨カ代表者ヲ得ラレルトカ又少數代表ト云フ方法ニ依レハ小サイ政黨モ幾分カ代表者ヲ出スコトカ出來ル今日所謂政治的ノ黨派ヲイツ迄モ立憲政体ノ基礎テアルト見テソレヲ土臺ニシテ割出シタ僅カナ範圍ニ於ケル利害得失ノ話ニ止ツテ居ル併ナカラ今ヲ話シタ通りニ政黨ナドト云フコトカ今日所謂政治的ノ單純ナル權利トカ權力トカノ爭奪タケノ目的ノ黨派テアルノハ是ハ長イ間ノコトヲハナイ詰ル所社會的ノ實利競争ノ衝突ノ時代トナルニ極ツテ居ル其事ヲ能ク考ヘヌト選舉法ナトヲ如何ニ改正シタカ宜イカト云フニ就テ左様ニ容易ク判斷ノ出來ルモノテハナイ法律ハ國會テ議サナケレハナラナイシテ見ルト社會ノ經濟的各階級ノ軋轢ト云フコトハ議會ノ上ニ現ハレテ來ナケレハテラナイ其時ニ當テハ自由トカ權利トカ進步主義トカ保守主義トカ云フ單純ナコトヲ決シハシナイノテアル例ヘハ製造家ノ利益ニナルコトハ何處マテ利益ニナル法律ヲ作ルコトニ努ムルテアリマセウ土地ノ所有者ノ利益ニナルヤウナコトハ何處マテモ極端ニ地主カ押通ステアリマセウ又社會ノ中テモ資本ヲ持テ居ル者無資力ヲ働イテ居ル者種々ナル境涯ニ違カアリマスカラ是等ノ利害ノ衝突ハ悉ク議會ノ波瀾ノ上ニ現ハレテ來ルヤニナル之ヲ豫想シテ參政權ヲ與ヘ之ヲ豫

想シテ議會ヲ構造シナケレハナラナイ單純ニ參政ノ權カアルトカ投票ノ自由テアルトカ云フコト
テ、サフシテ立憲政体ハ詰ル所政黨政治テアルトカ政黨ノ權力テアルトカ云フコトヲ見テ選舉法
ヲ作り則チ議會ノ組織ヲナスコトハ餘程淺薄ナルコト、言ハナケレハナラヌト思ヒマス近
頃佛蘭西ヤ獨逸アタリノ有名ナル學者達ノ書物ニハ屢々見エテ居ルコトテアリマスカ世ノ中ハ詰
リ利益ノ争ニ歸スル併ナガラ利益ノ争チカツクニ任シタ時ハ社會ノ組織チ打壞スカラ國家トカ國
憲トカ云フモノガアツテ矢張り各黨派ノ利益ノ衝突ヲ押ヘツケテ調和シテ往ク所ノ中心ノ力ガナ
クテハナラヌ、國家トカ法律トカ云フモノハ此社會的ノ利益ノ衝突ヲ調和スル道具デアルト云フ
コトヲ言フテ居リマスガ無論サフナケレハナラヌノテアリマス國家ハ立法機關デアツテ其調和ス
ル地位ニ立ツ者デアアル調和スル所ノ地位ニ立ツ天切ナル國會ノ分子タル者ハ如何ナル者ヲ集メタ
ガ宜イカト云フハ大切ノコトデアアル唯人民ハ平等ナル權利ヲ有スルガ故ニ選舉權ヲ與ヘルト云フ
ガ如キ單純ナ者テハ到底其目的ヲ達シ得ナイト思フ
蓋シ國會ヲ組織スルニ就テ最モ理想的ノコト、云フ者ハ社會ニ於ケル種々ナ利害ヲ成ベク其儘ニ
寫眞ヲスルガ如クニ國會ヲ寫シ出スコトガ目的デアアルノデアアル、其ニハ選舉權ノ分配、選舉區ノ
配當ト云フモノハ將來ニ於テ唯年齡トカ納稅ノ高トカ或ハ府縣トカ市トカ云フヤウナ單純ナ區別
デアハナイ時節ガ起ル土地ヲ持テ居ル者家ヲ持テ居ル者或ハ或種類ノ製造ヲスル者勞働者或ハ資

本家、學者モアレバ宗教家モアル慈善家モアリ貴族モアリ平民モアルト云フヤウニ種々數ヘ立テ
ルコトノ出來ナイ利害ヲ共ニスル小團體ガ集リ重ナツテ此社會ヲ爲シテ居ルノデアアルカラ成ベク
其混沌ナル實況ヲ縮寫シテサウシテ國會ニ現ハシテ社會社會全体デワイ多數ヲ軋轢シテ騷グコト
ヲ此三百トカ六百トカ云フ小サイ數ノ中ノ騷ギニスクヒ上ゲテシマツテ其處デ十分ニ闘ハシテ公
平ナル法律ヲ作ル事ヲ目的トシナケレハナラナイ國會モナク參政ノ權モ與ヘヌ時ニ於テハ其騷ギ
ハ全國ノ衝突歐リ合ニナツテ仕舞フノデアアル、ソレヲ僅カナ人數ニ限リ僅カナ範圍ニ縮メテ其處
デハ十分ニ物ヲ言ハセ争ハセテ公平ナル政治ヲシヤウト云フノガ代議政体ノ根本ノ主義デアアル夫
レヲ達スルニハ其目的ニ適フヤウナ選舉ノ區劃モ拵ヘナケレバナラナイ目的ニ適フヤウナ選舉權
ノ分配モセテバナリマセヌ斯ウ云フ事ハ將來ヲ遠ク見タ話デ目下實際家トカ政治家トカ云フ人ニ
話シタ所ガ學者ノ空論トシテ顧ミラヌデス所謂實際家政治家ト云フ者ハ今日ノ事ノミヲ見ルノ
デアリマスカラ選舉トカ代表トカ云フコトノ利害得失ヲ論ズルニ眞トニ議論ノ範圍ガ狭クテ困ル
ノデアリマス選舉區ト云ヘバ是レハ府縣ニシヤウカ又ハ其中ノ小サイ區劃ニシヤウカト云フ位ナ
話デ土地ヲ區劃スル位ノコトニ考ヘテ居ル選舉區ノ作り方ニ依ツテ何モ地理的ニ分ツニハ及バナ
イ即チ職業的ニ別ツテモ宜シイ人ノ區劃ニ依ツテ別ツテモ宜シ又參政權ヲ與ヘル標準ニシマシタ
所デ租稅ヲ五圓ニシヤウカ十五圓ニ仕繰カト云フ位ナ小サナ問題ニ止マツテ居ル左様ナコトデハ

唯今述べた様ナ大問題ニハ適合セヌノデアル租税年齢位ノコトテハナイ向事ヲ標準トシテモ宜イ
 ノデアル女ニハ選舉權ヲ與ヘナイト云フコトハモウ雖モ異存ノナイ問題ノヤウニシテ居ルガ將來
 ニ於テハナカナカ其様ナコトガ言ヒ通セルモノデハナイ女ダノ男ダノト云フ區別ハ小サイ問題デ
 アツテ、ドウ云フ所ニ標準ヲ取ラナケレハナラヌカトイフコトハ學者ノ頭テ見ルト實ニ混雜シテ
 惑ヲ生スル甚タ多キコトデアル然ルニ世上テハ洵ニ淡白ニ考ヘテ居ル此等ハ世ノ實際家大政治家
 ヲ以テ任スル人ハ能ク學者ノ議論ヲモ容レテ能ク將來ヲ考ヘテハナルマイト思フ併シ法律ハ大切
 ノモノテハアルガ時ノ宜シキニ從ツテ時々ニ變ヘナケレハナラヌカテ唯將來ヲノミ見テ今日ノ法
 律ヲ作ツタ所ガ其ノ用ヲ爲サヌカモ知レヌ、ソレハ今日ノ人民ノ智識ノ程度ニ於テ相應シタ法律
 ヲ作ルハ勿論當然デアル併シ今日作ツタ法律ヲ將來ヲ羈束スルコトハ到底出來ヌトイフコトモ能
 ク知ツテ居ラテハナラヌ此ニ氣附カスシテ唯立憲政体ガ良イトカ悪ルイトカ選舉權擴張ナド、論
 シテ居ルノハ餘リ單純ニギルノニ驚クノデアル
 私ノ議論ハ大方ニ於テ誤解ノナキヤウ希望スル私ハ立憲政体ハ實ニ宜シイト思フテ居ルノデア
 ル今日ノ時代ニハ今日位ノ選舉法ヤ憲法ノ程度位ガ宜シカラウト思フノデアル決シテ之ヲ惡ルイト
 イフノ意見デハナイガ歴史ヲ見、將來ヲ慮ルトイフト今日ノ事ハ今日ダケノ用ヲナスノ決シテ
 永キ間ノ問題ヲ決スルニハ足ラヌモノデアルト信ズルノデアリマス(行政一)

○統治權ヲ論シテ憲法ノ規定ニ及ブ

法學士 島田 鐵吉君

統治權ハ主體ガ客體ヲ絕對無限ニ支配スルノカナリ故ニ主體ト客體トヲ離レテ統治權ノ存在シ得
 ベキ理由ナク統治權ノ觀念ニハ常ニ其主體ト客體トガ伴フ換言スレハ統治權ハ絕對的ニ存在スル
 モノニアラズシテ相對的ニ存在スルモノナリ
 我大日本帝國ニアリテハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス即チ天皇ハ統治ノ主體ナリ然ルニ學者ハ國家
 ガ主體ニシテ天皇ハ其最高機關ナリト説クト雖下ニ述ブルガ如ク余ハ統治關係ハ事實ナリトナス
 ガ故ニ天皇ト至ク別ナル國家ガ統治ストイフゴトハ我歴史ニ徴シ解スル能ハサルヲ以テ此説ニ從
 ハス
 統治ノ客體ニ付テハ學者或ハ國土及ヒ臣民ナリトイヒ或ハ臣民ノミニシテ國土ハ客體ニアラズト
 イフ要スルニ臣民ガ客體ナルコトニ對シテハ異議ヲ唱フルモノナシ余モ亦然リト信ス然ラハ臣民
 トハ何ツヤ余ハ國土ノ内外ニアルヲ間ハス被治者タルモノナリト答フ
 次ニ國土ニ付テモ余ハ客體ナリト信ス若シ國土ハ客體ニアラストナサンカ國內ニアル處ノ外國人
 ハ何カ故ニ統治セラル、ヤ己ニ説明セル如ク統治權ハ相對的ニ存在シ客體以外ノモノニ對シ
 テハ性質上行ハレ能ハサルカ故ニ國內ニアル外國人ハ臣民ナリトナサル以上ハ説明スルニ由ナ

然ルニ國內ニアラサレハ統治セラル、コトナキモノハ到底臣民ノ意義ト相容レス又若シ國內ニアル外國人ヲ支配スルカハ統治權以外ノ力ナリトイハシカ統治權ニ本キタル憲法法令ハ彼等ニ對シ適用シ得ヘカラス之レ予カ反對説ニ服セサル所以ナリ要スルニ予ハ國土モ亦客體ナリトカシ統治權ノ完全ニ行ハル、所ナリト解ス

以上述タル如ク予ハ統治ノ主體ハ天皇ニシテ客體ハ國土及ヒ臣民ナリトノ説ニ從フカ故ニ統治權ハ天皇カ國土及ヒ臣民ヲ絕對無限ニ支配スル力ナリトイフ法ハ統治權ノ働ナリ故ニ法アリテ後ニ統治權アルニアラス統治權アリテ始メテ法ハ存在シ得換言スレハ法ハ統治ノ主體ト客體トヲ設定シ得ベカラス天皇ト國土及ヒ臣民トガ先ゾ備リ然ル後始メテ法ガ存在シ得ルナリ果シテ然ラハ統治權ニ關スル問題ハ法理ノ問題ニアラスシテ法理以上ノ問題タルコトハ論理ノ當然ノ結論タリ

統治關係ハ法理關係ニアラストセハ如何ナル關係ナルカノ疑問起ル余ハ之ニ答ヘテ天皇カ國土及ヒ臣民ヲ統治スル事實ナリトイフ法理ノ關係ニ於テハ法ガ適用セラルヘクシテ事實上之レヲ逃ル、モノアルカ爲メニ適用セラレサル場合アリ蓋シ法ハ統治ノ客體アリテ后始メテ存在スルモノナルカ故ニ法ヲ以テ客體ニ或義務ヲ命スルコトヲ得而シテ其果シテ義務ヲ奉スルヤ否ヤノ事實ハ法ノ存在ニ關係ナシ要スルニ法理關係ハ事實ニアラス之ニ反シテ統治關係ハ唯事實タルニ過キズ從テ統治セラル可クシテ實際之レヲ逃ル、モノアリトイフヲ許サズ故ニ余ハ統治ノ關係ハ客觀的事

實ニアラスシテ天皇ノ側ヨリ見タル主觀的事實ナリトイフ之レ余ガ統治ストイヒ客體ガ服從ストイハサル所以ナリ(裁判所ニ於ケル事實ノ認定ハ裁判官ガ見タル主觀的事實ヲ法ノ力ニヨリ客觀的事實ト認ムルナリ統治關係ノ上ニハ法ナキヲ以テ此ノ如キ認定ヲナス能ハス)

憲法モ亦法ノ一種ナリトセハ憲法ニ於テ統治ノ主體及ヒ客體ヲ設定スルヲ得サルハ理ノ當然ナリ余ハ此前提ニヨリ我憲法ニ論及セント欲ス

(一) 憲法第一條乃至第三條ハ余ノ所謂統治權ノ主體ニ關スル規定ナリトセハ余ハ此三條ハ法ノ性質ヲ有セスト斷言ス何トナレハ統治ノ主體ハ法以前ニ存在スルモノナレハナリ若シ夫レ此各條ハ憲法上ノ統治權ノ主體ニ關スルモノニシテ余ノ所謂統治權ノ主體ニ關スルモノニアラストイフガ如キハ何ノ意義ヲモナサスト信ス何トナレハ我國體ニ於テハ主體ハ常ニ唯一ナレハナリ然ラハ此各條ハ單ニ在來ノ事實ヲ表示シタルニ過キストイハシカ余ハ異議ヲ唱ヘス何トナレハ在來ノ事實ヲ表示ストイフハ已ニ其法ニアラサルコトヲ自白シタルモノナレハナリ要スルニ予ハ此三條ハ法ニアラズト信ス且ツ主體ノ變更ト我帝國ノ觀念トハ相容レサルカ故ニ第七十三條ニヨリ將來其實質カ變更セラル、コトナク又變更セラレ得ベカラズト信ス

(二) 憲法ハ一言ノ國土ニ及ブナシ之ヲ外國ノ例ニ徵スルニ歐ノ我國ノ憲法ハ其領土ノ區域ヲ明記シ又將來領土ノ變更ハ別ニ憲法ノ變更又ハ法律ヲ要ストナス其意憲法ノ行ハル、範圍ヲ定メシモノ

トセハ異議ナシ若シ統治權ノ客體タル國土ニ關スル規定ナリトセハ我國體ニ於テハ斷シテ採用スベキノ例コアラズ何トナレハ法ヲ以テ統治ノ客體ヲ變更スントスルモノニシテ本末ノ顛動スルモノナレハナリ

(三)第十八條日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル處ニ依ルトアリ 本條ハ予ノ所謂統治權ノ客體タル臣民ノ要件ニ關スル規定ナルカ果シテ然リトセハ臣民ハ法以外ニ存在スベク法ニ依テ設定スベキモノニアラサルヲ以テ本條モ亦第一條乃至第三條ニ於ケルガ如ク單ニ何ガ臣民タルカノ事實ヲ表示シタルモノニ過キスト解セサルヘカラス然ルニ要件ハ法律ヲ以テ定ムトアリ而シテ法律ニハ議會ノ協贊ヲ要スルヲ以テ議會ハ第十八條ニ基ク法律ニハ協贊ヲ拒ムヲ得スト論セサル以上ハ其ノ主意ヲ貫徹シ得ヘカラス然レトモ常ニ議會カ協贊ヲ拒ムヲ得サル事項ヲ法律ヲ以テ定ムト規定シタリト解スルハ恐ハ穩當ノ解釋ニアラサルベシ故ニ予ハ更ニ第二ノ意義ヲ求メ本條ノ所謂臣民トハ憲法上ノ臣民ノ義ニシテ憲法第二章ノ規定ヲ適用セサル可キ者ト解ス即統治ノ客體タル臣民ヲ離レテ別ニ意義アリトナスナリ已ニ然リ其結果トシテ統治ノ客體タル臣民ト憲法上ノ臣民トハ其範圍必スシモ同一ナラサル可ク第二章ハ統治ノ客體タル臣民ニ適用スヘキモノニアラスシテ憲法上ノ臣民ニノミ適用スヘキ條項ナリトス

之ヲ要スルニ(一)憲法第二條乃至第三條ハ法ノ性質ヲ有セス(二)憲法ニハ國土ニ關スル規定ナク(三)憲法ノ所謂臣民ハ客體タル臣民ニアラズ 最後ニ一言スヘキハ未タ憲法第十八條ニ本キタル現行法律ナキコトナリ若シ同條ノ臣民ニ關スル予ノ見解ニシテ誤ナシトセハ我帝國ニハ未タ憲法第二章ノ適用ヲ受クヘキモノナシトイハサル可カラス果シテ然ラハ之レ實ニ我法制ノ一大欠點ナリ敢テ識者ノ教ヲ待ツ(法協一五、一二)

○島田法學士ノ「統治權ヲ論シテ憲法ノ規定ニ及フ」ヲ讀ミテ私見ヲ述フ

法學士 河村忠之助君

島田法學士ハ法學協會雜誌第十五卷第十二號ニ於テ「統治權ヲ論シテ憲法ノ規定ニ及フ」テウ問題ヲ掲ケ一篇ノ論說ヲ公ニセラレタリ學士ノ論說中ニハ所謂公法學上最大至難ナル問題ノ大半ヲ含蓄シ到底一小短篇ヲ以テ論評細說シ得ル所ニ非ス殊ニ余ノ愚ヲ以テハ頗ル潛越ノ感ナキニ非スト雖モ既ニ學士ノ論說アルヲ以テ專ラ之ニ順據シ其正反對ナル所信ヲ開陳シ以テ識者ノ示導ヲ仰トント欲ス學士カ統治權ニ關スル論旨ノ概略ハ左ノ如シ

- (一)統治權トハ其ノ主體カ客體ヲ絕對無限ニ支配スル力ナリ從テ統治權ハ相對的ニノミ存在スルモノニシテ主體又ハ客體ヲ離レテハ存在スルコトナシ
- (二)統治權ノ主體ハ國家ニシテ天皇ハ其ノ最高機關ナリトノ學說ハ現ニ日本歴史ノ非認スル所

ナルヲ以テ採ラス統治權ノ主體ハ天皇自身也

(三) 統治權ノ客體ニテアリ

イ、臣民ハ統治權ノ客體ナリ何トナレハ臣民トハ國土ノ内外ニ在ルヲ問ハス被治者タレハナリ

ロ、國土モ亦統治權ノ客體ナリ若シ然ラストセハ國土内ニ在ル外國人(日本臣民ニ非ル者)

ハ何故ニ統治權ノ下ニ來ルヤヲ説明スルコト能ハス唯國土ハ統治權ノ客體ナルヲ以テ其ノ内ニ入ル所ノ外國人ハ始メテ統治セラル、モノナリ

(四) 法ハ統治權ノ勸ナリ統治權ナクシテ法ノ存在ナシ故ニ法ヲ以テ統治權ノ主體及ヒ客體ヲ設定スルコトヲ得ス

(五) 統治關係ハ事實關係ニシテ法律關係ニ非ス故ニ統治關係ハ法ヲ以テ規定スヘキモノニ非ス第一ノ論旨ハ事理ノ最モ明瞭ナルモノニシテ一點疑怪ヲ抱クヘキ餘地ヲ存セス主體ト客體ト並立セサル以上ハ決シテ統治關係ヲ生スヘキモノニ非ス

第二ノ論旨ニ就テハ予ハ國家ナル語ノ解釋ニヨリテ學士ノ説ニ贊同スルコトヲ得ヘシ或ル學者ノ説ノ如ク若シ國家ナル語ハ單ニ統治權ノ主體ニ附シタル記號ナリトセハ大日本帝國ニ於ル天皇ハ統治權ノ主體タルヘキヲ以テ國家ハ天皇ナリ天皇ハ統治權ノ主體ナリ故ニ國家ハ統治權ノ主體ナ

リトノ論結ヲ得ヘシ但シ此ノ説ハ國家ハ何故ニ統治權ノ主體ナルヤヲ説明スルモノニ非ス唯學問上ノ名稱ニ止マルテ以テ若シ學士ニシテ此ノ記號ヲ是認セラル、時ハ國家カ統治權ノ主體ナルコトヲモ認メラルヘシ念フニ學士ハ其ノ分析的研究ヨリ統治權ノ主體及ヒ客體ヲ合一ニシタルモノヲ指シテ國家トセラレタルモノナラン故ニ彼ノ共和政治的國體ヲ有スル邦國ニ於テハ其ノ公選ニ掛ル主長ハ主權ヲ行使スル最高機關ニシテ統治權ノ主體ハ一國トシテノ國其ノモノニ屬スルヲ以テ國ハ主體ニシテ客體ナリト云フコトヲ得ヘク從テ國家ハ統治權ノ主體ナリトノ論結ヲ得ヘシト雖モ我カ國體ニ於テハ統治權ノ主客ニ相超越スヘカラサル區別アリ雙々並立スルヲ以テ此ノ意味ニ於ル國家ヲ以テ直ニ統治權ノ主體ナリト論スルコト能ハス畢竟第二ノ論旨ハ唯國家ナル語ノ解釋如何ニヨリテ其ノ結果ヲ異ニスルノミ

第三ノ論旨ニ於テ學士ハ統治權ノ客體ヲ臣民及ヒ國土ノ二者トセラレタリ而シテ管ニ學士ノミナラス近世國家法學者ノ大多數ハ盡ク此ノ説ヲ是認シ而カモ學理上最モ進歩シタル分類ナリト誇稱スルモノ、如シ然レトモ予ノ愚ナル未ダ本論旨ヲ首肯スルコト能ハス余私ニ念フニ統治權ノ客體ハ臣民及ヒ國土ニ非スシテ國ナリ何チカ國ト云フヤ國トハ一定ノ土地ノ區劃(國土)ト其ノ區劃内ニ於テ一定ノ要件ヲ具備シタル人類(臣民)トカ分離スヘカラサル關係ニ結合シタルモノヲ云フ大日本帝國憲法第一條ニ曰ク「大日

本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スル之レ即チ統治權ノ主體及ヒ客體ヲ明定シタル最大至重ノ法條ナリトス。土地ニ關係ナキ人類ノ團體ハ國ト稱スルヲ許サス人類ヲ離レテ土地ニ就テ亦決シテ國ヲ想像スルコトヲ得ス此ノ二者互ニ離ルヘカラサル關係ニ於テ結合シタルモノ之ヲ稱シテ始メテ國ト名クヘキナリ故ニ予ハ統治權ノ客體ハ分離シタル國土及ヒ臣民ニ非スシテ結合シタル國ナリト云フ。憲法第一條ニ於テ國土及ヒ臣民ト云ハスシテ帝國ト云フモノ蓋シ之レカ爲ナリ。

論者或ハ言ハン國ノ構成要素ハ國土及ヒ臣民ニ外ナラス故ニ統治權ノ客體ハ一括シテ國ト云フモ分別シテ國土及ヒ臣民ト云フモ其ノ間ニ差違アルヲ見スト予ハ論者ノ所說ニ就キ其ノ前半ハ謹テ命ヲ領スヘキモ其ノ後半ハ絕對的ニ反對ヲ表ス予チシテ評セシメハ論者ハ私法的性質ニ屬スル權利關係ノ法理ヲ以テ公法的性質ニ屬スル權力關係ヲ說明セント試ムルモノナリ即チ家ハ所有權ノ目的物ナリ家ノ構成要素ハ木材石材鐵材等ナリ故ニ其ノ木材石材鐵材等モ亦所有權ノ目的物ナリト云フ。法ヲ以テ國ハ統治權ノ客體ナリ國ノ構成要素ハ國土及ヒ臣民ナリ故ニ國土及ヒ臣民モ亦統治權ノ客體ナリト論斷セントスルモノナリ前者ニ於テハ家ヲ離レテ尙ホ別ニ其構成要素ノミニ對スル所有權ヲ認ムルコトヲ得ヘキモ後者ニ在リテハ國ヲ離レテ統治權ヲ想像スルコト能ハス何トナレハ分離シタル土地及ヒ人類ハ國ノ構成要素タルヘキモ國其ノモノニ非ス國ナクシテ統治權ノミ獨リ存在スルコト能ハサレハナリ恰モ生類ニ缺クヘカラサル飲料ハ水ニシテ定量ノ水素ト

酸素ニ非スト云フニ等シ化合セサル水素ト酸素ハ水ノ構成要素ナリト雖モ生類ノ飲料トシテハ何等ノ關係チモ有セサルナリ。

更ニ一言スヘキモノアリ元來統治權ノ主體ト云ヒ客體ト稱スルモノハ常ニ一定不變ナラサルヘカラス須臾ニシテ變更シ朝夕ニシテ増減アルモノハ主體客體ノ觀念ト相容レズ國ノ構成要素ハ國土及ヒ臣民ナリト云フ時ハ此ノ二者ハ常ニ具體的ナリ抽象的ニ非ス國土ノ大的變更ハ實ニ稀有ノ事實ナリト雖モ小的變更ハ添附流亡等ニ因リテ時々刻々ニ發生ス臣民ノ増減モ亦出生死亡等ニ因リテ時々刻々發生ス此ノ如ク變轉極マリナキモノヲ取リ來リテ直ニ統治權ノ客體トナスハ客體其モノノ觀念ニ於テ斷シテ之ヲ許サス若シ強テ之レチ客體トナサンカ憲法頒布以後ニ掛ル國土ノ變更臣民ノ増減ハ既存ノ客體ノ變更増減ニシテ憲法ニ於テ豫メ規定セサルヘカラサル事項ニ屬ス豈ニ此ノ如キ理由アラシヤ論者更ニ說ヲ爲シテ其ノ國土又ハ臣民ト云フハ具體的ニ非スト云ハ之レ唯言ヲ好ムモノト評スルノ外ナシ即チ具體的ノ土地人類ニ就キ一タヒ國土及ヒ臣民ヲ抽象シ此ノ抽象的ノ二者ヲ合シテニタヒ抽象的ノ國ヲ想像セントスルモノナリ論者ハ何ノ必要アリテ此ノ無用迂遠ノ說ヲ主張セントスルカ余ハ終ニ其ノ理由ヲ發見スルコト能ハサルナリ故ニ余ハ確信ス統治權ノ客體ハ國ニシテ其ノ構成要素ナル國土及ヒ臣民ノ増減變更ハ國其ノモノハ増減變更ニ關係ナシト。

果シテ然ラハ統治權ノ客體タル國ノ構成要素ハ其ノ主体ニ對シテ如何ナル關係ヲ有スルヤ國土ハ國ノ靜的要素トシテ統治權ノ布及スヘキ範圍ヲ限定シ臣民ハ其ノ動的要素トシテ統治權ノ行動ニ支配セラル、モノナリ

此ニ於テ予ハ學士ノ提供ニ掛ル國ノ領域内ニ在ル外國人ハ何故ニ統治權ノ支配ヲ受クヘキモノナルヤノ問題ヲ説明スヘキ時期ニ達シタリ此ノ問題ニ就キ學士ハ實ニ左ノ如ク論斷セラレタリ曰ク(前略)若シ國土ハ客體ニアラストイハンカ國內ニ在ル所ノ外國人ハ何カ故ニ統治セラル、ヤ己ニ説明スルカ如ク統治權ハ相對的ニ存シ客體以外ノモノニ對シテハ性質上行ハレ能ハサルカ故ニ國內ニ在ル外國人ハ臣民ト爲サ、ル以上ハ説明スルニ由ナシ然ルニ國內ニ在ラサレハ統治セラル、コトナキモノハ到底臣民ノ意義ト相容レヌ又若シ國內ニ在ル外國人ヲ支配スルカハ統治權以外ノ力ナリトイハンカ統治權ニ本キタル憲法命令ハ彼等ニ對シテ適用シ得ヘカラス云々

ト予ハ私ニ學士カ如何ナル論理ニ因リテ此ノ論結ヲ得ラレタルヤヲ怪々元來其ノ臣民ニ非ル外國人カ學士ノ所謂客體タル國土ニ入りシトノ單純ナル事實ニ因リテ何故ニ統治セラルヘキ者ト其性質ヲ變スルヤヲ説明セサル限リハ本末ノ貫徹セサル獨斷ト云ハサルヲ得ス學士ハ此ノ論結ヲ爲ス以前ニ於テ更ニ國土ト外國人トカ一致シタルヨリ生スル關係ヲ説明セサルヘカラス予念フニ學士

ノ説ノ如ク統治權ノ客體ハ國土及ヒ臣民ナリトセハ其ノ支配ヲ受クヘキモノハ國土ニ非レハ必ズ臣民ナラサルヘカラス果シテ然ラハ其ノ臣民ニ非ル外國人カ其ノ性質ヲ變シテ其ノ臣民トナラサル以上ハ假令其ノ國土ニ入ルト雖モ單ニ其ノ事實ノミヲ以テ直ニ統治權ノ支配ヲ受クヘキモノトナルト云フヘカラスト信ス

余ハ飽クマテ國土自身ハ客體ノ客體ニ非スト信ス既ニ説明スル如ク國土ハ統治權ノ布及スヘキ一定ノ區域ナリ換言スレハ統治權ハ其ノ國土内ニ充實シ其ノ區域内ニ存在スル凡百ノ物ハ一トシテ統治權ノ支配ヲ免ル、モノナシ之レ統治權本來ノ性質ナリトス國土内ニ在ル外國人カ其ノ支配ヲ受クルハ唯此統治權本來ノ性質ニ因リテ然ルモノナリ故ニ統治權ノ主体ヨリ國土内ニ在ル外國人ヲ見ル時ハ其ノ統治ヲ受クヘキ範圍(條約等ノ制限アルヲ以テ云フ)ニ於テハ臣民ト差異アルコトナシ然レトモ之レ國土カ客體タルカ爲メニ非スシテ統治權本來ノ性質ヨリ生スル當然ノ効果ナリトス

以上ノ論斷ヲ以テ幸ニ論斷ヲ誤ラサルモノナリトセハ大日本ニ於テ統治權ノ主体ハ常ニ天皇ニシテ其ノ客體ハ常ニ日本帝國ナリ果シテ然ラハ統治權ノ客體ハ國土及ヒ臣民ナリトノ説ハ假令近世大多數ノ國家法學者カ最モ進歩シタル學說ナリト誇稱スルト雖モ殆ト論據ヲ有セサル獨斷ト云ハサルヲ得ヌ又彼ノ學者ノ通用スル國土主權ナル語ノ如キハ學問上何等ノ意義ヲ有セサルモノナ

ルコト論セスシテ明ナリ

第四ノ論旨ニ就テハ學士ノ説明ノ範圍ニ於テ余モ亦之レヲ贊スヘシ然レトモ學士ノ論旨ハ法ハ當ニ設定行爲ヲ爲スノ外如何ナル行爲ヲモ爲スモノニ非ストセラル、カ如此ノ論點ハ後段日本憲法ノ規定ヲ論スルニ當リ大ニ影響ヲ及ホス夫以テ豫メ茲ニ數言ヲ費サ、ルヘカラス

法ハ統治權ノ働ナリトノ説ハ既ニ命ヲ領ス然レトモ之レカ爲メニ法ハ常ニ設定行爲ノミヲ爲ストノ論結ヲ生セス余ハ更ニ進ミテ法トハ法タラシムヘキ念慮ヲ以テ被治者ニ對シテ發表セラレタル主權者ノ意思ナリト云ハントス果シテ然ラハ法ノ作用ハ其ノ設定行爲ナルト認定行爲ナルトニ於テ何等ノ關係ヲモ有セス要ハ唯主權者カ法ト爲スト否トノ念慮ニ在リテ存ス

第五ノ論旨ハ學士カ前論旨ヲ統治關係ニ適用セラレタルモノナリ勿論統治關係ハ事實關係ニシテ法ノ新ニ設定シタルモノニ非ス又新ニ設定スルコトヲ許サス然レトモ法ヲ以テ此ノ事實關係ヲ認定スルコトヲ得スト論結スルハ少シク早計ノ嫌アルヲ免レスト信ス何トナレバ既ニ説明スル如ク法ハ常ニ設定行爲ノミヲ爲スモノニ非サレハナリ

余ハ茲ニ學士カ統治權ニ關スル論旨ノ概評ヲ終リタルヲ以テ更ニ進ミテ其ノ憲法ニ關スル論結ニ及ハントス學士ノ論斷左ノ如シ

(一) 憲法第一條乃至第三條ハ法ノ性質ヲ有セス何トナレハ統治權ノ主体ハ法以前ニ存在スルモノ

ナレハナリ

(二) 憲法ハ國土ニ關スル規定ヲ有セス或ル外國ノ憲法中ニハ領土ノ區域ヲ明記シ領土ノ變更ハ憲法ノ變更又ハ法律ヲ要スト規定スルモノアレトモ若シ此ノ規定ハ統治權ノ客體タル國土ニ關スルモノナリトセハ斷シテ之ヲ採用スヘカラス何トナレハ之レ法ヲ以テ既存ノ客體ヲ變更スルモノナレハナリ

(三) 憲法第十八條ハ統治權ノ客體タル臣民ノ規定ニ非ス何トナレハ之レ法ヲ以テ既存ノ客體ヲ規定スルモノナレハナリ故ニ本條ニ所謂臣民ハ客體タル臣民ニ非スシテ憲法上ノ臣民ナリト解ス

學士カ以上ノ三論旨ハ前段第四第五ノ論旨ヨリ生スル直接ノ結果ニシテ盡ク同一ノ論法ヲ以テ論斷セラレタリ余ノ不識ハ不幸ニシテ學士ノ説ニ贊同スルコト能ハス

第二ノ論旨ヲ敷衍スレハ統治關係ハ相對的關係ナリ此處ニ主体アレハ其處ニ必ス客體アリ而シテ法ハ統治權ニ淵源スルモノナレハ法ヲ以テ統治權ノ主体及ヒ客體ヲ設定スルコト能ハス而シテ憲法第二條乃至第四條ハ統治權ノ主体ニ關スル規定ト見ルノ外他ニ解スヘキ道ナキヲ以テ法ノ性質ヲ有セサル事實ノ發表ナリ故ニ憲法ノ規定トシテハ其ノ必要ヲ見スト論スルモノ、如シ然レトモ法ハ必ス設定行爲ノミヲ爲スモノニ非サルコトハ既ニ學士カ前段第四第五ノ論旨ヲ評論スルニ際

シテ其ノ概略ヲ盡シタリ果シテ然ラハ既存ノ事實ハ更ニ法トシテ認容スルコトヲ得スト論斷スルコト能ハス否主權者ハ法タラシムルノ念慮ヲ以テ其ノ意思ヲ發表スルモ尙ホ法ノ性質ヲ有セストスルハ殆ト論據ナキノ獨斷ナリ若シ學士ニシテ第一條乃至第三條ノ規定ハ古來確固不動ノ事實ニシテ尙ホ將來ニ於テモ等シク確固不動ノ事實タルヘキヲ以テ法ヲ以テノ故ニ之ヲ規定スルノ必要ナシトセラレンニハ余ハ學士ノ一已ノ見トシテ假リニ命ヲ領センノミ然レトモ此ノ三條ハ絕對ニ法ノ性質ヲ有セスト論斷セラル、ニ於テハ勢ヒ前顯ノ私見ヲ以テ反對ヲ表セサルヲ得ス尙ホ之ヲ日本ノ歴史ニ徵スルニ憲法第一條ハ至幸ニシテ反對ノ事實ノ發生シタルコトナシト雖モ皇位ノ繼承ハ常ニ男皇子孫ニ限ラレタリシヤ推古孝極齊明持統元明元正等ノ統治者ハ皆女性ナリシナリ之レ明ニ憲法第二條ニ反シタル事實ニ非スヤ崇峻天皇ハ不幸ニシテ大逆ニ遭ヒ統ヘリ朱雀天皇ノ朝ニ於ル平將門ハ皇位ヲ篡奪センコトヲ企圖シタリ後鳥羽土御門順德後醍醐ノ諸天皇ハ配流ノ屈辱ヲ嘗メ給ヘリ之レ直接間接ニ天皇ノ神聖ニ對スル侵害ニシテ將門ノ如キハ大膽ニモ第一條ニ反スル事實ヲ發生セシメント試ミタルモノナリ而シテ憲法第二條ノ如キハ寧ロ古來ノ國體ニ小變更ヲ生シタルモノト見ルヘキナリ事實既ニ此ノ如シトセハ學士ハ尙ホ此ノ三條ノ規定ヲ以テ不必要ナリトスルカ余ハ却テ大ニ其ノ必要ヲ主張セント欲ス

憲法ハ成文法國ニ缺クヘカラサル法規ニシテ主權者ノ意思ニヨリ法ノ形式ニ於テ發シタル國體ノ

表示ナリ而シテ大日本帝國憲法ハ明ニ日本ノ國體ヲ變更シタルモノナリ君主獨裁ノ國體ヨリ立憲君主國ニ移リタルモノナリ果シテ然ラハ其變更セラレタル部分ト變更セラレサル部分ト及ヒ將來ニ於テ如何ニ統治權ヲ行使スヘキカノ規定ハ其ノ新國體ニ於ル必要事項ナルヲ以テ國體ノ表示ナル憲法中ニ之ヲ規定セサルヘカラサルハ當然ナリ若シ既存ノ事實ハ法ノ性質ヲ有セサルヲ以テ事實關係ナル統治關係ハ憲法中ニ規定スルヲ要セストノ論旨ヲ貫徹セシメント欲セハ恐クハ憲法ノ大部ハ其ノ規定ヲ要セスト論セサルヘカラサルニ至ラン何トナレハ憲法ノ領布以前ヨリ存シタル事實ヲ認メテ憲法ノ規定トナシタルモノ甚タ多ク而シテ皆統治關係ヨリ胚胎スルヲ以テ盡ク法ノ性質ヲ有セストセサルヘカラサレハナリ學士ハ進テ此レ等ニ關スル規定ヲモ不必要ナリト論斷スルノ勇アルヤ否ヤ

國家ノ解体ハ古來世界ノ歴史ニ於テ其ノ例乏シカラス主權ノ欠缺ハ國家ノ解体ナリ主權ノ移轉ハ新ニ國家ヲ創設スルモノナリ但シ國權ノ變更ハ國家自身ニ關係ヲ有セス大日本ナル國家ハ萬世不易ナルヘシ故ニ大日本國家ナル觀念ニハ主權ノ欠缺又ハ主權ノ移轉ノ場合ヲ想像スルコトヲ得ス從テ憲法第七十三條ハ理論上此ノ如キ場合ニ通用セラルヘキモノニ非ス

第二ノ論旨ニ就キ余ハ限定的ニ學士ノ說ニ贊同スルコトヲ得否學士ノ指示ニ掛ル外國ノ例ハ我カ憲法ノ規定トシテハ絕對的ニ採用スヘカラスト論セント欲ス既ニ論シタル如ク余ハ國土ヲ以テ統

治權ノ客体タル國ノ靜的要素ニシテ統治權ノ布及スル境界ナリト解ス統治權ノ行動スル區劃ハ萬世不易トシテ一定ノ範圍ヲ限領スヘキモノニ非ズ若シ國土ハ統治權ノ客体自身ニシテ其範圍ハ憲法制定ノ當時既ニ存在スル領域ニ限ラル、モノナリトセハ國土ノ減縮ノ場合ハ別ニ支吾スルコトナシトスルモ領域ノ擴張シタル場合ハ統治權ノ効力ハ直ニ其ノ擴張シタル部分ニ及ハスト論セサルヘカラス果シテ然ラハ國土ノ變更ニ關スル事項(少クモ國土ノ擴張シタル場合)ハ憲法中ニ明定スヘキ重要ノ條規ニ非スヤ余ハ國土ノ變更ハ客體タル國ノ存在ニ何等ノ影響ヲモ及ホズモノニ非スト爲スヲ以テ國土變更ノ場合ハ憲法中ニ其ノ規定ヲ要セス又規定スヘキモノニ非スト信ズ

第三ノ論旨ニ就テハ予ハ學士ト正反對ノ意見ヲ有ス學士カ金城鐵壁ノ論據タル法ノ發生以前ニ存在シタル事實ハ法ヲ以テ規定スヘキモノニ非ストノ說ニ對シテハ既ニ第一論旨ヲ評スルコ際シ略ホ之ヲ盡シタリト信スルヲ以テ移シテ本論旨前半ニ適用スレハ亦同一ノ論結ヲ得ヘシ故ニ之レヲ贅セス

學士ハ本論前半ヨリ推論シテ憲法第十八條ニ所謂臣民ハ統治權ノ客體タル臣民ニ非シテ憲法上ノ臣民ナリトセラレタリ予ハ再思三考終ニ其ノ意義ヲ解スル腦力ヲ有セサルヲ耻ツ予ハ統治權ノ支配ヲ受クル臣民、即チ憲法ニ所謂臣民ニシテ一語ニ二義ヲ有セサルモノト信ス學士曰ク「故ニ余ハ更ニ第二ノ意義ヲ求メ本條ノ所謂臣民トハ憲法上ノ臣民ノ義ニシテ憲法第二章ノ規定ヲ適用セ

ラルヘキモノト解スト」之レ疑ヒモナク憲法第二章ノ適用ヲ受クヘキ臣民ノ外少クモ更ニ客體タル臣民ノ一部アリト云フニ同シ予ハ遂ニ之ヲ發見スルコト能ハス但シ憲法第十八條ニ基キ積極直接ニ日本臣民タル要件ヲ規定シタル法規ハ未タ存スルヲ見スト雖モ既ニ發布シタル諸般ノ法令ハ間接ニ而モ殆ト完全ニ其ノ要件ヲ確定シタルヲ以テ最早直接ノ規定ヲ必要トセサル者、如シ今日現ニ統治權ノ支配ヲ受ケツ、アル日本臣民ハ即チ憲法第十八條ニ所謂臣民ト同一物ニシテ從テ憲法第二章ハ既ニ完全ニ適用セラレツ、アリト信ス思フニ學士ヲシテ此ノ論結ニ陥ラシメタルモノハ臣民ハ統治權ノ直接ノ客體ニシテ而カモ法ノ發生以前ノ存往ニ掛ル事實ナルヲ以テ既存ノ事實ハ法ヲ以テ規定スヘカラストノ論據ヲ貫徹セシメント努メラレタル結果ニ外ナラス

法律ハ其ノ形式トシテ帝國議會ノ協賛ヲ要スヘキハ論ヲ待タス故ニ今後ニ於テ憲法第十八條ニ基キ直接積極的ニ日本臣民タル要件ヲ規定スル法律ノ必要アラハ亦帝國議會ノ協賛ヲ要スヘキナリ而シテ議會ハ場合ニヨリテ此ノ法律案ニ協賛ヲ拒ムコト得ヘキハ其ノ權能ニ於テ當然クリトス殊ニ臣民タル要件トハ臣民トシテ要スヘキ資格ニシテ臣民其レ自身ニ非ズ議會ハ一人モ日本臣民ナシト議決スルコトヲ得ス何トナレハ臣民ノ欠缺ハ國ノ構成要素ナキヲ以テ從テ統治權ノ存在スヘキ理由ナケレハナリ然レトモ或ル資格ヲ有セサルモノハ日本臣民ニ非スト議決スルニ於テ更ニ不可ナルコトナシ之レ日本臣民ナシト云フニ非スシテ或ル資格ヲ有セサルモノハ日本臣民ナル既

存闕休ニ編入スルコトヲ許サズト云フニ在レハナリ
 以下ハ學士ノ所論ニ就キ聊カ論評ヲ試ミ併セテ私見ノ概略ヲ述フルニ止マルヲ以テ遺漏ト誤謬ト
 フ以テ充タサレタルナキヲ保セス殊ニ統治權ノ容体ニ關スル私見ニ至リテ今日多數ノ學者ノ是
 認スル學說ト正反對ノ地位ニ在ルヲ以テ論難攻撃ノ集中スヘキハ索ヨリ豫想スル所ナリ敢テ識者
 ノ垂教ヲ仰ク(法協一六、三)

○憲法上天皇ノ地位ヲ論ズ

法學士 河上 肇君

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス、(憲法第一條)皇位ハ帝國ヲ統治スル權力ノ存スル所ナ
 リ。皇位ニアル人ヲ天皇トナス、天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ憲法ノ條規ニ依リテ之ヲ
 行フ、(憲法第四條)天皇ハ統治權ヲ總攬スト云フト雖之ヲ行フニ當リテハ憲法規定スル所ノ形式
 ニコレ依ルナリ。帝國ノ國体ハ君主國体ニシテ帝國ノ政体ハ立憲政體ナリ。コレ憲法ガ第一條及
 ビ第四條ノ明文ヲ掲ゲテ大義ヲ明白ニスル所ナリ。
 我が帝國ハ君主國體タルト同時ニ立憲政體タルナリ。モシ君主國體ナルガ故ニ君主ハ自由專制ノ
 政ヲ爲スモノトセバコレ立憲政體ニ則ルヲ忘レタルモノナリ、モシ又立憲政體ニ則ルノ故ヲ以テ

天皇ノ地位如何ニ疑ヲ狹ムモノアラバコレ君主國體タルノ義ヲ知ラザルナリ、二若共ニ誤レル事
 論ヲ待ダズ。

既ニ天皇ハ統治權ノ總攬者タリト雖モ其統治ヲ行フニ當リテハ憲法ヲ發布シテ形式ヲ定メ以テ一
 定ノ機關ニ一定ノ權限ヲ與ヘ各々ノ職務ヲ司掌セシムルヲ爲ス、例ヘバ法律ヲ制定シ豫算
 ヲ製作スルニ當リテハ必ズ議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス、議會ノ參與ナクシテ法律ヲ發布シ豫算ヲ調
 製スルガ如キハ斷ジテ憲法ノ許サザル所ナリ、タトヒ實際ニ於テハ此ノ如キ自由ノ行動ヲ爲スヲ
 得ルコトアルモ法理ノ論ニ於テハ斷ジテ爲スコト能ハザルナリ。是ニ於テカ吾人ノ所論ハ一見シ
 テ矛盾アルノ觀ヲ爲スニ至ル、即チ一方ニハ君主ハ統治權ヲ總攬スト云ヒ他ノ一方ニハ統治權ヲ
 行フニ當リテハ一定ノ政務ハ一定ノ機關ノ參與ヲ要スト爲スガ故ナリ。然レトモ一定ノ機關ノ參
 與ヲ要スト云フ事ハ敢テ統治權ノ總攬タルノ地位ヲ妨ケザルナリ、何トナレバ天皇ハ何時ニテモ
 自由ニ憲法ノ條章ヲ變更スルノ權アレハナリ。

憲法第七十三條ニ曰ク將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議
 會ノ議ニ付スベシト、茲ニ議ニ付スノ四文字ヲ經々ニ觀過スヘカラズ、議ニ付ストハ協贊ヲ經ベ
 シト云フト異ルナリ、協贊トハ議案ニ對シテ異議ナキコトヲ表示、止マラス進ンデソノ成立ヲ希
 望スル意思表示ナリ、單ニ議スルト云フハ議案ニ對シテ異議アルコト又ハ異議ナキコトヲ表示ニ

止ルモノナリ、故ニ議會ノ可決アリタルトキニアラザレバ常ニ議會ノ協賛ヲ經タリト云フコト能ハザルニ反シタトヒ議會否決スルモ議會ノ議ニ付シタリト云フコトヲ得ルナリ。

天皇モシ憲法ノ條章ヲ變更セントスルニ當リテハソノ變更ノ議案ヲ議會ノ議ニ付スレバ足レリ、議會之ヲ可決セントキハ勿論、タトヒ可決スルコトアルモ天皇ハ自由ニ憲法ノ變更ヲ爲スヲ得ルナリ。世或ハ之ヲ誤解シテ天皇憲法ヲ變更セントスルトキハ議會ノ協賛ヲ經ベキモノトナシ、ソノ結果天皇ハ議會ト共ニ憲法變更ノ權ヲ有スルモノニシテ從ツテ天皇ハ專ラ統治權ヲ總攬スルモハニアラズト爲スモノアリ、コレ憲法ノ誤讀ニシテ引ヒテ國體ノ基礎ヲ危ウスルノ邪說ナリ。

憲法ハ萬法ノ上ニ位シテ國家統治ノ大本ヲ規定スルモノナリ、故ニ之ガ誤解ハ立法者ノ最モ恐ル、所ニシテタトヒ一字一句ノ末ト雖モ特ニ嚴正ナル注意ヲ怠ラザリシナリ、憲法第五十五條ガ國務各大臣ハ天皇ヲ補弼シテソノ責ニ任ズト明言シ以テ大臣單獨責任制ヲ明ニシタルガ如キノ一例ナリ。之ト同ジク憲法第七十三條ガ議會ノ協賛ヲ經ベシトセズシテ特ニ議ニ付スベシト爲セルハ立法者ガ慎重ナル注意ノ餘ニ出デシモノナリ。憲法ノ論議ヲ爲スモノ敢テ此ノ重大ナル差別アルヲ語ラズシテ諸種ノ邪說ヲ爲スハ皆非ナリ。天皇ハ統治權ヲ行フニ當リ憲法ヲ發布シテ一定ノ機關ニ一定ノ職權ヲ與ヘ一部ノ政務ニ關シテハ之ガ參與ヲ經ベキヲ以テ法ト爲スト雖、憲法ソノ者ハ何時ニテモ天皇ハ自由ニ變更スルヲ得ルモ

ノニシテ絶コト他ノ機關ノ否決ニヨリテ左右セラル、コトナシ、是ニ於テカ憲法上一定ノ政務ニ關シ他ノ機關ノ參與ヲ要ストセルノ規定ハ敢テ天皇ガ統治權ノ總攬者タルノ地位ニ妨ナキヲ知ルベキナリ。

協賛ヲ經ベシト云フト議ニ付スベシト云フト只一見シテソノ差異ヲ知ルヲ得バシ、安リニコノ二者ヲ混同シテ議ニ付スト云フモ協賛ヲ經ベシト云フモ凡テ全一ノ意義ニ外ナラズトスルハ常識アルモノ、首肯シ得ベキ所ニアラズ。然ルニ何ガ故ニヤ世ノ學者多クハ之ヲ混同シテ諸種ノ異說ヲ建テタリ、吾人ハ兩者ノ間重大ナル差別アルヲ確信シ從ツテ天皇ハ統治權ノ總攬者タルコト動カスベカラザル大義ナリト心得居ルモノナリ。

吾人モト憲法專攻ノ學徒ヲ以テ任ズル者ニアラズト雖、コレガ精神ト法理トヲ闡明シ以テ國體ト政体トノ區別ヲ俗説ノ外ニ擁護スルハ一國民タルノ義務タルヲ信ズルガ故ニ、又往々世ニ別種ノ見解ノ流行スルアリ爲メニ過マラル、モノ多カラシク憂フルガ故ニ、誠ニ明白ニ過グル事理ヲ繰リ返ヘシ々喋々ノ言ヲ爲スヲ敢テスルモノナリ。(明義三、八)

○君主無責任ノ理由

凡ソ立憲君主國ノ憲法ニ於テ君主ニ責任ナキコトヲ明記シ或ハ明記セザルモ之ヲ承認セザルモノ殆ト稀ナリ獨リルイ、ナポレオンハ千八百五十二年一月二日佛蘭西共和國ノ大統領トシテ「憲法中ニ國ノ元首ノ無責任ナルコトヲ大書スルハ實ニ公衆ノ感情ヲ欺クノミナラス又無根ノ妄想ヲ惹キ起スニ至ラン此妄想ヤ既ニ屢々革命ノ爲メニ破壞セラレタリ之ニ反シテ現今ノ憲法ハ國ノ元首ハ其己レヲ選舉シタル人民ニ對シテ其責任ヲ負フベシ」ト宣言シ共和政體一變シテ帝政ノ制ヲ取リタル後モ猶ホ此主義ヲ探レリ去レトモ是レ一ノ取除ニシテ他ニ未タ之ト同一ノ主義ヲ探リタル憲法ヲ見サルナリ我帝國憲法ニハ 天皇無責任ノ明文ヲ掲ケスト雖モ其第三條ノ「天皇ハ神聖ニシテ侵ス可ラス」ト規定セルヲ以テ 天皇ノ無責任ナルコトハ自ラ承認セラレタルモノト云フテ可ナリ斯ク論シ來レハ人或ハ第三條ニ規定シタル神聖ノ二字ヲ以テ其無責任ノ原由スル所也ト認ムルトセン然レトモ神聖ノ二字ハ寧ロ我國躰上我 天皇ノ神孫ニ在ラセ給フニヨリテ加ヘシ者ト見ルヘキナリ今歐洲諸國ノ憲法ヲ閱スルニ當テモ形式上ノ尊嚴ヲ重ズル羅馬舊教諸國ノ憲法ニハ往々神聖ノ二字ヲ明記シタルヲ見ルモ別ニ之ヲ明記セザル所ノ「プロテスタント」教ヲ奉ズル諸邦ト具君主ノ尊嚴ノ度ヲ異ニシタルヲ見スルニ畢竟スルニ君主トシテ國ヲ代表シ給フ地位ノ神聖ナルヲ明カニスルトセザルトニ過キスシテダレベル其他ノ學者ノ云フ如ク法理上ノ觀察ヲ以テスレバ必要ノコトニ非ラサルナリ然シテ君子無責任ノ理由ハ「侵ス可ラス」ノ語中ニ包含スルモノ

ナレハ之ヲ明カナラシメン爲ニ今此「侵ス可ラス」ノ語ヲ主動的絶對的ノ二様ニ解釋センニ

第一君主ハ特別ノ法律ヲ以テ保護セラル、モノナリ之ヲ例セバ我刑法第百十六條第百十七條ニ於

テ 天皇三皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者若シクハ不敬ノ所爲アル者ハ特ニ

嚴罰ニ處セラルベキカ如キ是ナリ

第二君主ハ決シテ他ノ侵害ヲ受クルコトナキモノナリ即チ君主ニシテ若シ違法ノ處爲アリトモ之

ニ刑罰ヲ加フルコト能ハサルガ如キ其一例ナリ

而シテ此第二ノ事項中ニ君主ノ法理上無責任ナルコトヲ包含スルコトハ明ラカナルヘシ然レトモコ、ニ至テ始メテ如何ナル理由ニ依リ君主ハ無責任ナリヤ將タ如何ナル理由ニヨリ君主ハ無責任ナラサル可ラサルヤノ問題ヲ生スヘシ今コレヲ説クニ先タチテ公法學者ノ論スル所ノ一二ヲコレニ示サン

佛國ノ公法學者ベンジャミン、コンスタントノ説ニ依レハ君主ノ無責任ナル理由ハ彼ノ「國王ハ惡事ヲ爲シ能ハス」The King is do no Wrongト云フ英國ノ格言ニ基キシモノニシテ君主ハ實際不正ヲ爲シ能ハサルノ地位ニ置カサル可ラス是故ニ無責任ナルコトハ主動的ニハ非スシテ寧ロ他ノ權力ニ對シテ中立ヲ保チ公平ニ裁斷スルノ地位ニアラサル可ラスト此説ニ依レハ君王ハ徒ラニ國家ノ權力ヲ表明スルノ標的ト見ルニアルカ如シ然レトモ君主ハ決シテ中立ノ地位ヲ保ツ者ニ

アラスシテ寧ロ主格ノ地位ニ立ツモノナリ之ヲ換言スレハ苟モ君主タル以上ハ其立憲君主國タルト又立君獨裁國トニ論ナク總テ政權ヲ總攬スルモノナリ故ニコンスタントノ此格言ニ對スル解釋ハ當ラサルモノナルノミナラス氏カ君主ノ無責任ヲ論スルニ當リテ此英國ニ於ケル格言ヲ適用シテ法理的ニ君主ノ無責任タルヲ論セントスルハ抑モ其當ヲ得サルナリブラツクストーンカ此格言ヲ解釋シテ若シ政府ノ行爲ニシテ其正鵠ヲ得サルコトアルモ之ヲ以テ君主ニ其責ヲ歸ス可ラスト云ヒシカ如キハ此格言ノ語意トハ全く別意ヲ述ヘシカ如キ嫌ヒナキニアラスト雖モ亦君主無責任ノ主意ニハ稍ヤ適合スル處アルカ如シ然レトモ尙ホ君主ニ不法ノ所爲アルトキハ之ヲ君主ノ所鳩ニアラストセントスルハ誤レルノ至リト云フベシ又一説ハ君主ノ無責任ハ羅馬ノ格言「王ハ法ニ服ス」Princeps legibus solutus estニ胚胎セリト云フニアリテジャンボーデンノ主トシテ唱道スル所ナリボーデン曰ク法律ハ君主ヨリ出ツルモノナリ然ラバ其法律ノ本源タル君主ハ自ラ其法律ノ爲ニ支配セラルヘキモノニアラスト羅馬格言ノ主旨夫レ或ハ然ラン然レトモ願ミテ羅馬法典ヲ繙ケハ帝王ト雖モ法典ニ束縛セラル、ノ事例ヲ見ルコト少ナカラス其他ニ尙ホ一二ノ例ヲ舉ケレハ昔時獨乙國王ハ「ブアルックラフ」ノ司法權ニ服從シタルコトアルガ如キ我神聖ナル 天王陛下トモ將軍政治ノ時代ニハ將軍ヨリ特ニ奉呈シタル法令ニ服從シ玉ヒシコトアルカ如キ專制政治ノ世ニ往々此ノ如キ事例ヲ見ルコト尠ナカラス

又君主ト雖モ一ケ人トシテノ責任ハ固ヨリ常人ト毫モ異ナルコトナシ之ヲ以テ君主ハ惡事ヲ爲スノ權利ヲ有セサルハ勿論ナリト雖モ唯法律罰條ノ之ニ蒙ラシムヘキモノナキニ由テ之ヲ免ル、
過キサルナリサミユリ曰ク「君主ノ無責任ナル理由ハ彼ノ國王ハ惡事ヲ爲シ能ハストノ格言ニ出テタルニ非スシテ唯君主ハ一國最高ノ地位ニアル人ナレハ是等ノ人ニ對シテ其施政ノ行爲ニ就キ非難スルコト能ハスト云フニ過キス」ト
今君主ノ地位上ヨリ之ヲコ、ニ詳論セン夫レ君主ノ大權ナルモノハ主權ト國權ノ二ニ分ツヘシ人往々此二者ヲ混合シテ同一視スルモノアリト雖モコレ全然別物タラサル可ラサルナリ何トナレハ國權トハ施政權ニシテ主權トハ統御權ナレハナリ之ヲ詳言スレハ國權ハ制限シ得ラルベク主權ハ制限シウベカラザルモノナレハナリ前者ハ假令ハ法律ニハ議會ノ協贊ヲ要シ法律勅令其他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要シ又司法權ハ 天皇自ラ行フ能ハサルノ類コレナリ後者ハ之ニ反シテ君主カ儀式上國家ヲ一身ニ引受テ外面ニ表示スルノ權ニシテ即チ司法權ノ、 天皇ノ名ニ於テ行ハル、カ如キ是ナリ夫レ此ノ如ク君主ハ主權即チ統御權ヲ有スルモノ之ヲ換言スレハ君主ハ内外ニ向テ國家ヲ代表スル最高ノ機關ニシテ各般ノ政務ヲ統一スルノ地位ニアルモノナレハ其下位ニ在ル所ノ機關ニシテ之ニ責ヲ負ハシムルコトハ到底爲シ行フ可ラサレハナリ故ニ君主ノ無責任ナルコトハ彼ノ「王ハ惡事ヲ爲シ能ハス」ト云フ格言及ヒ「王ハ法ニ服セス」ト云フ法語ニモ基キシ

ニハ非スシテ全ク彼ハ主權者ナレハ無責任ナラサル可ラスト云フ固有ノ一理由アルニ依ルナリダ
ルマン曰ク「君主ニ刑罰ヲ加ヘントスレハ彼ニ王位ノアルカ爲ニ之ト同時ニ其政府ヲ顛覆セサ
ル可ラサルノ恐レアリ」ト

夫レ此ノ如ク君主ニ特權アリト雖モ亦之ト同時ニ國民ノ安寧ヲ保持スルカ爲メニ盡スノ義務アル
コトハ德義上必要ノ事柄ナリトス而シテ君主ト雖モ亦人ナレハ時トシテ過失ヲキテ保ス可ラス若
シ過失アラシカ政事上ノ事ニ關シテハ君主自ラ其責ニ任スルコト能ハサルコトハ前ニ述ヘタル如
クナリ然ラハ何人カ君主ノ行爲ノ違憲ナラサルコトヲ保證スルモノナカル可ラス故ニ各國ノ憲法
ハ特ニ國務大臣ヲシテ其責任ヲ負擔スルコト、定メ我帝國憲法ニモ之ヲ規定シテ以テ君主無責任
ノ弊ニ專恣ニ流レンコトヲ豫防セリコレ憲法國ニ於ケル一般ノ通則ニシテ國法學者之ヲ憲法ノ柱
礎ト呼フニ至レリ

伊藤伯ハ其憲法義解コ「大臣ハ其固有職務ナル補弼ノ責ニ任ス而シテ君主ニ代リ責ニ任ズルニ非
サルナリ」ト説ケリ是正鴻ヲ失シタル論ト云ハサル可ガラス固ヨリ君主ニ犯罪アリト雖モ大臣之
ニ代ツテ罰セラルカ如キコト非サルノミナラス君主ノ一個人トシテノ行爲ハ總テ大臣ノ知ル所
ニ非サルハ勿論ナリト雖モ君主ノ政務上ニ關スル行爲ニハ大臣之ヲ預リ知ラスト云フニ至テハ實
ニ其不當ヲ鳴ラサル可テサルナリ何トナレバ總テ君主ノ政務ニ關スル行爲ニハ其責任ヲ負擔ス

ヘキ國務大臣ノ意見モ之ニ加ハリ始メテ法理上有効ノモノトナルモノナレハナリ故ニ左ノ如ク之
ヲ説カハ蓋シ其誤リナカラシカ君主ノ憲法ニ違犯シタル行爲ハ大臣ノ補弼ノ任ヲ過チシニ基ヒス
ルモノナレハ其補弼ノ任ヲ負ヘル大臣ハ君主憲法違犯ニ對シテ其責任ヲ負擔セサル可ラサルナリ
即チ之ヲ換言スレハ大臣ハ君主ニ代ツテ責任ヲ負ハサル可ラサルナリト

尙ホ進ンテ國務大臣ノ責任ヲ論セント欲スレトモ本論ハ暫ク之ニ止メ又他日ヲ期シテ之ヲ論スル
處アラント欲スルナリ(國家、五五)

○憲法第 條ニ皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニヨリ皇男子孫之ヲ繼承ストアリ若シ天皇崩

御シ懐胎ノ皇子アリテ其皇男タルト皇女タルトヲ知ルコト能ハサル場合ニハ如何スベ
キヤ

法學士 副島 義一君

此場合ハ多少困難ナルヘシ或ハ曰ク此場合ニハ未成年ノ天皇ノアル場合ト同シク攝政ヲ置クコト
至當ナルベシ蓋シ我皇室典範ノ規定ヲ觀ルニ皇位ハ皇子孫等ニ傳フトアレトモ此皇子孫ト云フハ
必スシモ既ニ出生シタル皇子孫ニノミ限ルトノ解釋ヲ下ヌヲ得ス民法ノ上ノ相續法ニ於テモ懐胎
兒ニ相續權ヲ有セシムル所ヨリ觀ルモ亦懐胎皇子ニ皇位ヲ傳フヘキノ至當ナルヲ見ルナリ元ヨリ

皇位繼承ト相續トハ其法律上ノ性質ヲ全ク異ニスルモノナレトモ其一定ノ血族者ノ順序ニ從ヒ繼承ヲ得セシムル立法上ノ精神ニ至リテハ異ナルコトナシ且ツ我國ノ歷史上ニ於テモ懷胎ノ皇子アレハ攝政ヲ置キタル例アリ若シ皇室典範ニ於テ全ク之ヲ禁スルノ主意ナラハ明ニ之ヲ規定シタルナルヘシ然ルニ今規定セサル所ヨリ見レハ懷胎皇子モ繼承權ヲ有スト解セサルヘカラスト是レ實際ニハ尤モ穩當ナル説ト云フヘシ然レトモ皇室典範ノ解釋上ニ於テハ未タ俄ニ首肯スルヲ得ザルナリ或ハ曰ク此場合ニハ懷胎皇子ノ有無ニ拘ハラズ繼承權ヲ有スル者ハ天皇ノ崩御アレハ直チニ天皇ノ位ヲ踐ムヘキモノトス唯其懷胎皇子出生スレハ此天皇ハ我ハ全ク天皇ノ位ヲ退クカ又ハ攝政トナルベキモノナリト此説ニヨレハ懷胎皇子ガ死体ニテ出生シ又ハ皇女子トシテ出生スルトキハ何等ノ支障ヲ生スルコトナシト雖モ然レトモ一タビ天皇ノ位ヲ踐ミタルモノヲ懷胎皇子ガ正當ニ出生シタリトテ之ヲ直チニ皇位ヲ退カシメ又ハ攝政ト爲ス如キハ即天皇ノ位ヲ自由ニ變動セシムルモノニテ君主國ノ大元則ニ及スト云ハサルヘカラス又皇室典範ノ規定ニモ反スルコトニナルナリ

之ニ反シ懷胎皇子ヲ有シタル天皇ガ崩御スルトキハ繼承權ヲ有スルモノハ先ツ此懷胎皇子ノ爲メニ避ケ直チニ天皇ノ位ヲ踐ムコトナク其懷胎皇子ノ死体コトテ出生シ又ハ出生子カ皇女子ナルトキニ限り初メテ皇位ヲ踐ムコトハスレハ前説ノ如ク君主國ノ元則ニ反スルニ至ル恐ナシト雖モ此場合ニハ懷胎皇子ノ出生スルマテハ眞ノ天皇ハ存在セサルニ此間ハ天皇ノ位ヲ空クシタル者ト云ハサルヘカラス然ルニ皇室典範第十條コハ天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚ストアリ今天皇ノ位ヲ空クスルトキハ是レ例外ノ事ナリ凡ヘテ例外ノ事ハ明文ノ規定ナキ以上ハ之ヲ推定スルコトヲ許サ、ルナリ此埋合ニ繼承權ヲ有スルモノハ直チニ天皇ノ位ヲ即クヲ得ス攝政ヲ置クコトハスレハ此攝政ハ何レノ天皇ノ攝政タルヤ之ヲ知ルベカラズ攝政ヲ置クヘキ場合ニハ皇室典範第十九條ニ規定アルノミ此外ニ攝政ヲ置クヲ得ズ即チ天皇ノナキ場合ニ攝政ノミヲ置クヲ得ザルニハ懷胎皇子ノ場合ニ攝政ヲ置クハ此第十九條ノ規定ニ反スルナリ故ニ皇室典範ノ明文ノ解釋上ハ懷胎ノ子アル場合ニハ天皇ノ位ヲ空フシテ攝政ヲ置クコトヲ得ズ繼承權ヲ有スル直チニ天皇ノ位ヲ踐ムベキモノト爲スヲ適當ナリトス(法令、一)

○國會ニ就キテ

法學博士 松波仁一郎君

余ハ今爰ニ政治學ニ最モ關係多キ國會ニ就キテ少シク述ブル處アラント欲ス然レドモ今日國會ニ關シテハ學理ニ於テ夙ニ研究シタル者多ケレバ余ハ唯外國ニテ實地ニ目撃セル事實ニツキテ自分ノ研究シタル點ヲ述ベントス

今日世界ノ廣キ一ノ國柄ヲ除キテハ大抵立憲國ニシテ歐洲ノ文明國ニハ孰レモ國會ノ設ケアラザルハナシ大ハ英獨埃伊ヲ始メトシ小ハ西葡瑞和丁ノ國々ニ至ル迄國家ノ進歩ニ應ジ各自相應ノ立法機關ヲ有シ各々其巧妙ヲ競ヘルモ誌面ニ限リテ今日悉ク之ヲ述ブルハ難キガ故ニ形體上ハ進歩セルモ實際ニ於テ然ラザル國々又ハ何レモ進歩セルモ小弱ナル國又ハ大國ト雖モ米佛ノ如ク其國體ノ我ト異リテ共和制ノモノハ比較研究ノ實益少ナキヲ以テ之ヲ省キ我國體ト相近キ大國ノ制度實況ニ關シテ話サントス露國ハ我ト大關係アル君主國ナルモ未ダ國會ノ設ケアラザルガ故ニ爰ニ述ブル能ハズ故ニ政治上茲ニ教育上最モ發達シ其異同ノ研究ニ關シテ最モ興味深キ英獨二國ノ國會ニツキ述ブル所アルベシ蓋英國ハ海軍ニ於テハ日本ノ模範國ナリ獨國ハ陸軍ニ於テ日本ノ模範國ナリ而シテ二國ノ制度文物宛然トシテ光ヲ放チ各國ノ共ニ仰テ瞻望スル所ナルガ故ナリ

第一英國ニ於テパイヤラメントト云フ意義ニ就テハ英人中猶議論アル所ナリ（日本ニテ通常英語ノ國會ヲ「パイヤラメント」ト云フハ誤音ナリ）其本來ノ意義ハ政治上絶對無限ノ權力ヲ有スル者ナリト云フ者多キガ尙パイヤラメントノ如何ナルモノナリヤニ就キテハ彼地ノ學者實政家中議論自ラ四種ニ別ル

一、パイヤラメントハ貴族院及ビ衆議院ノ兩院ノ外ニ猶君主アリテ此三者ヲ併セタル者が國會ナ

リト謂フ説ニシテ絶對無限ノ勢力アリテ何事デモ出來ルトイフカラ佛國人ハ之ヲ冷評シテ英國ノ國會ハ男ヲ女ニ生レ變ラスカアリトイヘリ

二、パイヤラメントハ貴族ト庶民ノ二院ナリトイフ説英國ノ學者アンソングクラウンハトハパイヤラメントト云ヒタル際ノ如キ場合ニハ國會ハ二院ヨリ成ルヲ意味シテ居ルノデア

三、沿革上ヨリ謂フ所ニシテ彼ノ千二百十五年ラングミードノ野ニテ國君ノ誓ハレタル大憲章（マグナカルタ）ニハ平民ノ代表者ノ署名ガナクシテ王若シクハ諸侯貴族ノ代表者ノ署名ノミナルガ故ニパイヤラメントハ即チ貴族院ナリトイフニアルガ之ニ反シテ

四、賦稅又ハ納稅承諾ノ件及ビ其他重要ノ事ニ付テハ庶民院實權ヲ有スルガ故ニ庶民院ハパイヤラメントナリトノ説アリ

故ニ英國ノ國會即チパイヤラメントニハ以上四種ノ主張アリテ各種ノ議論ニ自カラ差異ヲ生ズルヲ論者ハ如何ナル意ニ之ヲ用ユルカヲ注意セザルベカラズ予ノ爰ニ述ベントスル所ハ即チ第二ノ意義即チクラウンニ對照スルパイヤラメントノ意義ニ據ルモノ即チ貴族院ト衆議院一名庶民院トシ貴族院ハ左ノ分子ヨリ成レリ

一、英國ノ貴族 是ハ生レナガラニシテ議員トナル能力アル者デ成年ニ達シタル貴族ハ當然議席ニ與ルノ權利アリ

- 二、蘇格蘭ノ選舉貴族 英蘭ト蘇格蘭トノ合併ノ時條例ヨリテ之ヲ定メタリ其數十六人ニシテ會期ニ之ヲ改選ス
 - 三、愛蘭貴族 其數二十八人我國ノ勅撰議員ト同ジク王ノ任命スルトコロニシテ其任期ハ終身ナリ
 - 四、司法官控訴院ノ判事四人又ハ五人 即チ一代貴族ニシテ其任期ハ終身ニシテ之ニ就キ一言シタキハ我國ニ於テ司法官増俸問題ハ喧シク起ルガ深キ政治上ノ事情ハ知ラストシ一面ヨリ觀レハ必竟司法官ノ待遇カ薄キニアルヲ以テ英國ノ如ク司法官ヲ待遇シテ是ノ如ク榮譽ノ地ニ置キ位地ト共ニ若干ノ勢力ヲ自然ニ生セシムル様ニスルハ極メテ良法ニシテ薄給ノ廉吏ヲ待ツニ適シタルモノト思フ
 - 五、僧侶 カンタベリ一人大僧正一人ヨリク大僧正一人其他ハ二十四人ノ僧侶中ヨリ倫敦ダラム等ノ僧侶ハ撰出サル、ヲ常トス
- 即チ貴族院ハ右ノ五種ノ人々ヨリ成リ審然トシテ政教ノ混同ナリ國王ノ教書ニモ常ニ天祐ヲ享ケタル脫俗貴族ノ諸卿ニ告ク云々ト僧ト俗トヲ區別セリ又司法權ト立法權トヲモ混合シ貴族院ハ恰モ我國ノ大審院ノ如クニシテ訴訟ヲ取扱フナリ古昔ハ始審トシテモ裁判ヲ終審ノ裁判ヲモナシタリシカ今ヤ之ヲ改正シテ單ニ上訴ノミヲ取扱ヘリ現ニ五六人ノ判事ハ常ニ貴族院議員トシテ裁

判ヲ爲ス余一日之ヲ傍聽セシニ五人ノ判事アリテ裁判長ハ貴族院議長ナリキ夫レニ原被及ヒ辯護士アリテ大凡千人餘ヲ容ルヘキ貴族院ノ議場ニ以上ノ人カ集マリ傍聽席ニアル余一人ヲ合セテ十二三人ソレニテ貴族院裁判所ハ公開續行セラレタルナリ而カモ貴族院開會ノ合圖トシテ屋上ニ國旗ヲ掲ケアリ議スル所ハ只是レ一箇ノ裁判事件ノミ五人ノ判事ハ訴訟書類ヲ調ヘ原被辯護士辯論ヲ聽キ判決ノ案ヲ作り通常ノ議場ニ之ヲ持出シテ全院ノ議ニ附スルナリ而シテ全院承諾ヲ得テ之ヲ確定ノ判決トス貴族院議長ハ即チ大法官ニシテ直接ニ裁判ニ干與ス他ハ貴族院ノ裁判長タルノミナラス控訴院又ハ始審裁判所ノ長ヲモ兼スル司法官及ヒ司法行政官ナリ又彼ハ内閣ノ一員ニシテ總理大臣ト其進退ヲ共ニスル政務官ナリ尙我國ノ司法大臣ノ如キ行政ヲモナス是ノ如ク英國ニ於テハ司法、行政、立法ノ三權ノ錯雜併合セルハ奇トスヘシ佛國ニ於テ一時輿論トシテ三權分立ヲ論シ殆ト歐洲全土ト東洋ノ日本ヲモ風靡シタルモ英國ハ之ヲ皮相ノ見解トシテ省ミサリキ其得失ハ須臾ク措クモ理論美ニシテ實際惡ナルモノモ理論ニ拙ニシテ實際ニ美ナルハ國ニ益アリ英國ニテハ三權混同スルモ毫モ不便ヲ感セサルノミカ憲政ノ運用ノ巧妙ヲ得ル事天下ニ冠タリ是レ必竟各國ノ人情風俗沿革等ノ異ナルニ由ルト雖モ然モ又歐洲諸國ノ理論ト實際トカ如何ナル状態ニアルヤチ推知スル材料トナル

貴族院ノ狀況右ノ如シトシ庶民院ハ如何此ニモ多少珍奇ノ事アリ例ヘハ其傍聽席中婦人席ノ前ニ

金網ヲ張ル事恰モ我國ノ劇場ニ鐵索又ハ金網ヲ以テ立見連テ區畫スルガ如シ其ノ理由トスル所ハ演臺ニ立テル辯士ガ傍聽婦人ノ麗容ニ對シテ多少意ヲ變ゼン事ヲ怨レテナリ然ラバ貴族院ニ金網ナキハ如何トイフニ貴族院ノ議員ハ威容自ラ備ハルガタメニ婦人ヨリ遠慮スルガ故ナリトイフ或ハ戲虐ニ似タリト雖モ英人ノ古習ヲ歐守セルニ由ル抑英國ノ庶民院ハウエストミンスターノ地前ハテームス河ニ枕ミテ風景佳絶ナル位置ニアリ吾人ノ目ヨリ見ルニ随分不作法ニテ議員ハ議場内ニバウシヲ被ムリ演説ノ時僅カニ之ヲ脱スルノミ開議ハ夜間ニ於テシ午三時ヨリ始メ翌日一時迄之ヲ續ク水曜日ハ翌朝ノ六時迄議事ヲ開ク而シ議論ノアルベキ議案ハ十二時前ニ討議スヘキ事トナリ是レ亦古來ノ慣習ナリ余ノ傍聽中嘗テ愛蘭ノ一議員ガ退場ヲ命セラレタルガ能ク議員ノ粗暴喧嘩ヲ證スルニ足ル者ニシテ事ハ一日女皇ノ園遊會ヲ開カセ給フ日ニアリキ政府ハ議員等ヲシテ參集ノ便ヲ得セシムル目的ヲ以テ政府黨ノ院內首領バルフォア氏ガ議場ノ閉會ヲ主張シタルニ愛蘭ノ一議員之ヲ拒否シ曰ク次ノ議事日程ニハ農業條例アルニ何故之ヲ議セザルカ女皇ノ園遊會ト議會ノ議事トハ孰レガ重キカ農業條例ハ英國ノ皇室全体ヨリモ貴シト愛蘭議員此言ヲ發スルヤ不敬々々ノ聲諸方ニ起リテ皆其舉動ノ不穩ナルヲ責メ該議員ヲシテ其言ヲ取消サシメ又此ノ言ヲ議事録ヨリ除却スルコト、セリ蓋シ愛蘭議員ノ政府黨ニ對シテ反抗ノ氣焰ヲ盛ニスル所以ノ者ハ彼ノ有名ナル自治案ノ通過セサルニ因ルモノナリ選舉民ハ常ニ議員ヲ鞭達シ愛蘭議員ニシテ

政府黨ニ盲從スルカ如キ舉動アラシカ直ニ選舉區ヨリ委員ヲ派出シテ議場ヲ退カシム故ニ愛蘭議員トシ云ヘハ粗暴ノ振舞ヲスヘキ者トナリ居レリ併シ是ノ如ク間々議場喧嘩ニ亘ルアリト雖モ總シテ英國議會ハ秩序カ政黨ノ働キ振リ兩黨首領ノ懸引討論其他ノ議事ノ模様ハ流石ニ堂々トシテ他國ノ模範タル實ヲ示セリ加之徒ラニ小黨分裂ノ弊ナク中央ニハ中立黨其ノ議座ヲ占メ其兩側ニハ自由及ビ保守黨ノ二派劃然トシテ相對峙シ一ハ政府黨ニシテ一ハ即チ反對黨ナリ而カモ兩黨ノ議員ハ其進止行動ヲ一ニ各自ノ首領ニ任シテ整調ノ武步ヲ採リ旗色鮮明威嚴堂々タリ彼ノ往年グラッドストーン氏ガ自由黨ヲ率キビーコンスフィールド氏ガ保守黨ヲ提ケ兩黨ノ名士雲ノ如ク旗鼓相見ヘ互ニ角逐シテ議場ニ集辯ヲ爭ヒシ時ハ實ニ千古ノ偉觀ナリキト云フ現今自由黨ハ二百五十人許ノ議員ノミナルニ保守黨ハ四百人以上ヲ有シテ優ニ百餘ノ多數ヲ制シタルヲ以テ議場ニハ活氣ナシ現今自由黨ニハ貴族院ニ於ケル有力ノ指揮者ナク衆議院ニハ「バンナーマン」「アスキス」「バルコート」等二三有力者アリト雖モ活動舊時ノ如ク盛ナラズ日ニ退歩稠落ノ傾キナキヲ得ザルナリ

政府黨即チ保府黨ノ指揮者ニハバルフォール、チャンバレーン等アリトランスバールトノ事起ルヤ政府ハ開戦ヲ主張ス自由黨ハ平和ヲ唱ヘテ之ニ反對シタルモ政府ハ杜國ニ向テ戦ヲ開キテ其戰爭ヲ持續シ「プレトリヤ」ヲ陷レテ大統領クルユーゲルノ館ヲ押取セシニ偶々自由黨議員ヨリクル

ユーゲルニ與ヘシ密書ヲ發見シチャンパレーン之ヲ議場ニ持出シテ其罪ヲ鳴ラシ以テ大ニ反對黨ノ氣焰ヲ滅殺セリ而シテ自由黨員ハ早ク其書簡ト署名者ノ名トヲ見ント欲シタルモチャンパレーンハ容易ニ之ヲ示サズシテ自由黨員間ニ猜疑ノ念ヲ起サシメ其影響ヲ全黨ニ及ボシタル處鮮少ナラズ如何ニチャンパレーンガ反對黨ニ對スル策略ノ妙ナルカラ知ルニ足ルベシ

如此英國ノ議院政治ハ專ラ慣習古法ヲ遵守シテ誠實ニ憲法政治ノ巧妙ヲ示セルモノナリ一見セバ或ハ蕪雜無秩序ノ觀アルガ如クナルモ克ク之ヲ其憲法發達ノ由來ニ鑑ミ又人民ノ慣習ヲ貴重スル點ニ顧ルトキハ國民全体ノ行爲ガ常ニ堂々トシテ決シテ一舉一動ヲ忽ニセザルヲ知リ得ベシ而シテ兩院ノ干係ニ至リテハ庶民院ニ重キヲ置ケリ例ヘバ彼ノ租稅案ノ如キ若シ一度衆議院ニ於テ議決セシモノヲ貴族院ニハ否決セントスルガ如キ事アランカ衆議院ハ其勢力ヲ利用シテ貴族院ヲ壓倒スルナリ其方法ハ國民ノ希望ヲ大示シテ貴族院ヲ威壓スルニアリ國家ハ國民ノ爲メニ存ストモ此般ノ問題ニ關シテハ國民ヲ最適當ノ批判者トナスモノニシテ英國國權ノ一盛一衰國利ノ消長スル所ハ國民ノ意思如何ニ因リテ定マルモノナリトイフ而シテ國民ノ意思ヲ確定スルハグラツトストーンノ行ヒシ如ク衆議院ヲ解散シテ民意ヲ徵スルニアリ貴族院ガ政府ニ反抗シテ內閣ノ不信用ヲ決議スルガ如キハ古來少シモ其効力ナシ彼ノ猶太人ニ關スル法案ノ如キ貴族院ガ極力反對セルニ拘ラズ政府ハ屢々提出シテ平然タリキ若シ貴族院ガ強テ反對チスレバ政府ハ味方ノ議員ノ數ヲ

増加シ例ヘバ反對貴族ノ數五百八十一人ナレバ味方ノ員數ヲ七百人トシ通過チ計ルガ如キ是レ貴族院議員ノ數ヲ制限ナキガ故ニ幾人ニ増加スルモ可ナレバナリ千八百三十一年全三十二年ニリフオームビルガ出デ貴族院ガ之ニ反對シタルニ因テ王ハ勅諭ヲ與ヘテ無事ヲ謀ラレシモウエルリントン侯ハ尙ホ貴族院ノ特權ヲ主張シテ止マザリシ時當時ノ宰相グレイハ之ヲ攻撃シテ英國政府ガ王命ヲ貴族院ニ傳フルニ貴族院ナホ反省セズシテ其承諾ヲ拒ムハコレ貴族カ主權ヲ濫スルモノニシテ之ヲ認容スル時ハ英國ノ憲法政治ハ變シテ貴族政治即チ寡人政治ヲ現ハスニ至ラン云々ト云ヒテ遂ニ其案ヲ通過セシメタリ又千八百六十七年サリスベリ候演說シテ曰ク貴族院カ反對セハ是レ國民ノ意思ニ反スル行爲ニシテ其爭ハ最早政府對貴族院ニ非スシテ國民ト貴族院トノ爭ヒナリト以テ其兩院ノ干係カ如何ニ衆議院ニ重キヲ置クカラ見ルヘシ即チ勢力ノ七分ハ衆議院ニ在リト云フモ過言ニアラス

第二獨逸ノ國會ハ一院制度ナリ是ヲ常國議會ト云フ普通日本ニ於テ帝國ノ頭字ヲ冠スルハ只タ名稱ノ美ヲ飾ルニ外ナラス帝國議會帝國保險會社帝國大學帝國商業銀行ノ如ク一モ實用ヨリ來ルニ非サルモ獨逸ニテハ其國家構成上ノ必要ニ基キ帝國ノ文字ヲ使用スルヲ要スルナリ獨逸ハ種々ノ王國侯國自由都府ヨリ成リ帝國直轄ノ領土ハ唯佛國ヨリ割讓シタルエルザス、ロートリンゲンノ二洲アルノミ而シテ全聯邦中ニハ二十八ノ控訴院ト百七十ノ地方裁判所ト千九百二十七ノ區裁判

所ト七千七百九十三人ノ判事アルモ斯ハミナ個々ノ王國又ハ候國ノ有コシテ帝國ノ裁判所ハラオ
プチヒニ存在スルモノ唯一ナリ獨逸ニハ帝國大學ナク帝國陸軍省ナシ柏林大學ハ普魯西ノ設立セ
シモノニシテ王國ノ管轄ニ屬スル王國大學ナリ又獨逸ニハ別ニ皇室ナル者存在セス我國ニハ天皇
皇后兩陛下ハ申スモ畏シ帝國ノ陛下ナルノミナラス皇子皇女皇祖盡ク帝國ノ皇族殿下ナレトモ獨
逸ニ皇帝國トイフハ皇帝ト皇太子トニ限り其他ハ即チ王族ナリ彼ノ支那ノ膠州灣事件ニテ有名ナ
リシヘンリー親王ハ日本人或ハ第二ノ獨逸帝國ノ皇族トイフモ獨逸ニハ皇族ナク日本人ノ所謂皇
族ハ皆普國ノ王族タルナリ

帝國ノ冠詞此ノ如ク重大ノモノナリトセハ國會ヲ帝國トイフハ尤モ意味アルモノナリ一ニシテ議
員ノ數ハ三百九十七人ナリ人口十萬ニ對シテ一人ノ割合トスレハ人口五千七百萬ニ對シテハ五百
七十八ノ議員ヲ有セサルヘカラサルニ種々ノ取除キ其他ニ因リテ三百九十七人トナル即チ百九十
九票ヲ以テ過半数トナシ其内容ハ貴族ト平民ヨリナル現ニ伯爵パレスツーム氏議長トナリ第一副
議長第二副議長モアリテ院内ハ種々ノ小黨ニ分立セリ

一、中史黨 元來無主義ニシテ其數百〇三人アリ獨逸皇帝ノ羅馬加特力教ヲ抑制シタル反動ト
シテ起リシモノトイフ

二、社會黨 其數五十五人アリ以前ハ四十五名ナリシカ漸次増加ノ傾向アリ此黨ノ首領ハ數月

前死去シタルリープックロフト氏ニシテ其勢力ハ倍々擴張セラレツ、アリ實際ハ左迄過激ノモ
ノニアラズ實ニ勤勉温和ニ平民ノ利益ヲ増進セントセル者ナリ

其他改進黨、自由黨、自由保守黨、保守黨等大凡拾四五ノ小黨アリ(トテ博士ハ獨逸議會ノ議場ニテ
獨逸人ヨリ貰受ケラレタル議席ノ黨派分着色圖ヲ示サル)我國ノ新聞雜誌等ニハ獨逸ニモ貴族院
即チ上院ガ在ルガ如ク記載スルモノモアレト讀者ハ之ニ因リテ獨逸ニモ我國モシクハ英國ニ於ケ
ルガ如キ貴族院アリト誤解スル勿レ此ハブンデスラートヲ斯ク僻譯セルナリブンデスラートハ聯
邦評議會ニシテ議院ニアラズ此評議會ハ獨逸帝國ノ建設ニ基クモノニテ即チ國家構成ノ議事機關
ナリ彼ノメツツ、セダンノ戰ヲ經テバーデンノ主唱ニ因リ獨逸帝國ヲ建設シ普王ヲ以テ獨逸皇帝
トナスヤ各聯邦國ハ其代表者ヲ派遣シテ帝國國事ヲ評議スルコト、シタリ其國々ハ

普魯西、巴威爾、索遜、瓦敦堡ノ四王國

バーデン、ヘッセン、メクレンブルグ、シュウエリン、ブラウンシュヴァイツ等ノ十八公侯國
ハンブルグ、ブレーメン、リュベックノ三自由市

現今猶ホ學者中ニハ獨逸ヲ以テ帝國ニ非ズシテ是等二十五ノ國々ガ集合セル聯合國即チブンデス
スタートニ非ズシテスタートテンブンドナリトイフ者アリ數月前死去シタル「マツクス・オオンザイ
ザル」ノ如キハ其旗頭ナリ且又生權ハ帝國ニ在ルヤ如何ニ關シテモ大ニ議論アリテ普國ノ學者ハ

帝國ノ主權ハ聯邦會議ニアリト云フニ近シ是レ多クハ帝國ノ統一ヲ希望スルモノ、贊成スル所ナルカ南獨逸ニテハ獨立ヲ希望スル結果主權ハ各邦ニ歸屬シタルモノナリト論スル者多ク孰レニモ一理アリ而シテ聯邦會議ハ二十五ノ邦國ヨリナリテ人口三千七百萬ヲ有スル普王國ヨリ下リテ人口僅カニ五萬ニ充タザルリツベ小公國八萬ニ充タザルリユーヘツク市府ニ至ル迄之ニ連ナリ票數ハ五十八ニシテ此中普國ハ十七ヲ有シ(普國ハ初メ四票ヲ有シタリシモ次第ニ其領地ヲ併合セシ結果現今ノ數ニ至ル)バイエルンハ六人ヲ有シザクセン、ウウルテンベルヒハ各四人ヲ有シバーデン、ヘッセンハ共ニ三人ヲ出シ其他ハ一二ヲ除ク外各一人ノ議員ヲ有ス

是ノ如ク普國ノ票數多キヲ以テ民事訴訟法ニテ有名ナルビンゲン博士ノ如キハ此會議ノ權限爭議裁判ニ關シテ普國ニ權力ノ偏重スルノ傾キアルヲ除カント欲シテ同裁判所ノ組織ノ變更ヲ希望シ南部諸邦ノ博士ノ議ニ贊成セルガ如シ之ニ由リテモ聯邦會議ノ性質ト帝權ノ如何ナルヤヲ窺フニ足ルベシ要スルニ獨逸皇帝ハ最高ノ行政長官タル形ヲ有シ帝國ノ主權ハ聯邦會議ニアル如シ其開會ハ帝之ヲ命ズルモ帝ハ會議ヲ左右スル能ハズ勅令モ亦皇帝ト聯邦會議トノ二ヶ所ヨリ出ツ宣戰媾和ノ事モ緊急ノ場合ヲ除キテハブンデスラトノ同意ヲ經ザルベカラズ加之是等ノ議員ハ政府委員ノ如ク帝國議會ニ出席シテ何時ニテモ發言スル事ヲ得又議員ハ聯邦會議ノ開カル、伯林ニ行クモ其所在地タル普國ニ對シテハ恰モ外國ノ公使ノ如キ有様ニテ種々ノ治外法權ヲ有

セリ故ニ此會議ヲ日本ノ貴族院ニ比スルハ當ヲ失シタリト思フ大凡爭ハ平等ノ關係ニ於ケル者ノ間ニ起ルヘキモノナルニ獨逸ニ在リテハ帝國議會ト聯邦會議トハ以上ノ如キ相違アルヲ以テ憲法上爭議ノ起ルコトナク、アクトスレハ寧ロ多ク政治上ノ意味ニ於テナリ終ニ或問題ノ帝國議會ニ喧シカリシ事ニ關シテ語ラン先ツ海軍大擴張案ニ就キテノ話柄アリ(其經費ノ額四億萬マルク)或歐洲ヲ漫遊セン人ノ視察談ニ彼ノ擴張案ハ容易ニ議會ヲ通過シタリトイフ事アリシモ自分カ實地ニ就テ調ヘシ所ハ左ニアラテ是ハ皇帝ニテモ大ニ苦心セラレタリ何トナレハ其通過ニ關シテハ東普魯西ノ農民黨ハ承諾セス又議會中ノ最大黨タル中央黨ハ「レキスハインチエ」ト云フ風俗ニ關スル法律案ヲ提出シテ交換問題トセントシタル故ナリ抑此「ハインチエ」法案ハ千八百九十一年以來ノ大問題ニシテ大凡三ツノ重要ナル面白キ點カアル

第一、娼妓ハ之ヲ廢スヘキカ存スルトスルモ家ノ内ニテ營業ヲナサシメ屋外ニ出サヌ様ニスルカ、トイフナリ、宗教家ハ道理一方ニ偏シ空想ヲ實行セントシテ斯カル言ヲ發セシナリ

第二、風俗カス様ニ亂レタルハ圖畫ニ基ク多シトシテ裸體畫ヲ禁シ裸體像ヲ破壞セントシ又男子ニシテ女子ヲ辱シムルモノニハ重大ノ責任ヲ負擔セシメントスルコト

第三、各種ノ製造其他ノ工場主カ工女ヲ犯ス時ハ其責ヲ一切雇主ニ負ハシム即チ雇主ノ姦意ニ應セサル工女ヲ威光ニ依テ免職或ハ轉職ノ厄ニ遭遇セシメ終ニ恨ヲ吞テ意ニ隨フカ如キ背德

ヲ戒シメシナリ

此案ニハ多數ノ獨逸人カ反對シ藝術家モ學者モ官吏ノ如キ者モ反對シタリ而シ此法案ハ中央黨カ數年來主張シタリシ者ニテ一時ハ佛蘭西ノ「ドレーフ」事件ト併セ稱セラレタル程ノ重要問題タリシヲ以テ中央黨モ千八百九十一年以來ノ主張トテ其通過ニ全力ヲ盡クシ政府ガ海軍擴張案ヲ提出シタル機會ヲ利用シテ此案ニ政府ノ同意ヲ得ル報酬トシテ海軍擴張案ニ同意シ遂ニ二案共ニ無事ナルヲ得タリ然レドモ「ハインチエ」法案ハ愚案ニシテ政府本來ノ不同意ナレハ例令一度ハ帝國議會ヲ通過シテモ聯邦會議デ喰止メラレ政府ハ成功シ中央黨ハ見ン事失敗ニ了ンヌ此際ニ獨逸皇帝ト議會ノ關係及ビ聯邦會議ノ性質等ヲ面白ク研究スル事ヲ得タリ

之ヲ總ブルニ英國ニハ貴族院庶民院ノ二院アリテ其實權ハ庶民ニアリ之ニ反シテ獨逸ハ一院制度ニシテ其上ニ聯邦會議アリテ憲法上多クノ權力ヲ有シ居レリ英國ノ主權ハ三位一體ノ觀ヲ呈シテ而カモ下院ノ權力ハ遙カニ上院ノ上ニアリテ自由ノ行動ヲ爲スモ獨逸ニテハ主權ガ聯邦會議ニアル如クニシテ帝國議會ハ此會議ヲ抑留スルコト能ハズ斯ク其揆ヲ異ニスルハ畢竟其國體ノ異ナルニ因ルモノニシテ英國ニハ英國ノ國體アリ獨逸ニハ獨逸ノ國體アルニ因ルモノナルヲ以テ之ヲ我議會ノ關係ニ比較シテ斷案ヲ下スニ先チテハ第一ニ我國ノ國體ヲ顧ル事ナリ(明義三、一)

○國法上國會議員ノ權利及ビ義務

法學士 小田切 磐太郎君

法律ノ前ニハ萬民皆ナ同等ナリト云フ原則ハ近世文明ノ恩澤ニシテ各立憲諸國ノ承認スル所ナリ然レトモ此原則ヲ絕對無限ニ適用センガ其ガ爲メニ國民代表者タル國會議員職務上ノ地位ト牴觸シ議員其職務ヲ執行スルニ付テ獨立ヲ保持スルコト能ハズ、議員ノ身軀ハ行政及ビ司法ノ權勢ノ爲メニ左右セラレサルヲ得ス、此ニ於テカ國會議員ニ或ル特權ヲ付與スル規定ヲ必要トスハ之レヲ以テ近世立憲諸國ノ憲法刑法及ビ訴訟法等ニ於テ多少皆ナ之レニ關スル規定ヲ設ケザルハナシ、併シ此規定タル國會議員ヲシテ充分ニ其職務ヲ實行セシムル特別ノ規定ニシテ其國會議員其ノ人ヲ保護スル爲メノ規定ニアラザルナリ、以下我國法ニ規定スル所ノ國會議員ノ權利義務ニ付テ簡單ニ説明ス

第一

國會議員ハ議院ニ於テ自由ナル意志表示ノ權ヲ有ス

帝國憲法第五十二條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ビ表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自カラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルベシ

本條ニ因リ帝國憲法ハ院内ニ於テ議員ノ絶對的自由意志表示ノ權ヲ認メ其自由意志ノ發シタル言論ニ付テハ決シテ刑事及ビ民事ノ責ヲ負ハザルコトヲ保証ス面シテ若シ議員其言論自由ノ權ヲ濫用シ其言論ニシテ風俗ヲ安シ安寧秩序ヲ害スルトキハ議長ハ院内整理ノ權ニ因リ之ヲ禁止シ又ハ議院之レヲ懲罰シ決シテ司法官ノ干渉ヲ許サザルナリ

元來此原則ハ英國ニ於テ Declaration of Rightsニ依テ立法的ニ承認セラレ其後亞米利加合衆國ノ憲法千七百九十一年九月三日佛蘭西憲法及ビ白國憲法皆之レヲ採用ス獨逸國舊憲法ニハ全ク此原則ヲ認メザリシガ新獨逸憲法ニ至リ初メテ此原則ヲ認ムルニ至レリ而シテ此原則ヲ承認スル或ハ制限ヲ付スルアリ或ハ無制限ニ認ムルアリ而シテ此原則ニ制限ヲ付スルモノニ曰ク若シ議員ノ發言ニシテ罰スベキ犯罪ニ當ルトキハ無條件又ハ國會ノ承諾ヲ經テ裁判上ノ手續ヲナスコトヲ得ト然ルニ普國憲法ハ此原則ヲ絶對無限ニ承認セリ即チ普國憲法第八十四條ニ曰ク兩院ニ於ケル表決ニ付キ決シテ責任ヲ負フコトナシ又其發表シタル意見ニ付テハ院ノ規則ニ因リ院内ニ對シテノ責任ヲ有スト併シ之レニ付キ解釋區々ナリ即チ千八百五十三年十二月十二日及千八百六十五年一月十一日ノ判決ニ於テ發言シタル意見ノ自由ト云フコトヲ廣ク解釋シ意見ト云フハ已テ議員ガ其ノ職務ヲ執行スル爲メ議院ニ於テ爲シタル議員ノ發言ナリト云ヘリ然ルニ千八百六十六年一月二十九日ノ上等裁判所ハ之ニ反シ憲法ニ云フ意見トハ單ニ思考力ノ結果ヲ云フモノニシテ事實ノ確實

及ビ事實ヲ普知セシムルコトニ在ラズ又憲法第八十四條ハ議員ガ職務ヲ執行スルニ際シ議院ニ於テ人ヲ誹毀シタル場合ノ如キ刑法ヲ以テ罰スルヲ禁ゼズ單ニ誹毀ノ性質ヲ有セザル意見發表ノ自由ヲ認ムルノミト此見解ニ付テハ獨逸國ニ於テ議論紛々タリ併シ此ノ爭論ハ獨逸帝國刑法第十一條ニ依リ決セラル該條ニ曰ク國會議員ハ所屬議院ニ對スル外自己ノ表決又ハ職務ヲ執行スル爲メニシタル言論ニ付キ院外ニ責ヲ負フコトナシト則チ刑法上無責任ナルコトハ單ニ議員ノ表決及ビ自己ノ職務ヲ執行スルニ付テナシタル言論ニ付テノミナラズ又事實ヲ確認スルコトニ及ビヤ明瞭ナリ之ニ因テ千八百六十六年一月二十九日ノ判決ノ解釋トハ全ク異ナルヲ知ル可キナリ此ニ職務執行ノ爲メノ發言ニ付テトアリ然ハ職務執行トハ如何ナル時ヲ云フヤト云フニ議員ガ所屬ノ議院ニ於テ又ハ委員會ニ於テ發言シタルトキヲ云フナリ故ニ之ニ反シ選舉演說及ビ議員ノ選舉區民ニナス報告ノ如キハ決シテ職務ノ執行ニアラザルナリ

以上獨逸國ニ於テ發言シタル意見ノ自由ト云フコトニ付テ種々ノ解釋行ハレタリシ來歴ノ一斑ヲ述ベタリ我帝國憲法ハ如何ト云フニ前ニ掲載シタル第五十二條ニ於テ議員カ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付テハ絶對ニ院外ニ對シテハ無責任ナルコトヲ認メ而シテ意見ト云フハ單ニ入ノ思考力ノ結果ノミヲ云フカ果タ又事實ノ存在ヲ言ヒ顯ハスコトモ含有スルヤト云フニ意見ト云フ文辭或ハ穩カナラザルノ嫌ナキニアラザレトモ一般ニ意見ト云フトキハ單ニ思考力ノ結果ノミ

ヲ云フニアラズシテ事實ノ存在ヲ云フコトモ之ノ意見ト云フ中ニ包含スル者ノ如シ則チ我帝國憲法ハ今日普通一般獨逸國ニ於テ行ハル、説ヲ認ムルモノ如シ
憲法ノ明文ニ示ス如ク議員ノ發言自由權ヲ認メタル院内ニ於テナシタル言論ニ付テ云フモノニシテ議員院内ニナシタル言論ヲ公布シタルトキハ一般ノ法律ノ支配ヲ受クベキ者トス

第二

逮捕ニ關シ國會議員ノ有スル特權

帝國憲法第五十三條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、事ナシト而シテ該條ノ主旨ハ議員ヲシテ不羈獨立ノ面目ヲ有チ其職務ヲ充分盡サシムルニアリ此レト類似ノ規定白國憲法第四十五條及普國憲法第八十四條ニアリ該條ニ曰ク兩院ノ議員ハ議會開會中其ノ院ノ許諾ナクシテ處罰ス可キ行爲アリシ爲メニ訊問ニ呼出サレ又ハ逮捕セラル、コトナシ但シ現行犯ニシテ當日又ハ翌日逮捕セラレタル者ハ此限ニアラズト此外普國憲法ニ依ルト議院ニ對スル刑事手續及訊問ノ爲メノ拘留ハ議院ノ請求アルトキハ開會中停止セラル我衆議院ニ於テ明治二十三年十二月四日左ノ件ヲ可決セリ曰ク
衆議院議員ニシテ會期前ニ逮捕セラレ開會ノ後仍拘留中ノ者ハ衆議院ノ許諾アルハ非レハ引續キ拘留スルコトヲ得ズト

衆議院議長ハ此ノ決議ヲ司法大臣ニ通牒セシニ司法大臣ハ之ニ對シ次ノ覆牒ナセリ
本大臣ハ憲法ノ明文ニ從ヒ司法權ノ施行ヲナサシムルノ外已ニ着手シタル刑事訴訟ヲ停止セシムル權ヲ有セズ從テ他ノ權勢ノ諾否ニ因リ司法權ノ必要ナル處分ヲ張弛セシムルコト能ハズ故ニ議會ノ議決ニ對シテ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ

此ノ點ニ付テハ我國法ト普國憲法トノ間ニ差異アルヲ見ル可シ而シテ此規定ノ目的タルヤ名ヲ訊問逮捕ニ假リ議員ノ議決ニ參與スルヲ妨クル恐レアルヲ防ク爲メナリ普國ノ公法學者ボルンハ一リ氏曰ク議院カ其院ノ議員ニ對シ刑罰ノ訊問カ執行セラレ又ハ訊問カ引續キ執行セラレテ可ナリヤ否ヤヲ決スルニ裁判所トシテ動作スルニアラス行政廳トシテ行動ス即チ議院ハ議員ニ罰ス可キ所爲アリヤ否ヤ又罰スヘキ所爲アルカ爲メニ刑罰ノ訊問カ正當ナリヤ否ヤヲ審判スルニアラス其ナス事ハ政府カ議員ヲ議席ニ列セシメサルノ意志ヲ以テ議員ヲ尋問スルニアラサルヤ否ヤヲ明ニスルアリ議院ニ於テ果シテ此事ヲ證明シ得ルトキハ議院ノ獨立權ニ依リ尋問ヲ爲サシメス又ハ尋問ヲ停止スルコトヲ得若シ政府カ議員ヲ尋問スル議員ヲ議席ニ列セシメサルノ意思ニ出テサルトキハ議院ハ政府ノ請求ニ應シ承諾ヲ與フルノ義務アリト此議論ヲ我帝國憲法ニ適用スルコトヲ得ルヤト云フニ余輩ハ我憲法ニ於テハボルンハ一リ氏ノ云フ如ク政府ノ意思ニシテ若シ議員ヲ議席ニ列席セシメサルノ意思ヲ以テ議員ヲ逮捕スルトキハ議院ハ之ニ對シ許諾ヲ與フ可キ者ニアラサ

ルモ若シ政府ノ意思單ニ議員ヲ逮捕スルノ目的議員ヲシテ議會ニ列セシメサルニアラサルトキハ許諾ヲ與フル義務アリト云フ如キ區別ノ餘地アルヲ認メ得サルナリ
此外普國憲法ニ於テハ第八十四條第二項ニ負債ノ爲メニ逮捕スル場合ニ於テモ亦同ク議院ノ許諾ヲ要ストアリ負債ノ爲メ議員ノ逮捕スル右ト同一ノ手續制限ニ從フモ我國法ハ民事ノ拘留ヲ認メサルヲ以テ之ニ付テノ説明ハ必要ナラス

第三

國會議員ハ國家ニ向テ歳費及旅費ヲ請求スルノ權ヲ有ス

我議院法第十九條ニ曰ク各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサルモノハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

其外明治二十三年十月二十三日第二百六十三號勅令帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則

三照

右議院法及勅令ノ規定スル如ク議員ハ歳費旅費及日當ヲ受ケルノ權ヲ有ス併シ此權利ハ普通ノ權

利ノ如ク放棄スルコトヲ得ズ之レ又議院法第十九條ノ規定スル所ナリ

是ニ關スル規定ハ各國憲法區々ナリ普國憲法第八十五條ニ我議院法ト同一ノ規定アリ曰ク衆議院議員ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ國庫ヨリ旗費及日當ヲ受ク各議員ハ之レヲ辭スルコトヲ得スト我議院法ニ從テ歳費等ヲ受ケルモノ單ニ衆議院ノ議員ニ限ラザルナリ

獨逸帝國憲法第三十二條ニ曰ク帝國議會ノ議員ハ議員トシテ俸給若クハ手當金ヲ受ケルコトヲ得ズ

此ノ如ク國々ニ依リ規定ヲ異ニスル所以ハ國會議員ヲ名譽職トナスアリ又否ズトナスアリ其所以ハ國民ノ財政上ノ原因ニ基ク者多シ我國現今ノ有様ニ於テハ我議院法ノ規定ヲ可ナリトス

第四

選舉ニ依リナリタル議員ハ自己ノ選舉人ニ對シ毫モ檢束セラル、コトナシ

普國憲法第八十三條ニ曰ク兩議院ノ議員ハ全國民ノ代理人トス議員ハ自ラ信ズル所ヲ以テ自由ニ判斷シ囑託訓令ノ爲メニ牽制セラル、コトナシ

獨逸帝國憲法第二十九條ニ曰ク帝國議會ノ議員ハ全國民ノ代表者トス但シ其依頼及指揮ノ爲メニ束縛セラル、コトナシ

我憲法及議院法ニ於テハ明文ヲ以テ此ノ如キ規定ヲ設ケズ併シ法理上ハ普獨國憲法ノ明文ト毫モ

異ナル所ナシト信ズ議員ト選舉人トノ法律關係ハ單ニ選舉ノ瞬間ニアルノミニシテ選舉集會ニ於テナシタル選舉民ノ囑託訓令ニ從テ發言ヲナシ及表決ヲナスト云フ如キ協議及契約ハ法律上無効ナリ選舉前ニ選舉人ト被撰人トノ間ニ法律上蓋モ關係ナク又撰舉終リシ後ハ法律上ノ關係直ニ消滅ス何トナレバ議員ハ全國民ノ代表者ニシテ其撰舉區民ノ代表者ニアラザレバ其者ノ委任等ニ拘束セラル、理由アラザレバナリ

國會議員ノ國法上ノ義務

第一

國會議員ハ總會ニ出席スルノ義務ヲ有ス
議院法第八十二條ニ曰ク各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出シテ會議又ハ委員會ニ欠席スルコトヲ得ストアリ議員ハ選舉其他ノ方法ニ因リ公務ニ付クモノナリ即チ普通ノ臣民ガ國家ニ對スル服從關係ノ外其職務ニ伴フ特別關係ヲ生ジ一方ニハ前述ノ權利ヲ享有スルト同時ニ一方ニハ又特別ナル義務ヲ負擔スルモノナリ而シテ議員正當ノ方法ニ因リ欠席セントスルトキハ其手續如何ト云フニ議院法第八十一條ニ依リ各議院ノ議長ハ一週間ニ超エザル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其一週間ヲ超ユル者ハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ストアリ而シテ議員此規則ニ違ヒタルトキノ處分如何ハ議院法第九十五條ニ因リ議長ニ於テ懲罰事犯

ナリト認ムルトキハ先ヅ之ヲ懲罰委員ニ付シ審査セシメ議員ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス加之議院法第九十八條ニ因リ議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲナスコトヲ得而シテ院議之レヲ可決スルトキハ其議員ハ議院法第九十六條ニ從ヒ懲罰セラル

第二

議員ノ言論ハ院外ニ對シ責任ヲ負ハザルコトハ憲法第五十二條ノ擔保スル所ナリ然レトモ其言論ニシテ責任ヲ負ハザルコトハ院外ニ對シテノミニ云フモノナルコトハ明文ニ示スガ如シ故ニ議員ノ言論ニシテ院內ニ對シ責任ヲ負フモノアルコトハ明瞭ナル所ナリ則チ場合ニ因リテハ議長ハ院內整理ノ權ニ因リ議員ノ發言ヲ取消サシムルコトアリ而シテ亦議員法第九十一條及九十二條ニハ議員ガ言論スルコトヲ得ザル一種ノ事ヲ規定ス即チ議院法第九十一條ニ各議院ニ於テ無禮ノ言ヲ用ユルコトヲ得ズ及ヒ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ストアル如キ之ナリ然ルニ若シ議員此規則ニ違ヒ議院ニ於テ之ヲ懲罰事犯ト認ムルトキハ議院法第九十六條ノ處分ヲ受ケザルヲ得ズ

第三

議員ハ憲法議院法ヲ遵由スルハ勿論其他議院規則及院長ノ院內整理ノ權ニ服從セザルベカラズ
(國家、一〇九)

○議長ノ表決權ヲ論ス

法學士 林田龜太郎君

議長ノ表決權ニ付テハ學者及實際家中誤謬ノ觀念ヲ抱クモノ少カラズ會館ノ制度將サニ多ク起ラントス此ノ種ノ議論ノ生スベキヤ明カナリ余ハ今日ニ於テ豫メ之レヲ講究スルノ必要ヲ感スルナリ

議長ノ表決權ニ關シ分チテ二類トス

(甲)議長ノ通常表決權ヲ有スルモノ

(乙)議長ノ通常表決權ヲ有セザルモノ

(甲)更ニ議長ノ通常表決權ヲ有スルモノヲ分テ二トス

第一、通常表決權ト決裁表決權トヲ併有スルモノ

第二、通常表決權アリテ決裁表決權ナキモノ

議長ハ表決權ナシト論スルモノアリ余ハ茲ニ其ノ誤謬ヲ正サントスルナリ單ニ法理ヨリシテ之レヲ論スレバ議長ハ表決權ヲ有スベキモノナリ其ノ理由ハ第一議長ハ議席ニ上リテ發言スルコトヲ得ルトスルトキハ表決ノ權ヲ有スルコト又他ノ議員ト異同アルベカラズ、何トナレバ議員ニシテ單ニ議長ト爲ルノ故ヲ以テ表決權ヲ失フノ理由ナケレハナリ、第二、今百人ヲ以テ組成シタル

支識

會アララン就中甲論者五十人乙論者四十九人アリト假定セン、五十人ハ議院ノ半數ナリ過半數ト云フベカラズ此ノ場合ニ於テハ何ヲ以テカ之レヲ決スベキ、今甲論者ヲ勝トセンカ議長乙論者ニ同意スルトキハ不公平ニモ乙論者ヲ負ケシムルモノナリ、又若シ議長ヲ甲論者中ヨリ撰舉センカ乙論者勝ヲ制スベシ、然ラハ則チ單ニ議長其人ノ如何ニ依リテ同一議會同時ノ思想ニトナルナリ議會ハ一團體ナリ確然タル方法、道理ニ合フタルノ方法ヲ以テ其意思ヲ發表セザル可ラズ余ハ議長ノ贊成スル所ヲ操ラントスルナリ、人或ハ曰ン斯クスレバ議長ニ非常ノ權力ヲ附スルナリト議長ノ權大ナリ、然レドモ前者チシテ勝タシムルモ代議士五十人後者チシテ勝タシムルモ亦代議士五十人人數ニ於テハ優劣ナキナリ然ラバ則チ此ノ問題ハ兩者中其ノ何レニ決スルヲ以テ適當トスベキヤノ問題ナリ、之レニ答フルニ余ハ公平無私ノ徳ト卓絶ナル才識トヲ以テ議長ニ撰マレタル者ノ論豈ニ重ヲ爲スト云ハザルヲ得ンヤ故ニ余ハ議長ニハ通常ノ表決權ヲ與フルノミナラズ可否同數ナルトキハ決裁ノ權ヲモ附與スベキヲ正當ト云フナリ

英國ニ於テ此ノコトニ付キ議論ノ始メテ生シタルハ一千八百三十六年三月二十五日ナリトス、當時庶民院ノ撰任委員長、委員タルノ資格ヲ以テ一表決權ヲ有シ更ニ委員長タルノ資格ヲ以テ決裁表決權ヲ有スベキコトヲ主張シタリ、事院議ニ附ス院議之レヲ許サズ(庶民院議事錄九十一篇二